

## 参 考 図 表

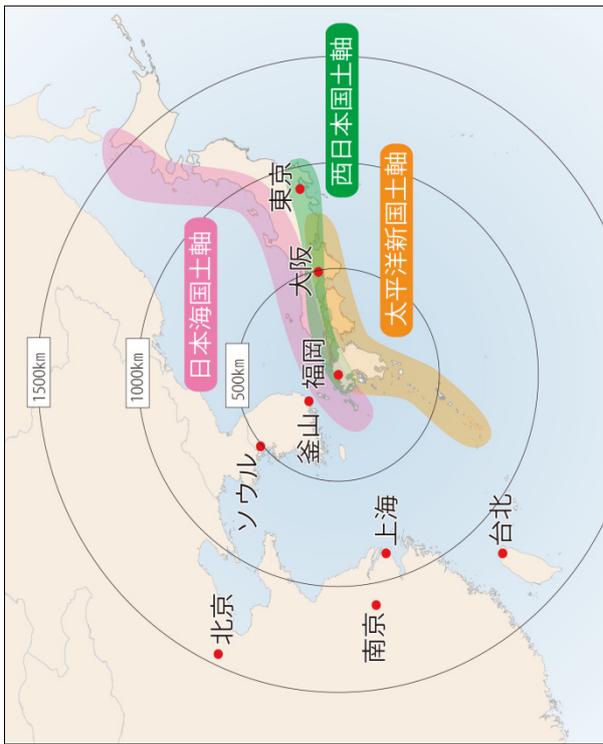
### 目 次

（第2章 第1節関係）	
九州圏の位置づけと圏土構造の特徴	13
東アジア、近接地域等に開かれた九州圏	14
基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造	19
九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積	35
離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境	47
（第2章 第2節関係）	
グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応	65
本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展	71
安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応	78
価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長	83
（第3章 第2節関係）	
新たな九州像	88
（第4章 第1節関係）	
戦略展開の基本的な考え方（三層からなる自立圏の創造）	89
（第4章 第2節関係）	
東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成	90
基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展	91
災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成	92
拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成	93
生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成	94
離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成	95
九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり	96
（第5章 第1節関係）	
東アジアと我が国との関係をリードする魅力ある国際交流フロンティアの形成	97
九州圏の持続的な成長を実現する成長型・牽引型産業群の形成	100
東アジアへの近接性等を活用したフード・観光アイランドの形成	107
新たな発展を実現する東アジア、広域ブロックとの交流・連携の推進	113
東アジア、近畿圏以西と直結する九州新幹線の整備インパクトの最大化	117
（第5章 第2節関係）	
多極型圏土構造の極となる個性的で魅力ある基幹都市圏の形成	120
文化・知識集約化による創造的都市の形成と多彩な人材の育成	122
九州圏の一体的な発展を実現する基幹都市連携軸の形成	124
（第5章 第3節関係）	
減災の視点も重視した災害に強い地域づくり	128
安全で安心な暮らしを支える広域セーフティネットワークの形成	131
美しく自然豊かな環境・景観に親しみ継承していく地域づくり	133
我が国を先導する環境負荷の少ない環境先進圏の形成	136
地球環境に優しく持続可能な低炭素社会・エネルギー先進圏の形成	138
（第5章 第4節関係）	
広域的な都市的利便性を実現する拠点都市圏の形成と集約型都市構造への転換	140
水・緑・食・安全等の互惠関係を実現する都市自然交流軸の形成	142
（第5章 第5節関係）	
生活支援機能の維持・向上等を実現する基礎生活圏と生活文化交流軸の形成	144
誰もが安心とゆとりを実感できる子育て・生活環境の形成	146
生活活動に密着した地域産業の新たな展開	148
（第5章 第6節関係）	
地理的制約を克服する生活イノベーションの展開	151
離島地域における海洋性気候等に恵まれた豊かな定住環境の形成	155
（第5章 第7節関係）	
恵まれた地域資源を活用した先導的で創造性あふれる地域づくり	158
多様な活動主体を基軸とした地域づくりと地域の担い手育成	162

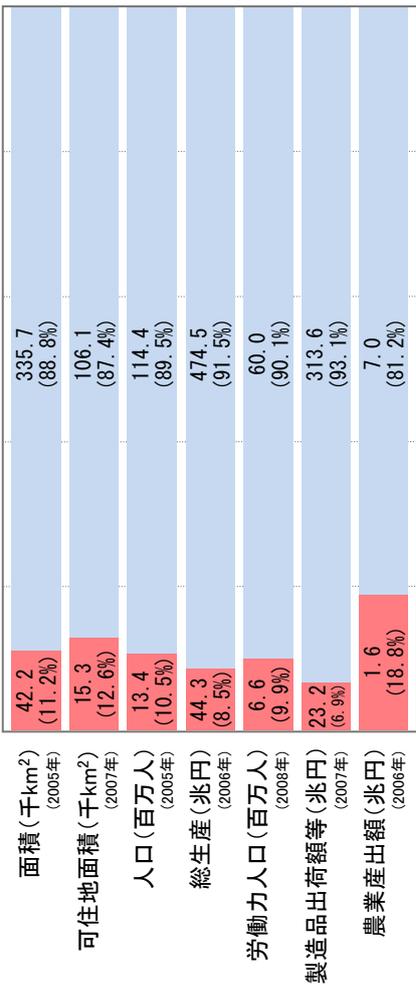
## 九州圏の位置づけと圏土構造の特徴

- 九州圏は、首都東京まで約1,000km離れている一方で、海峡を隔てて朝鮮半島に近接し、東京とほぼ同距離に上海があるなど我が国で東アジアに最も近い圏域に位置づけられる。
- 人口約1,335万人、城内総生産約44兆円と同程度の人口・経済規模を有する。
- 全国比で面積の約11%、可住地面積の約13%、人口の約10%、総生産の約9%と、我が国の約1割を占める。

### <九州圏の位置>

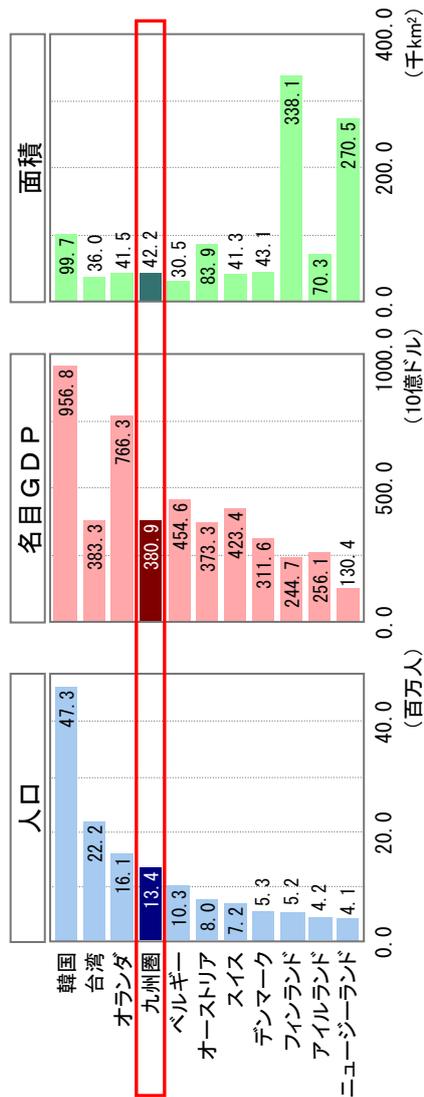


### <九州圏の全国に占める割合>



出典) 面積、人口：国勢調査 2005 (総務省) 可住地面積：社会生活統計指標 2009 (総務省)  
 総生産：県民経済計算 2006 (内閣府) 労働力人口：労働力調査 2008 (総務省)  
 製造品出荷額等：工業統計表 2007 (経済産業省) 農業産出額：生産農業所得統計 2006 (農林水産省)

### <九州圏と諸外国との比較>



出典) 九州圏の人口、面積：国勢調査 2005 (総務省)、九州圏の名目GDP：県民経済計算 2006 (内閣府)

外国の人口、面積、名目GDP：世界の統計 2009 (総務省)

※九州圏の面積・人口は2005年の値、九州のGDPは2006年の値、外国のGDPは2007年の値、面積は2006年の値

※台湾・スイス・フィンランドの人口は2000年、ベルギー・オーストリア・デンマークの人口は2001年、

オランダの人口は2002年、韓国の人口は2005年、アイスランド・ニュージーランドの人口は2006年の値

### <九州圏の区域>



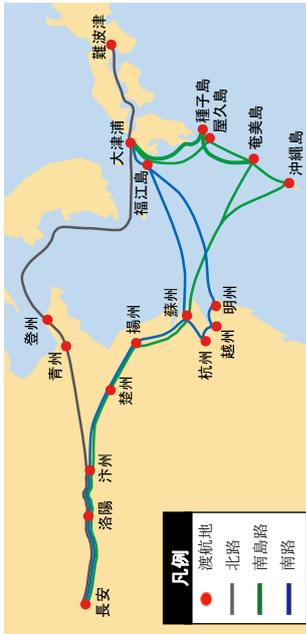
## 東アジア、近接地域等に開かれた九州圏 (東アジアへの窓口としての九州圏 (その1))

- 九州圏は、紀元前よりアジアと我が国の人の物、文化等の交流の窓口として機能してきた。
- 弥生時代における稲作や鉄器、鏡などの伝来にまつわる吉野ヶ里遺跡、大陸をにらんだ防衛・外交の拠点であった大宰府政庁跡を始め、数々の国際交流の舞台が遺跡として残っている。
- 江戸時代には、鎖国政策下で長崎の出島が海外交易拠点、諸国文明との窓口としての重要な役割を果たした。

### <九州圏と東アジア等の歴史的つながり>

時代	主な出来事 (九州圏との関連を中心に)
弥生時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>大陸から水稲耕作、鉄器、鏡などが伝わる(吉野ヶ里遺跡ほか)</li> <li>倭奴国が後漢に遣使(福岡県志賀島から金印が出土)</li> </ul>
古墳時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>前方後円墳等の築造(西都原古墳群ほか)</li> </ul>
飛鳥時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>大宝律令の頒布(九州(西街道)が9国2島とされる)</li> <li>遣隋使の派遣(小野妹子ほか)</li> </ul>
奈良時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>遣唐使の派遣</li> <li>白村江の戦いで新羅・唐に敗れる</li> </ul>
平安時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>遣唐使の派遣を停止(菅原道真)</li> <li>鴻臚館(外国使節迎賓館)の設置</li> </ul>
鎌倉時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>元寇(文永の役、弘安の役)</li> <li>鎮西探題の設置(福岡)</li> </ul>
室町時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>日明貿易(勘合貿易)(博多)</li> <li>日朝(李氏朝鮮)貿易(博多)</li> <li>鉄砲の伝来(種子島)</li> <li>キリスト教の伝来(鹿児島)</li> </ul>
安土桃山時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮出兵(文禄の役、慶長の役)(豊臣秀吉)</li> </ul>
江戸時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮陶工の技術が伝わる(有田焼、薩摩焼など窯業が各地で始まる)</li> <li>鎖国政策により長崎の出島が日本で唯一の交易拠点となる</li> <li>薩英戦争の勃発(鹿児島)</li> <li>日米修好通商条約(長崎港開港)</li> </ul>
明治時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>官営八幡製鉄所(日本初の高炉)の創業</li> </ul>
昭和時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>三菱長崎造船所の操業</li> <li>重化学工業の集積する北九州工業地帯が4大工業地帯として日本の工業化に貢献</li> </ul>

### <遣唐使の渡航ルート及び経路>



### <朝鮮通信使の日本訪問経路>



### 【朝鮮陶工技術の伝来】



九州の焼き物産地の多くは、豊臣秀吉の朝鮮出兵(16世紀末)の際に連れ帰られた陶工によるものが始まりとされる。各地に良質な原料(陶土や磁石など)が存在することが幸いし、朝鮮半島の窯業技術を基礎にして九州各地に窯業が発達した。とりわけ肥前地方(佐賀・長崎)と薩摩地方(鹿児島)は中心地で、江戸期には欧州まで輸出された。

### 【遣唐使との深い関わり (大宰府政庁跡)】



遣唐使は、唐の制度・文化の導入のために倭国が唐に派遣した朝貢使で、630年の第1回派遣以降、飛鳥時代から平安時代にかけて、菅原道真の建議により停止するまで、約20回派遣されたと言われている。同行した留学生や僧は、帰国後に政治・文化上、大きな役割を果たした。大宰府政庁跡は、かつて「遣の朝廷」と呼ばれ、地方最大の官庁、大陸外交の最前線基地として栄え、唐僧・薩真や最澄、空海はじめ、多くの遣唐使らも行き来した。

### 【朝鮮通信使との深い関わり (対馬アリアン祭)】



日本へ派遣された李氏朝鮮からの国使である朝鮮通信使は、室町時代に始まり、江戸時代には、合計12回の相互交流が行われた。対馬では、文禄・慶長の役で交流が中断していた日本と韓国との交流回復に尽力するなど、朝鮮と深い関わりを持ってきた。現在では、毎年夏に朝鮮通信使の行列を再現した厳原港まつり対馬アリアン祭が盛大に開催されている。

### 【鎖国との深い関わり (出島和蘭商館跡)】

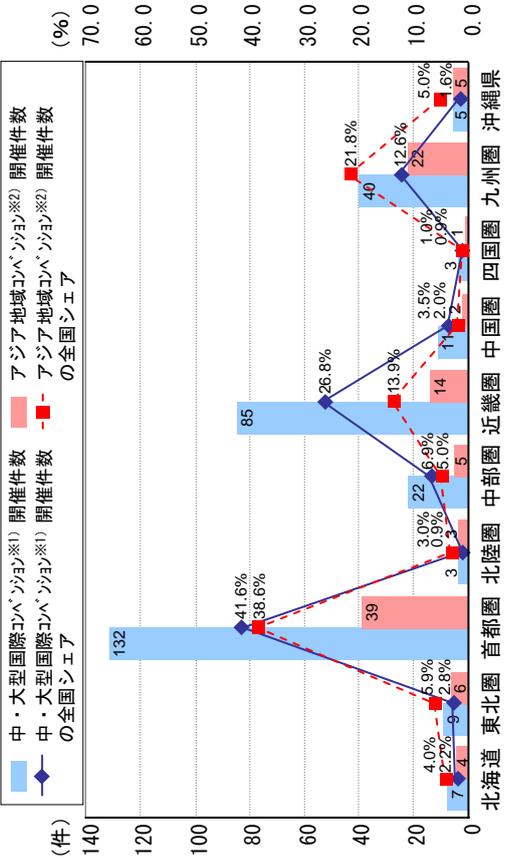


出島和蘭商館跡は、1634年に江戸幕府の鎖国政策の一環として長崎に築造された人工島である。当初、ポルトガル人を管理するため幕府が築造したものであるが、1639年のホルトガル人追放後、約200年間に亘りオランダ人との貿易の場となった。日蘭和親条約の締結などを経て、1859年、出島和蘭商館は閉鎖された。現在の出島は埋立てられ、当時の面影は少ないが、貴重な史跡として復元事業が進められている。

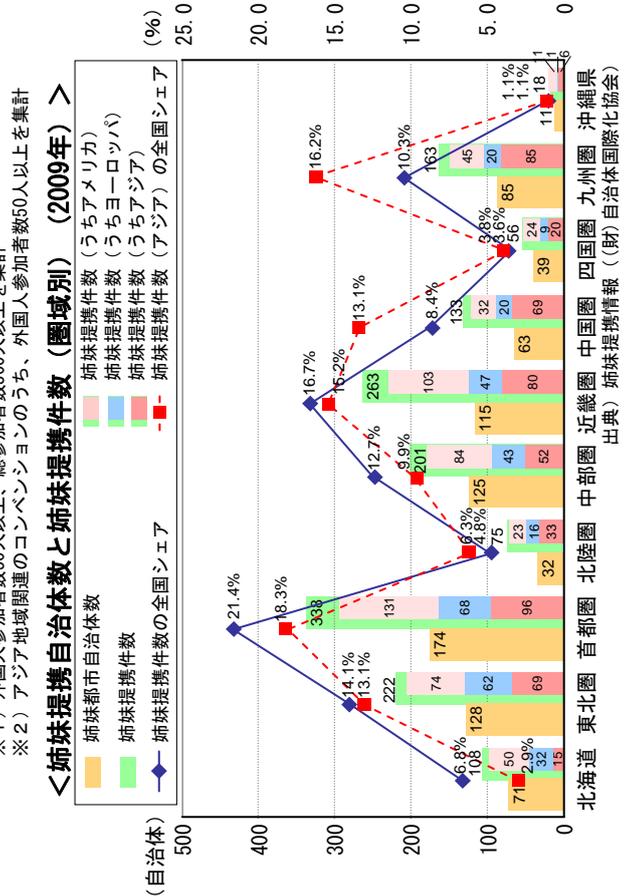
東アジア、近接地域等に開かれた九州圏  
(東アジアへの窓口としての九州圏 (その2))

- 九州圏におけるアジア地域の国際コンベンション開催件数、アジア地域との姉妹提携件数をみると、全国の約2割を占める。
- 21世紀の九州圏は、九州国立博物館等の国際交流拠点の充実、アジアをテーマとしたイベントや会議等による多様な交流・連携の場が展開されている。

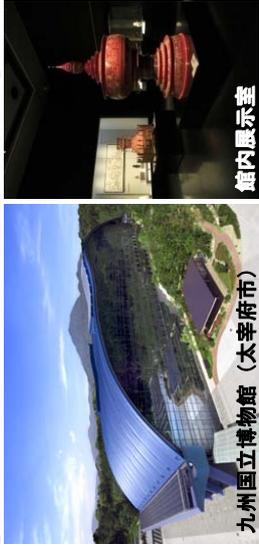
<中・大型国際コンベンションの開催件数(圏域別)(2006年)>



<姉妹提携自治体数と姉妹提携件数(圏域別)(2009年)>



【国際交流拠点の例(九州国立博物館)】



館内展示室

九州国立博物館(太宰府市)

2005年、太宰府市に「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館」を基本理念として、わが国4番目の国立博物館が誕生した。  
九州国立博物館は、旧石器時代から近世末期までの日本の文化の形成について展示しており、アジア各地との文化交流を推進する拠点としての役割も持つ。

出典)九州国立博物館ホームページ

【アジアをテーマとしたイベントの例①(福岡アジアアムランス)】



福岡アジアアムランス会場観客席(福岡市)

イベント風景

福岡アジアアムランスは、毎年9月を中心、数多くの団体や企業などの協力を得て、福岡市内各所やアジア地域の文化・芸術・学術などの様々なイベントが開催される。福岡アジア文化賞、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、アジア太平洋フェスティバル福岡など、多様なイベントを通じて国際交流を深めている。

出典) (ASIAN MONTH COMMITTEE 2008)

【アジアをテーマとしたイベントの例②(大分アジア彫刻展)】



朝倉文夫記念館(豊後大野市)

受賞作品(2006年)

日本近代彫刻の基礎を築いた朝倉文夫の偉業を顕彰し、1992年より朝倉文夫記念館を中心に開催されている彫刻展。アジアの新進彫刻家の登竜門として、注目を集めている。

出典) 朝倉文夫記念館ホームページ

【アジアをテーマとした交流の例(アジア・太平洋子ども会議・イン福岡)】



招待事業の様子(2007年)

招待事業の様子(2008年)

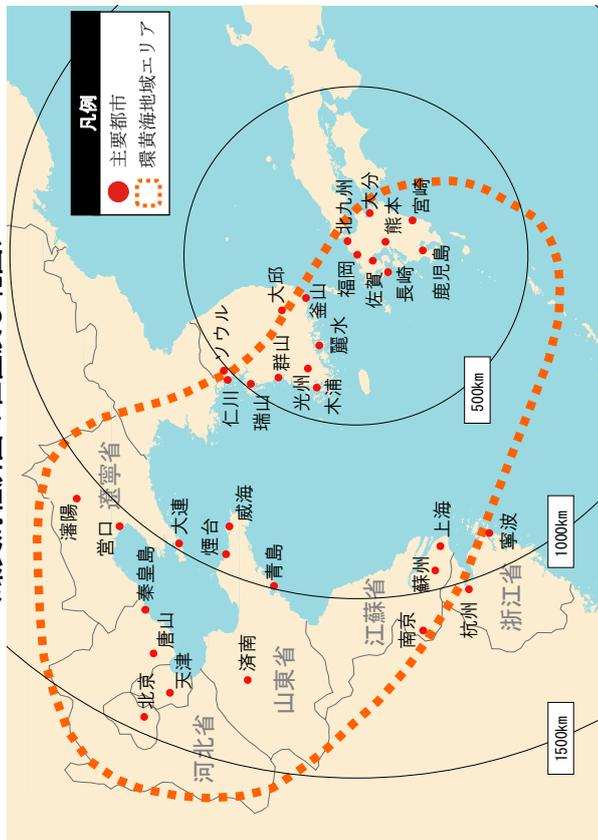
アジア太平洋子ども会議・イン福岡では、アジア太平洋地域から子ども大使を招いて、福岡の各所でホームステイや学校登校を体験したり、他国の子ども大使と一緒に交流キャンプなどをすることにより国際理解・相互理解を推進している。

出典) アジア・太平洋子ども会議・イン福岡ホームページ

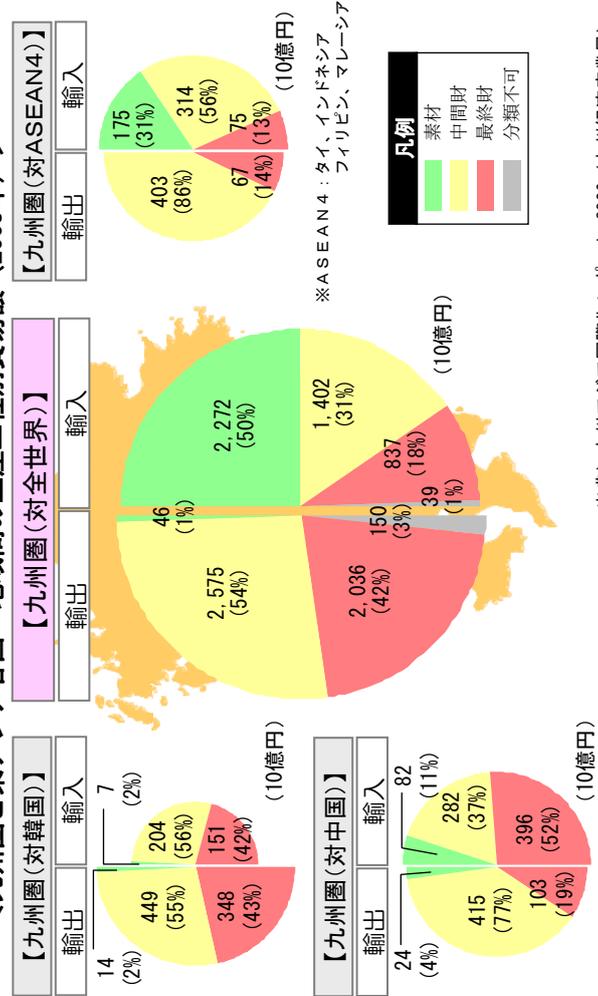
## 東アジア、近接地域等に開かれた九州圏 (東アジアへの窓口としての九州圏 (その3))

・経済のグローバル化、産業構造の高度化が進展する中で、九州圏では、環黄海地域、ASEAN等の東アジア地域を中心として、生産ネットワークの構築が進み、経済・産業面での連携の動きも活発化している。

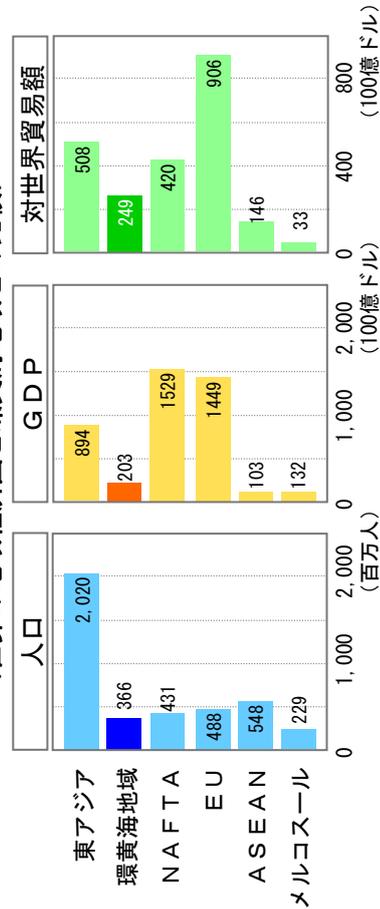
### <環黄海経済圏の位置及び範囲>



### <九州圏と東アジア各国・地域間の生産工程別貿易額 (2005年) >



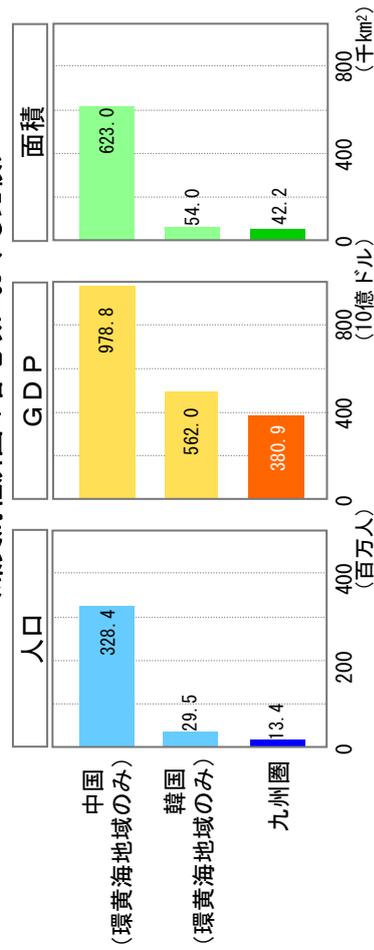
### <世界の地域経済圏と環黄海地域との比較>



出典) 九州アジア国際化レポート 2008 (九州経済産業局)  
 ※東アジア: 日本、中国、韓国、ASEAN  
 環黄海地域: 国家間の協定によるものではなく、实体经济を背景とした局地経済圏  
 (グラフの人口・GDPは九州、中国と韓国の環黄海地域、貿易額は九州、全中国、全韓国の合計)  
 NAFTA: アメリカ、カナダ、メキシコ  
 メルコスール: アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジル

出典) 九州アジア国際化レポート 2006 (九州経済産業局)

### <環黄海経済圏の各地域における比較>



出典) 中国、韓国の値: 九州アジア国際化レポート 2008 (九州経済産業局)  
 九州圏の人口、面積: 国勢調査 2005 (総務省)  
 九州圏の名目GDP: 県民経済計算 2006 (内閣府)  
 ※中国の全てが2007年の値、韓国の全てが2006年の値  
 ※韓国 (環黄海地域): 釜山、仁川、光州、大田、京畿道、忠清南道、全羅南道、全羅北道、金羅南道、慶尚南道、済州道  
 中国 (環黄海地域): 北京市、天津市、河北省、遼寧省、上海市、江蘇省、山東省

## 東アジア、近接地域等に開かれた九州圏 (中国圏・四国圏・沖縄等の近接地域との結びつき (その1))

・瀬戸内海は古代より畿内との交通路として発展し、中世、近世を通じて、瀬戸内海航路や寄港地の整備が進み、交通・物流の大動脈として機能するとともに、歴史・文化的な結びつきも多岐に見られた。  
 ・南九州では、江戸時代から琉球と薩摩藩との交易が発達するなど、歴史的・文化的に深いつながりを持っていた。

### <中国圏、四国圏、沖縄との歴史的つながり>

時代	主な出来事 (九州圏との関連を中心に)
飛鳥時代	・遣唐使等の航路として難波津から瀬戸内海・筑紫館の諸港を開設
奈良時代	・摂播五泊の開設(行基) (古代瀬戸内海航路の基盤形成)
平安時代	・日宋貿易のため瀬戸内海航路の整備(平清盛) (瀬戸内海が公租や荘園年貢の運搬路として発達) ・壇ノ浦の戦い(平氏滅亡)
鎌倉時代	・沖縄、奄美諸島においてダスク(石垣で囲まれた城)の出現
室町時代	・日明貿易(勘合貿易)のため門司ほか10港に千石船を配備 (大阪湾から関門海峡までの山陽側の瀬戸内海航路が発達)
安土桃山時代	・琉球において明・朝鮮・日本・東南アジア諸国との交易の進展
江戸時代	・島津氏による琉球侵攻 ・奄美諸島が島津氏の直轄地となる ・西廻り航路(出羽-大坂・江戸)の整備(河村瑞賢) (瀬戸内海の中央を貫く沖乗り航路が発達) ・朝鮮通信使の往来(瀬戸内海)
明治時代	・琉球処分(沖縄県を設置) ・蒸気船や機帆船の登場、山陽鉄道の整備 (瀬戸内海寄港地の衰退)
昭和時代	・戦後のアメリカによる沖縄統治 ・奄美、沖縄の日本復帰

### <中世における瀬戸内海の都市と交通>



出典) 日本史総合図録(山川出版社)を基に作成

### <近世における瀬戸内海の都市と交通>



出典) 日本史総合図録(山川出版社)を基に作成

### 【沖縄(琉球)における中継貿易】

沖縄では、15世紀初頭に琉球王朝が成立し、明・朝鮮・日本・東南アジアとの中継貿易と巧みな外交により大いに繁栄した。江戸時代に入ると島津氏の琉球侵攻(嗣恩使、慶賀使)の派遣や薩摩藩との交易が進められ、琉球から薩摩にさつまいもが伝来するなど、琉球と日本の関係は深まっていた。



琉球王朝時代の交易船

### 【中世における瀬戸内海の海上交通】



壇ノ浦合戦壁面画(北九州市)

瀬戸内海は古来より、海運を中心に海上交通の大動脈となってきた。遣唐使などの難波津から大陸に向けた主要航路とともに、奈良時代に入ると、公租や荘園年貢の運搬路として発達した。平安時代後期には、平氏が瀬戸内海の治安を取り締まるようになり、日宋貿易などのため瀬戸内海航路の整備が進んだ。この間、大宰府の直轄下にあった関門海峡では、海上交通の要衝として関門関が設置され、源平合戦の決戦の場(壇ノ浦合戦)となるなど、歴史上の重要な舞台であった。

### 【近世、近代における瀬戸内海の海上交通】



関門海峡(北九州市、下関市)

瀬戸内海は、室町時代には、日明貿易のため尾道、門司などに遣明船として千石船が配備されるなど、山陽側の航路が発達していたが、江戸時代に入ってから、出羽から大坂、江戸を結ぶ西廻り航路が整備され、瀬戸内海の中央を貫く沖乗り航路が発達した。また、北前船などの帆船が中心であったため、風待ち、潮待ちなどの交易で大いに栄えた。明治時代には、蒸気船の登場、山陽鉄道の整備や産業の近代化に伴い、関門海峡の港はさらに発展した。

### 【瀬戸内海における産業技術・文化の伝播(関さば等)】

瀬戸内海を介した交易活動の中で、各地域の文化や農漁業を中心とした産業技術が伝播・拡散し、その後の産業の発展等につながった。西瀬戸地域では「関サバ」の一本釣り漁法が、広島県三原市から大分県佐賀関に伝わり、現在では、佐賀関が関サバの産地となっている。山口県の柳井織が愛媛に販路を広げ、その技術で生産された五反田織が大分、宮崎などに販路を拡大した。

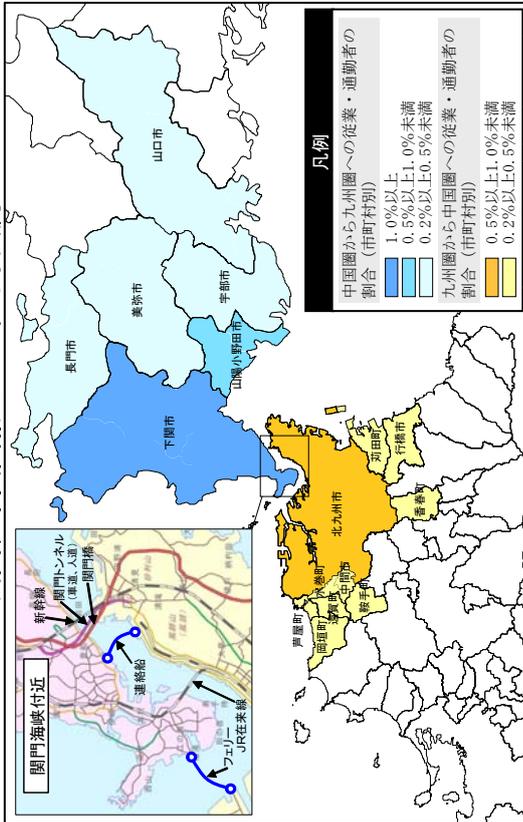


関ものを釣る漁船(大分市)

東アジア、近接地域等に開かれた九州圏  
(中国圏・四国圏・沖縄等の近接地域との結びつき (その2))

- ・中国圏との間では、北九州市、下関市を始め、相互の従業・通学者数の割合も高く、日常的な交流が盛んであるとともに、広域景観や施設利用等の相互連携も進展している。
- ・南九州では、伝統芸能、文化や農林水産業等の歴史的・地理的つながりから、奄美と沖縄の活発な交流が進められている。

＜九州圏、中国圏相互の日常的な交流＞



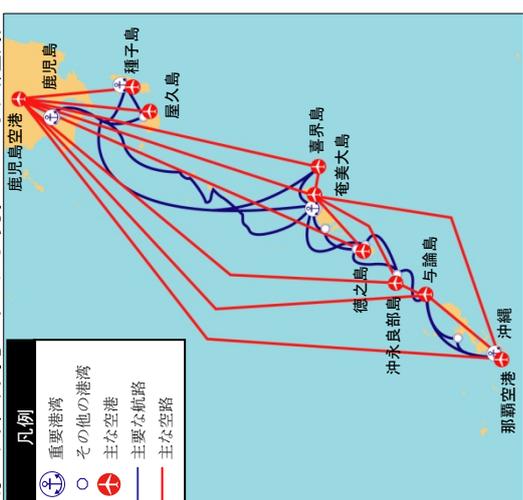
出典) 国勢調査 2005 (総務省)

＜西瀬戸地域における現在の主な交通路＞



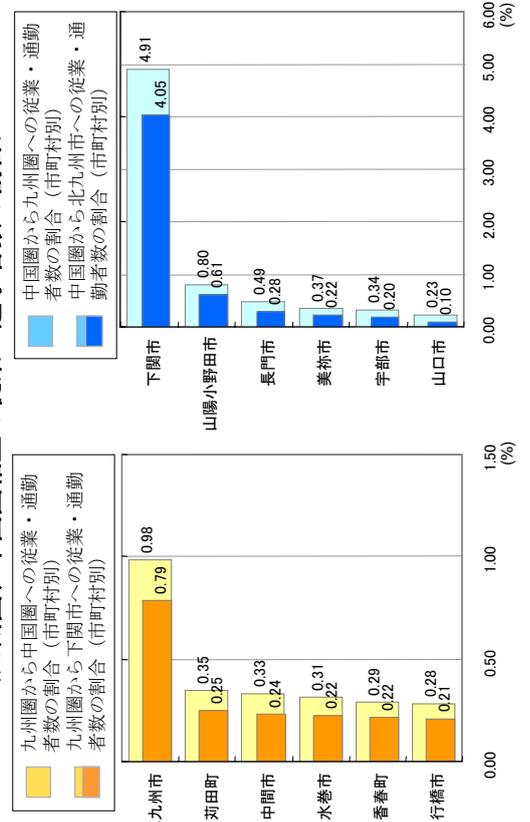
出典) 各航路会社時刻表を基に作成

＜南九州、沖縄における現在の主な交通路＞



出典) 九州運輸要覧 平成19年度版 (九州運輸局)、各航路会社時刻表を基に作成

＜九州圏、中国圏相互の従業・通学者数の割合＞



出典) 国勢調査 2005 (総務省)

【関門海峡を挟んだ連携】



関門海峡を挟んだ北九州市と下関市の交流・連携の歴史は古く、現在では、関門トンネル、関門橋、連絡船等で結ばれ、両市間の従業・通学者数は毎日1万人以上になっている。

北九州市と下関市間では、関門景観条例の制定、高齢者福祉施設の相互利用、東アジア経済交流推進機構の設置、大学間連携など、行政及び民間・市民レベルの連携が進んでいる。

また、両地域は、我が国のアジアへのゲートウェイとして交通・物流の要衝にあるため、今後さらに、連携の動きが活発化することが期待されている。

【奄美と沖縄における交流】



奄美と沖縄は、地理的・歴史的近接性から、奄美島唄と沖縄民謡、奄美の八月踊りと沖縄の集団太鼓踊りなど、共通のルーツを持ちながら独自の発展を遂げた文化やサトウキビ、マンゴー、自然海塩など、共通の産品も多い。このため、現在では、文化・経済交流や農林水産業の技術交流等が進められている。

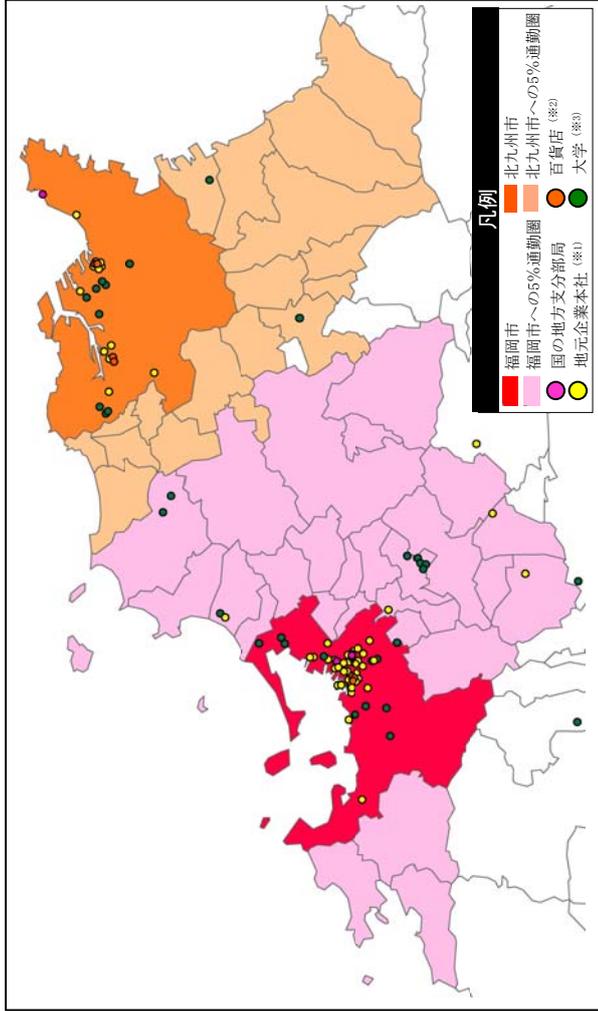
また、両地域は、琉球海溝に沿ってできた島弧・海溝系地形を形成しており、固有種やサンゴ礁、ウミガメ類の産卵地など、生態系保全上の重要な地域であることから、奄美・琉球諸島として、世界自然遺産の登録に向けた活動も活発化している。

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造

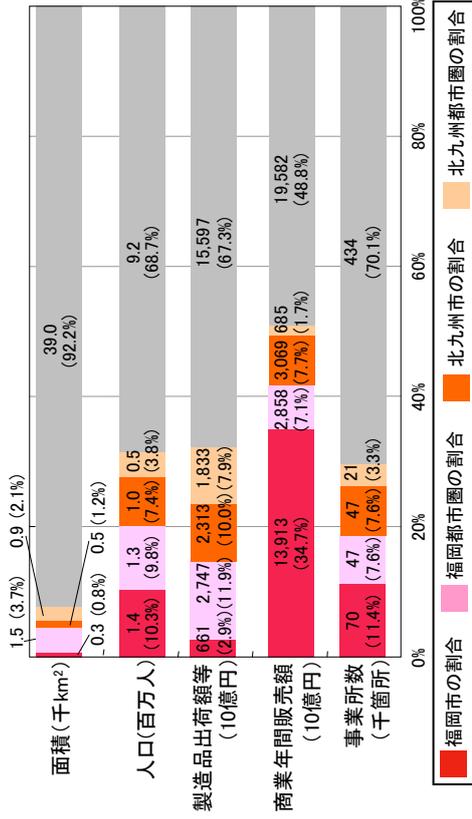
(中枢拠点となる福岡・北九州都市圏を分散する基幹都市圏 (その1))

九州圏においては、100万人規模の人口を有する福岡と北九州を中心として九州北部の連携した都市圏が形成されており、東京、大阪、名古屋の三大都市圏に次ぐ都市圏が形成されている。

### <福岡・北九州都市圏における高次都市機能の集積>



### <九州圏に占める福岡・北九州都市圏の割合>



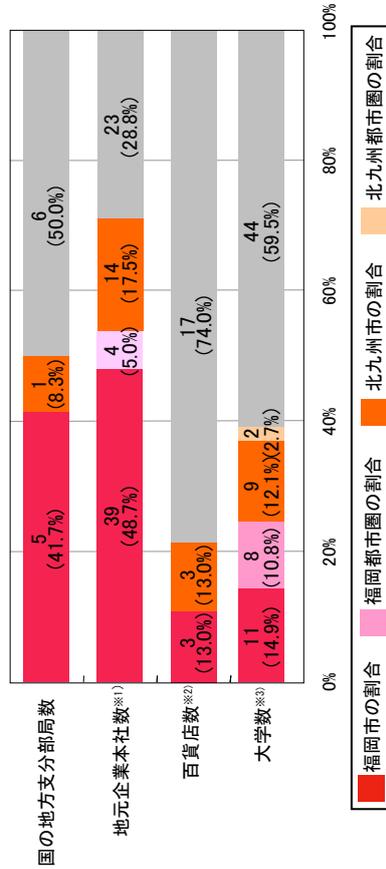
出典) 面積・国勢調査 2005 (総務省)、人口・住民基本台帳人口 2008 (総務省)  
 製造品出荷額等：工業統計 2007 (経済産業省)、商業年間販売額：商業統計 2007 (経済産業省)  
 事業所数：事業所・企業統計調査 2006 (総務省)

### 【福岡都市圏】



天神(福岡市)

### <九州圏に占める福岡・北九州都市圏の割合>



出典) 地元企業本社数：九州データブック 2009 (西日本新聞社)  
 百貨店数：図解九州経済 2009 (財)九州経済調査協会)  
 大学数：平成20年度学校基本調査 (文部科学省)

※1) 2008.11.30現在の福岡証券取引所地上場企業  
 ※2) 売場面積10,000m<sup>2</sup>以上 ※3) 短期大学及び高等専門学校を含まない

福岡都市圏では、大手企業の本社・支社や国の地方支分部局、学術研究機関等の集積が見られ、情報、文化、国際交流などの高次都市機能の集積も進んでいる。  
 中心都市である福岡市の天神では、ビジネス、観光、ファッションなどの九州の中心地として発展しており、オアシス街とショッピング街が統合された市街地を形成している。  
 また、中洲、博多埠頭などが放射状に広がり、バス、地下鉄、電車など交通機能も集積している。

北九州都市圏は、鉄鋼を始めとした工業都市として発達し、近年では素材系産業の高付加価値化、自動車産業や環境産業の集積が進み発展が見られる。  
 中心都市である北九州市の柴川周辺では、ウォータータワーフロント景観を活用したまちづくり等が進められており、都市の魅力的な空間を創出している。

リバーウォーク北九州(北九州市)

出典) ©RIVERWALK KITAKYUSHU 2008

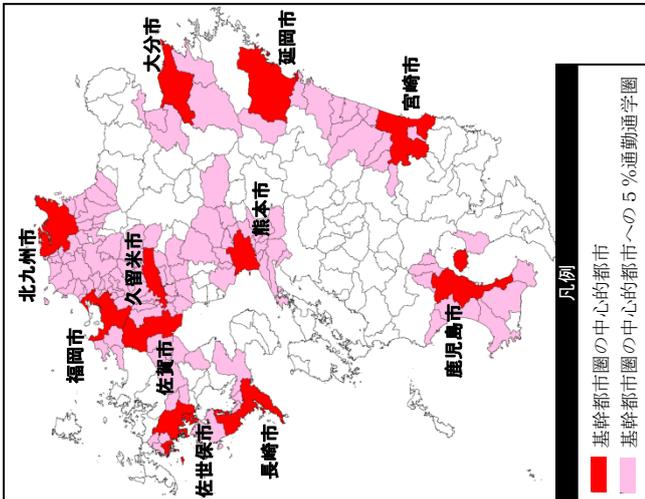
＜参考資料＞第2章第1節関係

＜九州圏の現状と課題 1-8＞

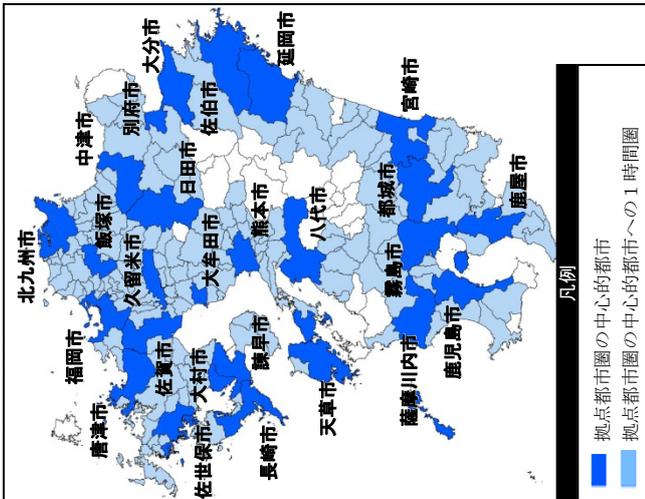
基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
 (中枢拠点となる福岡・北九州都市圏を始め東西北に適度に分散する基幹都市圏 (その2))

- ・福岡、北九州、熊本、鹿児島を始めとする基幹都市圏では、高次都市機能等の集積が進んでいる。
- ・大牟田、八代、都城を始めとする拠点都市圏では、一定規模の都市機能の集積が進んでいる。

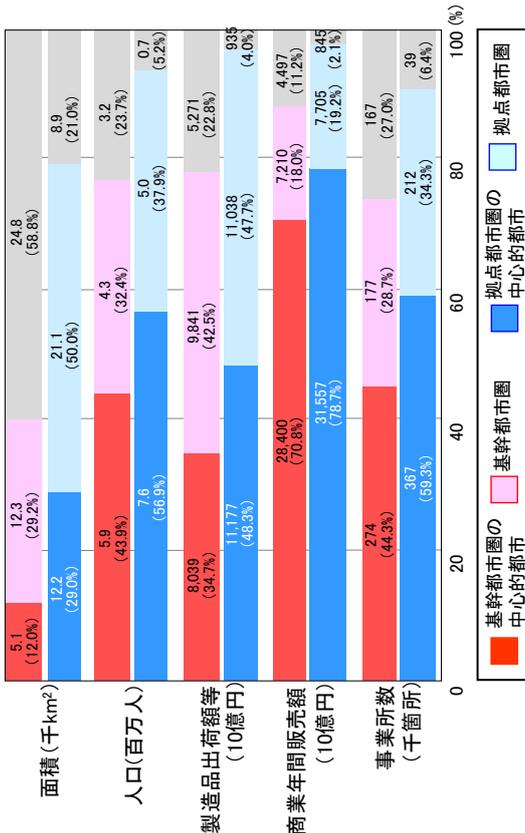
＜基幹都市圏の分布 (イメージ)＞



＜拠点都市圏の分布 (イメージ)＞



＜九州圏に占める基幹都市圏、拠点都市圏の割合＞



＜拠点性を有する都市に必要と考えられる都市機能＞

基幹都市圏に必要と考えられる高次都市機能	拠点都市圏に必要と考えられる都市機能
国際定期航空路/国際空港/国際港湾/高速鉄道駅 等	交通結節点施設
県庁/国の地方支分部局 等	鉄道駅/高速IC/高速バスストップ 等
地元企業本社/知的産業/デザイン/設計 等	市役所/公民館/銀行/裁判所 等
総合大学/研究開発拠点 等	企業支社/主要企業工場/ハローワーク 等
三次救急医療施設/がんセンター 等	大学・専門学校/高等学校 等
百貨店/証券取引所/経済連合会 等	医療/福祉施設
広域リサイクル施設 等	二次救急医療施設/地域センター/総合病院 特別介護老人ホーム/日帰り介護施設 等
中央卸売市場/物流拠点 等	大規模小売店(ショッピングセンター)/スーパー 等
国立・国営公園/プロ野球場/多目的スタジアム 等	リサイクル施設/廃棄物処理施設 等
コンベンションセンター/見本市会場/海外領事館 等	広域公園(県立・市立自然公園)/公園 等
美術館/博物館/コンサートホール 等	文化施設/図書館 等

出典) 「新しい国のかたち「二層の広域圏」を支える総合的な交通体系 (最終報告)」を基に作成

【基幹都市圏の中心的都市の例 (熊本市)】



熊本市は、熊本都市圏の中心都市で、明治以来、複数の国の出先機関、多数の大学等が立地し、中九州の中心都市として発展してきた。旧城下町には、百貨店、第3次救急医療施設等が立地するとともに、路面電車や日本でも最大規模のアーケード街、バスターミナル等が整備され、にぎわいある中心市街地を形成している。

【拠点都市圏の中心的都市の例 (都城市)】

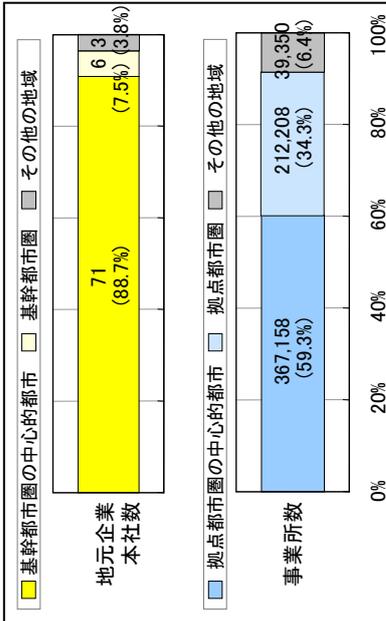
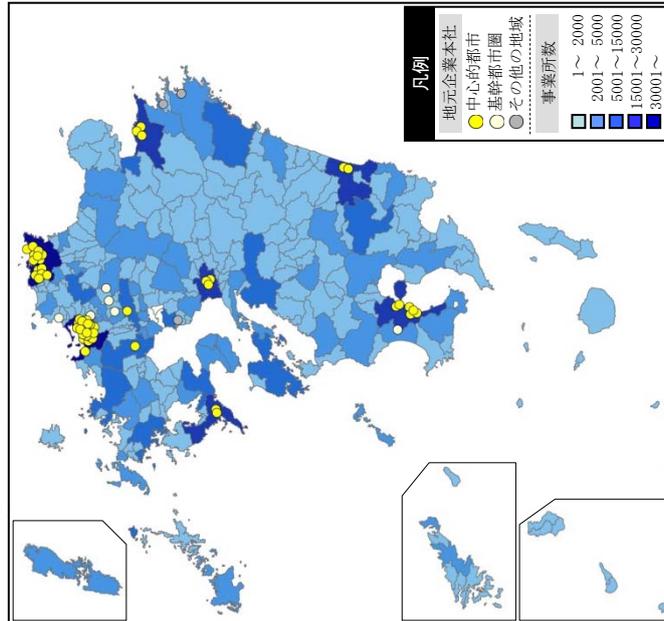


都城市は、宮崎市と鹿児島市のほぼ中間に位置し、陸海空の交通の利便性を活かした都城盆地の中心都市として発展している。中心市街地には、百貨店も立地し、広域的な観点からの救急医療等の強化も進められている。

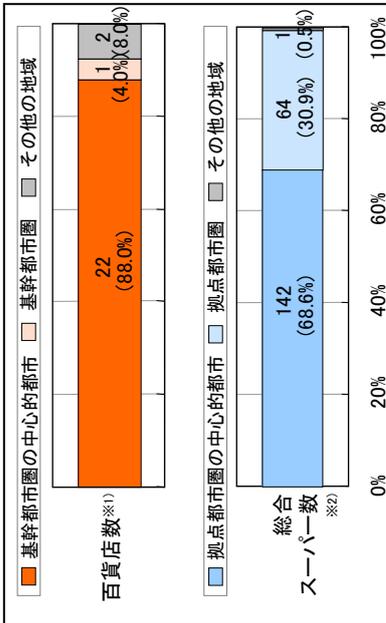
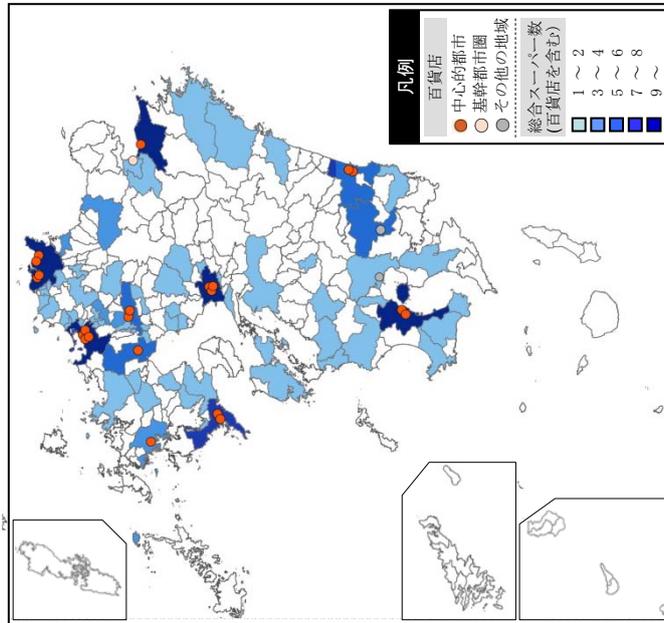
## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (中核拠点となる福岡・北九州都市圏を始め東西南北に適度に分散する基幹都市圏 (その3))

- ・雇用の場については、基幹都市圏では地元企業本社や事業所の集積が進み、拠点都市圏においても事業所等が集積している。
- ・商業施設については、基幹都市圏では百貨店が集積しており、周辺地域にも総合スーパー等が分散して立地している。
- ・教育施設については、基幹都市圏では大学が集積する一方で、その他の地域にも公設試験研究機関が立地している。

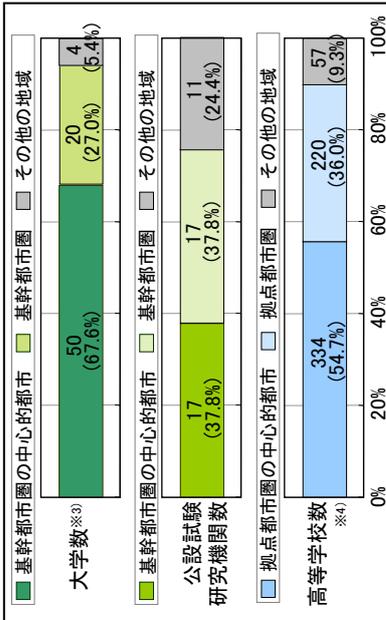
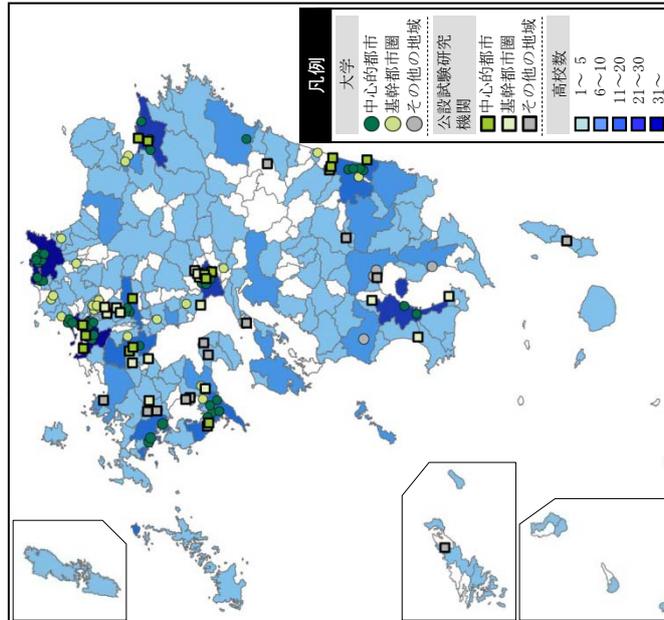
<雇用の場の分布状況>



<商業施設の分布状況>



<教育施設の分布状況>



※1) 売場面積10,000㎡以上 ※2) 百貨店を含む、店舗面積10,000㎡以上 ※3) 短期大学及び高等専門学校を含まない ※4) 高等専門学校を含まない

出典) 地元企業本社数：九州データータック2009 (西日本新聞社)、事業所数：事業所・企業統計調査2006 (総務省)、百貨店数：全国大型小売店総覧2009

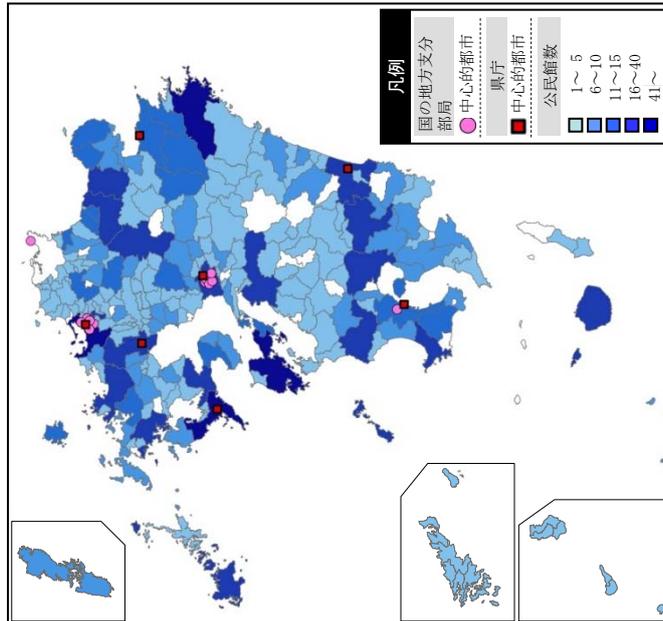
総合スーパー数：全国大型小売店総覧2009、大学数：平成20年度学校基本調査 (文部科学省)、公設試験研究機関数：九州の公設試ライトブック2008 (経済産業省)、高等学校数：全国学校総覧2009

※ここと言う基幹都市圏は、基幹都市圏の中心的都市への5%通勤圏として、拠点都市圏は、拠点都市圏の中心的都市への1時間圏とした。

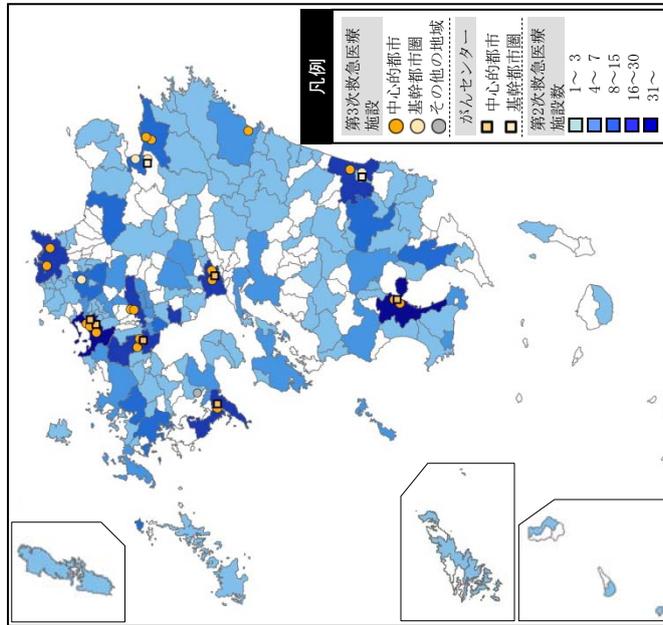
## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (中枢拠点となる福岡・北九州都市圏を始め東西南北に適度に分散する基幹都市圏(その4))

- ・ 公共施設については、基幹都市圏に国の地方支分部局が集積するとともに、拠点都市圏等に公民館等も多く分布している。
- ・ 医療施設については、基幹都市圏に第3次救急医療施設の集積が進み、拠点都市圏を中心に第2次救急医療施設が分布している。
- ・ 交流施設については、基幹都市圏ではコンベンションセンター等の集積が進むとともに、九州各地に交流拠点が分布している。

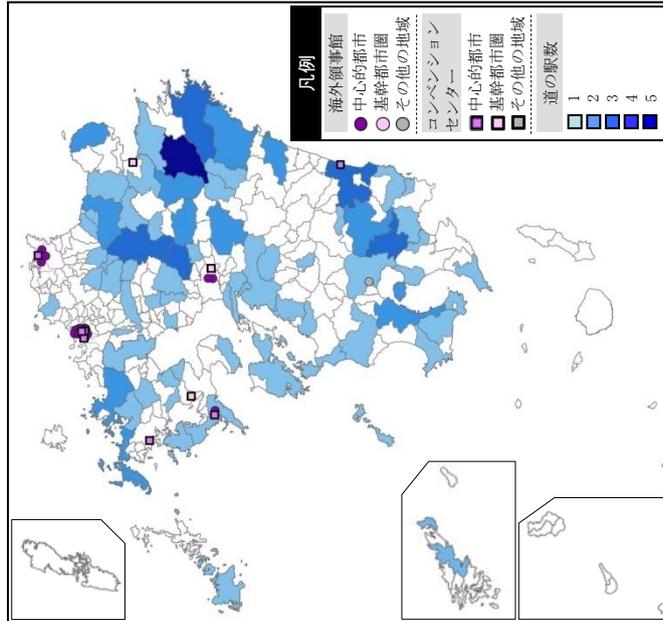
<公共施設の分布状況>



<医療施設の分布状況>



<交流施設の分布状況>

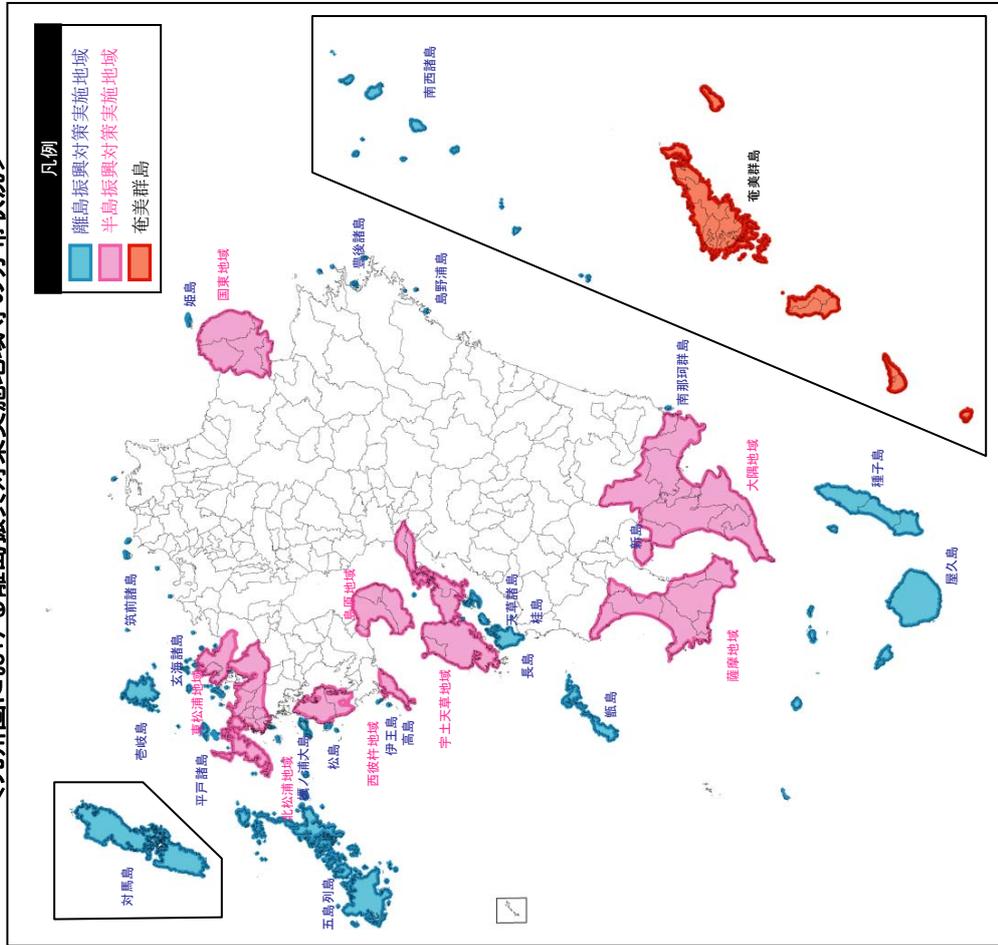


※1) 都道府県がん診療連携拠点病院 ※2) 総領事館、領事館、外国政府関係機関他 ※3) 収容人員5千人以上、もしくは床面積1万㎡以上のコンベンション施設  
 出典) 公民館数：市町村公共施設状況調(平成16年度版)、第3次救急医療施設数：各県資料、がんセンター数：国立がんセンターがん対策情報センターホームページ、第2次救急医療施設数：各県資料  
 海外領事館数：九州リーターブック2009(西日本新聞社)、コンベンションセンター数：各県コンベンション協会ホームページ、道の駅数：九州リーターブック2009(西日本新聞社)  
 ※ここで言う基幹都市圏は、基幹都市圏の中心都市への5%通勤圏とし、拠点都市圏は、拠点都市圏の中心都市への1時間圏とした。

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (離島・半島、中山間地域等が広く分布する九州圏 (その1))

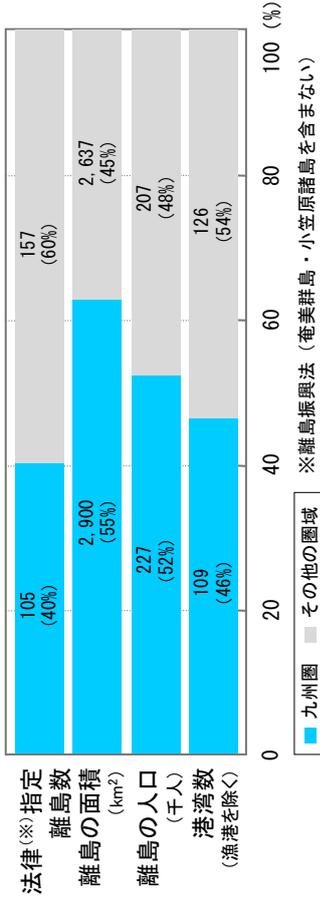
- 九州圏は、離島・半島の割合が多く、離島振興対策実施地域でみると、全国比で離島数の約40%、面積の約55%、人口の約52%を占める。
- 九州圏の半島は、半島振興対策実施地域でみると、全国23箇所のうち8箇所 (約35%) が指定されている。

### <九州圏における離島振興対策実施地域等の分布状況>

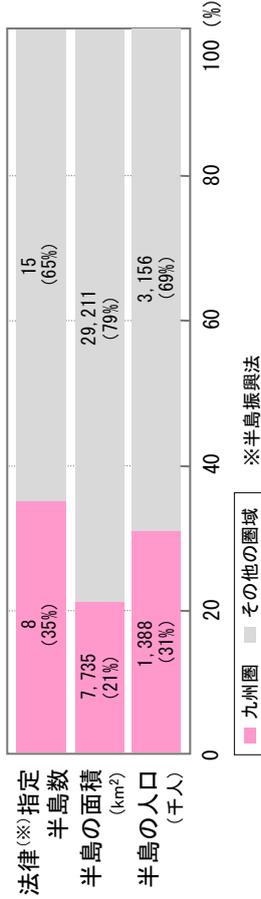


※離島振興対策実施地域：離島振興法に基づき指定された離島振興対策実施地域 (九州圏では22地域指定)  
 ※半島振興対策実施地域：半島振興法に基づき指定された半島振興対策実施地域 (九州圏では8地域指定)  
 ※奄美群島：奄美群島振興開発特別措置法に規定する奄美群島

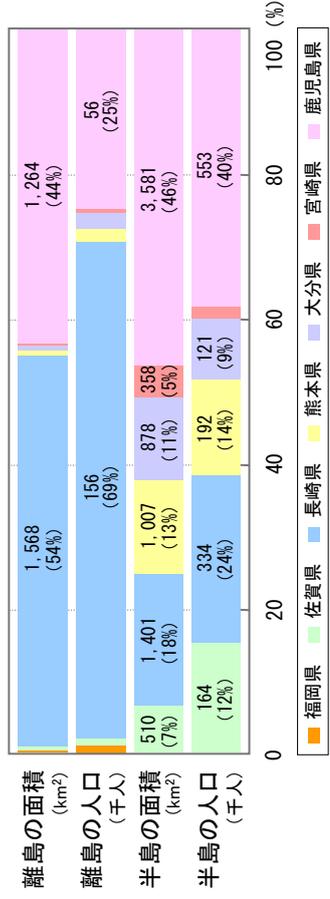
### <九州圏の全国に占める離島の割合>



### <九州圏の全国に占める半島の割合>



### <九州圏における離島・半島の割合 (県別)>

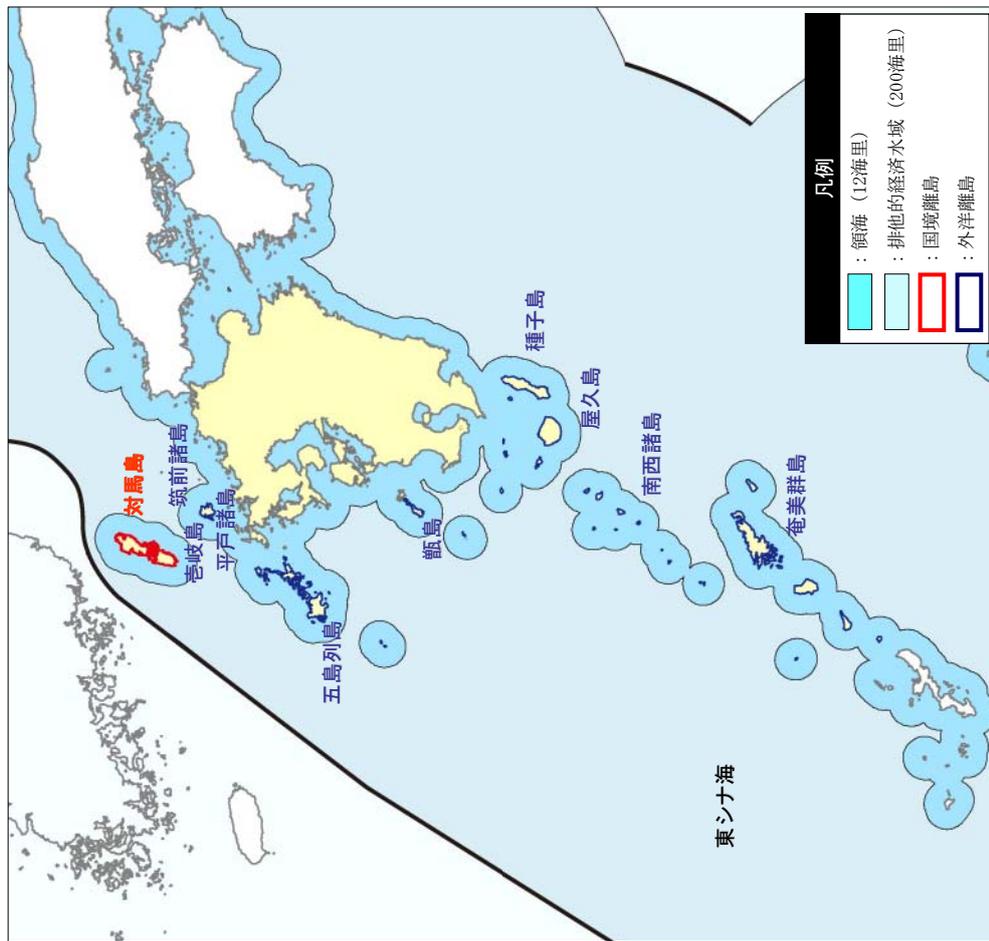


出典：離島：離島統計年報 2007 (日本離島センター)  
 半島：国勢調査 2005 (総務省)

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (離島・半島、中山間地域等が広く分布する九州圏 (その2))

- 九州圏の国境・外洋離島は、面積約4,006 km<sup>2</sup>を有し、九州圏における全離島数の約6割、人口の約9割を占める。
- 国境離島である対馬島は、対馬海峡の西水道を挟み朝鮮半島と隣接しており、周辺海域は、良好な漁場、海上交通の要衝にあることから、排他的経済水域の保全等に特に重要な役割を担っている。

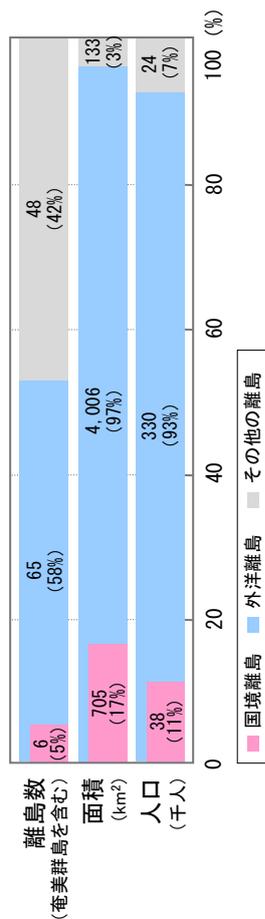
### <九州圏における国境・外洋離島の分布状況>



※国境離島、国境離島として想定される主な島嶼部  
※外洋離島、本土の港から航路1時間以上の離島とした

出典) 広域地方計画の策定に向けた海洋・沿岸域に関する利用状況・課題調査報告書 2007 (国土交通省国土計画局)

### <九州圏の離島 (奄美群島を含む) における国境・外洋離島の割合>



出典) 離島統計年報 2007 (日本離島センター)  
※面積、人口は国勢調査2005 (総務省) の値

### 【国境離島の例 (対馬島)】



対馬島は、九州本土へは玄界灘と対馬海峡の東水道を挟んで約132km、朝鮮半島へは対馬海峡の西水道を挟んで約49.5kmに位置し、国内で最も韓国に近く、領土や領海の保全上重要な役割を果たしている。また、対馬島周辺は、良好な漁場、海上交通の要衝であることから、排他的経済水域の保全等の国家的権益の確保上、特に重要な役割を担っている。

### 【外洋離島の例 (奄美群島)】

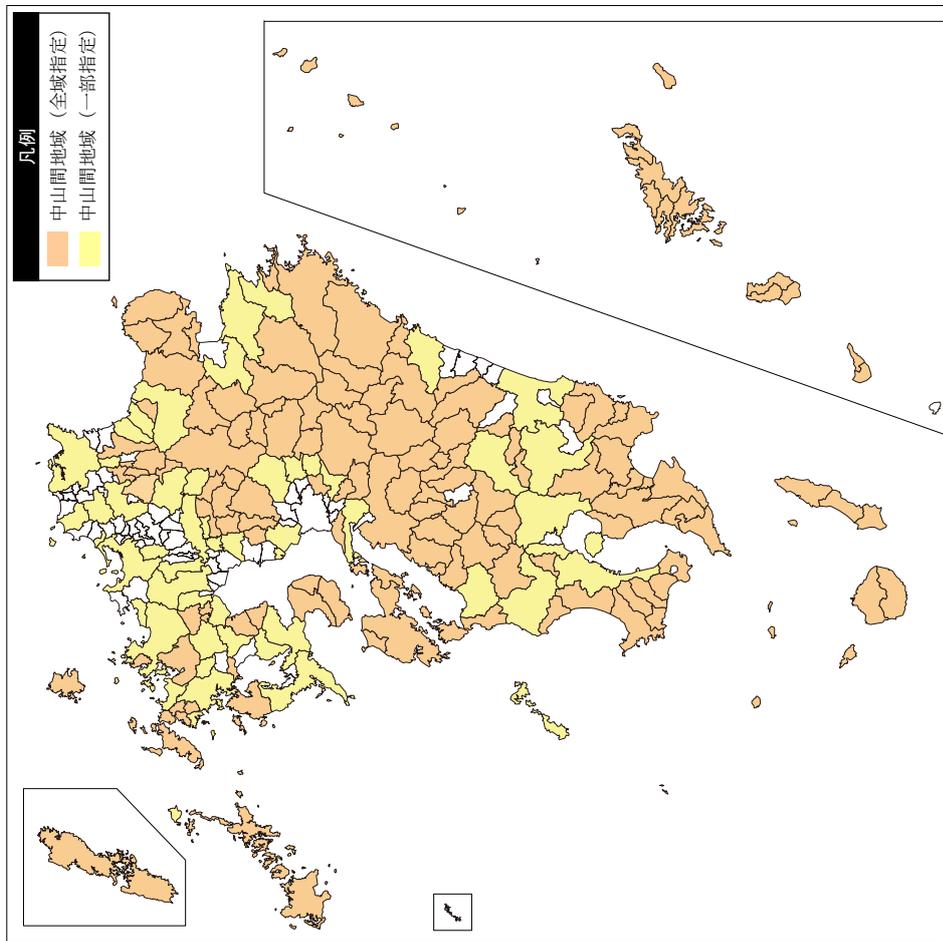


奄美群島は、南北約220kmの海域に広く点在し、我が国の南西部における領土や領海はもとより、広大な排他的経済水域等の保全に重要な役割を果たしており、船舶の航行や操業漁船の安全の確保、緊急時の避難場所の提供のほか、不審船等に対する国土防衛、治安維持など、多面的な役割を果たしている。

基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
(離島・半島、中山間地域等が広く分布する九州圏(その3))

- 九州圏の中山間地域は、九州圏の人口の約22%、面積の約61%、耕地面積の約51%を占める。
- 地理的制約が厳しい地域である一方で、耕地面積の約7割を占め、食料、木材の重要な生産拠点となっている。

<九州圏における中山間地域(地域振興5法による指定)の分布状況>



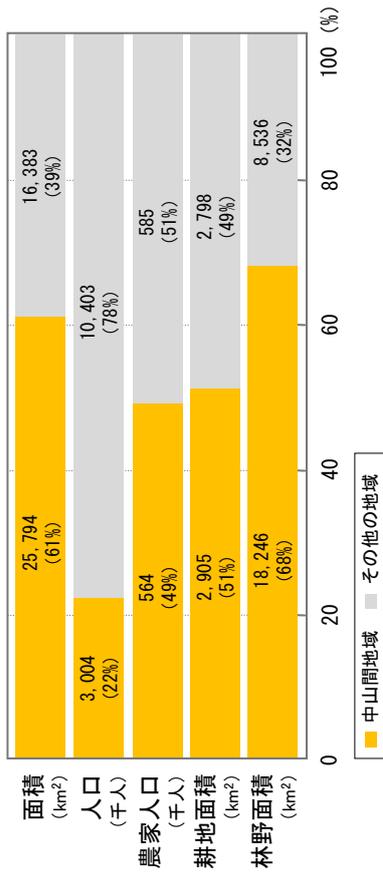
※中山間地域(地域振興5法による指定)：特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律に基づき公示された特定農山村地域、山村振興法に基づき指定された振興山村地域、通称地域自立促進特別措置法に基づき公示された過疎地域、離島振興法に基づき指定された離島振興対策実施地域、半島振興法に基づき指定された半島振興対策実施地域のいずれかに該当する地域

※全域指定：市町村区域の全域が上記地域のいずれかに該当する地域

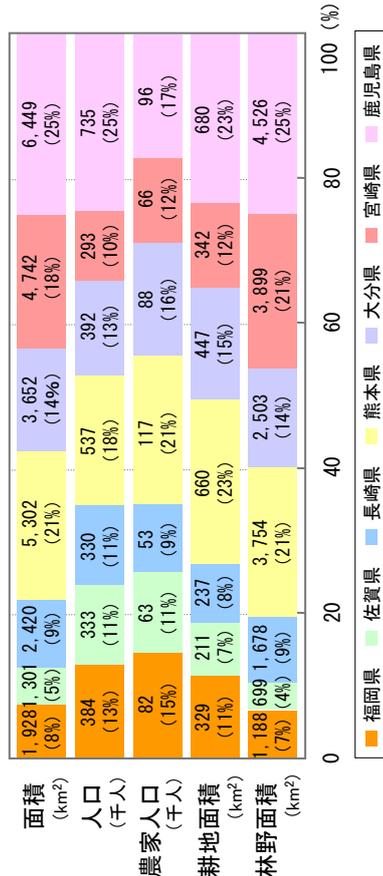
※一部指定：市町村区域の一部が上記地域のいずれかに該当する地域

出典) ポケット九州農林水産 平成18年版(九州農政局)

<九州圏における中山間地域(農業地域類型区分による指定)の占める割合>



<九州圏における中山間地域(農業地域類型区分による指定)の占める割合(県別)>



※中山間地域(農業地域類型区分による指定)：農林統計の農業地域類型区分における中山間農業地域と山間農業地域を合わせた地域

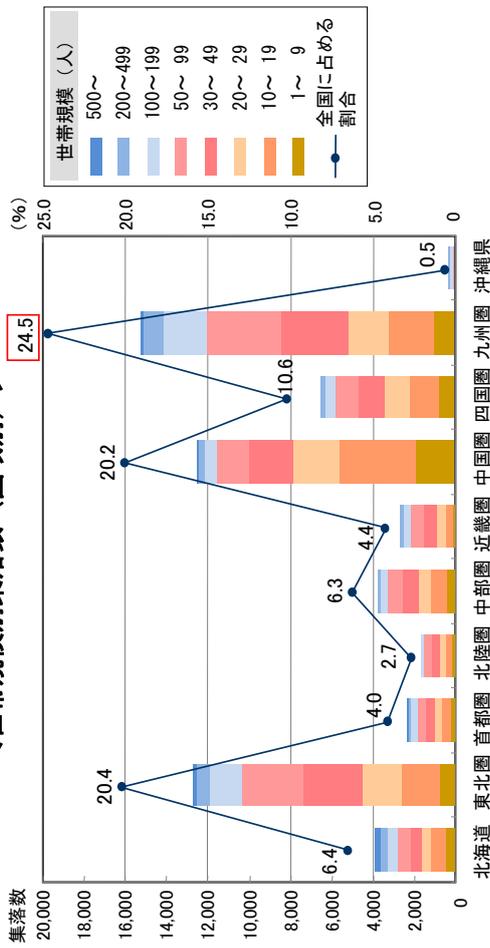
出典) 農業地域類型区分：ポケット九州農林水産 平成18年版(九州農政局)  
 面積：全国都道府県市区町村別面積調(平成17年10月1日時点)(国土地理院)  
 人口：住民基本台帳(平成18年3月31日現在)(総務省)

耕地面積：農林水産閣僚市町村別データ(平成18年)(農林水産省)  
 農家人口(販売農家)、林野面積：農林業センサス 2005(農林水産省)

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (離島・半島、中山間地域等が広く分布する九州圏 (その4))

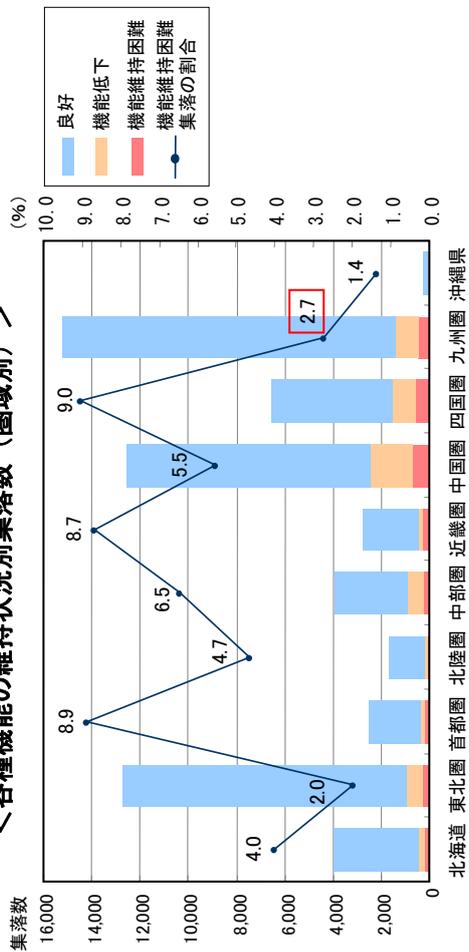
- ・離島・半島、中山間地域を中心として集落を単位とした生活が営まれており、九州圏内の過疎地域には約1.5万の集落が存在し、全国の過疎地域の集落数の約25%を占める。
- ・比較的規模の大きい集落が多く、集落の約9割が良好に維持される一方で、約2.7%は健全な集落の維持が困難な状況にある。

<帯規模別集落数 (圏域別)>



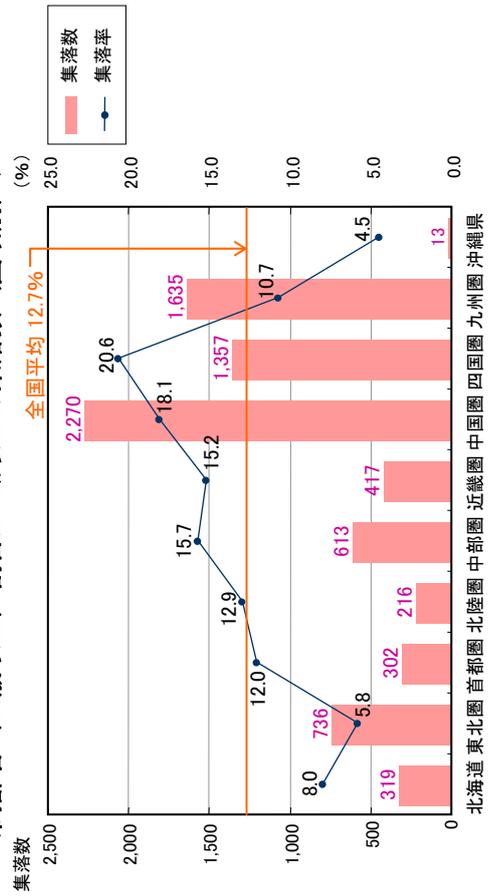
出典) 国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査 2006 (国土交通省)  
※過疎地域自立促進特別措置法(平成12年法律第15号)における過疎地域市町村を対象

<各種機能の維持状況別集落数 (圏域別)>



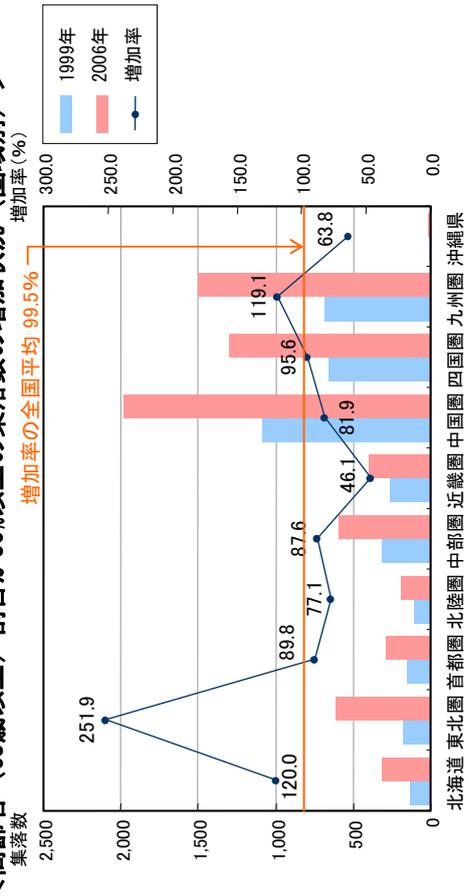
出典) 国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査 2006 (国土交通省)  
※過疎地域自立促進特別措置法(平成12年法律第15号)における過疎地域市町村を対象

<高齢者 (65歳以上) 割合が50%以上の集落数 (圏域別)>



出典) 国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査 2006 (国土交通省)  
※過疎地域自立促進特別措置法(平成12年法律第15号)における過疎地域市町村を対象

<高齢者 (65歳以上) 割合が50%以上の集落数の増加状況 (圏域別)>

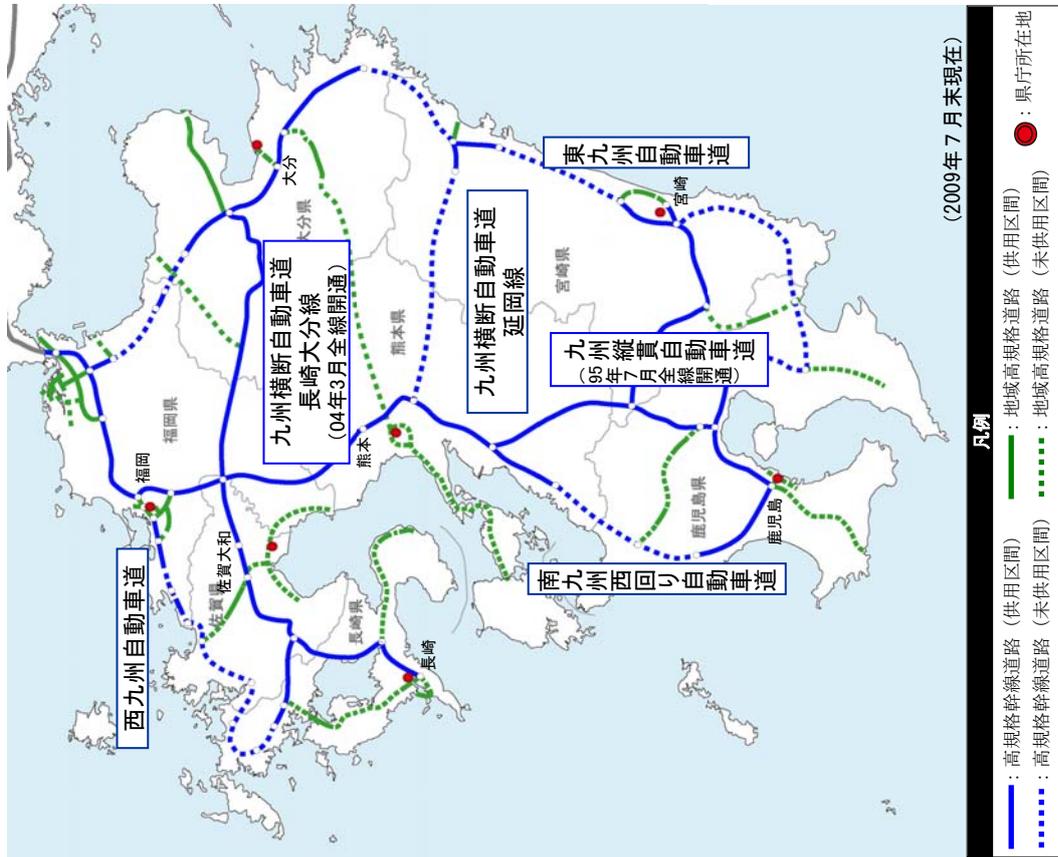


出典) 国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査 2006 (国土交通省)  
※1999年調査対象集落のみを対象 (2006年調査時に新規追加した集落は調査対象外)  
※過疎地域自立促進特別措置法(平成12年法律第15号)における過疎地域市町村を対象

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク (その1))

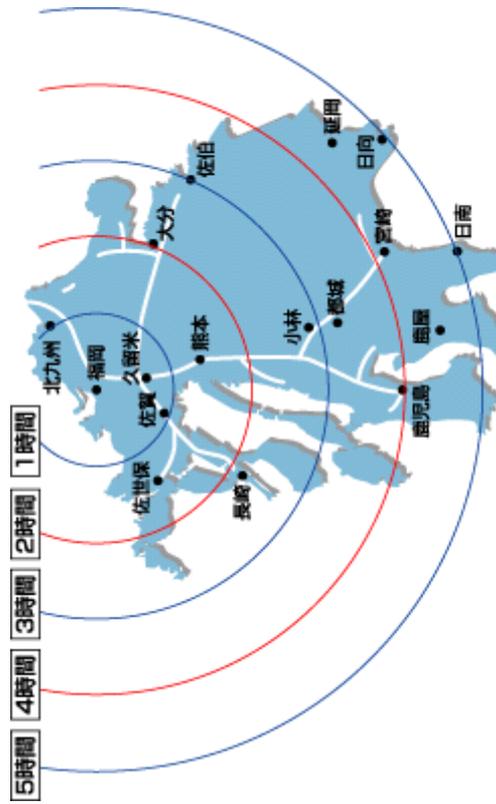
- ・ 高速道路については、1996年に九州横断自動車道長崎大分線が概ね完成したことにより、九州圏の7県庁所在都市が結びつきました。
- ・ 現在は、循環型高速交通体系の構築に向けた整備が進められる一方で、東九州自動車道など、九州各地にミッシングリングが存在する。

### <高規格幹線道路等の整備状況>

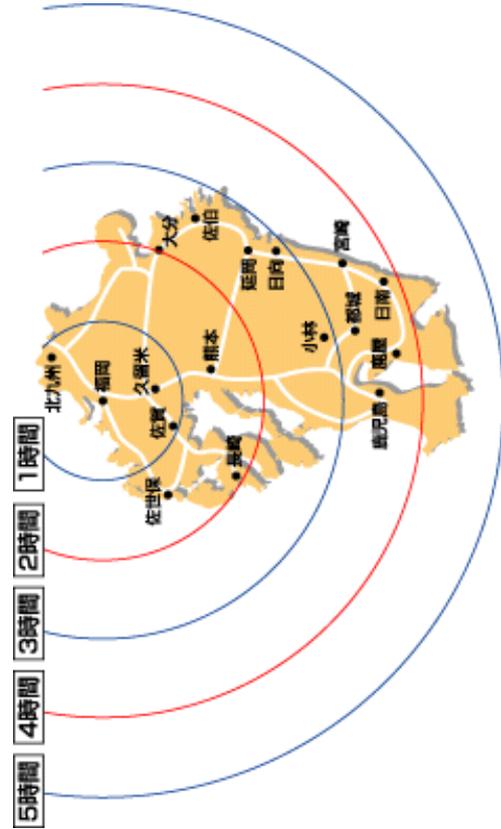


### <福岡を中心とした九州圏の時間地図>

#### ■ 2000年 (平成12年) 時点



#### ■ 将来 (高規格幹線道路等が全線開通した時点)

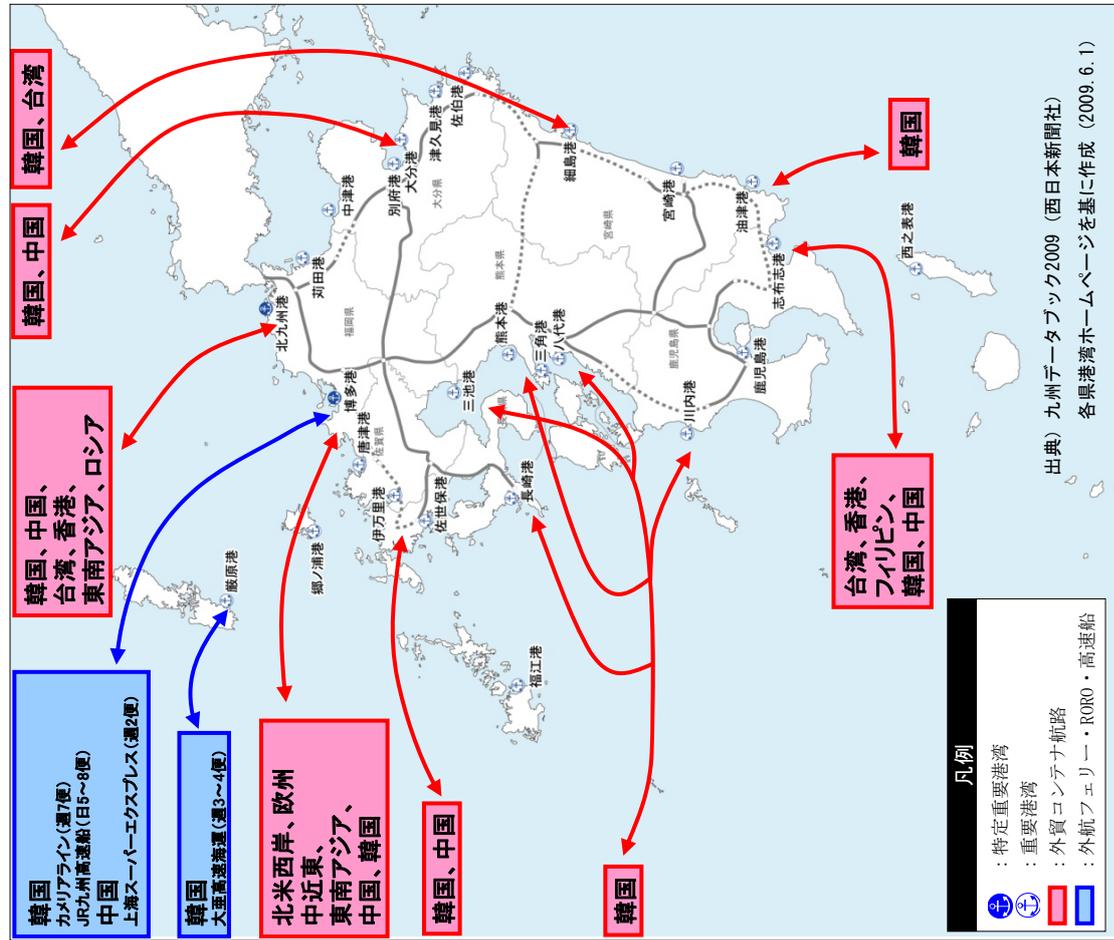




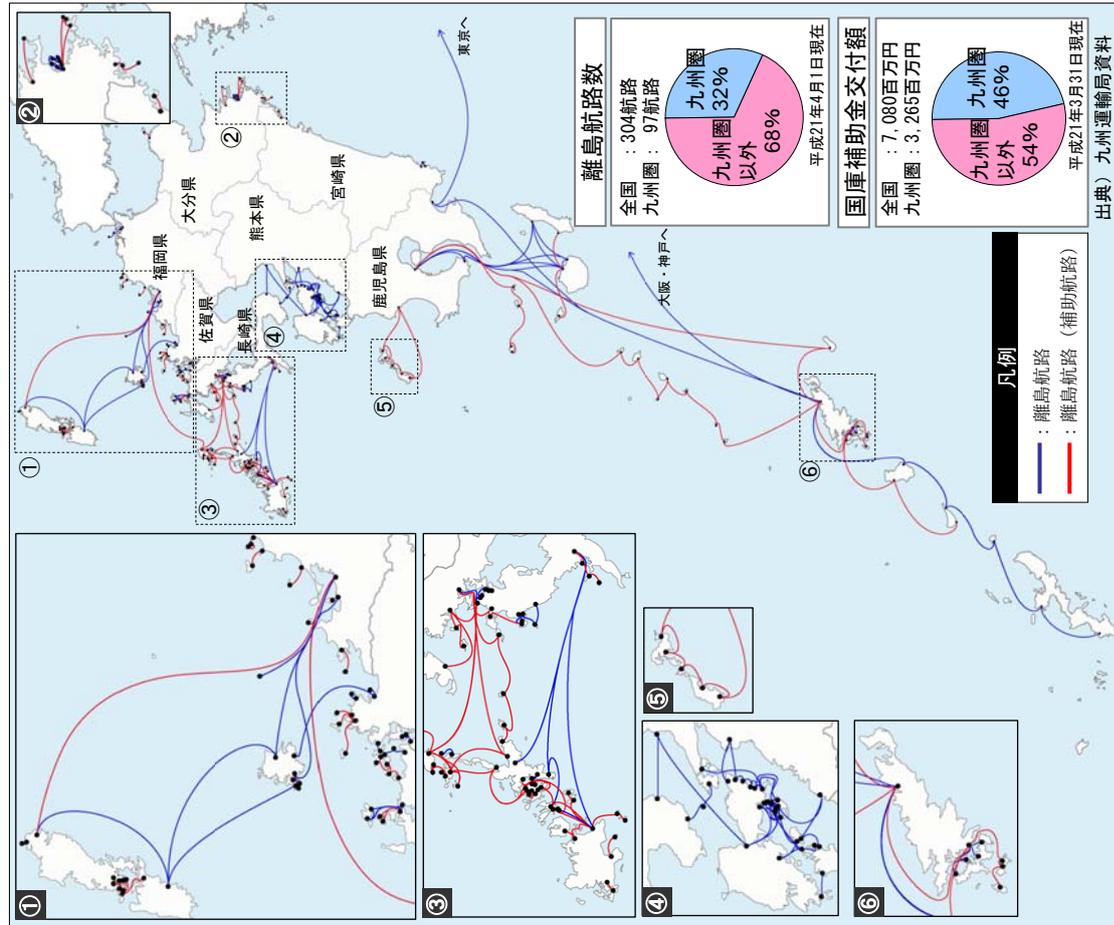
基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
 （九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク（その3））

- 九州の港湾は、特定重要港湾として九州北部の博多港と北九州港の2港および重要港湾25港が整備され、東アジアと我が国を結ぶ旅客・物流ネットワーク等が形成されている。
- 離島との定期旅客航路についても、97航路と全国の約3割を占め、国庫補助金交付額も全国の約5割と多い。

＜九州圏の港の主な国際航路＞



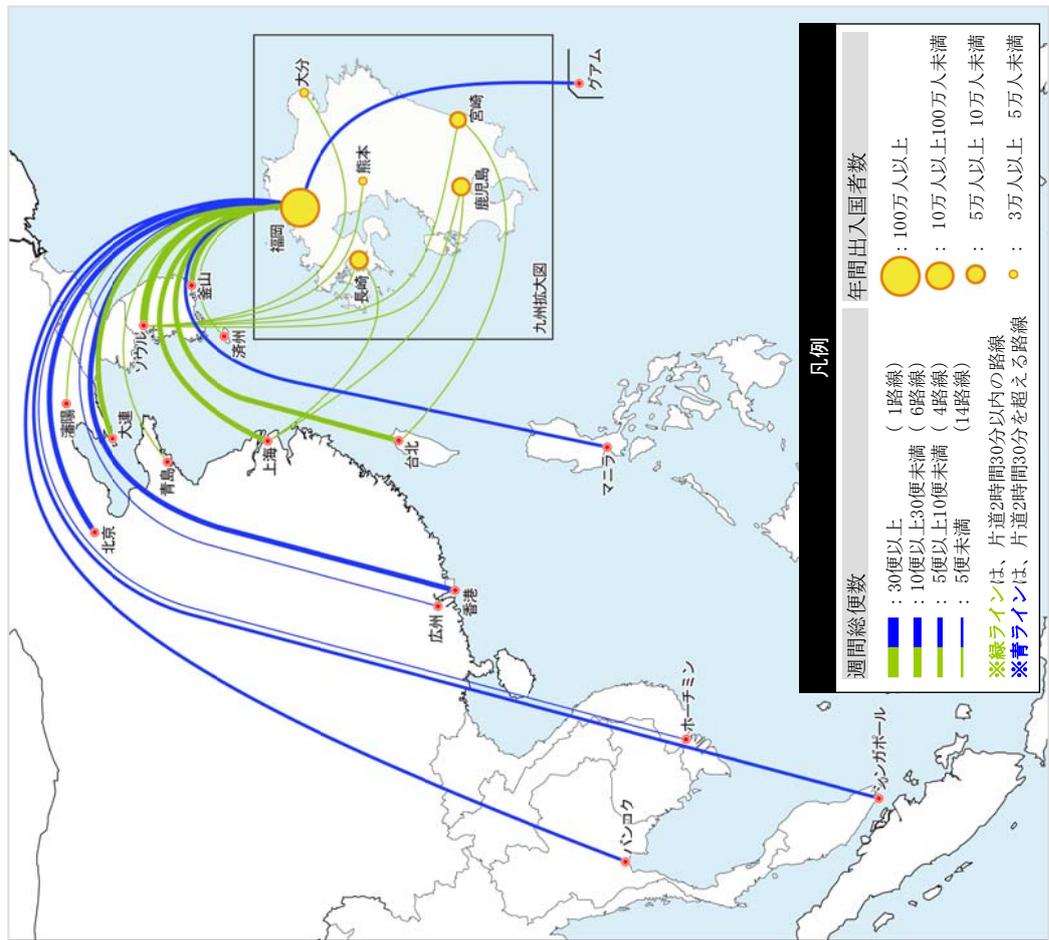
＜九州圏の離島航路＞



## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造 (九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク(その4))

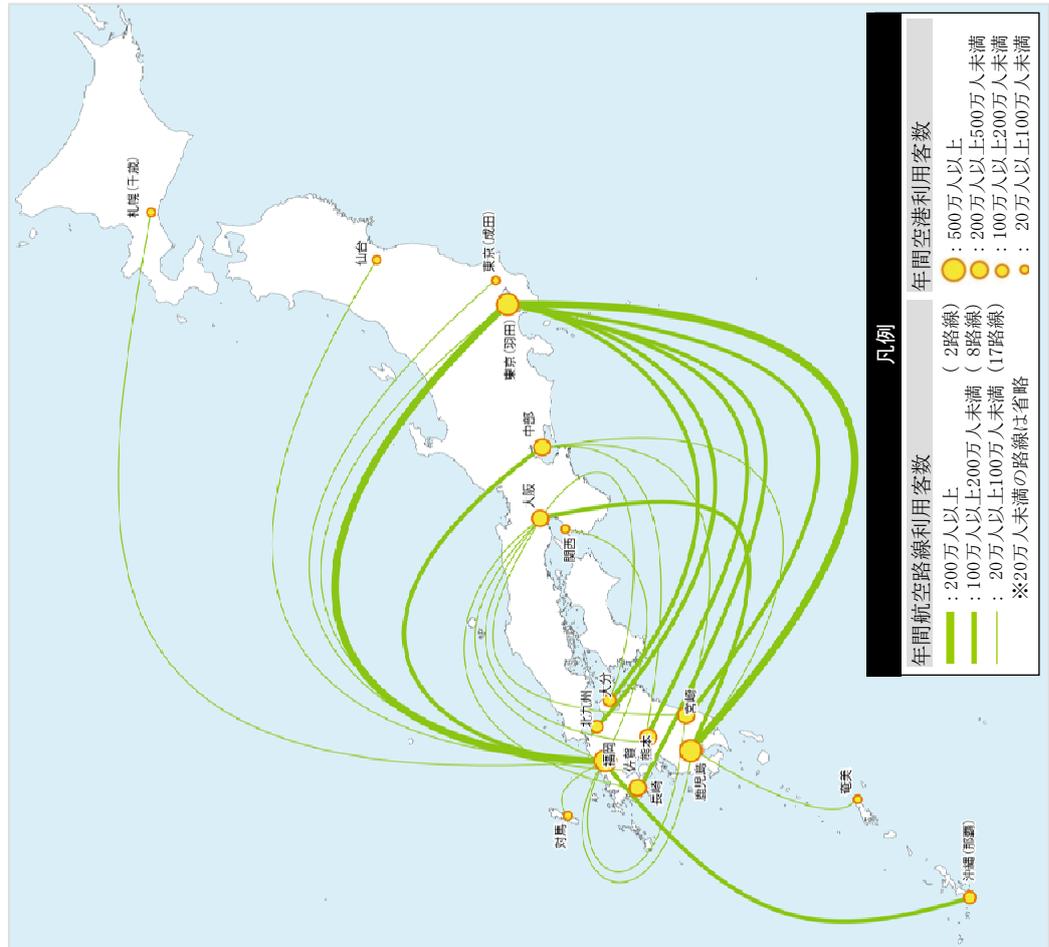
- 九州圏における空港は、地域拠点空港である福岡空港を始め、各県1空港以上整備されており、東アジア、国内各地と九州圏の主要都市を直接的に結ぶ旅客・物流ネットワークが形成されている。
- 五島列島や奄美諸島などの離島にも12の空港が整備され、九州本土との定期航空路線等が形成されている。

<九州圏からの国際定期航空路線>



出典) 出入国管理統計年報 2007 (法務省)、九州データブック 2009 (西日本新聞社)

<九州圏からの国内定期航空路線>



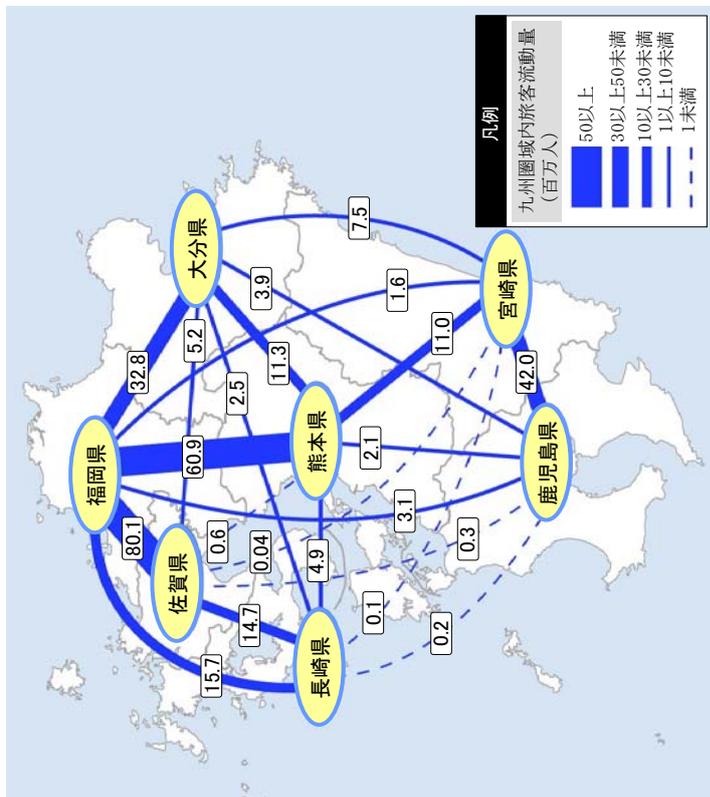
出典) 航空輸送統計年報 2007 (国土交通省総合政策局情報管理部情報安全・調査課交通統計室)

## 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造

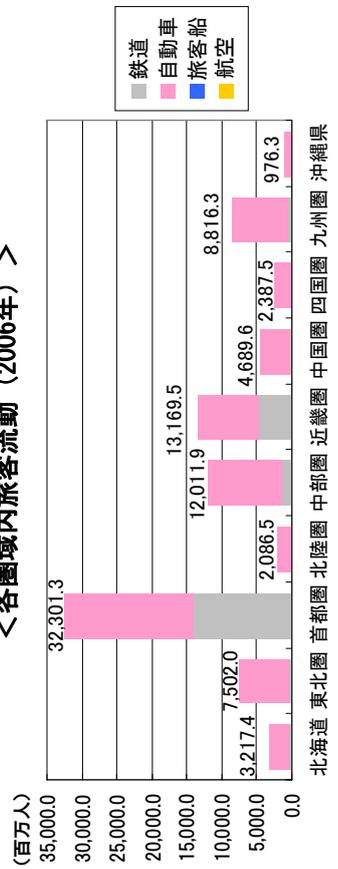
（九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク（その5））

- ・九州圏における旅客流動（2006年）は、福岡県に関する流動が約65%を占め、福岡－佐賀間が約80百万人と最も多い。
- ・九州圏における貨物流動（2006年）は、福岡県に関する流動が約58%を占め、福岡－佐賀間が約14百万トンと最も多い。

＜九州圏における旅客流動（2006年）＞

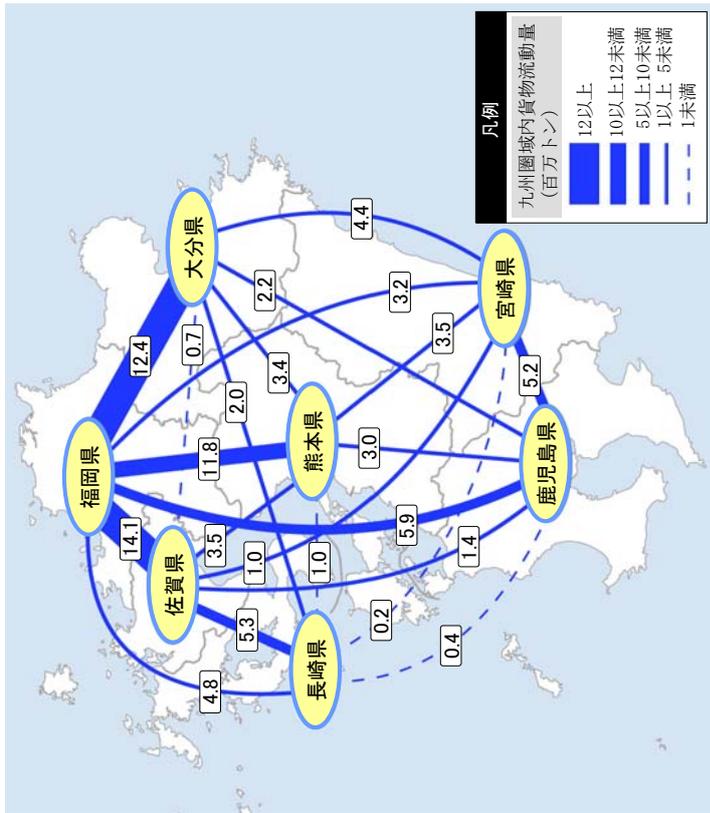


＜各圏域内旅客流動（2006年）＞

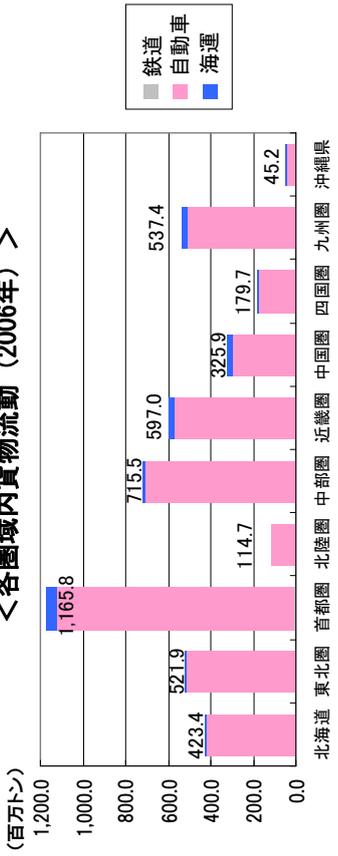


出典) 旅客地域流動調査 2006 (国土交通省情報管理部情報安全・調査課交通統計室)

＜九州圏における貨物流動（2006年）＞



＜各圏域内貨物流動（2006年）＞

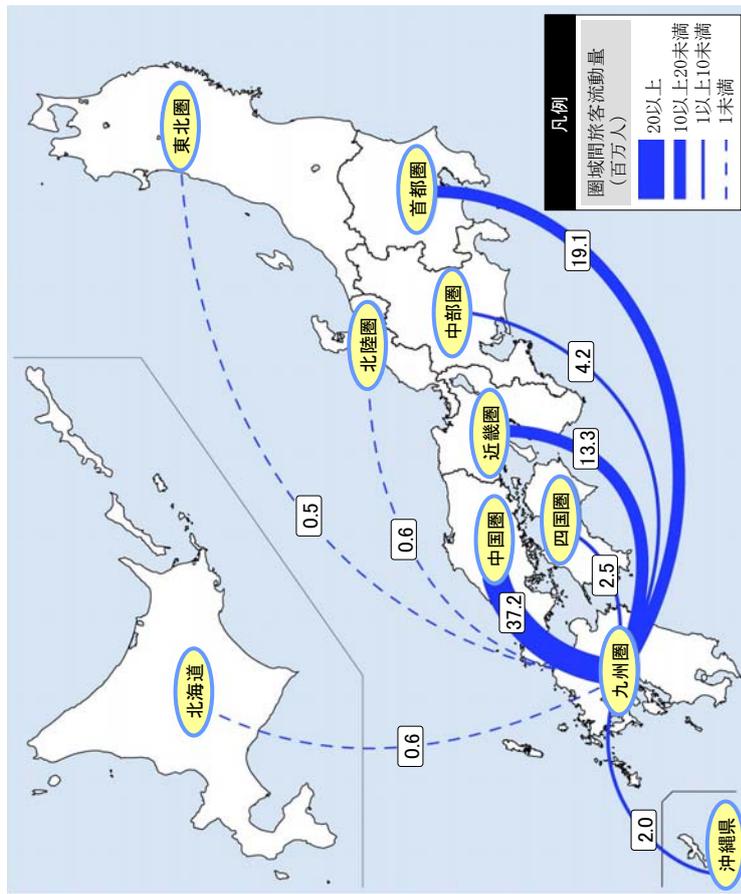


出典) 貨物地域流動調査 2006 (国土交通省情報管理部情報安全・調査課交通統計室)

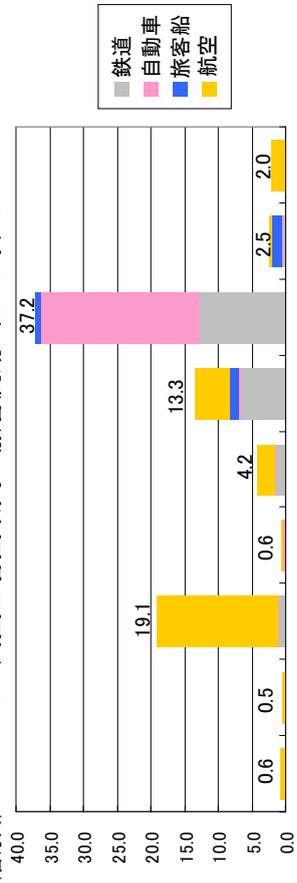
基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
(九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク(その6))

- 九州圏と各圏域間における旅客流動および貨物流動(2006年)は、いずれも中国圏、首都圏、近畿圏の順が多い。
- 旅客流動においては、中国圏間では自動車約6割、首都圏間では航空が約9割強のシェアを占めている。
- 貨物流動においては、海運が半数以上のシェアを占めている。

<九州圏と各圏域間の旅客流動(2006年)>

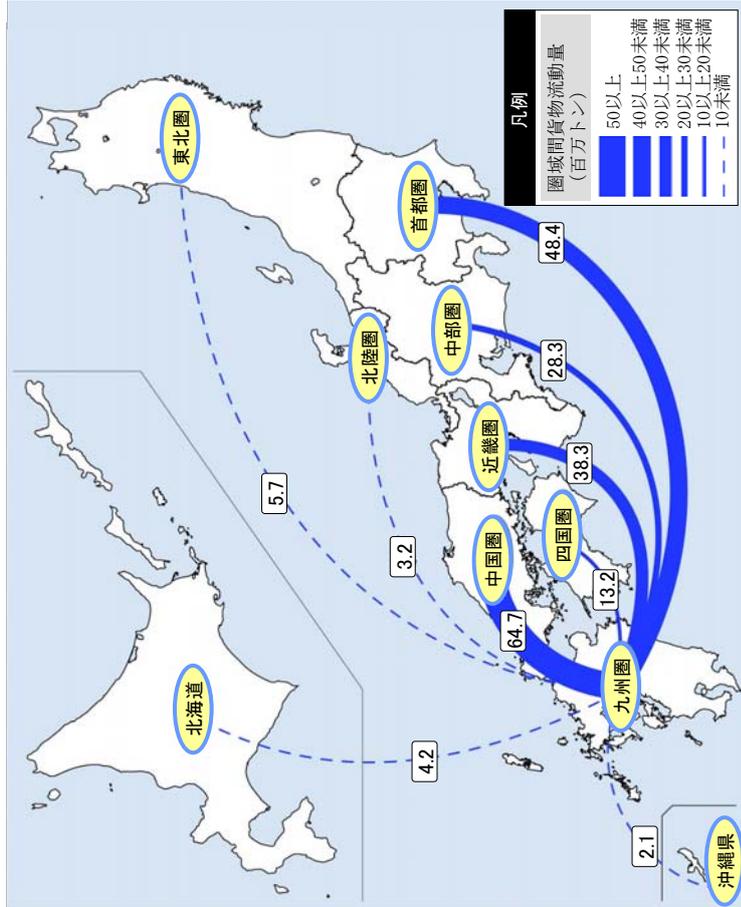


<九州圏と各圏域間の旅客流動(2006年)>

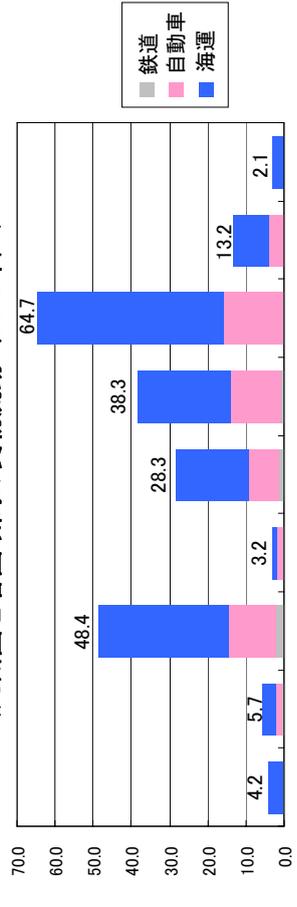


北海道 東北圏 首都圏 北陸圏 中部圏 近畿圏 中国圏 四国圏 九州圏 沖縄県  
出典) 旅客地域流動調査 2006 (国土交通省情報管理部情報安全・調査課交通統計室)

<九州圏と各圏域間の貨物流動(2006年)>



<九州圏と各圏域間の貨物流動(2006年)>

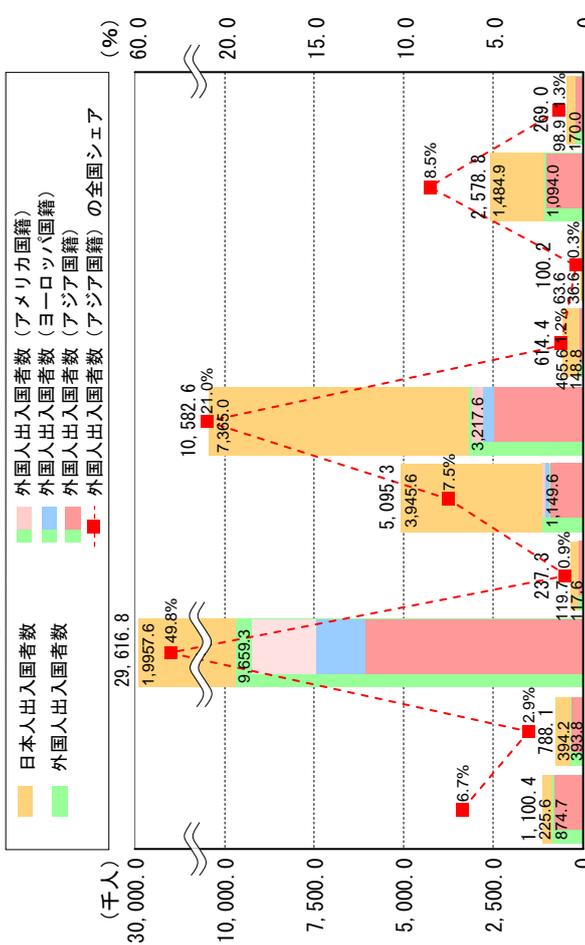


北海道 東北圏 首都圏 北陸圏 中部圏 近畿圏 中国圏 四国圏 九州圏 沖縄県  
出典) 貨物地域流動調査 2006 (国土交通省情報管理部情報安全・調査課交通統計室)

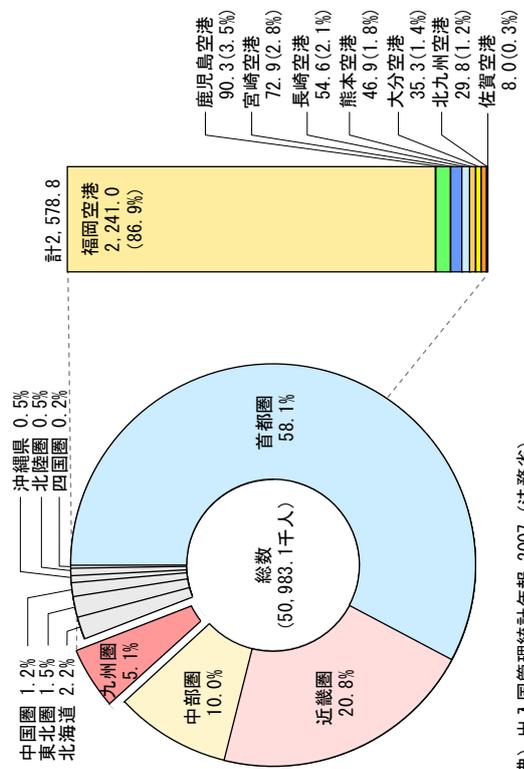
基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
 （九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク（その7））

- ・九州圏における出入国者数（2007年）は、総計約360万人であり、全国比で空港5.1%、港湾61.5%を占める。
- ・外国人出入国者数（アジア国籍）でみると、全国比で空港8.5%、港湾59.7%とアジアの占める割合も高い。

＜空港による出入国者数（圏域別）（2007年）＞

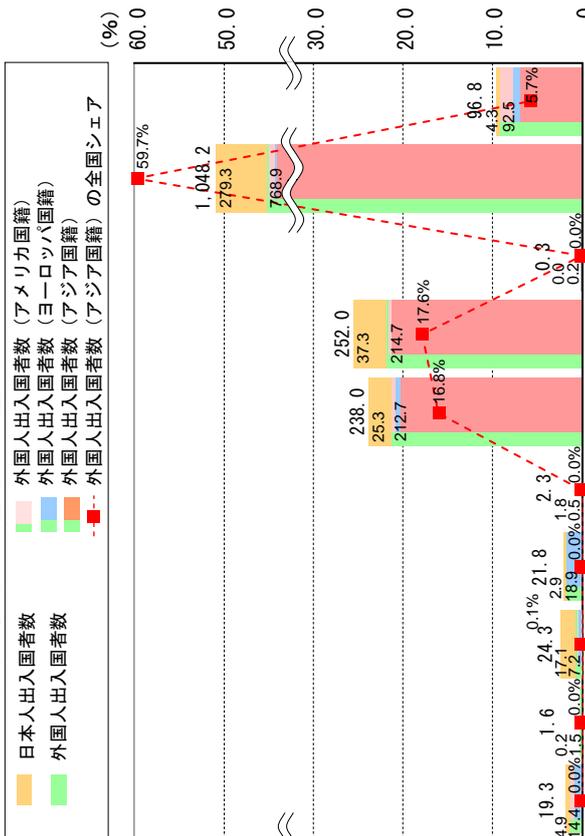


＜空港による出入国者数の割合（圏域別）と九州圏の空港別内訳＞

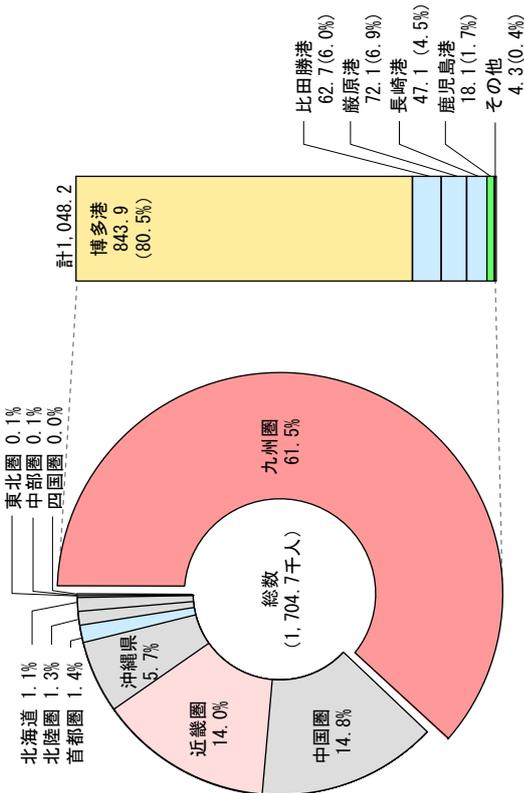


出典) 出入国管理統計年報 2007 (法務省)

＜港湾による出入国者数（圏域別）（2007年）＞



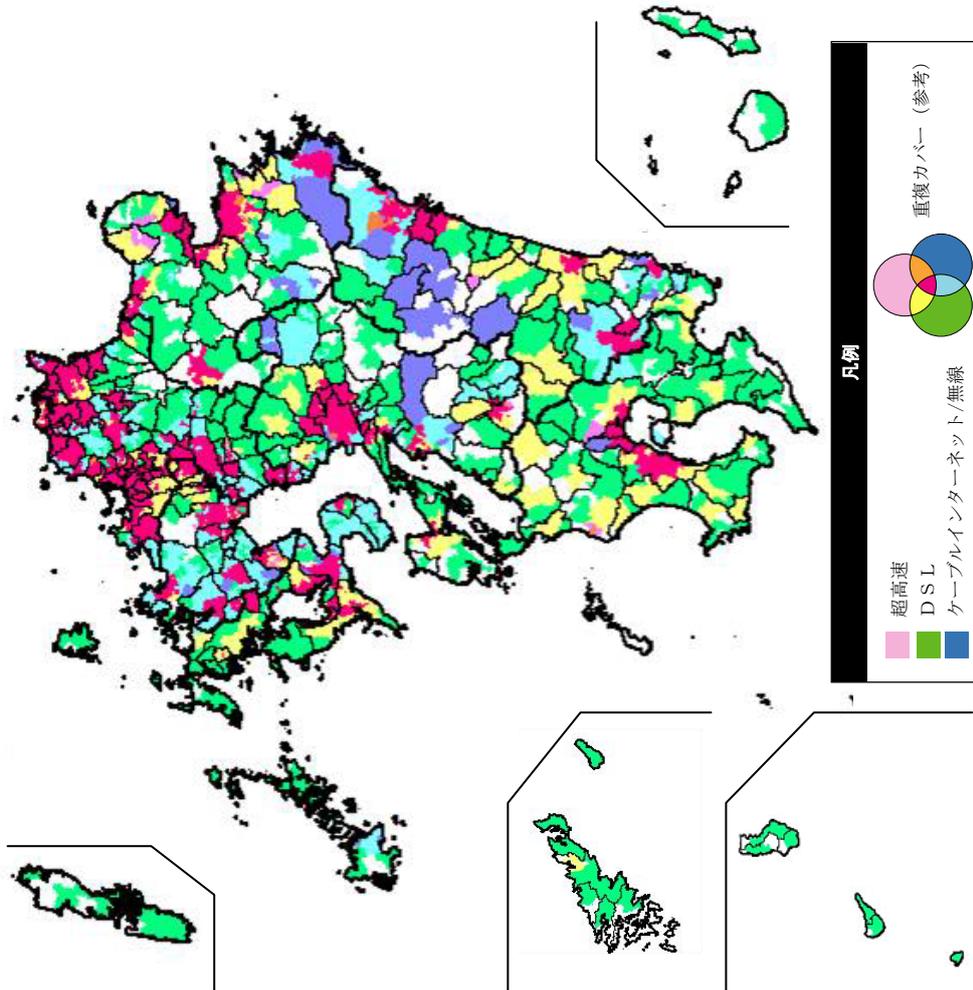
＜港湾による出入国者数の割合（圏域別）と九州圏の港別内訳＞



基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造  
(九州圏を支える交通・情報通信ネットワーク (その8))

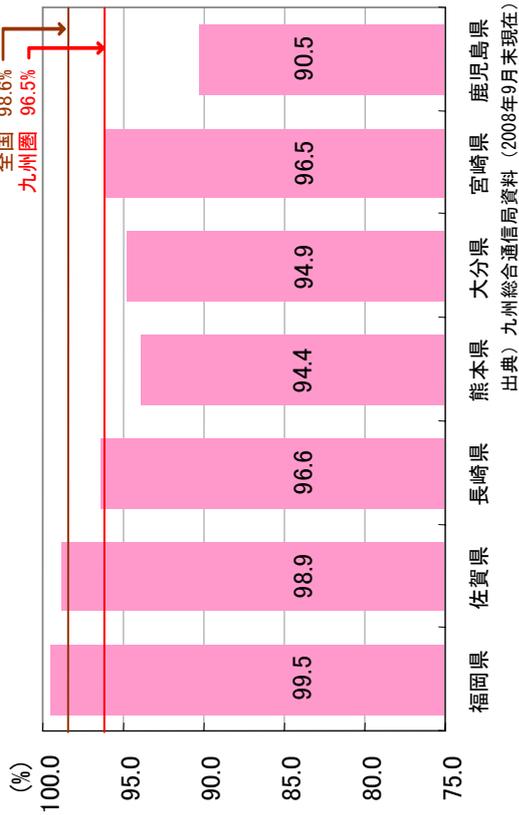
- 九州圏における情報通信ネットワークの整備状況をみると、2008年(9月末時点)のブロードバンド・サービスエリア世帯カバー率は、約97%であり全国平均の約99%より低い状況にあり、特に、鹿児島県では約91%と低い状況にある。
- 携帯電話人口普及率は、約77%であり全国平均約88%より低い状況にあり、特に、鹿児島県では約70%と低い。

<九州圏におけるブロードバンド・サービスエリアの分布状況>

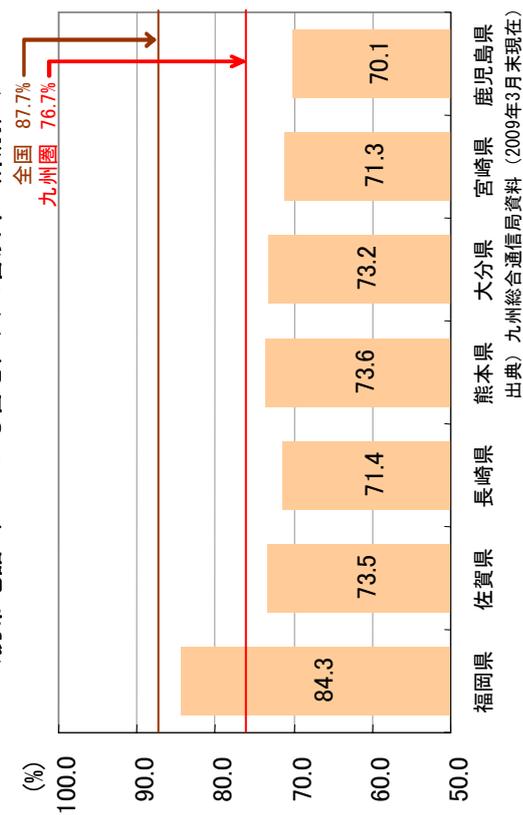


出典) ブロードバンド・マップ (総務省) (2008年9月末現在)  
 ※市町村の行政区界は2008年4月1日現在  
 ※ブロードバンド・サービス (FTTH、ADSL、ケーブルインターネット等) について、事業者情報等から、原則、町丁目単位で利用可能な有無を区分し地図上に色塗りしており、色塗りした地域の全域でサービス提供されているとは限らない

<ブロードバンド・サービスエリア世帯カバー率 (県別) >



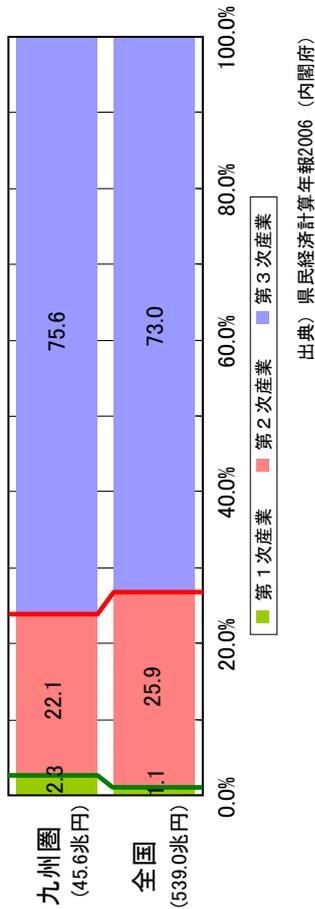
<携帯電話 (PHSも含む) 人口普及率 (県別) >



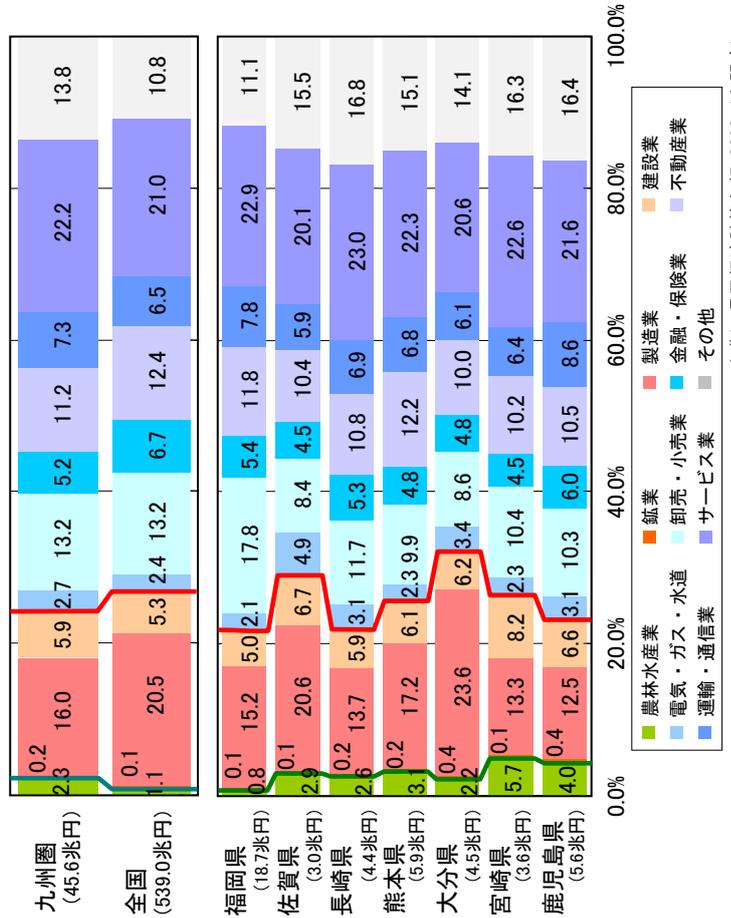
## 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積（その1）

- 九州圏の産業構造は、域内総生産構成比でみると全国と比較して第1次産業、第3次産業のシェアが高い。
- 経済活動別別県内総生産（農林水産業）でみると、鹿児島県、宮崎県、長崎県の水産業などが盛んである。
- 経済活動別別県内総生産（製造業）でみると、福岡県、大分県の化学、一次金属などが盛んである。

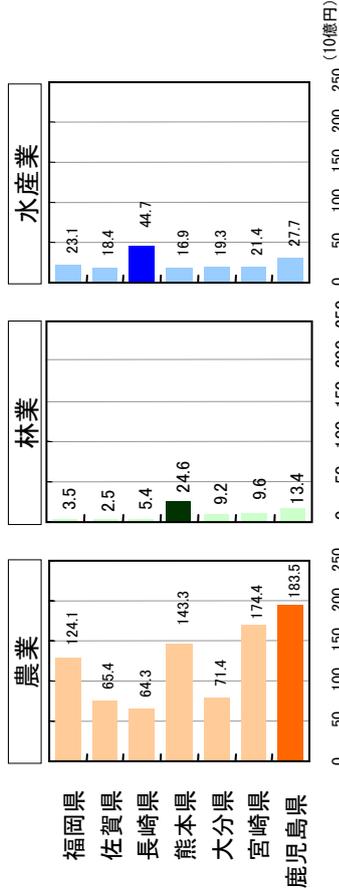
<九州圏における産業別域内総生産（名目）の構成>



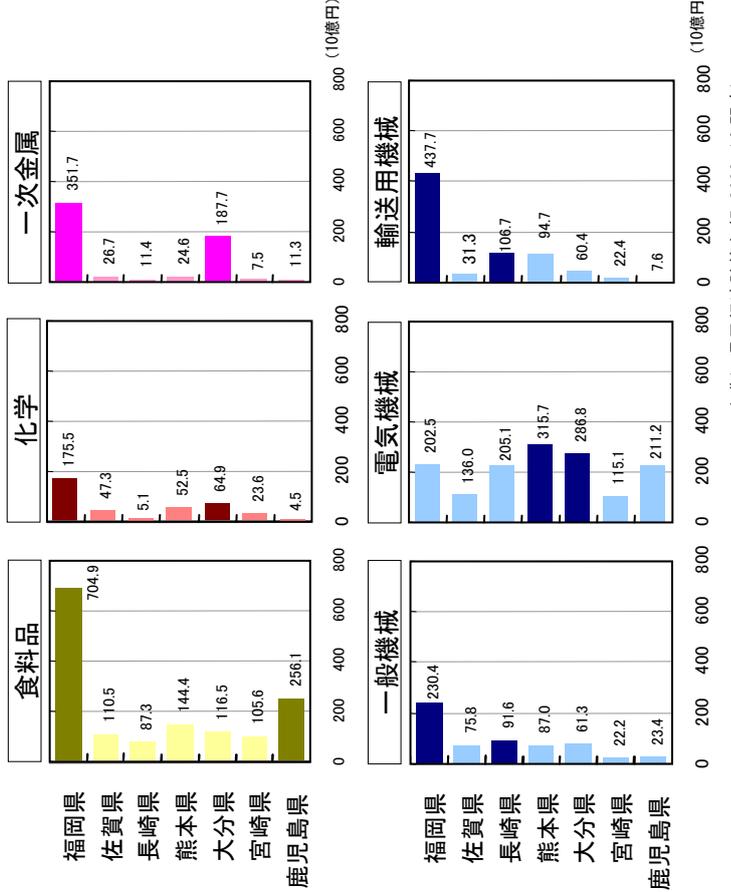
<九州圏における経済活動別域内総生産（名目）の構成>



<経済活動別別県内総生産（名目）（農林水産業）>

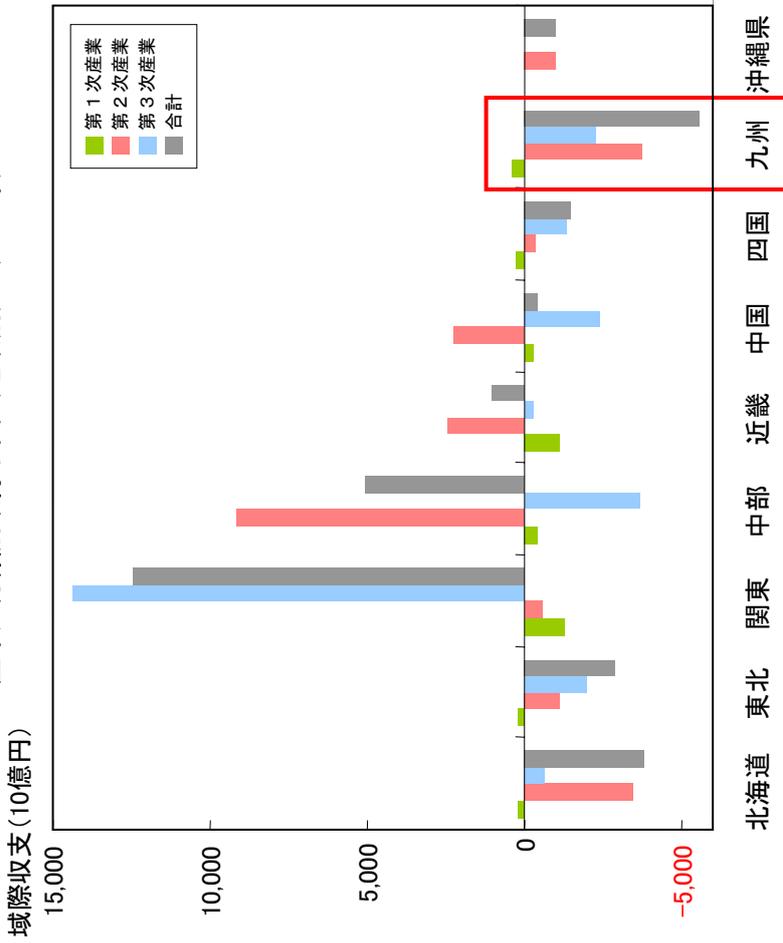


<経済活動別別県内総生産（名目）（製造業）>

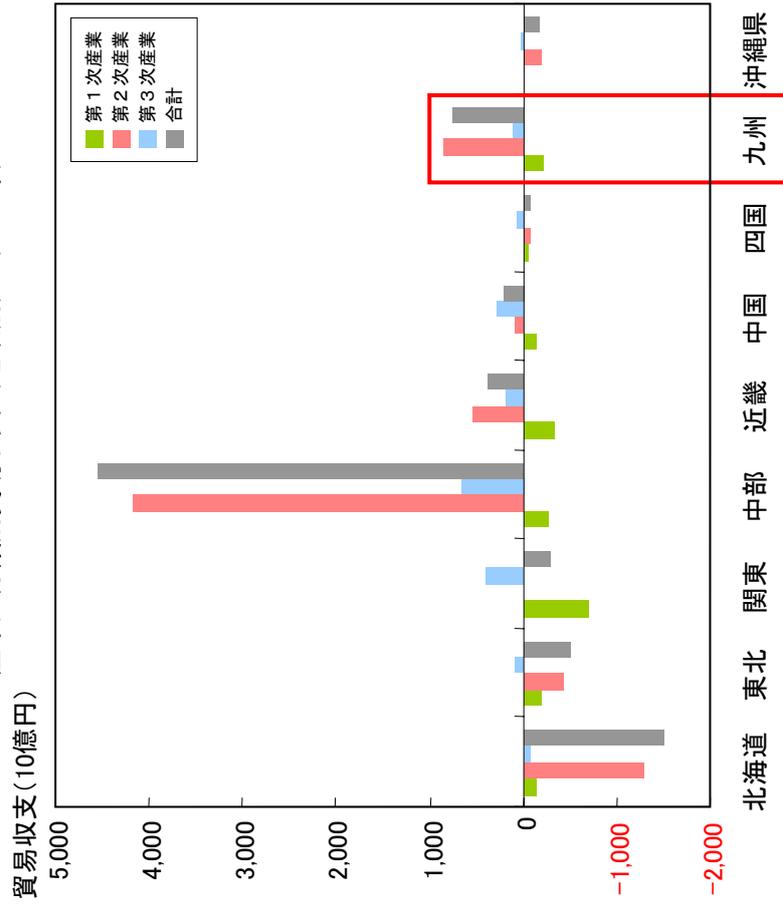


- 九州圏の域際収支をみると、第1次産業では移輸出超過であるもの、第2次、第3次産業では移輸入超過が大きく、全体では5兆円を超える移輸入超過（2000年）となっている。
- 九州圏の貿易収支をみると、第1次産業では輸入超過であるもの、第2次、第3次産業では輸出超過であり、全体では約0.7兆円の輸出超過（2000年）となっている。

<産業大分類別域際収支（地域別）（2000年）>



<産業大分類別貿易収支（地域別）（2000年）>



出典) 地域産業連関表 2000 (経済産業省 各経済産業局、沖縄県) を基に作成  
 ※地域際収支とは、ある地域と地域外(海外含む)との交易(取引)の収支。  
 (移輸出から移輸入を減じた収支差)

※貿易収支とは、ある地域と海外との交易(取引)の収支。  
 (輸出から輸入を減じた収支差)

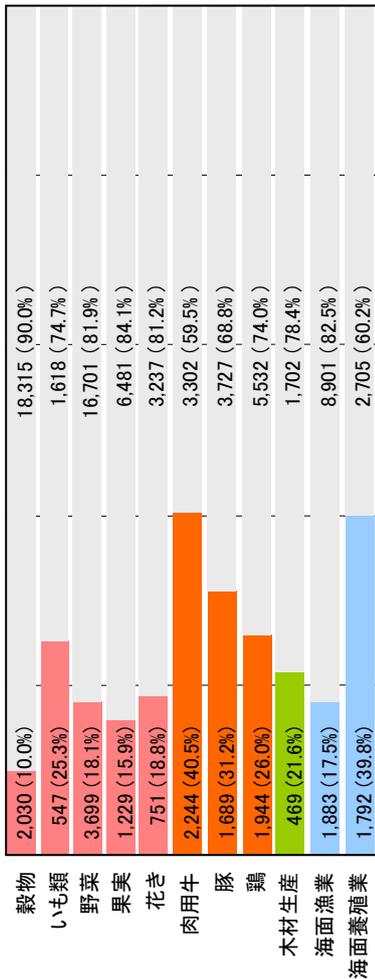
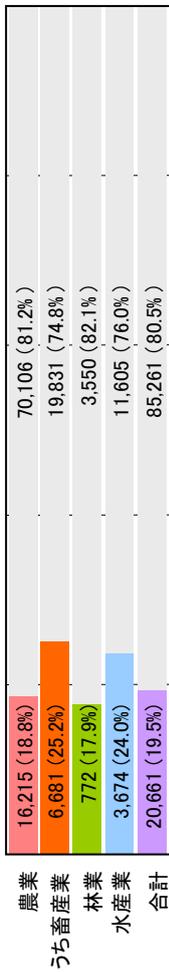
※各地域の構成都府県は以下の通り

- 東北：青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
- 関東：群馬、栃木、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡
- 中部：富山、石川、岐阜、愛知、三重
- 近畿：福井、滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫
- 中国：岡山、広島、鳥取、島根、山口
- 四国：徳島、高知、香川
- 九州：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島

九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積  
(我が国の食料・木材供給基地、一大観光地としての九州圏(その1))

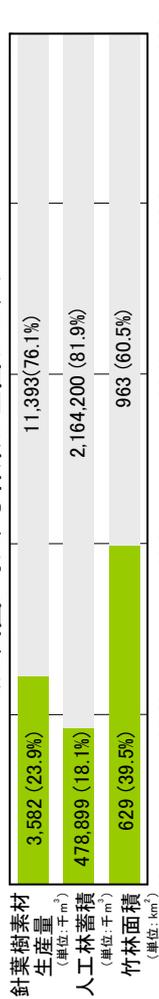
- 九州圏は、農林水産業全体では全国産出額の約2割、部門別では畜産業、水産業で約2.5割を占める。
- 都道府県別の産出額等が日本一の品目も、熊本のとマトや鹿児島のとマトや鹿児島の肉用牛、豚、宮崎のブロイラーやすぎ、長崎のあじ類、さば類等の水産品を始め多くを数える。

<九州圏における農林水産業算出額の全国シェア(単位:億円)>



出典) 生産農所得統計 2006 (農林水産省)、生産林業所得統計 2006 (農林水産省)、漁業・養殖業生産統計年報 2006 (農林水産省)  
※水産業: 海面漁業、海面養殖業  
※内訳項目は主要なもののみを示しているため、数値を足し合せても上表と必ずしも一致しない

<九州圏における林業の全国シェア>



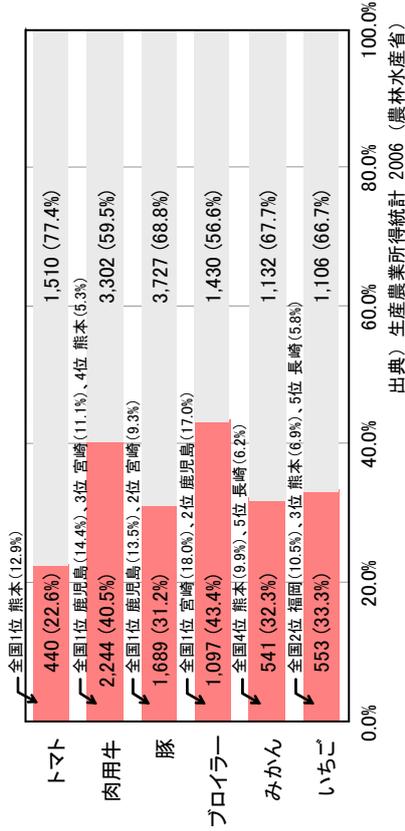
出典) 木材統計 2008 (農林水産省)、森林資源の現況 2007 (林野庁)

<九州圏における漁獲量の全国シェア(単位:千トン)>



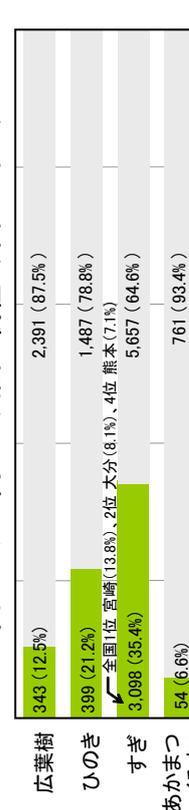
出典) 漁業・養殖業生産統計年報 2006 (農林水産省)

<全国シェアの高い九州圏の農作物(単位:億円)>



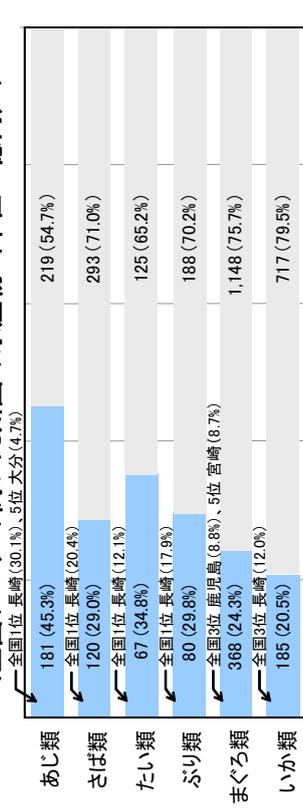
出典) 生産農所得統計 2006 (農林水産省)

<全国シェアの高い九州圏の樹種(単位:千㎡)>



出典) 木材統計 2008 (農林水産省)

<全国シェアの高い九州圏の水産物(単位:億円)>

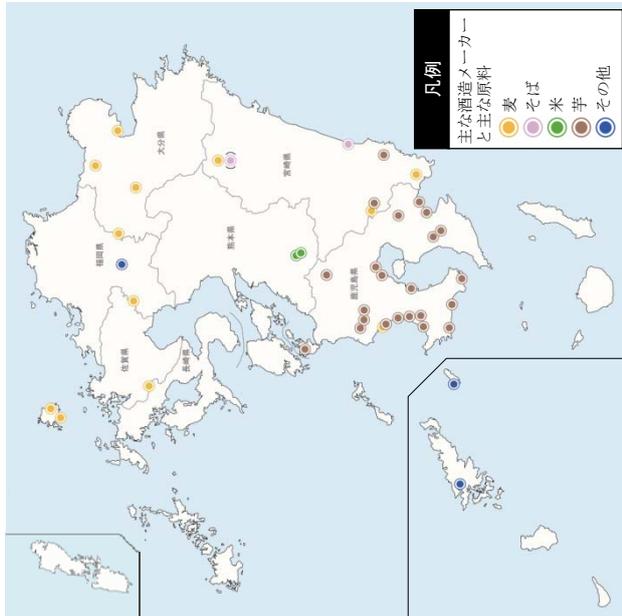


出典) 漁業・養殖業生産統計年報 2006 (農林水産省)

九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積  
(我が国の食料・木材供給基地、一大観光地としての九州圏(その2))

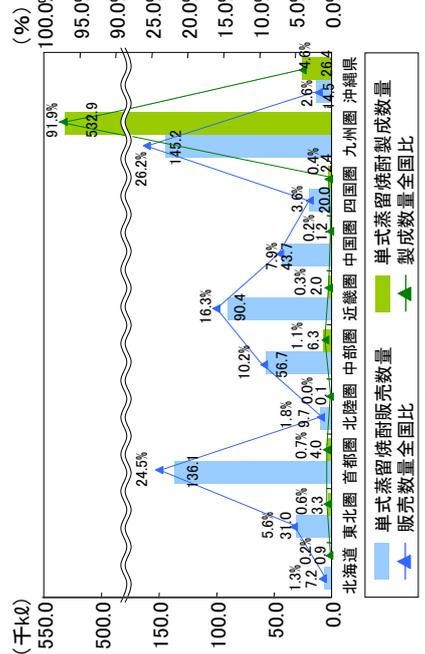
- 九州圏は、鹿児島県、宮崎県南部の芋焼酎、熊本県球磨地域の米焼酎、北部九州の麦焼酎など、各地域の地域特性や食文化と密接に関係した本格焼酎の生産が盛んであり、焼酎王国と呼ばれるまでに発展している。
- また、島しょ部においても、奄美群島の黒糖焼酎、壱岐島の壱岐焼酎など、独自に発展した本格焼酎の生産が盛んである。

<九州圏における主な酒造メーカーの分布>



出典) 2007年 焼酎メーカー売上高ランキング(帝国データバンク福岡支店)

<単式蒸留焼酎販売(消費)・製成数量(圏域別)>



出典) 平成19年国税庁統計年報

【南九州を中心とした焼酎産業①(芋焼酎)】



壱による貯蔵(薩摩川内市)



社氏による攪拌作業(人吉市)



木樽による貯蔵(日田市)



釜で黒糖を蒸かす工程(沖永良部島)

鹿児島県及び宮崎県南部の芋焼酎は、さつま芋の普及に伴い、18世紀半ば頃誕生したと言われており、以来、大衆酒として地域に根付いてきた。近年、原料芋の品種向上、製造技術向上や品質改善、販路拡大への取組等により、高品質で豊富な商品づくりが促進され、全国的な焼酎ブームを巻き起こしている。

焼酎産業は、原材料生産から流通、観光業まで裾野が広く、地域経済に大きく貢献している。消費者の本物・健康志向に応える商品づくりや、清酒圏や海外での販路開拓等、地域を支える産業として、現在も邁進している。

熊本県南部に広がる球磨・人吉盆地は、江戸時代に、豊かな米の収穫、球磨川の洗練な水、夏暑く冬寒いという特性から薩摩の焼酎造りが結びつき、球磨焼酎の製法が誕生した。現在では、個性豊かな香りに仕上がる常温蒸留を採用する蔵元が増加するなど、高付加価値化が進められている。

また、球磨焼酎(1995年)は、壱岐焼酎(1995年)、薩摩焼酎(2005年)とともに、TRIPS協定(知的所有権の貿易関連の側面に関する協定)による産地表示の保護指定を受けおり、国際的にも地域性の高い産地として認められている。

【北部九州・東九州を中心とした焼酎産業(麦焼酎、そば焼酎)】

大分県では、昭和50年頃から米麹を使わない100%麦の焼酎が開発され、一村一品運動の後押しもあり、全国的な麦焼酎一大産地に成長した。近年では、熟成酒の樽貯蔵などによる高付加価値化も進められている。

宮崎県北の高千穂地方では、奥深い山々に囲まれ、昔から焼き畑によりそばの栽培が行われていた素地があり、1971年にそば焼酎が誕生した。ほのかな香りとまろやかな味わいは、宮崎県南部にまで需要が発生し、生産拠点が広がることも、健康志向と相まって、全国的に需要が高まっている。

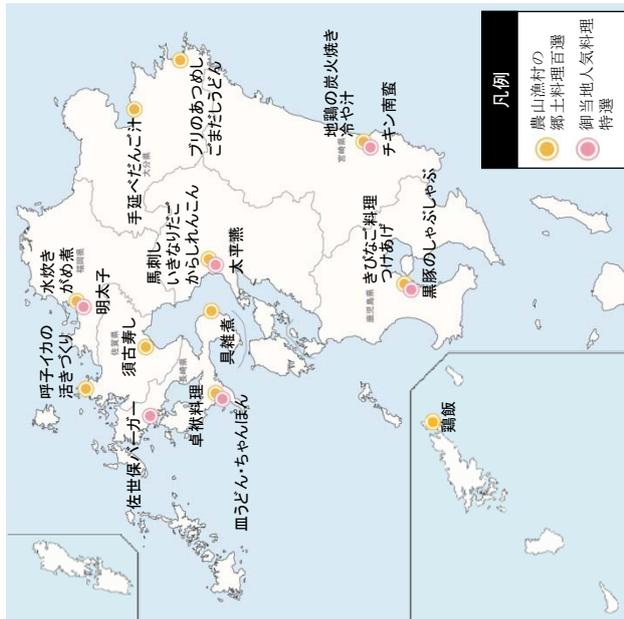
酒税法により砂糖類を原料とした酒類は、税率の高いスピリッツに分類されるが、昭和28年の奄美群島の日本復帰に際し、当時奄美の黒糖で造り飲まれていた美濃と産業保護の見地から、酒税法基本通達により特例措置として、米麹を併用することを条件に奄美地域でのみ製造が認められたのが黒糖焼酎である。

製造方法の工夫、自社による原料黒糖の製造、販路拡大・PR等により、全国的に流通している。国内外の黒糖を原料とした酒類との差別化を図るため、地域団体商標「奄美黒糖焼酎」を取得するなど、ブランド確立に取り組んでいる。

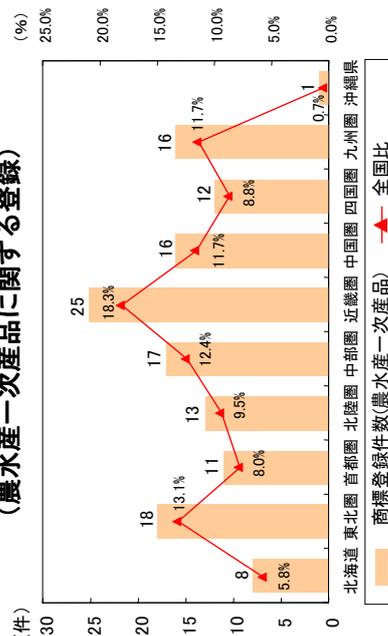
九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積  
(我が国の食料・木材供給基地、一大観光地としての九州圏(その3))

九州圏は、温暖な気候や豊かな自然に恵まれ、伝統的な食材や特産品が多く存在することから、これらの食材と地域の伝統文化等に育まれた郷土料理や新たな食文化の創造による人気料理が九州各地に存在している。

<九州圏における主な郷土料理・人気料理>



出典) 農山漁村の郷土料理百選 H19 (農林水産省)  
> <地域団体商標登録件数(圏域別)>  
(農水産一次産品に関する登録)



出典) 経済産業省特許庁「登録査定案件リスト (H21.5.12現在)」を基に作成

【九州各県における代表的な郷土料理・人気料理】



博多地鶏の若鶏を使い、季節の野菜等を煮込んだ鍋料理で、中国の鶏がら料理にヒントを得たとされる。鶏の旨さが溶け出したスープは、とろけるような舌触りが楽しめる。現在では、博多料理として定着している。



呼子は、玄界灘の海の幸に恵まれた港町である。毎朝水揚げされる呼子イカは、いけすからすくい手早く料理される調理法により、透明で新鮮な風味が楽しめる。呼子イカの活きづくりとして、多くの人々に親しまれている。



独特の麺、鶏がらと豚骨からとったスープに数多くの山海の珍味を調理した麺料理であり、明治時代に、陳平順が福建省の湯肉絲麵をベースに、作り出したと言われる。現在では、長崎名物として全国にも普及している。



広大な阿蘇山麓の放牧地は、軍馬の生産地であったため、庶民の食べ物として定着したという説もある。馬肉が料理屋で提供されたのは昭和三十年代と言われ、現在では、脂肪分が少ない上に身体も温まることから、人気が高まっている。



小麦粉をこねて带状にひきのばしたうどんを四季の野菜とともに味噌仕立てでつくると、大分の代表料理で、米が不足していた時代、庶民の主食替わりとして食べられた。現在でも郷愁を誘う郷土料理として親しまれている。



地頭鶏(じどっこ)は、日本在来種で、肉が極めて美味であったことから島津藩の地頭職への献上品とされた。現在では、みやぎさき地鶏として品種改良され、地鶏の炭火焼きなどが宮崎名物として定着している。

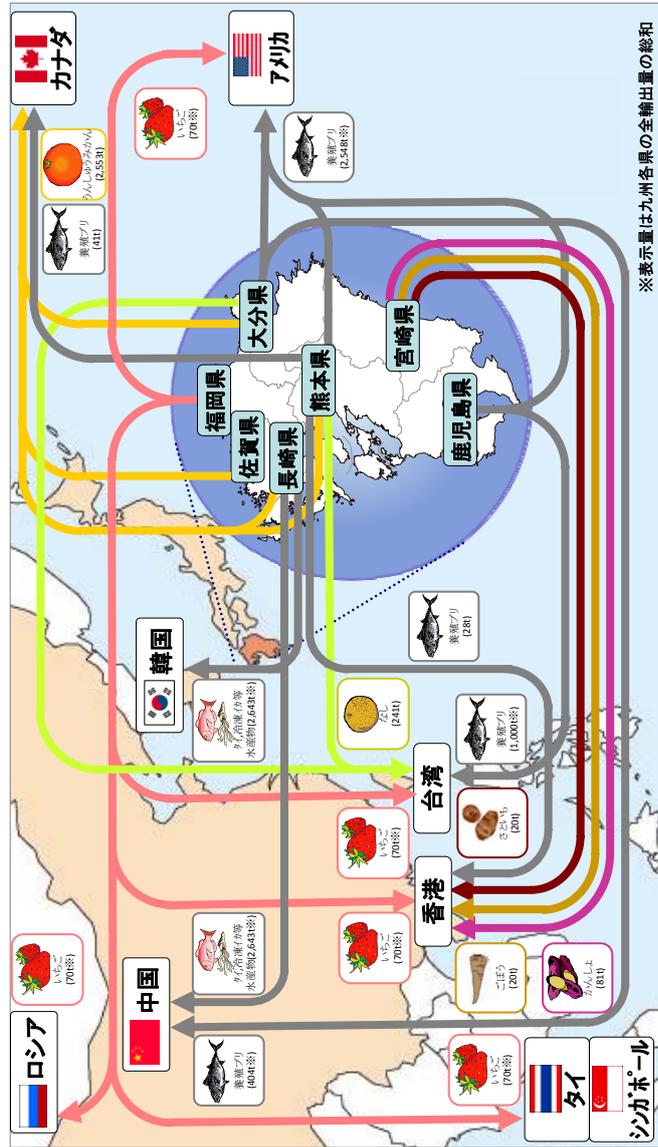


島津藩政の頃より食されている伝統的な魚肉練り製品で、鹿児島名産品となっている。琉球料理のチキアギーが起源と言われる。様々な具材を組み合わせた、種類が豊富で、幅広い年代に親しまれ、贈答品・土産品としてのニーズも高い。

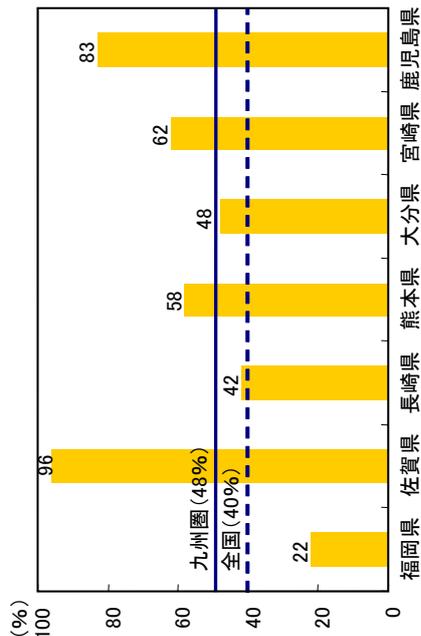
## 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (我が国の食料・木材供給基地、一大観光地としての九州圏(その4))

- ・九州圏から輸出される農林水産物は、なし、いちご等の果実、ぶり・さば等の水産品、木材等が近年着実に増加している。
- ・食料自給率で見ると、カロリーベースで約48%であるが、生産額ベースで約120%であり、特に、肉類、野菜類等の生産額は、圏域内の需要量を大きく上回っている。

＜九州圏における主な農水産物等の輸出品目と輸出先(平成19年度:20t以上)＞

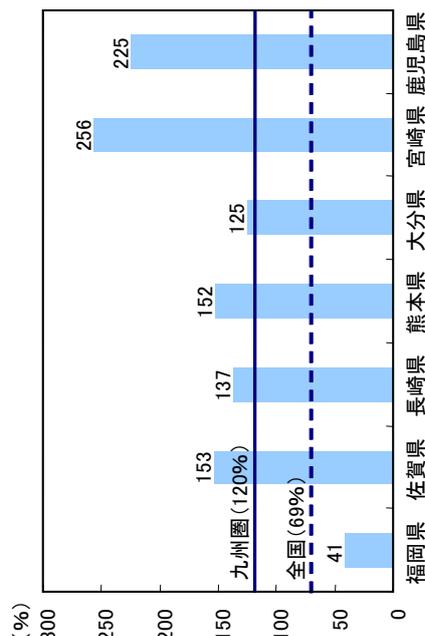


＜食料自給率(県別)(カロリーベース:2005年)＞



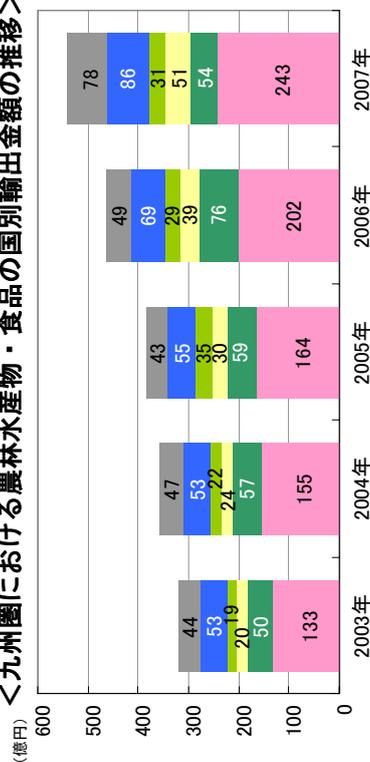
出典) 農林水産省ホームページ「食料自給率の部屋」  
九州農政局ホームページ

＜食料自給率(県別)(生産額ベース:2005年)＞



出典) 農林水産省ホームページ「食料自給率の部屋」  
九州農政局ホームページ

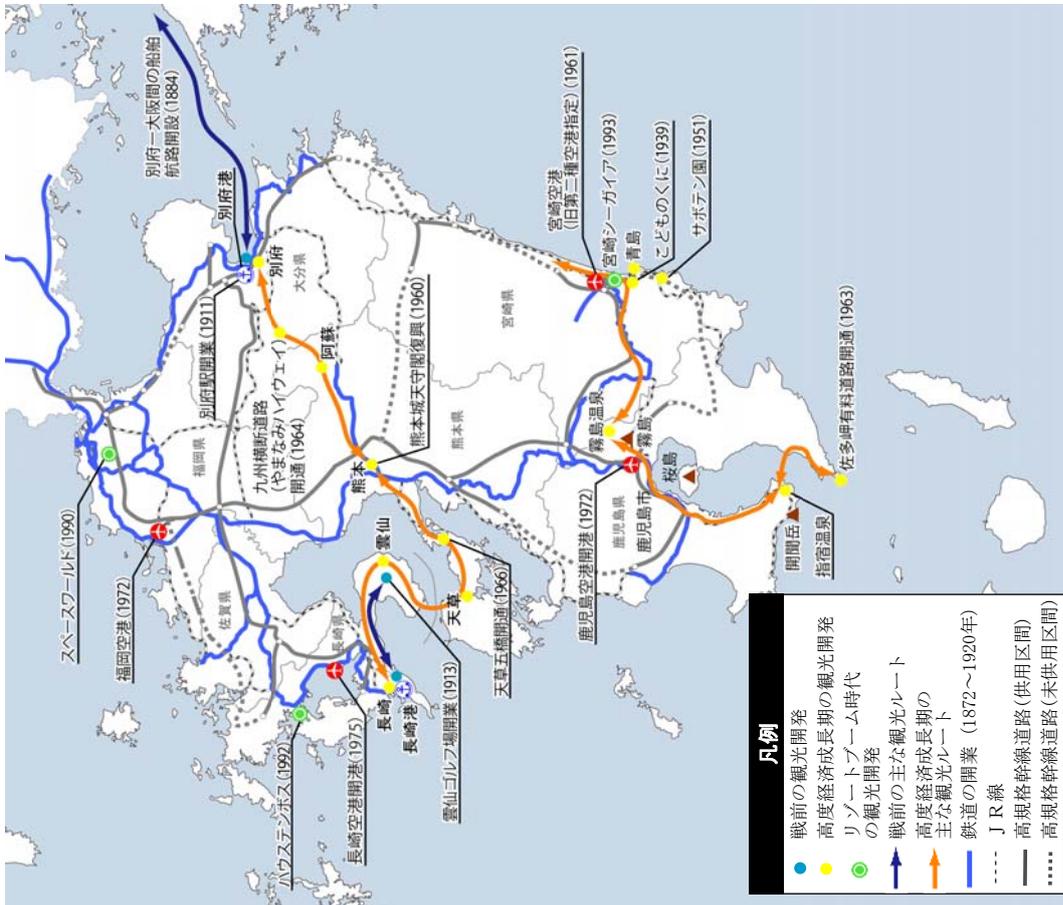
＜九州圏における農林水産物・食品の国別輸出金額の推移＞



# 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (我が国の食料・木材供給基地、一次観光地としての九州圏 (その5))

- 九州圏における観光の歴史は古く、明治時代から戦前にかけて別府の温泉や長崎の国際情緒ある都市観光等が発展した。
- 戦後から高度経済成長期にかけては、日南海岸など新婚旅行先としての観光地や南九州の温泉地が発達した。
- 1970年以降には、空港、新幹線整備やリゾート、テーマパークの整備が進み、高速道路整備に伴う広域観光ルートの開発も進められた。

## <九州圏における観光の変遷>



## <九州圏における観光の歴史>

### 【明治時代から戦前にかけての観光開発】



明治末期から大正時代にかけて鉄道が開通し、九州圏においても別府、長崎、雲仙等が本格的な観光地として知名度を上げた。

別府は明治初期の別府-大阪間の船舶航路の開設や日本初のバスガイドが同乗した定期乗り合い遊覧バスの運行を開始するなど、当時としては画期的な観光事業を展開し、国内随一の温泉観光都市に成長した。

長崎は異国情緒ある国際的な大都会として人気を集め、雲仙は主として長崎に住む外国人の避暑地として人気を集めた。

一方、当時の観光地は鉄道沿線を中心とした温泉、名所旧跡が中心であり、内陸部や離島までは観光地とならなかった。

### 【戦後から高度経済成長期にかけての観光開発】



戦中戦後の混乱を経て、1960年代には人々の生活に余裕ができたこと、戦前以来の観光地に加え、1962年の皇太子ご夫妻のご訪問や沖縄返還以前であったことなどもあり、南国情緒豊かな宮崎で新婚旅行ブームが起った。

また、1964年の九州横断自動車道(やまなみハイウェイ)、開通に伴い、熊本城の復興や水前寺公園の開園、天草五橋の開通等、別府-阿蘇-熊本-天草、宮崎-霧島-鹿兒島-指宿等が九州圏における観光の主要ルートとなった。

このころから、指宿、霧島など南九州の温泉地も発展し、高度経済成長の波に乗り、団体旅行を中心として、九州圏の観光は最盛期を迎えた。

### 【リゾート、テーマパーク時代における観光開発】



1970年代に入ると、九州各地に空港が開港し、山陽新幹線も開通するなど、全国からの観光客の増加に期待が高まったが、2度のオイルショックや1972年の沖縄返還などにより、九州圏の観光は低調であった。

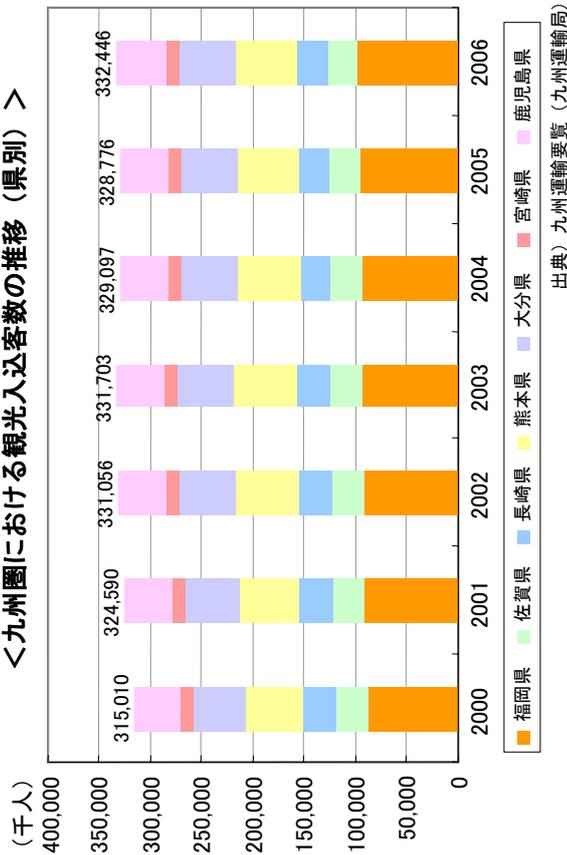
1985年のブラザ合意後は、海外旅行ブームにより九州圏は海外との競争を迫られるようになり、1987年の総合保養地域整備法の成立や好景気を背景として、九州圏においてもリゾートブーム、テーマパークブームが起き、大型集客施設が各地に誕生した。

また、1990年代半ばには、高規格幹線道路が県行所在都市等を結び、九州を十文字に結節する道路網が完成し、広域的な観光ルートの設定等も進められた。

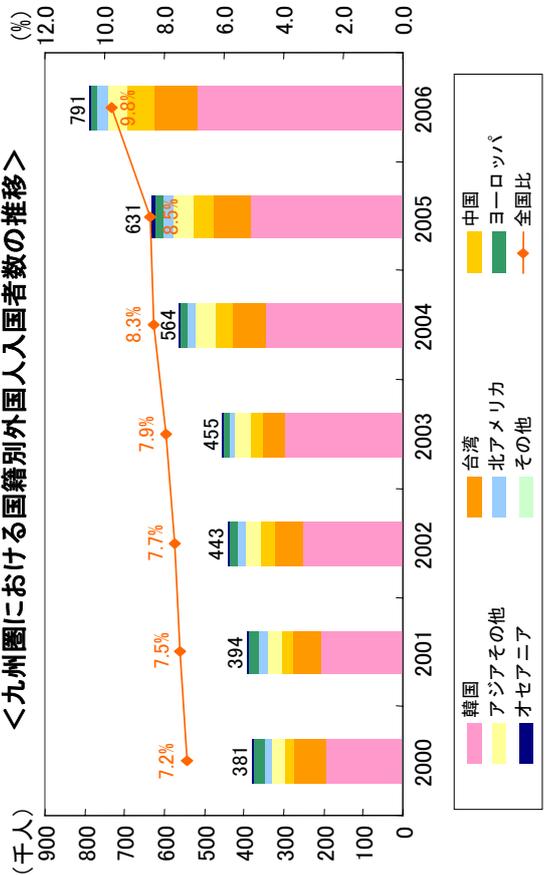
## 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (我が国の食料・木材供給基地、一大観光地としての九州圏(その6))

- ・黒川や湯布院、阿蘇等のように地元の積極的な活動と地域資源の有効活用等により成功している事例が見られる。
- ・東アジアを始めとした外国人観光客も年々増加しており、国際イベントや交流を契機とした観光も増加する傾向にある。

### <九州圏における観光入込客数の推移(県別)>



### <九州圏における国籍別外国人入込者数の推移>



### <知名度を高める魅力ある観光地>

#### 【地元の積極的な活動による成功事例①(黒川)】



1960年代後半の黒川温泉は、近隣からの宴会客中心の温泉地であった。1970年代に「新明館」が、「癒し・くつろぎ・自然の中での開放感」という新しいコンセプトに基づき、露天洞窟風呂と野の山を再現した植栽による演出を行うことで盛況となったため、他の旅館も同様の整備を進めた。

1986年には3つの旅館の露天風呂に入れる「入湯手形」を黒川温泉観光旅館協同組合で発行し評判となり、地域一帯での植樹、看板の撤去等による温泉地全体の雰囲気づくり等も相まって、全国的に有名な温泉地となり、人気を博している。

#### 【地元の積極的な活動による成功事例②(由布院)】



1960年代の由布院は小さな旅館が20数軒あるだけのさびれた温泉地だった。1970年のゴルフ場建設阻止活動と、その中心メンバーによるドイツの保養温泉地視察を通じて、由布院の将来像を話し合う場が設立され、農村景観を残した温泉保養地づくりの方向性が決まった。

その後、「ゆふいん音楽祭」「湯布院映画祭」等の文化的活動と農村景観に欠かせない牛を飼育するための「牛喰い絶叫大会」等のイベント開催や、リゾート開発に対抗する「潤いのあるまちづくり条例」の制定等により、歓楽色のない温泉保養地づくりに成功し、女性に高い人気を誇る温泉地となった。

#### 【地域資源の活用による成功事例(阿蘇)】



1964年の九州横断道路(やまなみハイウェイ)の開通後、阿蘇は九州最大の観光地として毎年多数の観光客を集客し続けている。近年の観光ニーズの変化に合わせて、都市住民と農村住民の交流を目指す農家民泊によるグリーンツーリズムや、阿蘇の雄大な自然や史跡を徒歩や自転車、馬車で回るエコツーリズムの実施、蕎麦や構造改革特別区域を利用したどぶろくづくりなどによる新たな名産品づくりも盛んに行われ、人気を博している。

また、マイカーによる幹線道路の渋滞対策のためのパークアンドレイルライド、サイクルトレイン便、広域循環バスの通年運行のような新しい取組も実施され注目を集めている。

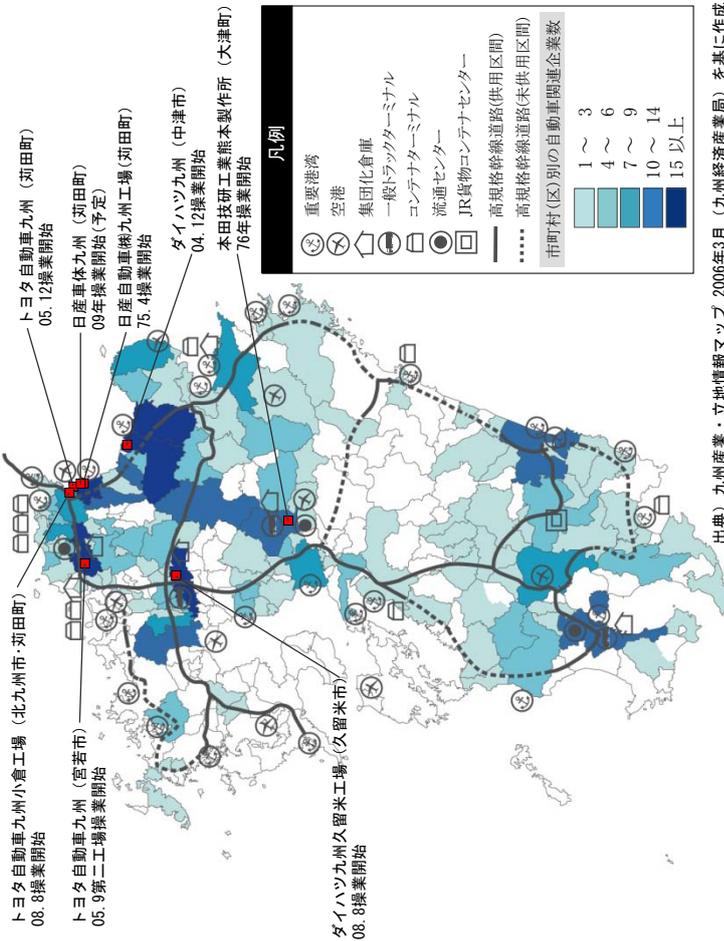
<参考資料>第2章第1節関係

<九州圏の現状と課題 1-31>

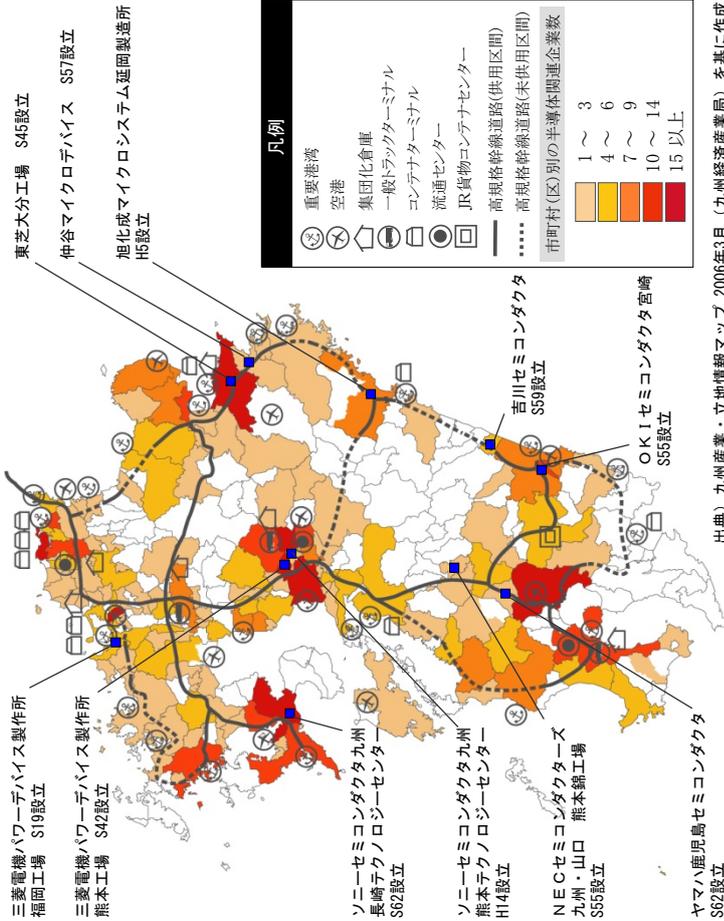
九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積  
(自動車、半導体産業等の国際競争力の高い産業の集積)

九州圏では、1960年代から半導体関連産業、1970年代から自動車関連産業の立地が進み、現在では「シリコンアイランド」「カーアイランド」と呼称されるまでに集積が進んでいる。  
九州圏内では、金型や精密機器等、ものづくり技術を支える中小企業や地元企業が各地にバランスよく点在している。

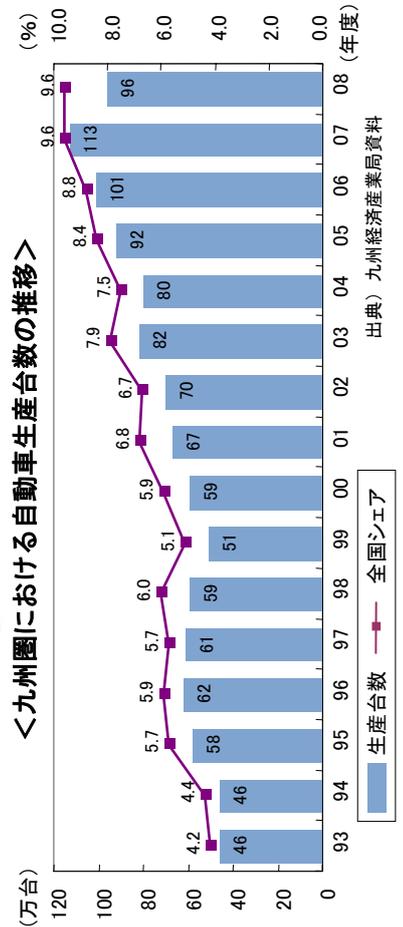
<自動車関連産業の立地状況>



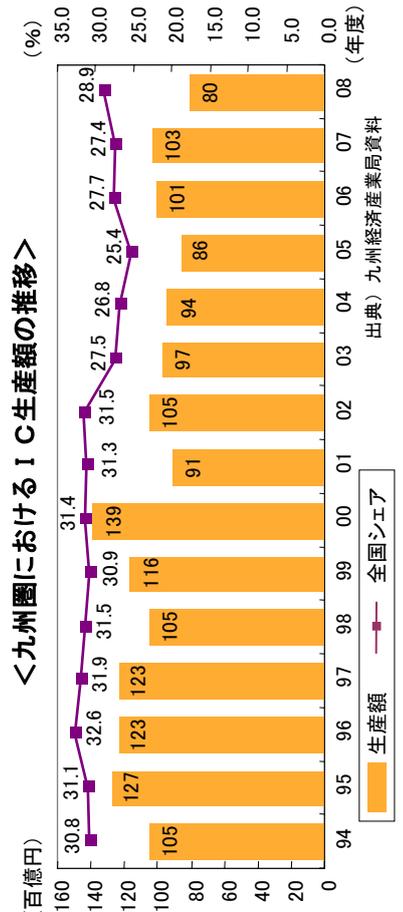
<半導体関連産業の立地状況>



<九州圏における自動車生産台数の推移>



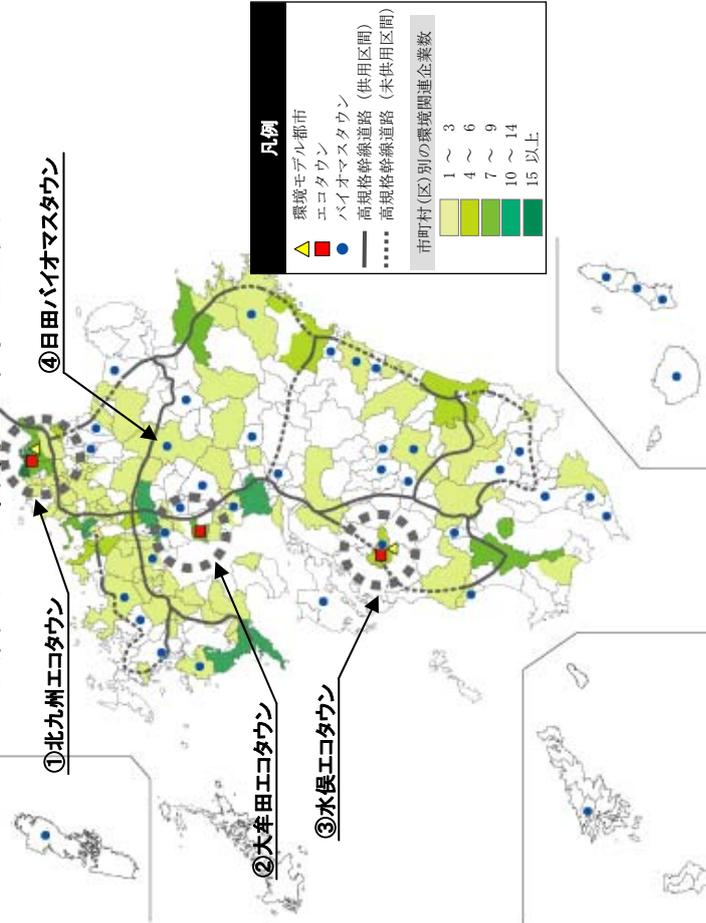
<九州圏におけるIC生産額の推移>



# 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (産業集積の過程で育まれた環境・エネルギー産業等の集積 (その1))

- 九州圏は水俣の公害や洞海湾の水質汚濁等の経験を活かし、環境・エネルギー等の新分野で全国の最先端を行く技術・産業が集積している。
- 九州圏内には、環境・リサイクル産業の振興・育成を目指した産学官の横断的組織や北九州、大牟田、水俣のエコタウン事業が展開されている。

<九州圏における環境関連産業等の立地状況>



【環境モデル都市、エコタウン (北九州市) ①】



【エコタウン (大牟田市) ②】



【環境モデル都市、エコタウン (水俣市) ③】



【バイオマスタウン (日田市) ④】



北九州市では、高度経済成長のもと甚大な公害に直面したが、市民・企業・研究機関・行政が一体となってこれを克服してきた。

平成9年には「北九州エコタウンプラン」を策定し、大学・研究機関等の連携、実証実験エリアや総合環境コンピナーの整備など、基礎研究から事業化までの総合的な対策を推進している。また、平成20年には「環境モデル都市」に選定され、成長するアジアの低炭素社会づくりを牽引する「アジアの環境フロンティア都市」の実現に向けた取組を推進している。

大牟田市では、明治以来発展してきた炭鉱、重化学工業の衰退が著しく、交通便利性、工業系技術の蓄積や広大な低未利用地等を活かした新たな産業の将来像を描くことが緊急の課題となっていた。

このため、平成10年には「大牟田エコタウンプラン」を策定し、RDF (ごみ固化燃料) 発電所の整備による広域連携型リサイクルシステムの形成や使用済紙おむつやパソコン等の廃棄物リサイクルの形成を進めるなど、環境関連産業の振興を図っている。

水俣市では、世界に類を見ない産業公害の経験を経て、平成4年に「環境モデル都市づくり」を宣言し、市民・企業・行政が一体となり環境再生に向けた協働作業を実践してきた。

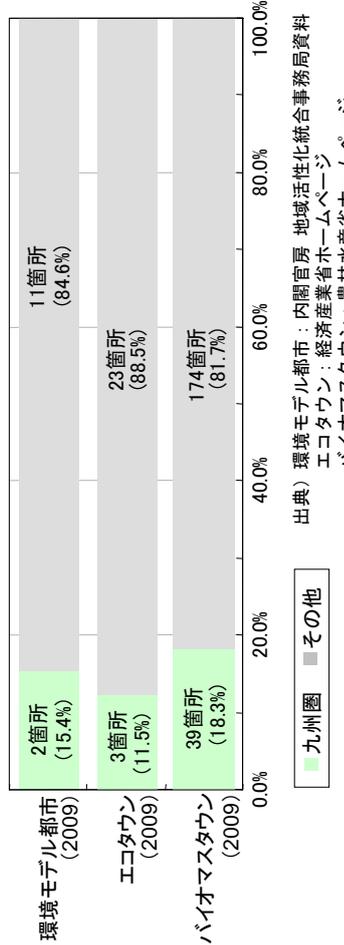
平成13年には「熊本県・水俣市エコタウンプラン」を策定し、22種類に及ぶごみの分別収集や総合リサイクルセンターの整備による環境関連産業の振興など、資源循環型のまちづくりを推進している。また、平成20年には『環境モデル都市』に選定され、「環境先進技術力を活かした取組」を推進している。

日田市では、基幹産業の畜産業から排出される家畜排泄物や、林業、製材業から排出される木質系廃棄物といった、質・量ともに豊富なバイオマス資源を積極的に活用し、循環型社会の形成を目指している。

核施設の「バイオマス資源化センター」では、食品残さ、家畜糞尿および汚泥 (計80t/日) を受け入れ、堆肥化、液肥化するとともに、処理過程で得られるメタンガスを利用し発電も行っている。

出典) 九州産業・立地情報マップ 2006年3月 (九州経済産業局)

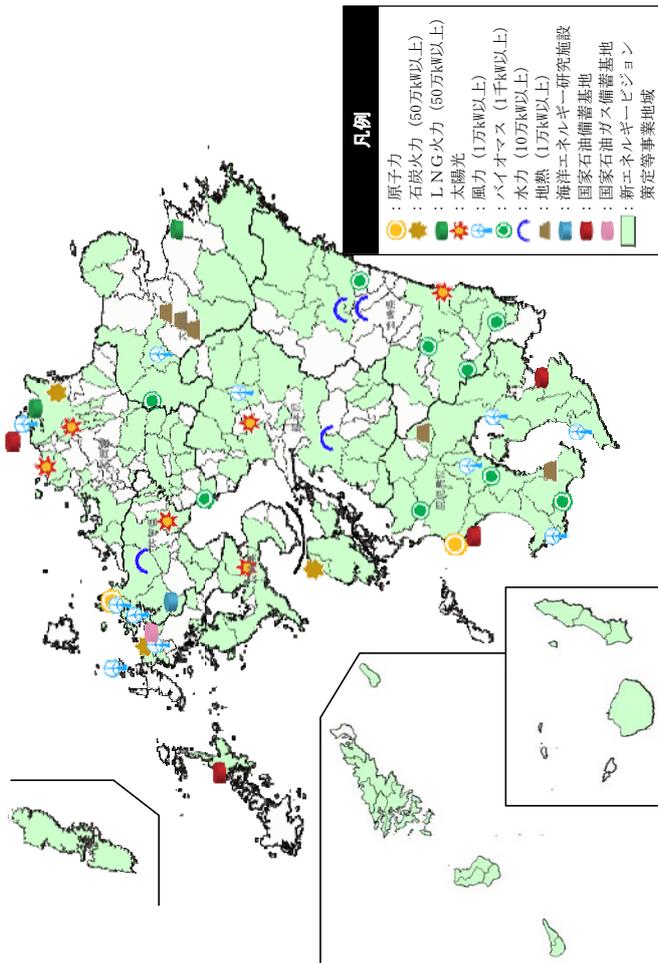
## <九州圏における環境・エネルギー関連事業の全国に占める割合>



## 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (産業集積の過程で育まれた環境・エネルギー産業等の集積 (その2))

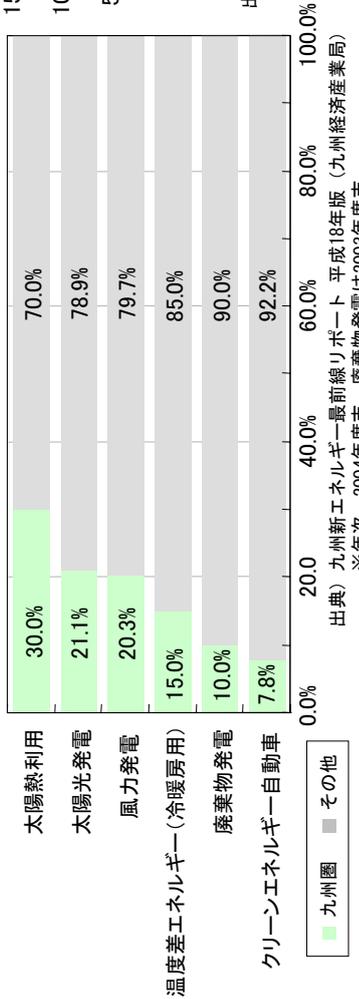
- 九州圏では、太陽熱利用、太陽光発電や風力発電などの新エネルギー分野について、全国の中でも特に多くの導入実績を有している。
- 圏域内の各地に、環境技術や石炭ガス化技術、水素エネルギー研究等、多くの環境・エネルギー技術の集積が図られている。

### <九州圏における主要エネルギー施設の分布状況>



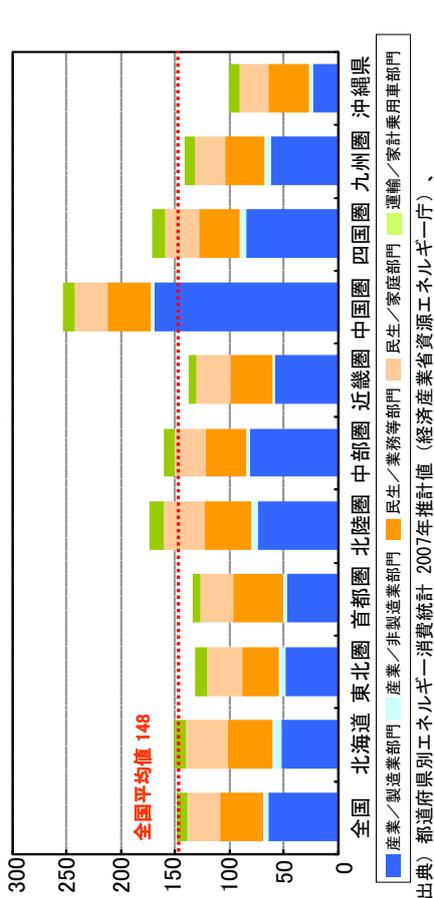
出典) 九州地域新エネルギーマップ 2008年 (新エネルギー・産業技術総合開発機構)  
 国家石油備蓄基地・国家石油ガス備蓄基地位置図 (石油天然ガス・金属鉱物資源機構)  
 九州電力ホームページ、九州経済産業局のエネルギー・環境の取組 (2008-2010) (九州経済産業局)

### <九州圏における新エネルギー導入の割合 (2004年度)>



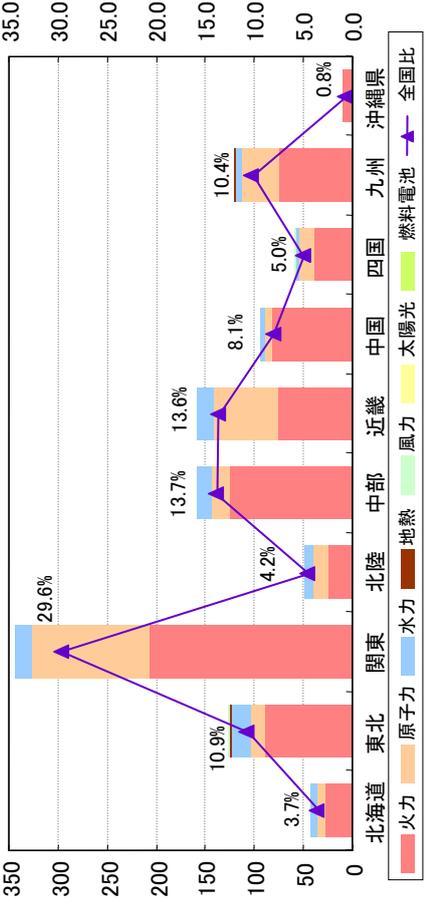
出典) 九州新エネルギー最前線レポート 平成19年度版 (九州経済産業局)  
 ※年次 2004年度末 廃棄物発電は2003年度末

### (TJ/千人) <人口千人当たりエネルギー消費 (圏域別) (2007年)>



出典) 都道府県別エネルギー消費統計 2007年推計値 (経済産業省資源エネルギー庁)、住民基本台帳人口(総務省)  
 ※都道府県別エネルギー消費統計は、総合エネルギー統計を基礎とした都道府県別のエネルギー消費統計。なお、利用に当たっては、①総合エネルギー統計上の誤差や地域分割上の誤差の存在、②運搬貨物部門、エネルギー監視部門の算定除外、③地熱、バイオオマラスなど再生可能エネルギーの算定除外といった点に注意を要する。

### (10億kWh) <発電電力量 (地域別) (2005年)>

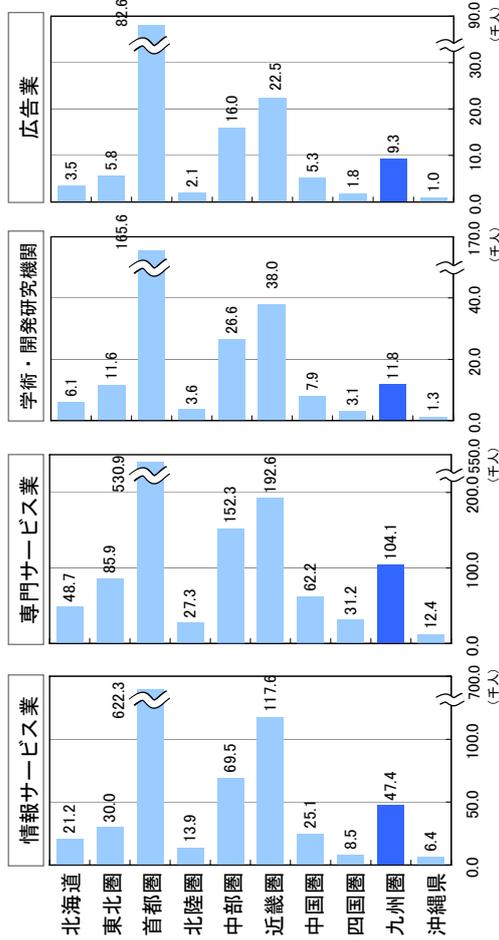


出典) 電気事業便覧 平成19年度版 (社) 日本電気協会  
 ※地域別は、次の区分による。  
 (1) 10電力会社分は、自社設備分である。  
 (2) 電源開発分は、地域別である。  
 (3) その他は、経済産業局の管轄区域別である。ただし、東京発電機分は「関東」、黒部川電力機分は「北陸」、日本原子力発電機分は「関東」、敦賀発電機分は「北陸」に区分した。

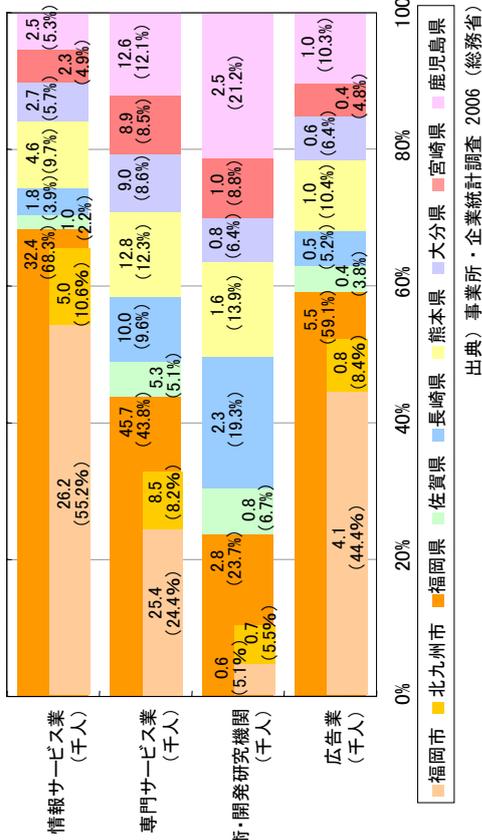
## 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積 (基幹都市圏で発展する知識財産業)

- 九州圏における情報サービス業、専門サービス業、学術・研究開発機関等の知識財産業は、首都圏、近畿圏、中部圏に次ぐ集積が見られ、圏域内では、特に福岡市、北九州市を中心とする九州北部の割合が高い。
- 九州北部には、ソフトウェア、企画・設計、人材関連等のビジネス支援関連分野や文化・情報発信を担う映像・コンテンツ、ファシオン関連などの新たな産業展開が期待される分野が集積しつつあり、それらの発展を支える学術研究や研究開発の集積も進展している。

<知識財産業関連分野の事業所・企業の従業員数(圏域別)>



<九州圏における知識財産業関連分野の事業所・企業の従業員数(県別)>



【情報サービス業(ソフトウェア業)の集積(福岡市)】



福岡市の福岡ソフトウェアパーク地区では、第3セクター、(株)福岡ソフトウェアパークを中核施設として、現在、130社、7,000人を超える従業員数を抱える日本屈指の情報関連産業の一大集積拠点として発展している。また、地区内では、(財)九州先端科学研究所が整備され、隣接地にも福岡システムLSI総合開発センターや科学技術振興財団の研究成果活用プラザが立地するなど、研究開発拠点としての機能も充実している。

【専門サービス(デジタルコンテンツ関連産業等)の集積(福岡市)】



デジタルコンテンツ関連の人材や教育機関も集積しており、GFF(ゲーム制作関連会社による組織)、九州大学、福岡市の産学官が連携して振興組織を立ち上げ、ゲーム産業の拠点形成をめざしている。また、天神を中心とした都市部で開催されているミュージックシティ天神は、九州最大級の音楽イベントとして毎年、盛大に開催されている。

福岡市には、大学・短大・専門学校などの各種のデザイン系の教育機関が集中しており、グラフィック・インテリア・建築・広告・ファッション等のデザイン関連産業が集積されている。

【学術・開発研究機関の集積(北九州市)】



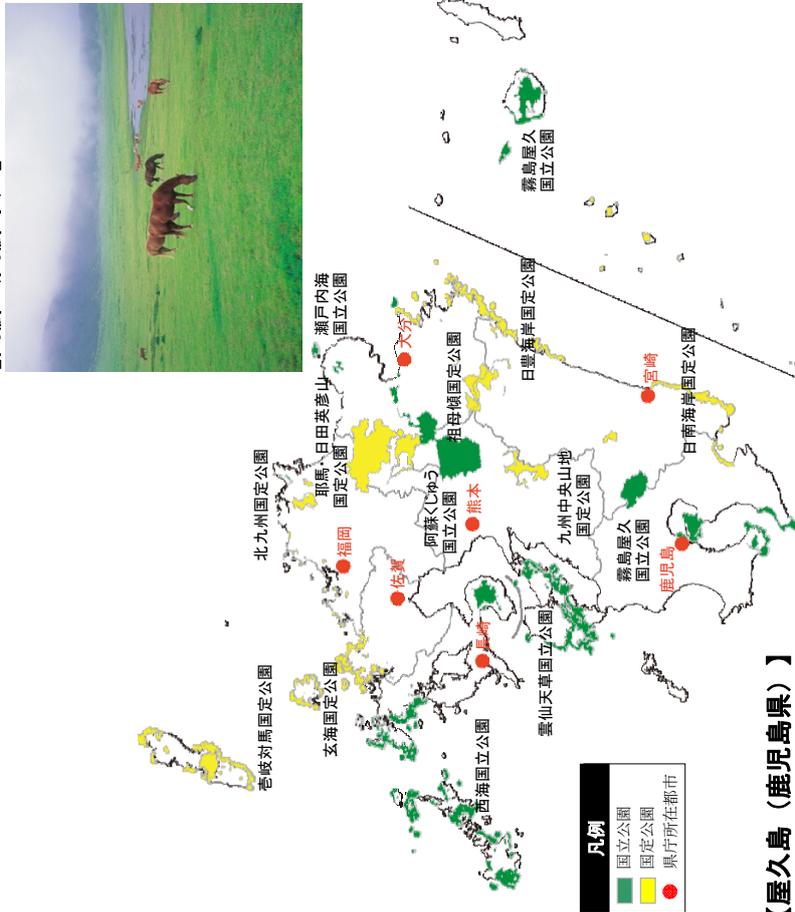
北九州市の若松区西部及び八幡西区北西部では、近代産業の成長過程で蓄積した技術を活かし、アジアにおける学術研究機能の拠点として、21世紀における創造的な産業都市として再生することを旨とし、北九州学術研究都市構想を推進している。

北九州学術研究都市には、北九州市立大学、九州工業大学を始め6つの理工系大学等のキャンパスや福岡県リサイクル総合研究センターが立地し、学術研究機能と産業界との連携を促進することによって産業の高度化や新産業の創出が進められている。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境

- ・九州圏は、阿蘇くじゅう、雲仙天草、瀬戸内海、霧島屋久、瀬戸内海の5つの国立公園が指定されている。
- ・カルデラ式火山で世界一の阿蘇山や雲仙普賢岳、霧島山、桜島山、桜島等の活動的で重点的に観測が必要な活火山が多く存在する。
- ・日本三大急流の球磨川、久住高原などの日本有数の大規模高原など、複雑急峻な地形や雄大な自然景観が広がっている。

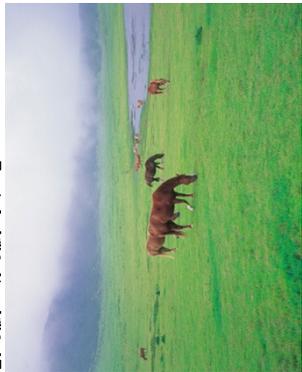
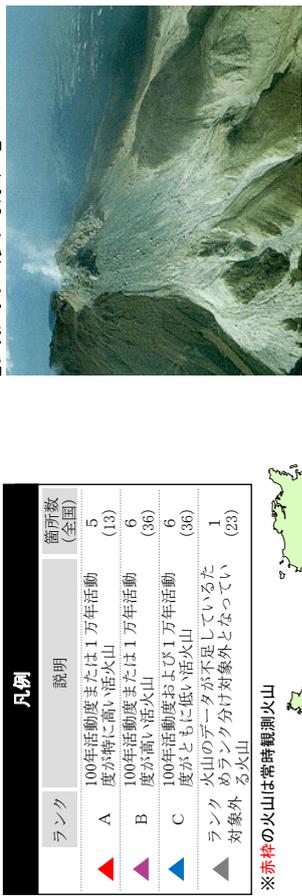
<九州圏における国立公園・国定公園の分布状況>  
【阿蘇（阿蘇市）】



出典) (社) 鹿児島県観光連盟

【屋久島（鹿児島県）】

<九州圏における活火山の分布状況>  
【雲仙岳（長崎県）】



出典) 気象庁資料

出典) 気象庁資料

【桜島（鹿児島県）】



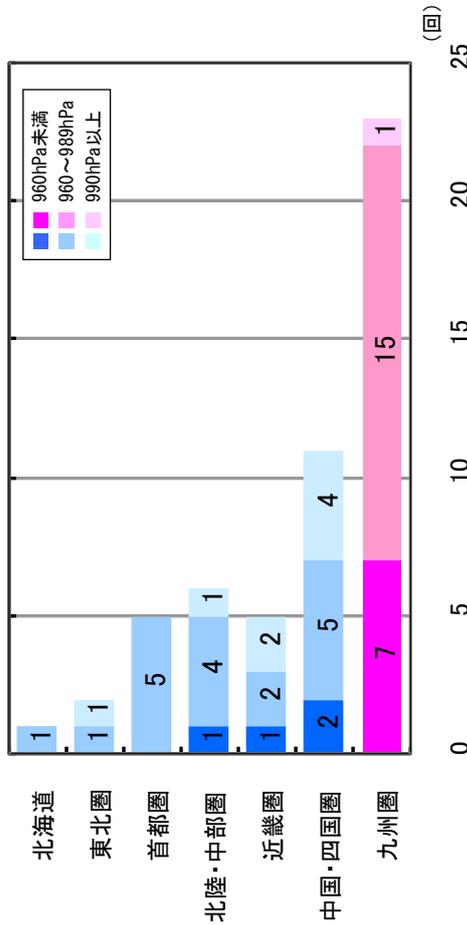
出典) 気象庁資料

出典) 日本の活火山分布 (気象庁)

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（頻発する水害、土砂災害、都市の渇水、集落の孤立等（その1））

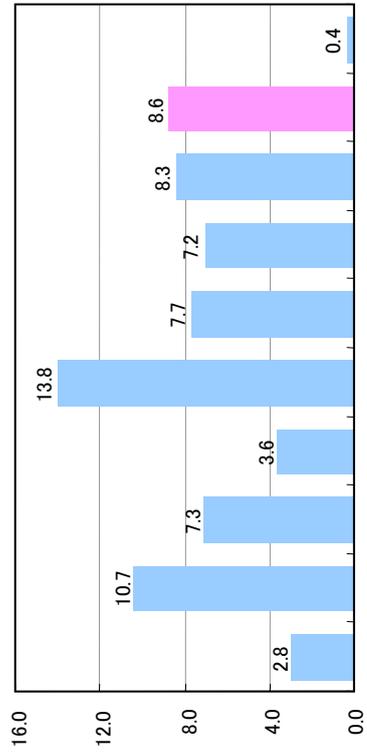
- 九州圏は、台風の接近頻度が高く、我が国で有数の台風常襲地帯であるとともに、梅雨期には集中豪雨が多発し、洪水、土砂災害、高潮災害等による被害が頻発している。
- 近年では、2006年7月に、九州南部地域に梅雨前線が長時間にわたり停滞したことから、川内川流域（鹿児島県）において、2,000戸を超える甚大な浸水被害が発生した。

<台風上陸数（圏域別）（1991～2008年の合計）>

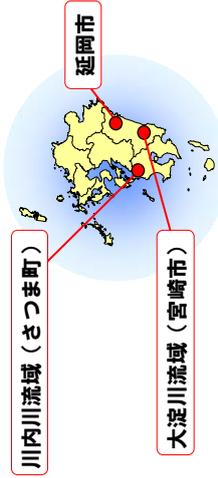


出典）気象庁資料  
 ※上陸：気象庁では台風の本州、北海道、九州（沖縄は含まない）、四国の海岸線に達した場合を「日本に上陸した台風」としている。小さい島や半島を縦切って短時間で再び海に出る場合は「通過」としている。

<過去10カ年の水害被害額（圏域別）>



北海道 東北圏 首都圏 中部圏 近畿圏 中国圏 四国圏 九州圏 沖縄県  
 出典）水害統計（国土交通省）  
 ※1998～2007年の10カ年を集計



【豪雨による浸水被害（大淀川流域）】



浸水被害状況（宮崎市）

2005年9月の台風14号は宮崎県に局所的な降雨をもたらし、総雨量1,300mm（えびの、神門）を超える記録的な豪雨が発生した。この結果、大淀川流域の3地点で計画高水位を突破し、大淀川水系において7,674戸の家屋浸水が発生した。

【豪雨による浸水被害（川内川流域）】



浸水被害状況（さつま町）

2006年7月、発達した梅雨前線の影響により、川内川流域では、総雨量1,165mm（西ノ野）に及ぶ記録的な豪雨が発生した。この豪雨により、川内川流域の11地点で観測史上最高水位を超えるとともに、川内川の上流から下流に至る流域の3市3町、約5万人に避難勧告等が発令され、浸水面積約2,777ha、浸水家屋2,347戸に及ぶ甚大な被害が発生した。

【竜巻による被害（宮崎県延岡市）】



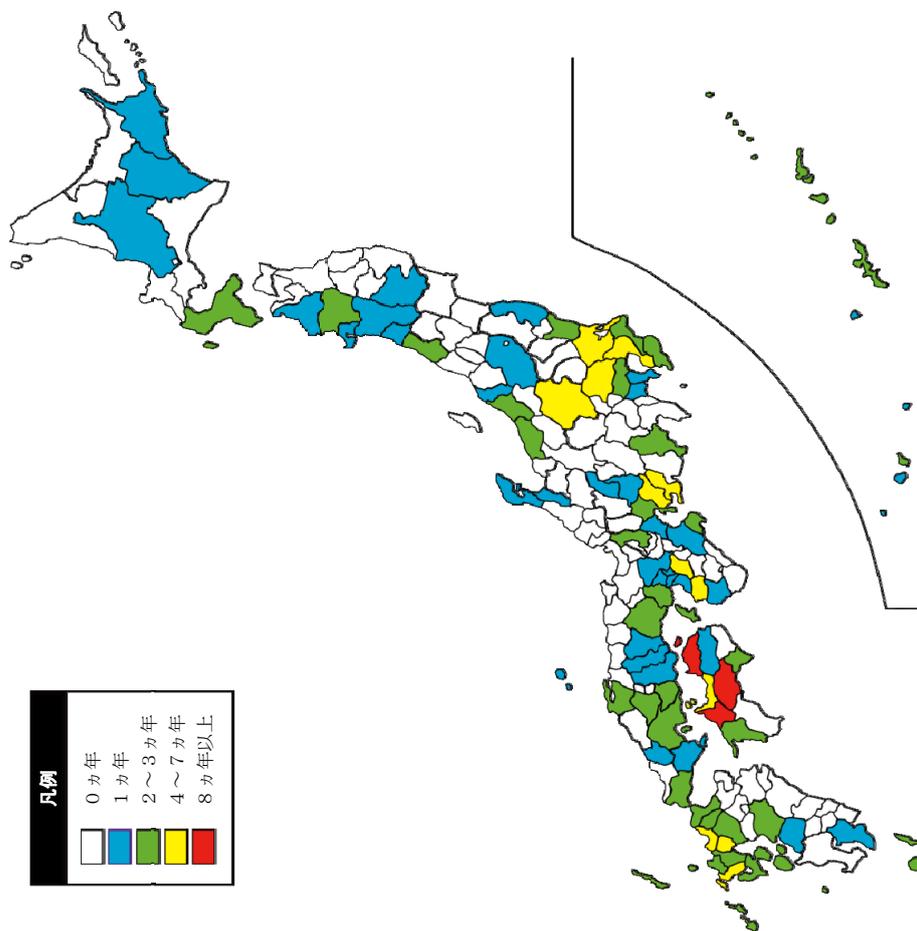
竜巻による列車転覆状況（JR日豊本線）

2006年9月、九州北部に上陸した台風13号の影響により、九州各地で強風が吹き荒れ、宮崎県延岡市では、市内中心部において竜巻が発生した。竜巻は、市内を長さ約7.5km、幅約150～250mの範囲で、国道10号やJR日豊本線に沿うようにして、わずか10～15分足らずで北上した。これにより、特急列車を横転させたほか、死者3名、負傷者140名、1,000戸を超える家屋倒壊等の被害が発生した。

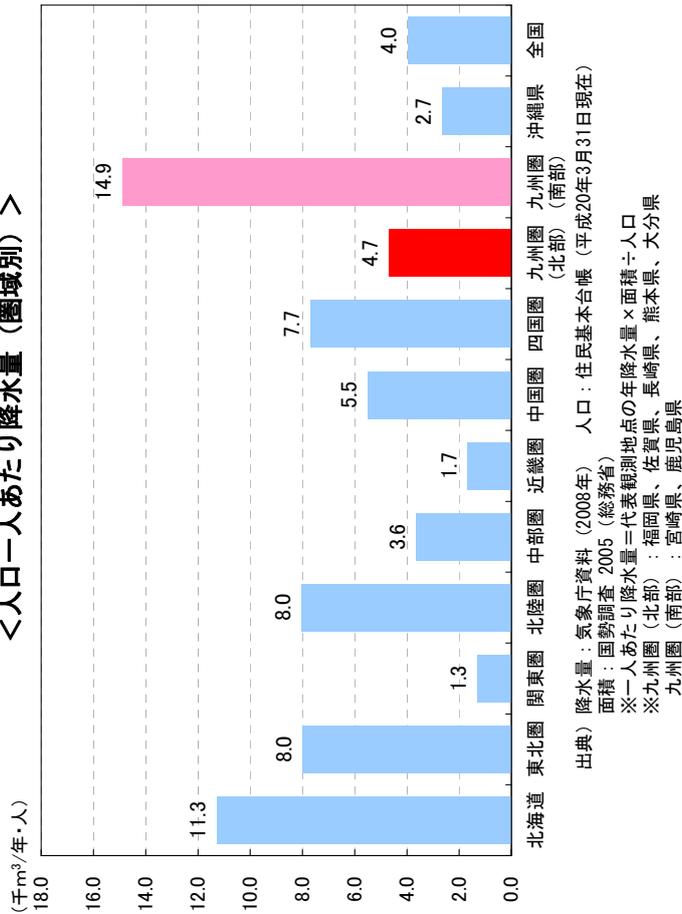
離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（頻発する水害、土砂災害、都市の渇水、集落の孤立等（その2））

- ・九州北部では、人口あたりの降水量が少なく上に貯留施設等が充分でないことから渇水が頻発する傾向にある。
- ・近年においても、2007年の秋以降、長崎県大村市において少雨により169日の取水制限が実施されるなど、深刻な渇水被害が発生している。

<過去20年間の渇水発生状況>



<人口一人あたり降水量（圏域別）>



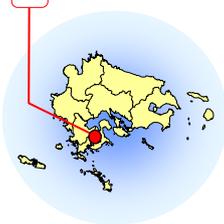
出典) 降水量：気象庁資料 (2008年) 人口：住民基本台帳 (平成20年3月31日現在)  
面積：国勢調査 2005 (総務省)  
※一人あたり降水量＝代表観測地点の年降水量×面積÷人口  
※九州圏 (北部)：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県  
九州圏 (南部)：宮崎県、鹿児島県

【北部九州における渇水被害（長崎県大村市）】



出典) 日本の水資源 平成20年版 (国土交通省 土地・水資源局水資源部)  
※1988年から2007年の間で、上水道について渇断水のあった年数を図示

長崎県大村市では、2007年秋以降の少雨により渇水状況が一層深刻となったため、2007年11月1日から2008年4月17日までの169日間、「大村市水道局渇水対策本部」を設置し、取水制限等が実施された。



長崎県大村市

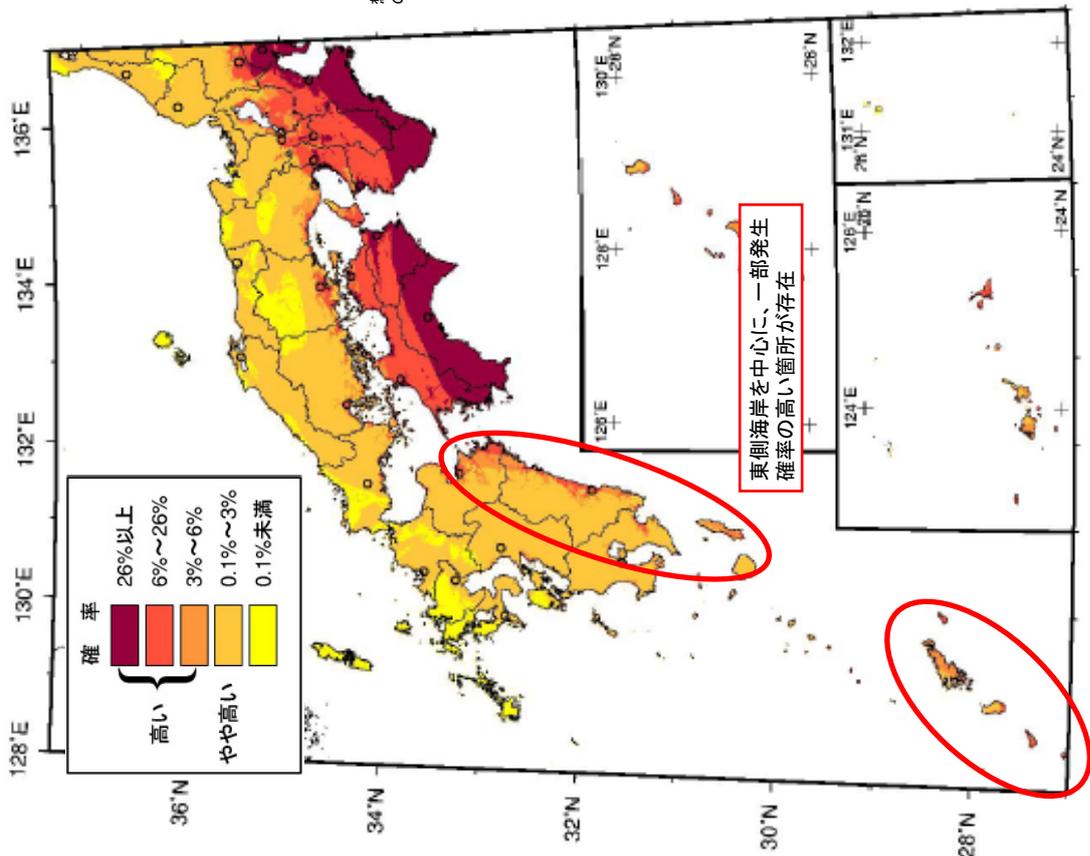
出典) 長崎県資料

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（頻発する水害、土砂災害、都市の孤立等（その3））

九州圏の周辺では、今後30年以内に東南海・南海地震等の大規模地震に見舞われる可能性があると予測されており、九州圏の東側海岸を中心として、大規模地震に伴う津波の発生が懸念されている。

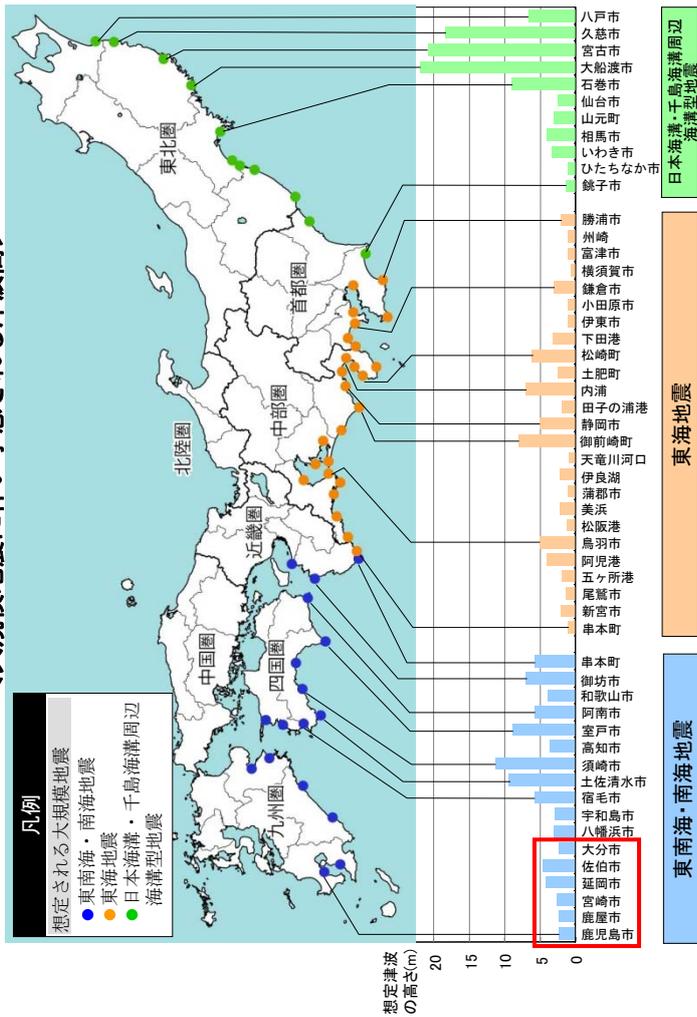
近年においても、2005年3月、福岡県西方沖の地震が発生し、福岡市玄界島などで大規模な崖崩れ等が発生した。

<今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率>



出典) 全国を概観した地震動予測地図 2008年版 (文部科学省 地震調査研究推進本部)

<大規模地震に伴い予想される津波高>



【福岡県西方沖の地震における被害 (福岡県)】



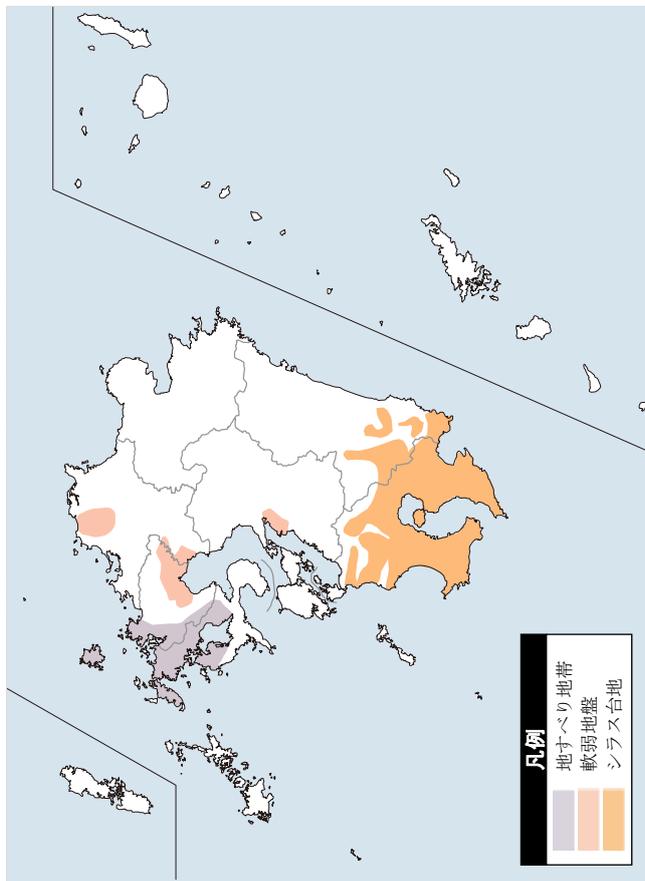
2005年3月20日、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード7.0の地震が発生した。震源に最も近い福岡市玄界島では、大規模な崖崩れ・地割れが発生し、島の家屋の大半にあたる153戸が半壊以上の被害を受けたため、全島民の避難が実施された。



離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（頻発する水害、土砂災害、都市の孤立等（その4））

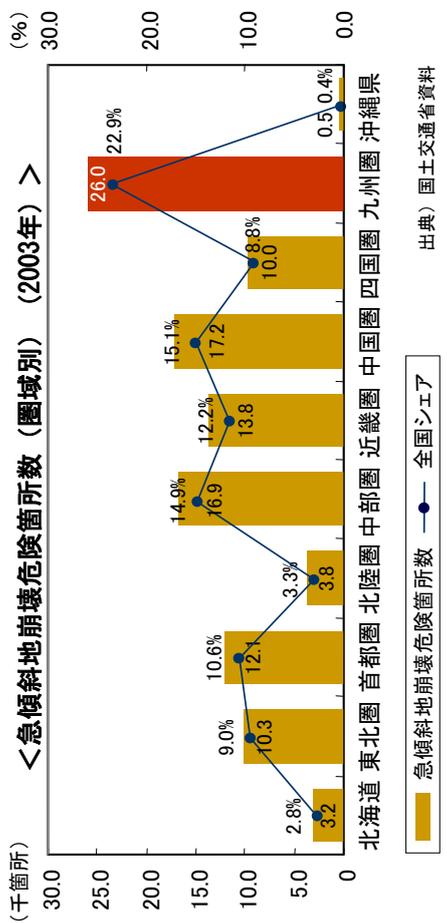
- 九州圏の地質は、北部は有明海沿岸に極軟弱な有明粘土、北西部には地滑り地帯、南部にはカルデラ形成時に噴出したシラスと呼ばれる火砕流堆積物が厚く堆積し、特殊な地形・土壌が形成されており、急傾斜地崩壊危険箇所も多い。
- 近年においても、2006年に台風や秋雨前線による崖崩れ、土石流等が発生するなど、土砂災害が頻発している。

<九州圏における特殊土壌の分布状況>



出典) 日本地誌、九州沖縄農業研究センターホームページを基に作成

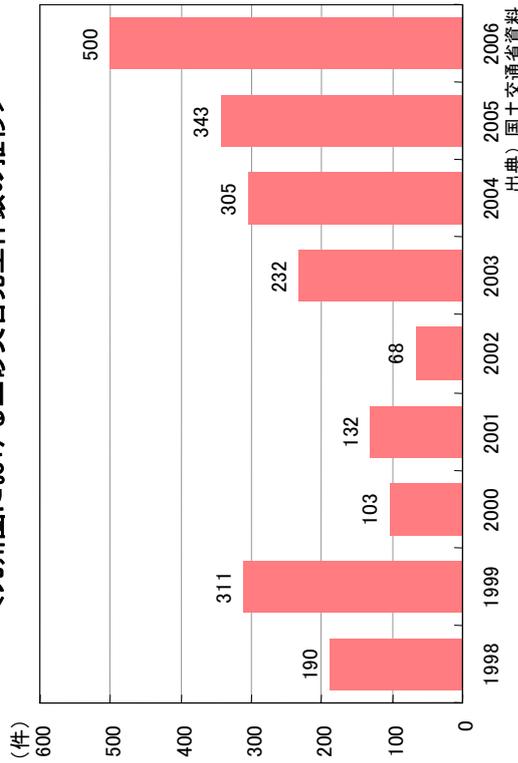
<急傾斜地崩壊危険箇所数（圏域別）（2003年）>



■ 急傾斜地崩壊危険箇所数 ● 全国シェア

出典) 国土交通省資料

<九州圏における土砂災害発生件数の推移>



出典) 国土交通省資料

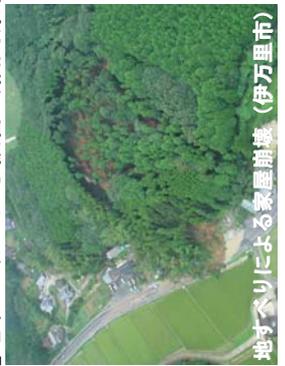
【崖崩れなどによる被害（大分県、宮崎県、鹿児島県）】



土石流による家屋崩壊（垂水市）

2006年7月、梅雨前線に向かつて台風4号からの湿った空気の流れ込みが続ぎ、宮崎県を中心に大雨になり、台風4号は、大隅半島に上陸した。  
この台風により、九州東部を中心として土砂災害等が28件発生し、鹿児島県垂水市二川地区では、土石流による家屋全壊5戸の甚大な被害が発生した。

【地すべりによる被害（福岡県、佐賀県、長崎県、大分県）】



地すべりによる家屋崩壊（伊万里市）

2006年9月、秋雨前線の活発化により、北部九州にて短時間に極めて強い降雨があり、佐賀県伊万里市内では1時間雨量が100mmを超えた。  
この豪雨により、九州西部を中心に土砂災害等が44件発生し、伊万里市南波多町府招地区では、地すべりにより国道202号へ土砂が流出、家屋3棟が被災した。



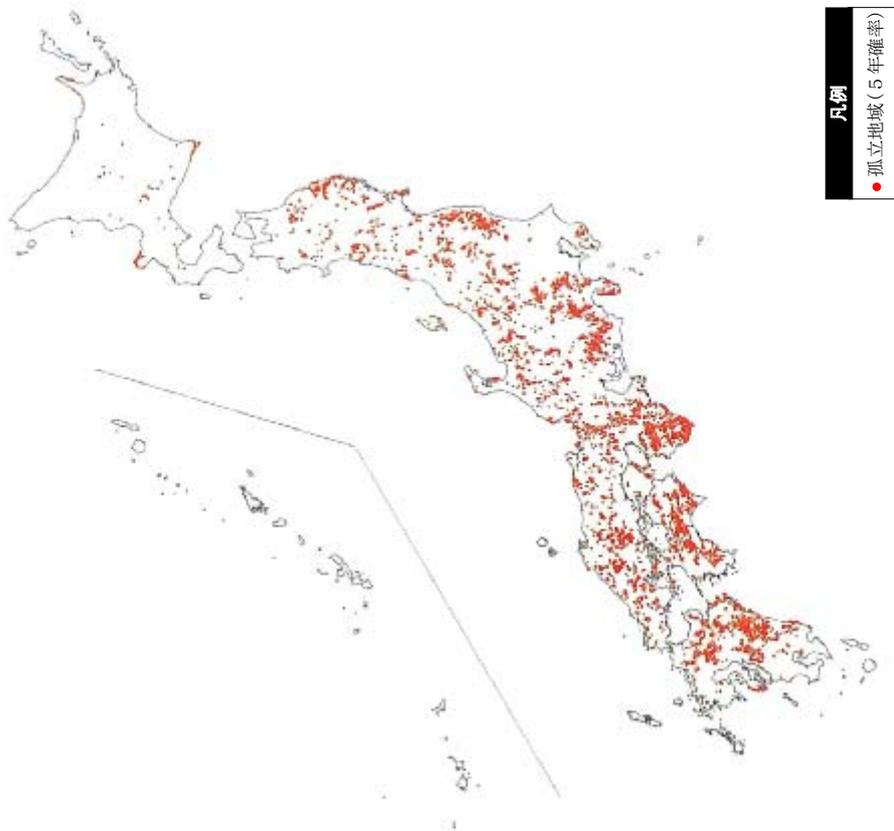
垂水市

伊万里市

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（頻発する水害、土砂災害、都市の渇水、集落の孤立等（その5））

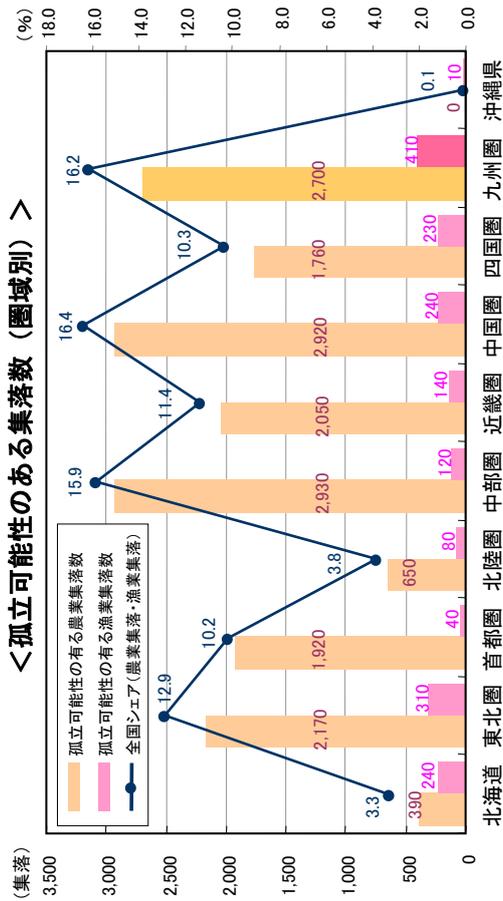
- ・九州圏にある多くの集落が災害時に孤立する可能性があると思定されており、地震、豪雨、台風、火山活動等による災害により、これら地域に点在する集落の孤立等が頻発している。
- ・近年においても、2007年に台風や梅雨前線による集落の孤立が発生し、生活に甚大な被害を及ぼしている。

＜事前通行規制実施に伴う孤立地域の分布状況＞



出典) TURN 道の新ビジョン 2002 (国土交通省)  
 ※ 5年確率：各規制区間で5年に1度の割合で生じる事前交通規制

＜孤立可能性のある集落数（圏域別）＞



出典) 平成17年8月 中山間地等の集落散在地域における孤立集落発生の可能性に関する状況調査 (都道府県アンケート調査) 調査結果 (内閣府)

【孤立集落の発生（熊本県美里町）】



橋梁流失状況（美里町）

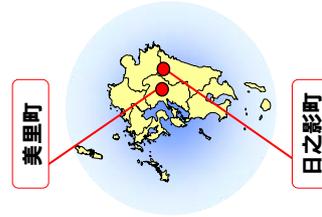
2007年7月、梅雨前線の発達に伴う集中豪雨により、熊本県美里町において複数の土砂災害が発生するとともに、国道445号を始めとする道路崩落や橋梁流失が発生した。これにより、複数の孤立集落が発生したため、消防、自衛隊による救出活動により合計27名の住民が救出された。

【孤立集落の発生（宮崎県日之影町）】



道路崩落状況（日之影町）

2007年8月、台風5号に伴う集中豪雨により、宮崎県日之影町の主要地方道日之影宇目線において、法面崩落等19箇所の災害が発生した。これにより、日之影町見立地区の75世帯140名の住民が10日間に渡って孤立したため、要保護者の搬送や飲料水・食料の輸送が実施された。



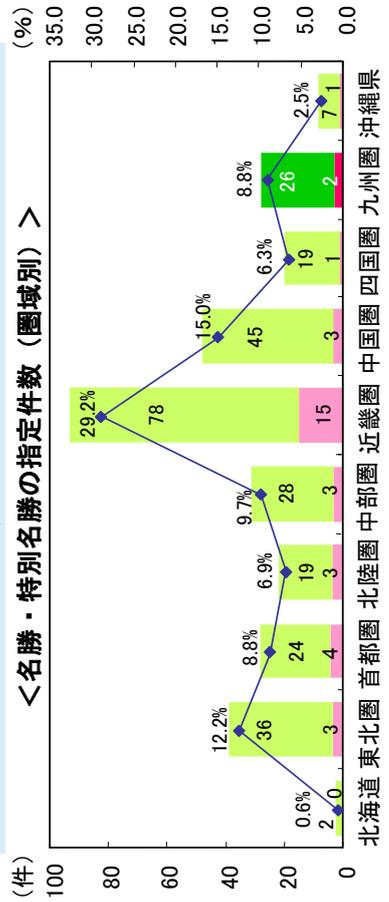
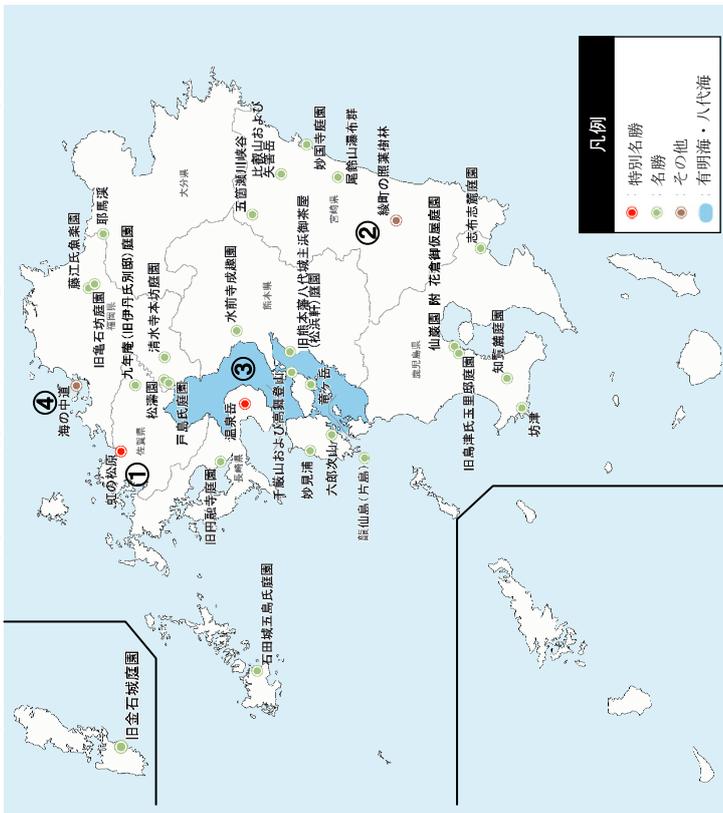
美里町

日之影町

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その1））

・九州圏は、複雑急峻な地形や、日本三大松原の一つである虹の松原、日本一の規模を誇る綾町の照葉樹林、有明海の干潟、全国でも珍しい海の中道の陸繋砂州など、日本でも有数の規模や美しさを誇る自然を有する。

<九州圏における日本有数の規模や美しさを誇る自然の分布状況>



■ 名勝 ■ 特別名勝 ◆ 全国比 (出典) 国指定文化財データベース (文化庁) H21.6.1現在

【日本三大松原の一つである虹の松原①】



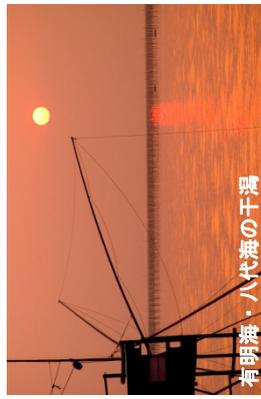
佐賀県唐津市の虹の松原は、幅約400m～700m、長さ約4km、総面積約240haにわたる、通称100万本のクロマツを中心とした松林であり、昭和30年には国の特別名勝に指定され、昭和31年には周辺の沿岸、海岸一帯が玄海国定公園に指定された。  
日本三大松原のひとつに数えられ、日本の自然百選、日本の名勝百選、日本の白砂青松百選、日本の渚百選等にも選ばれ、海、砂浜、松原とが織り成す紺碧・白・緑の自然のコンプレックスは絶景である。

【日本一の規模を誇る綾町の照葉樹林②】



宮崎県綾町の大森岳南東麓に広がる照葉樹林は、中心部の面積が約1,700haあり、わが国の照葉樹林の中で最大の面積を誇る。周辺部にも部分的照葉樹林と二次的照葉樹林が広く残っており、昭和57年には九州中央山地国定公園に指定された。  
多様な植物や動物が見られ、関係行政等により照葉樹林をより豊かな森として未来へ継承する、綾の照葉樹林プロジェクトが実施されている。

【世界でも有数の規模の有明海・八代海の干潟③】



有明海と八代海は、大きな潮位差と多くの流入河川によって広大な干潟が形成され、その面積は併せて約23,000haに及び、全国の干潟の実に約4割を占めている。干潟にはムツゴロウ、アゲマキなどの特有の生物相が見られ、大陸からの多くの渡り鳥が観察される貴重な場所となっている。また、日本最大規模のノリやアサリの産地としても知られている。

【海の中道の陸繋砂州④】

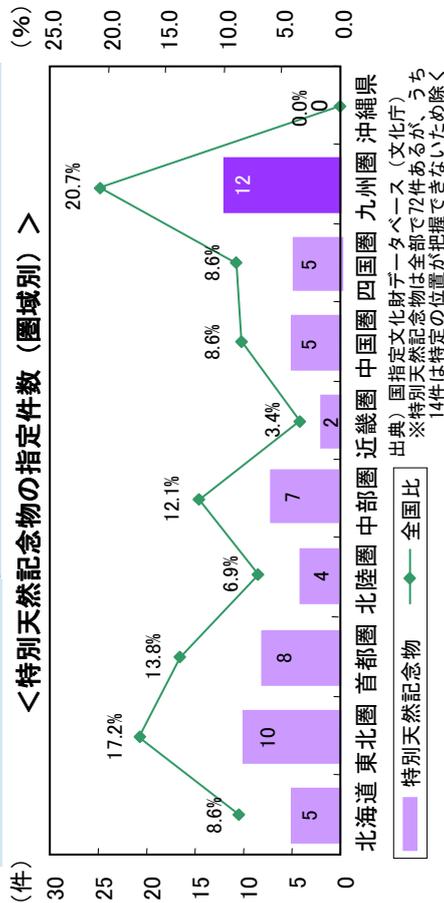
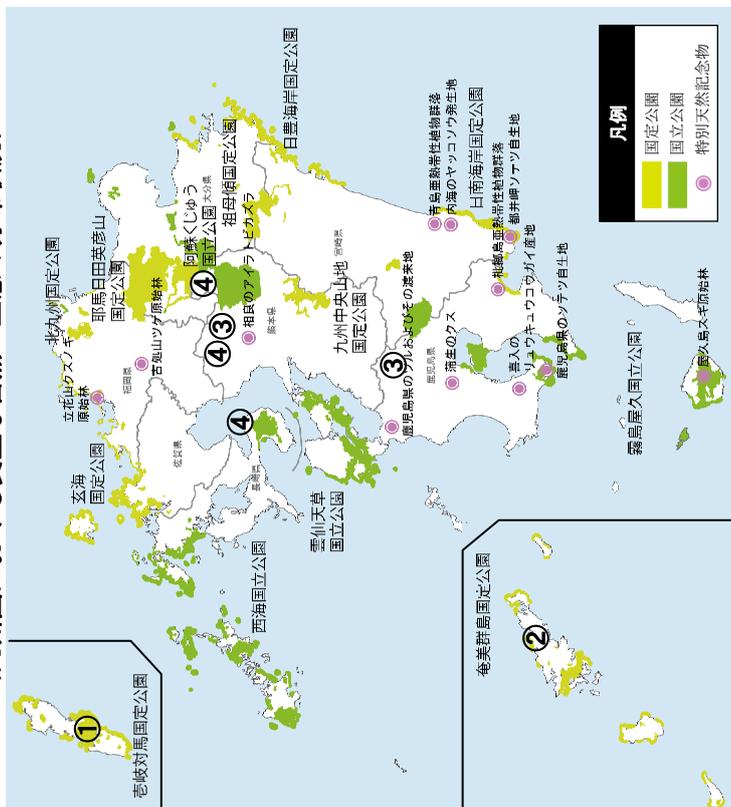


福岡市東区の海の中道には、志賀島と九州本土とを繋ぐ全長約8kmの巨大な陸繋砂州があり、日本の渚百選にも選ばれた。陸繋砂州の幅は狭いところで500m、広いところで2kmに達し、砂は河川からではなく海面下にある砂丘から供給されているという特徴がある。また、この一帯には「海の中道海浜公園」等があり、休日には多くの人で賑わう。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その2））

・離島の隔離性から、ツシマヤマネコやアマミノクロウサギなど固有種も多く、チスジノリ、オキチモズクの発生地などの天然記念物、世界自然遺産の屋久島、奄美大島の金作原生林など手つかずの自然も多く残されている。

<九州圏における貴重な自然・生態の分布状況>



【国指定天然記念物（哺乳類）①】



ツシマヤマネコは、対馬島だけに生息する野生ネコの固有種で、約10万年前に当時陸続きだった大陸から渡ってきたと考えられている。生息環境の悪化や、交通事故などで生息数が減少したため、1971年には国の天然記念物に、1994年には国内希少野生動物植物種に指定された。現在、自然状態で安定的に生息できていることを目指し、保護および増殖のための事業が実施されている。

出典) 対馬野生生物保護センター

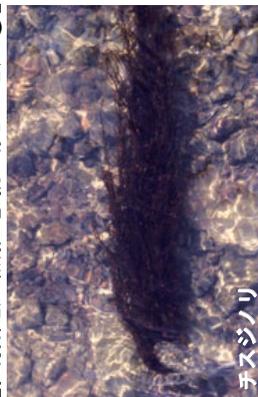
【国指定特別天然記念物（哺乳類）②】



アマミノクロウサギは奄美大島と徳之島だけに分布する日本固有種であり、ウサギの中でも原始的なムカシウサギの仲間とされ、1921年に特別天然記念物に指定された。生態的な研究は未解明な部分が多い。

奄美大島・徳之島には、多くの原生林が残されているため、生息環境は維持されているが、野生化した犬や猫、マングース等による捕食、車によるロードキルが問題となっている。

【国指定天然記念物（発生地）③】



チスジノリ（紅藻）は日本固有種で、大きい河川の中流域に生育する。体は長さ1mにもなり、冬から春に成長する。環境省のレッドリスト（平成19年）で絶滅危惧Ⅱ類に指定され、記録のある生育地の大部分が九州である。熊本県の菊池川、鹿児島県の川内川の生育地では国の天然記念物に指定されている。

【国指定天然記念物（発生地）④】

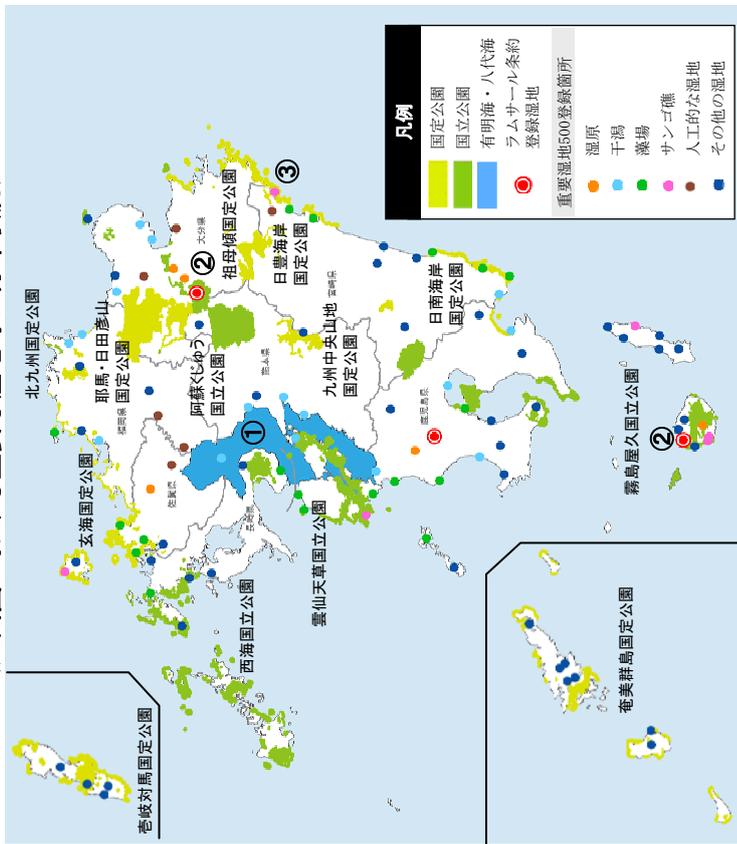


オキチモズクは愛媛県温泉郡川内町の「おさち泉」で発見され、地名にちなみ命名された日本固有種の淡水紅藻である。体は長さ10～40cmになり、冬から春に成長する。環境省のレッドリスト（平成19年）で絶滅危惧Ⅰ類に指定され、熊本県南小国町の志津川、熊本県菊池市の木柑子川、長崎県雲仙市の神代川の3箇所での生育が確認されている。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その3））

- ・九州圏には、日本の重要湿地500登録地における約2割の重要湿地が分布している。
- ・干潟には、ムツゴロウやワスボなど、我が国では有明海、八代海にのみ生息する魚介類等を有する。
- ・湿地には、ラムサール条約に登録された湿地等の国際的にも評価されている生態系のまとまりも有する。

<九州圏における重要な湿地等の分布状況>



【有明海・八代海にのみ生息する魚介類①】

有明海・八代海の干潟は、黄海・渤海・東シナ海沿岸の干潟と先史的な繋がりが有り、日本の他地域では見られない大陸系遺存種と呼ばれる生物が多い。このうち、水陸両方で生活を送るムツゴロウは、環境省レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、佐賀県では漁獲規制が行われるなど保護対策が講じられている。  
また、ワラスボは泥に穴を掘って棲むため目が退化しており、ムツゴロウと同様に絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

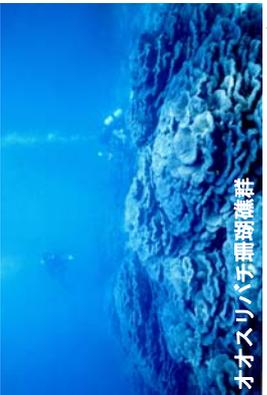
【ラムサール条約の登録湿地②】



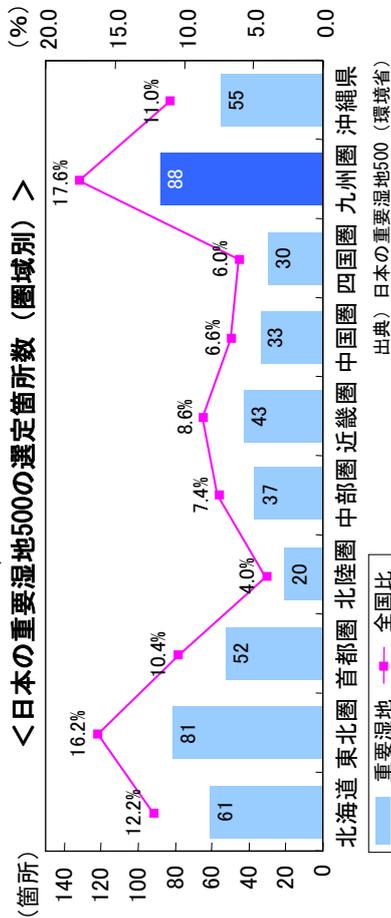
ラムサール条約は、水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の適正な利用を促進することを目的として、1971年に作成された（1975年発効）。九州圏では、大分県竹田市及び九重町の「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」、鹿児島県薩摩川内市の「蘭牟田池」、鹿児島県「屋久島永田浜」が登録されている。「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」は、山岳地に形成された中間湿原として国内最大級の面積を有し、多様な地質・地形を反映した植物分布となっており、我が国を代表する湿地である。

「蘭牟田池」は、平成8年にベッコウトンボの生息地保護区に指定され、国内希少野生動物種であるベッコウトンボの生息地としても知られている。永田集落にあり、急峻な海蝕崖に囲まれた屋久島には数少ない貴重な砂浜であり、例年2,000頭以上のアカウミガメが産卵のために上陸する産卵地としても知られている。

【島野浦島周辺沿岸の珊瑚礁群（延岡市）③】



宮崎県延岡市の島野浦島の北東部には、日本一の規模を誇るオオスリバチ珊瑚礁群がある。大きいものでは、直径3メートルもあり、海に潜ると、まるで海底に作られた花畑のように見え、バラの花のような形をした美しい珊瑚礁群となっている。



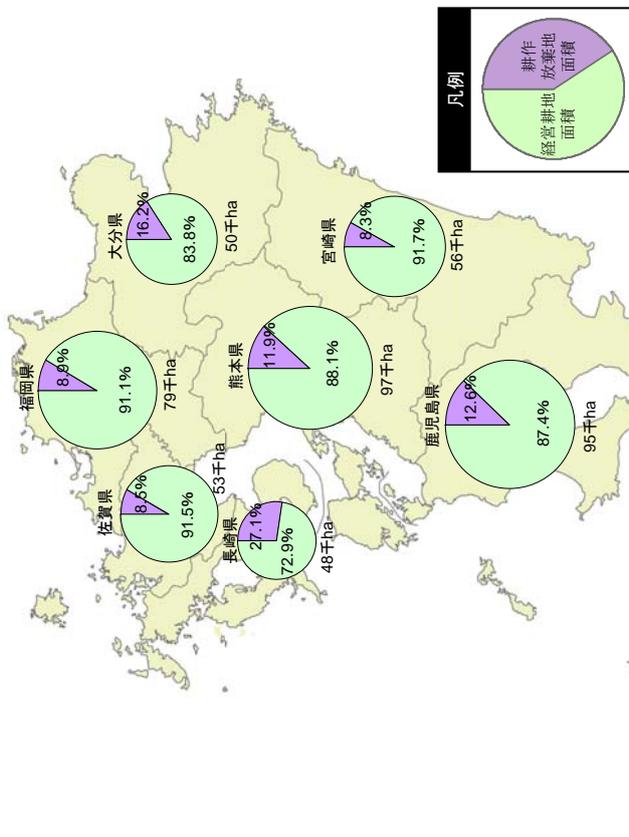
出典) 日本の重要湿地500 (環境省)

出典) 延岡マリンセンター

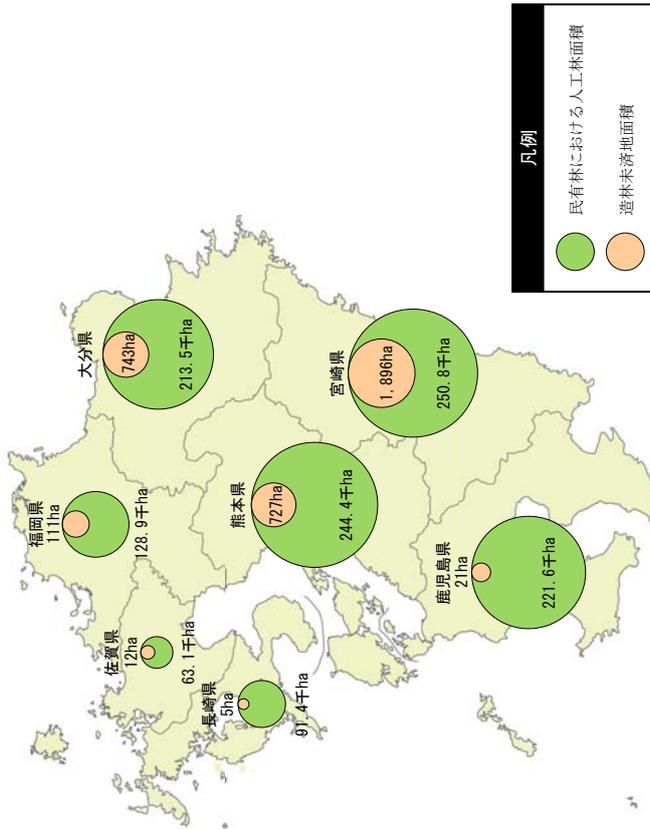
離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その4））

九州圏では、離島・半島や中山間地域等に至るまで農林水産業などの生産活動が営まれ、美しい景観等が形成されてきたが、適切に管理されない森林や採草地、耕作放棄地の増大などが進みつつある。

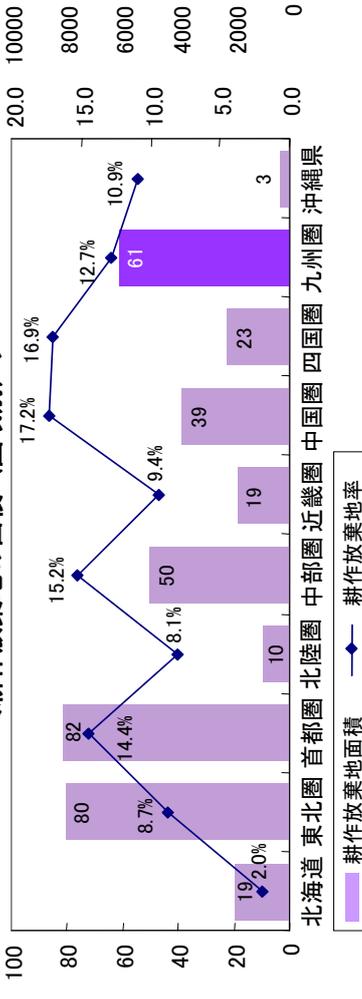
<九州圏における耕作放棄地の状況（県別）>



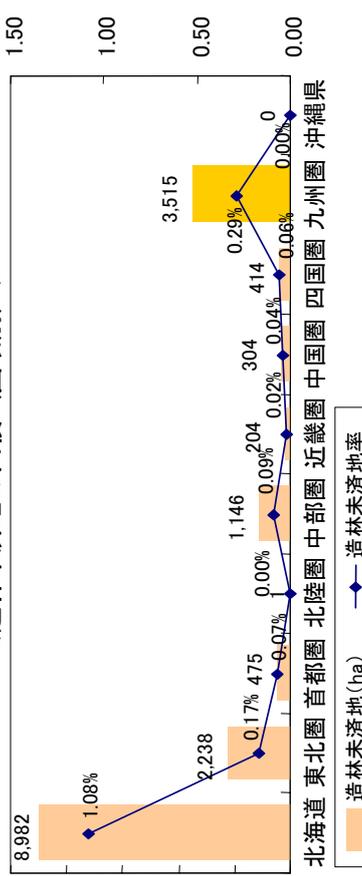
<九州圏における造林未済地の状況（県別）>



<耕作放棄地の面積（圏域別）>



<造林未済地の面積（圏域別）>



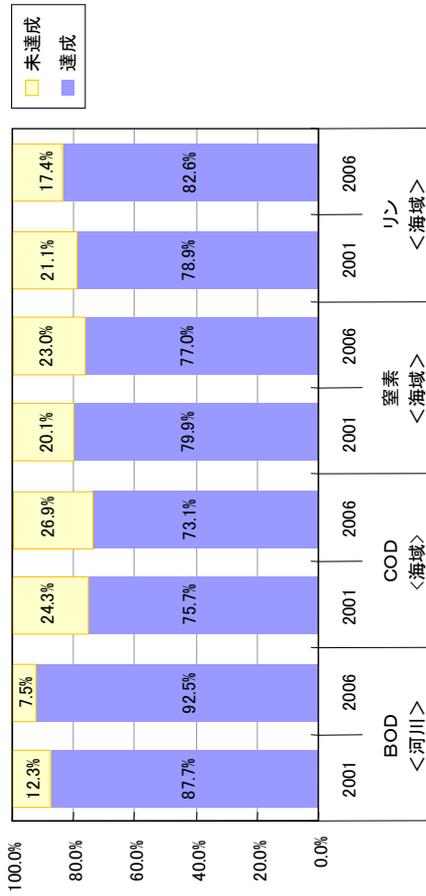
出典) 2005 農林業センサス (農林水産省)  
 ※耕作放棄地率 = (耕作放棄地面積) / (耕作放棄地面積 + 経営耕地面積)

出典) 林野庁資料 (造林未済地面積: 2006年、民有林における人工林面積: 2002年)  
 ※造林未済地率 = (造林未済地面積) / (民有林における人工林面積)

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その5））

- 九州圏の河川は、流域圏における一体的な取組等により、水質や生物多様性に改善がみられる傾向にあるが、依然対策が必要な河川もある。
- 九州沿岸では、富栄養化にともなう赤潮の発生等の環境悪化がみられるとともに、有明海、八代海等の閉鎖性海域は、その閉鎖性により物質循環・水循環の停滞がみられ、水質や底質の改善が課題となっている。

<九州圏における河川・海域の環境基準達成状況>



出典）環境GIS公共用水域水質測定結果（独）国立環境研究所

※単位：基準点数

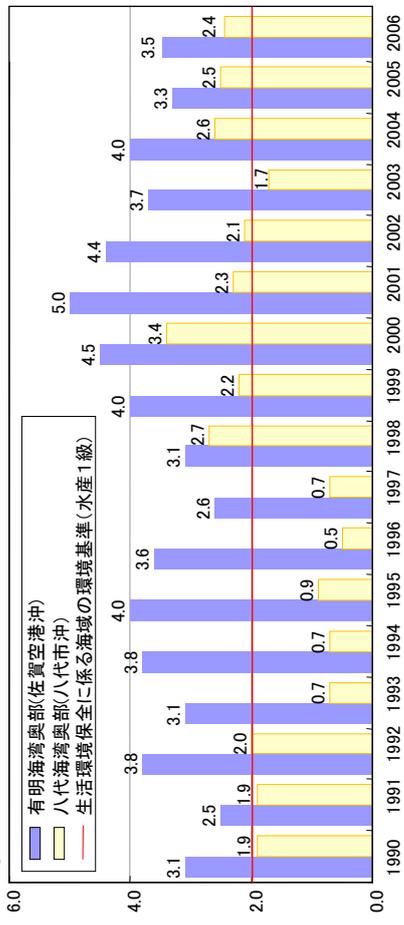
※BOD：水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと、

河川の有機汚濁を測る代表的な指標

※COD：水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、

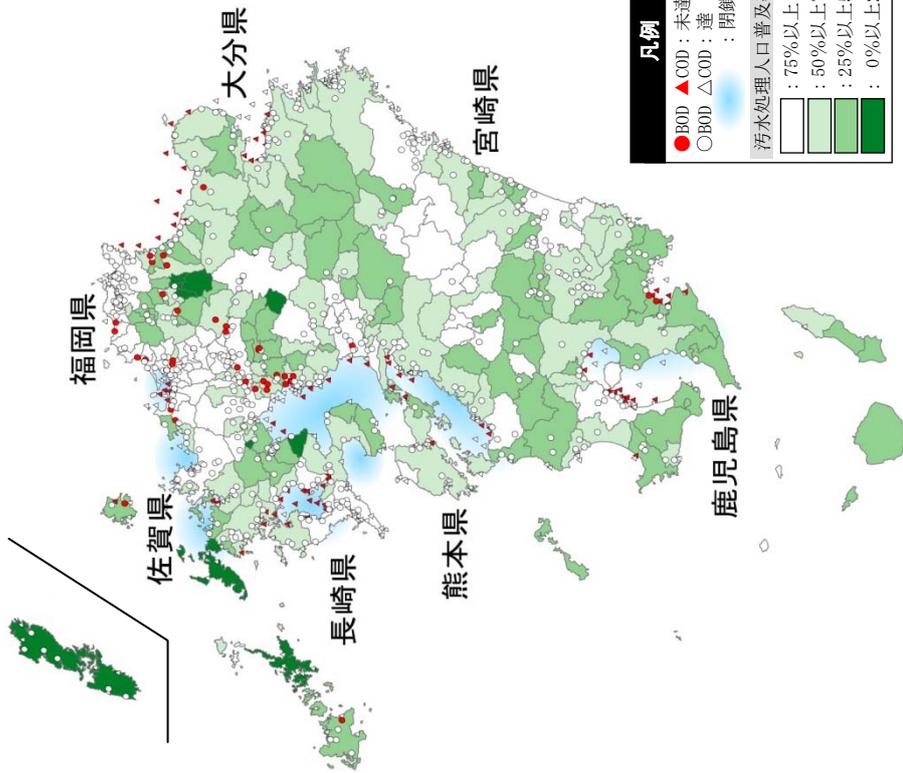
海水や湖沼水質の有機物による汚濁状況を測る代表的な指標

<有明海と八代海のCODの推移>



出典）公共用水域水質調査（独）国立環境研究所

<九州圏における公共用水域の環境基準達成状況等>



**凡例**

- BOD ▲ COD：未達成
- BOD △ COD：達成
- ：閉鎖性海域
- 汚水処理人口普及率
- ：75%以上
- ：50%以上75%未満
- ：25%以上50%未満
- ：0%以上25%未満

出典）水質：環境GIS公共用水域水質測定結果 2006年度（独）国立環境研究所

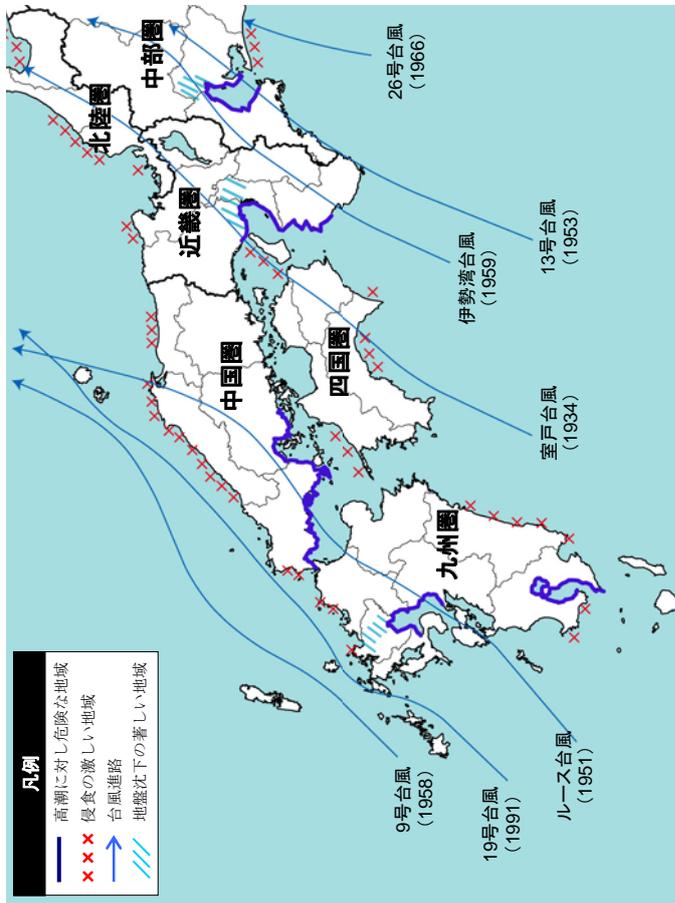
汚水処理人口普及率：九州地方整備局資料

※環境基準達成状況：2006年度、汚水処理人口普及率：2007年度末

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（豊かな自然環境、貴重な生態系、美しい景観等（その6））

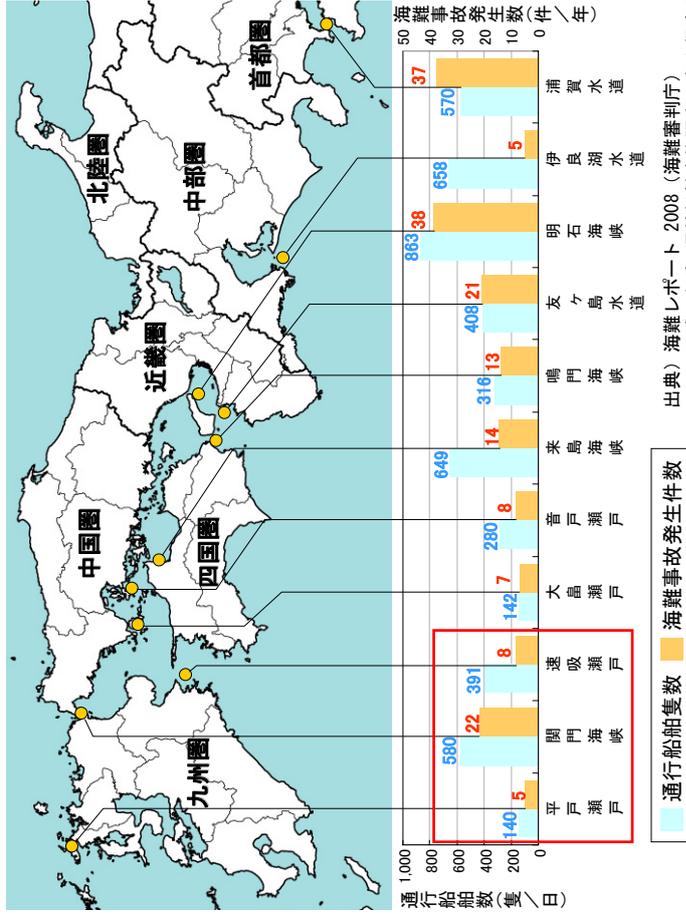
- ・日向灘等の海岸では、陸域から海域への土砂供給の減少や沿岸での漂砂移動の変化などにより激しい海岸侵食がみられる。
- ・東シナ海等の好魚場や対馬、大隅等の国際海峡、外海から瀬戸内海に至る関門海峡等の海上交通の要衝が多く、多くの海難事故が発生している。

<九州周辺の海岸侵食等の著しい地域>



出典) 海岸ハンドブック 2003~2004 ((社)日本全国海岸協会)

<全国の主要水道における海難事故発生状況>



出典) 海難レポート 2008 (海難審判庁)  
平成19年度 通航船舶実態調査 (海上保安庁)

【激しい海岸侵食 (宮崎市)】



海岸侵食の状況(宮崎市北部)

宮崎市北部の海岸は、約40年間で平均約40m (最大90m) の砂浜が侵食され、隣接している一ツ葉有料道路の目前まで浜崖が迫っており、越波被害および重要幹線道路の被害等、地域経済への甚大な影響が懸念されている。  
また、当海岸はアカウミガメ (宮崎県指定天然記念物) の産卵地でもあるため、産卵に必要な十分な幅のある浜が侵食されることで、産卵への影響も危惧されている。

【海上交通の要衝における海難事故の影響 (関門海峡)】



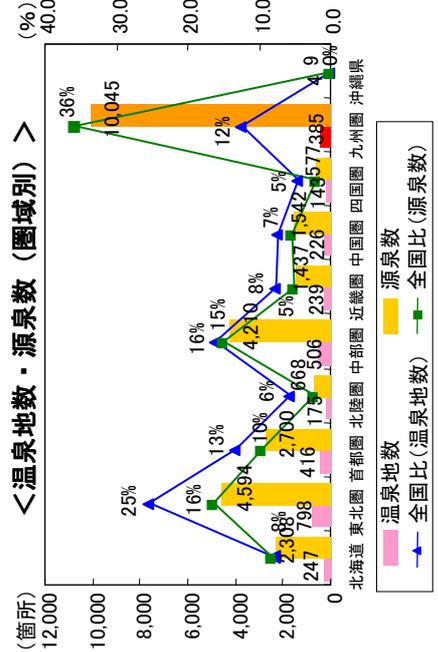
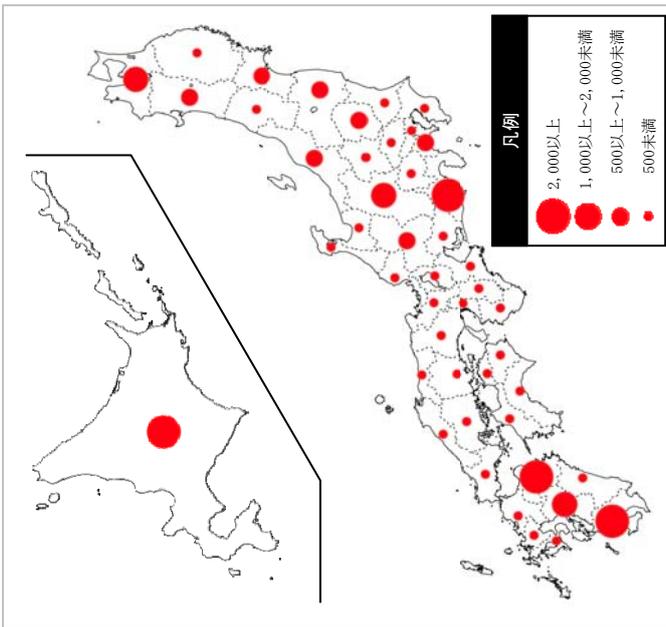
出典) 海上保安庁

関門航路が位置する関門海峡は、複雑な地形や潮流条件により、我が国多数の海の難所といわれている。  
関門航路は、日本・東アジア・北米等の主要港湾間を結ぶコンテナ船や貨物船の国際基幹航路として、日本の産業・経済を支える大動脈となっており、年間5万隻 (500トン以上) もの船舶が行き交う海上交通の要衝となっている。  
航路周辺では、船舶の衝突や座礁などの海難事故が多数発生しており、ひとたび事故が発生すると、長時間にわたり航行禁止措置が行われることもある。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた九州圏の現状と課題（温泉、棚田、名水、歴史・文化等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その1））

- 九州圏の多くの部分は火山地域であり我が国第1位の湧出量を誇る別府を誇る別府を誇る別府を始め、全国の源泉数の約36%を占める温泉を有している。
- 日本の棚田百選の約35%を占める美しい棚田など、地域資源が豊富な地域でもある。

<全国の源泉数の分布>



【別府八湯】

**別府の湯けむり**  
別府市内全域に点在する8つの個性ある温泉地（別府、浜脇、鉄輪、明礬、観海寺、亀川、柴石、堀田）の総称で多くの温泉がある。

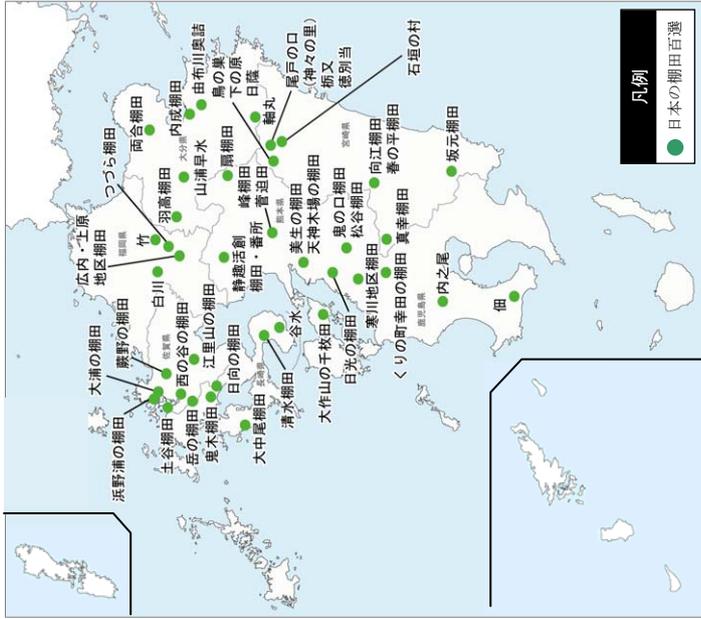
【雲仙温泉】

**雲仙地獄**  
古湯・新湯・小地獄の3つに温泉街が分かれ、明治に外国人の避暑地として開かれた国際的な観光地でもある。

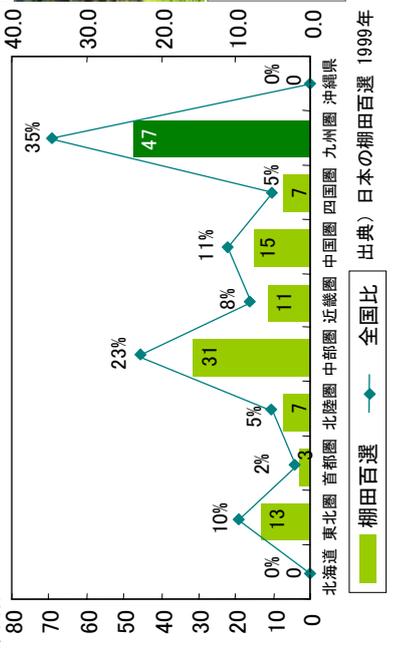
【指宿温泉】

**指宿温泉(砂むし温泉)**  
古くから湯治場として親しまれ、摺ヶ浜の砂浜に湧き出た天然砂むし温泉として人気が高く南九州有数の温泉リゾート地である。

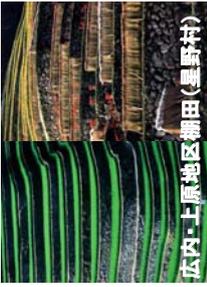
<九州圏における日本の棚田百選>



<日本の棚田百選数（圏域別）>



【広内・上原地区の棚田】



**広内・上原地区棚田(皇野村)**  
美しい精巧な石積み棚田で、標高差約230mの斜面に137段・425枚もの棚田が長く切り開かれている。

【浜野浦の棚田】



**浜野浦(玄海町)**  
浜野浦海岸に流れ込む浜野浦川の浸食谷に、大小283枚、面積約11.5haの棚田が築かれている。

【向江棚田】



**向江棚田(西米良村)**  
奈良時代に築かれ、石積みの美しい景観を呈し、秋の収穫後は「はざ掛け」の景観も楽しめる。61枚、面積約3.2haの田からなる。

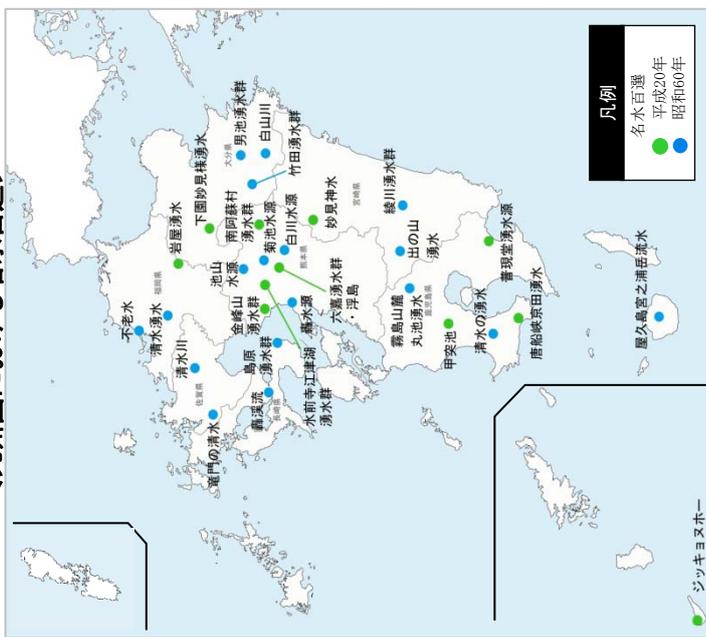
(農林水産省)

出典) 温泉利用状況報告 平成19年度 (環境省)

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた  
自然環境（温泉、棚田、名水、歴史・文化等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その2））

- 九州圏は、名水百選の約15%を占める清冽な泉が存在するとともに、水道水源が100%地下水である都市としては日本最大である熊本市を有するなど、水資源が豊富な地域である。
- 日本の滝百選の約16%を占める壮麗な滝など、地域資源が豊富な地域でもある。

<九州圏における名水百選>



【白川水源】



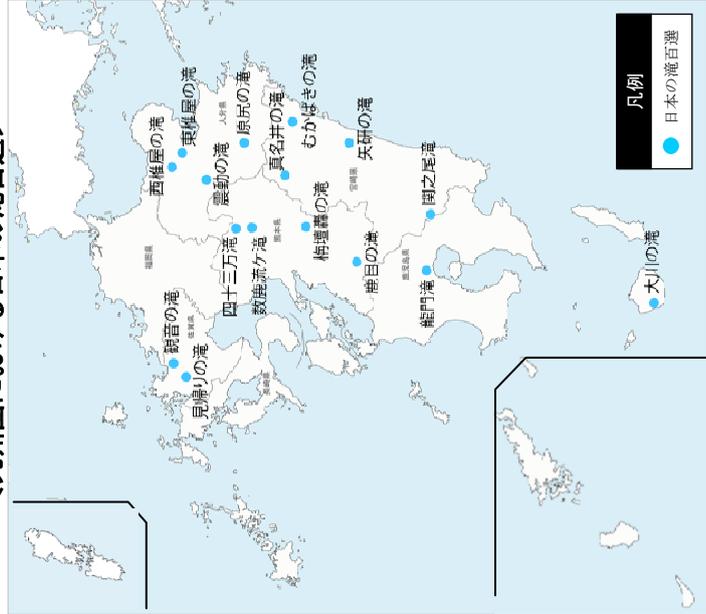
**白川水源（西阿蘇村）**  
熊本市内の中央を流れる白川の源の一つとなっており、常温14℃の水が毎分80トンも湧き出ている。

【竹田湧水群】



**河宇田湧水（竹田市）**  
大野川上流域に位置し、竹田市内に50ヶ所以上の湧水が点在する。水温は16℃、日量6万~7万tといわれる。

<九州圏における日本の滝百選>



【真名井の滝】



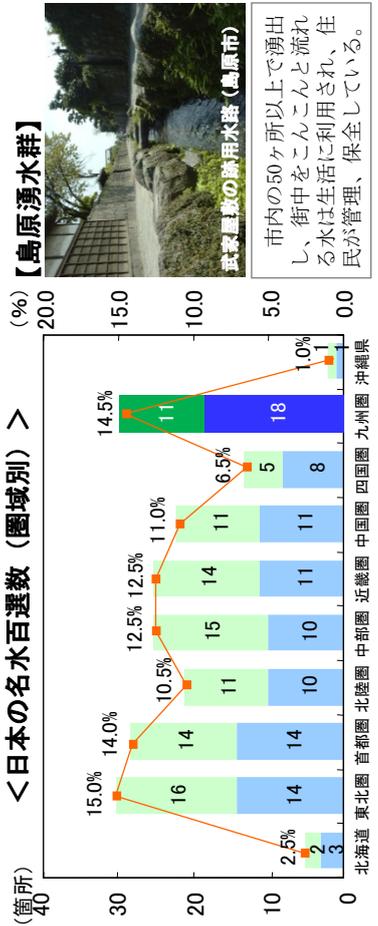
**真名井の滝（高千穂町）**  
落差17mの直瀑型の滝であり、高千穂峡の五ヶ瀬川が狭まった部分に流れ落ちる。

【原尻の滝】



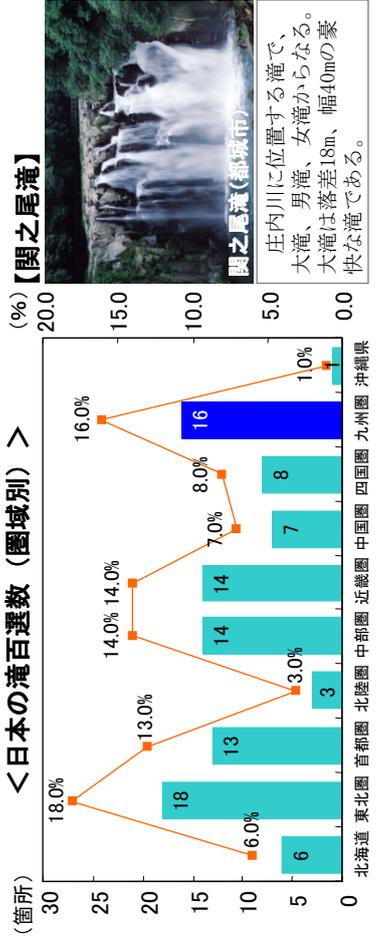
**原尻の滝（豊後大野市）**  
緒方平野の真中に落ち込む落差20m、幅120mの滝であり、「東洋のナイアガラ」と呼ばれる。

<日本の名水百選数（圏域別）>



（名水百選） H20（全国比） S60（全国比） H20+S60  
 出典）平成の名水百選 平成20年選定（環境省）  
 名水百選 昭和60年選定（環境省）

<日本の滝百選数（圏域別）>

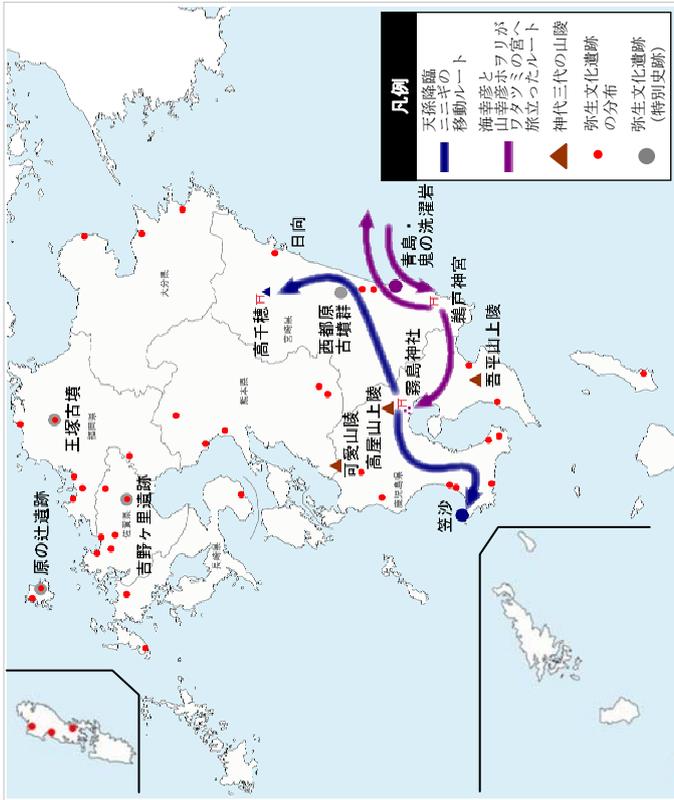


（滝百選） H20（全国比） S60（全国比） H20+S60  
 出典）日本の滝百選 1991年（グリーンネット・ササクス事務局編）

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（温泉、棚田、名水、歴史・文化等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その3））

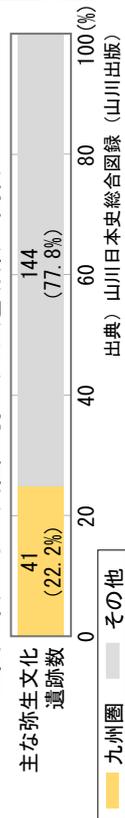
- 九州圏には、古事記・日本書紀を始めとする書物に描かれている神話等に登場する日本建国やゆかりの深い地名、名所旧跡、神社など、日本の原点ともいえる太古のロマンを感じさせる史跡・遺跡等が多く存在している。
- また、弥生時代等における遺跡や出土品の全国に占める割合も高く、吉野ヶ里遺跡など大規模集落も多数存在する。

<九州圏における古事記・日本書紀に描かれた神話ゆかりの地>

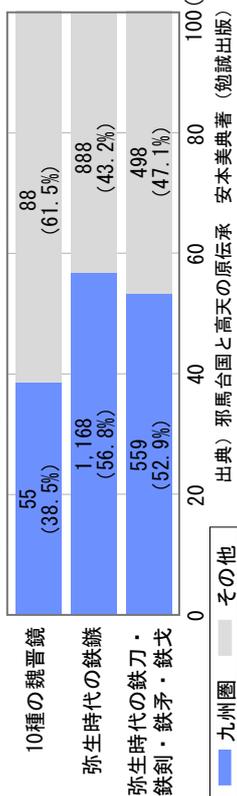


出典) 図説地図とあらすじで読む古事記と日本書紀 (青春出版社)、日本史総合図録 (山川出版社) を基に作成

<全国に占める九州圏の弥生文化遺跡数の割合>



<全国に占める九州圏の弥生時代の出土品数の割合>



出典) 邪馬台国と高天の原伝承 安本美典著 (勉誠出版)

【天孫降臨にゆかりのある地 (高千穂の峰)】



鹿児島県、宮崎県には、天孫ニニギノミコトが天降ったと伝えられる高千穂の峰を始め、天孫降臨にゆかりのある地が数多く存在する。  
高千穂の峰の山頂に立てられている「天の逆峰」は、ニニギノミコトが地上に降り立つ場所を雲の上から探すために使ったと伝えられている。また、高千穂町には、降臨したニニギノミコトが宮を構えたとされる高千穂神社などゆかりの地が数多く存在する。

【ウミサチヒコ (海幸彦) とヤマサチヒコ (山幸彦) にゆかりのある地】



古事記には、ニニギノミコトの御子であるウミサチヒコとヤマサチヒコが瀬具を取り替えて狩に出た際、ヤマサチヒコが釣針を探しにワタツミの宮に赴いたことから、ワタツミの娘トヨタマヒメと結ばれ、トヨタマヒメの協力を得てウミサチヒコを降伏させたという挿話がある。  
青島・鬼の洗濯岩は、ヤマサチヒコがワタツミの宮へ旅立った地として伝えられ、鶴戸神宮のお乳岩は、トヨタマヒメが我が子を思っていたと伝えられている。

【神代三代之山陵にゆかりのある地】



神代三代之山陵 (御墓) の場所は、明治初期までは諸説あったが、明治時代に、ニニギノミコトの御陵である可愛山陵 (薩摩川内市)、ウガヤフキアエズノミコトの御陵である吾平山陵 (鹿屋市)、アマツヒヒコホホデノミコトの御陵である高屋山陵 (霧島市) が特定された。  
可愛山陵の山腹にある新田神社は、かつて薩摩一ノ宮と称された神域の面影を残し、吾平山陵は、全国でも珍しく御陵が洞窟の中にある特徴を持つ。

【弥生時代ゆかりの地 (吉野ヶ里遺跡、原の辻遺跡)】

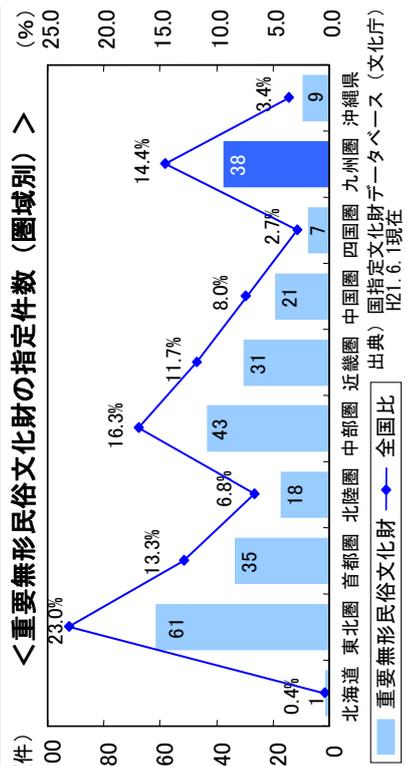
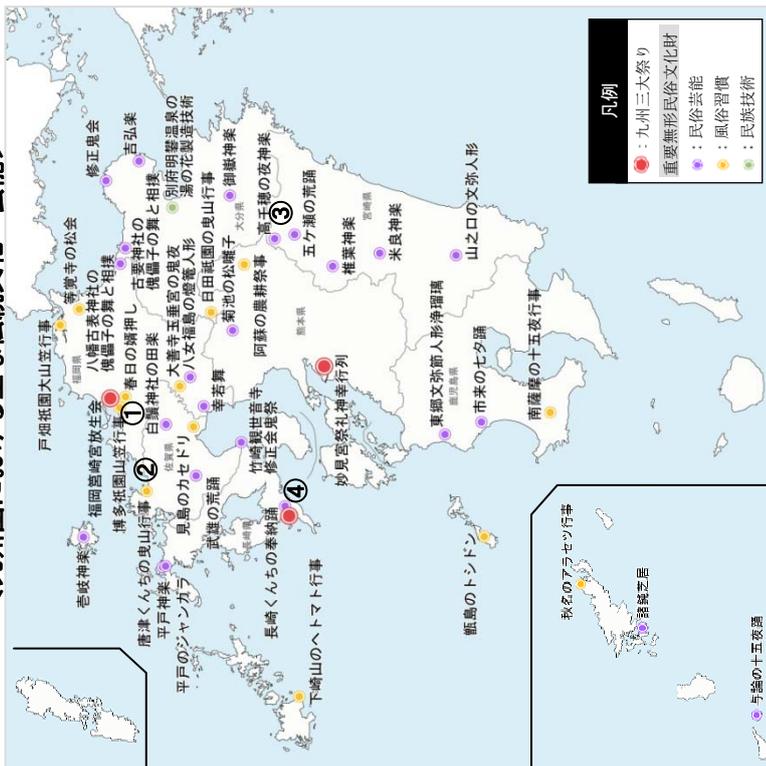


吉野ヶ里遺跡は、佐賀県神埼郡吉野ヶ里町と神埼市にまたがる遺跡で、弥生時代紀元前3世紀から紀元3世紀に及ぶ全国でも最大規模の環壕集落遺跡である。  
原の辻遺跡は、紀元前3世紀から紀元4世紀にかけて形成された大規模な多重環壕集落で、長崎県壱岐市芦辺町と石田町にまたがる台地を中心に、約1km四方に広がっており、『魏志倭人伝』の中の「一支国」の王都と特定されている。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（温泉、棚田、名水、歴史・文化等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その4））

- 九州圏は、全国の重要無形民俗文化財の約14%を占め、博多祇園山笠、唐津くんち、高千穂の夜神楽等、多くの伝統文化・芸能が現在まで連続と引き継がれている。
- また、博多どんたく、長崎くんち等のアジア・ヨーロッパの文化融合により発達した祭りも多数存在する。

<九州圏における主な伝統文化・芸能>



【伝統的な祭りの例 (博多祇園山笠) ①】



博多祇園山笠は、760余年の伝統を誇る博多の総鎮守とされる櫛田神社の大祭神事であり、国の重要無形民俗文化財に指定されている。山笠には高さ10mを超える飾り山笠と重さ1tで背の低い卓き山笠と2種類あり、豪華絢爛な飾り山笠が櫛田神社や中洲川端など全部で14ヶ所飾られる。また、祭りのクライマックス「追い山笠」では、卓き山が勇ましい掛け声と共に、博多の街を走り抜ける。

【伝統的な祭りの例 (唐津くんち) ②】



玄界灘に面した白砂青松の城下町、唐津では、唐津神社の秋祭りとして「唐津くんち」が催される。豪華な漆工芸品の曳き山は、世界的にも類を見ないものであり、国の重要無形民俗文化財に指定されている。最大の呼び物は、氏子たちによる曳山（ひきやま）行列で、刀町の一番やま「赤獅子」から、十四番やま「七宝丸」まで、いずれも勇壮華麗な14台が登場し、市内を巡行する。地元愛や誇りを象徴する行事であり、全国から観光客が集まる。

【伝統的な祭りの例 (高千穂の夜神楽) ③】



高千穂地方に伝承されている神楽は、天照大神（あまてらすおおみかみ）が天岩戸に隠れた折に岩戸の前で天鈿女命（あめのうすめのみこと）が調子面白く舞ったのが始まりと伝えられ、永い間高千穂宮を中心にこの神楽が伝承され、今日に及んでいる。毎年11月の末から翌年2月にかけて各地農村で、三十三番の夜神楽を奉納し、秋の実りに対する感謝と翌年の豊穣を祈願している。

【異文化融合により発達した祭りの例 (長崎くんち) ④】

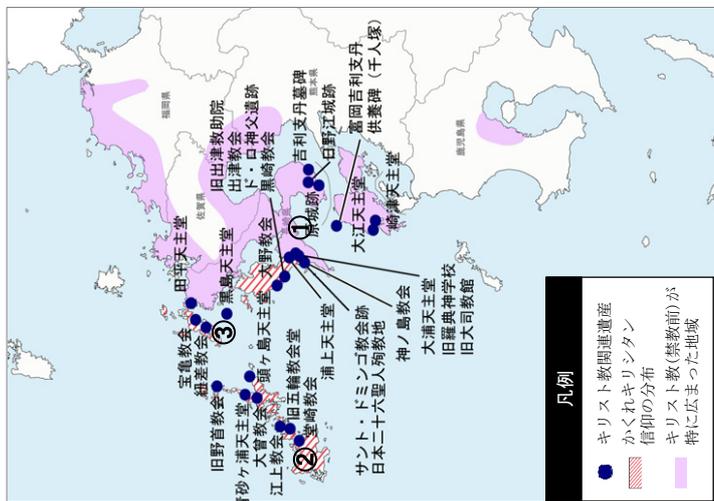


長崎の祭りの特徴は、エネルギー豊かな雰囲気にある。『シヤギリ』と呼ばれるお灘子の音を耳にしただけで心踊る、国際色豊かな祭り「長崎くんち」は、日本と海外伝来の文化の融合した独特の風情を生み出している。中国の旧正月を「春節祭」として祝う長崎ランタンフェスティバルでは、中華街を中心に1万2千個にも及ぶランタン（角灯、ちょうちん）が長崎の街を色鮮やかに染め上げる。

離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（温泉、棚田、名水、歴史・文化等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その5））

- ・長崎・天草を中心として、異文化の伝来と教団連産を現在に伝える教会群とキリスト教関連遺産が多数存在する。
- ・九州圏の各地には、我が国の近代化の飛躍的な発展の過程において、主導的な役割を担った近代化産業遺産も多数存在する。

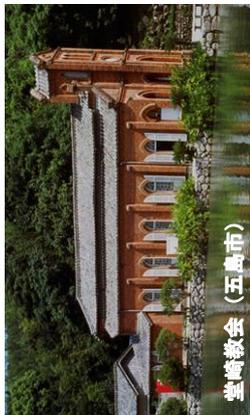
<長崎・天草を中心としたキリスト教関連遺産>【キリスト教関連遺産の例①】



**大浦天主堂 (長崎市)**

江戸時代、まだ禁教の時代にフランス人のために建てられた教会で、現存する日本最古の教会堂で、「信徒発見」の舞台として世界的にも名高い。

【キリスト教関連遺産の例②】



**聖崎教会 (五島市)**

かつて、五島における布教の中心となった教会堂で、明治後期における煉瓦造教会堂のモデルとなった。

【キリスト教関連遺産の例③】



**紐差教会 (平戸市)**

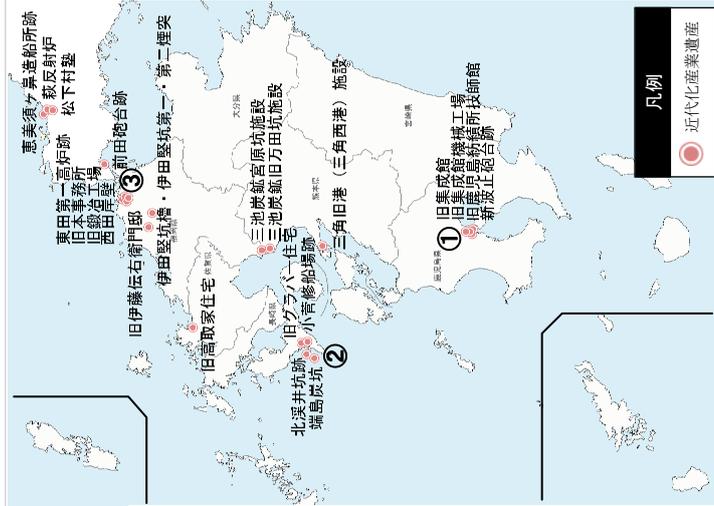
舟底天井や花柄模様のステンドグラスなどが特徴的な教会で、旧浦上教会堂が原爆で倒壊した後は、日本最大の教会堂といわれた。

【長崎の教会群とキリスト教関連遺産】

キリスト教はフランシスコザビエルによって日本に伝えられ、長崎は日本における布教の中心として繁栄した。その後、キリスト教の弾圧による閉国を契機に奇跡の復活を果たした。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、世界に類を見ない布教の歴史として高く評価されている。

本遺産は、平成19年1月、世界文化遺産暫定一覧表に登録されており、今後は、正式登録に向けて、世界文化遺産としての価値の証明や景観を含めた計画的な保存管理に取り組んでいくこととしている。

<九州・山口の近代化産業遺産群>



**旧集積館 (鹿兒島市)**

アヘン戦争に危機感を持った薩摩藩が、造船、造船、製鉄や紡績、ガラス、印刷などの富国強兵・殖産興業政策を行った集成館事業の工場群跡である。

【石炭需要への対応の例②】



**燗島炭坑 (長崎市)**

明治中期以降に開削された炭坑で、明治時代後半の高島炭鉄の主力坑となった。

【重工業化への転換の例③】



**旧山田第一高炉跡 (北九州市)**

官営八幡製鐵所の最初の高炉であり、日本の近代化に多大な貢献を果たした初代東田第一高炉の跡地である。

【九州・山口の近代化産業遺産群】

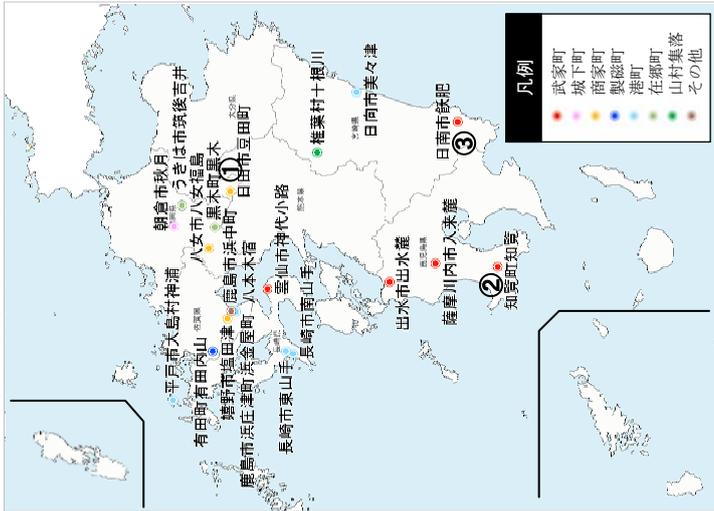
日本の工業化・近代化は、西洋技術の導入以降、極めて短い期間のうちに他の非西欧諸国には類例を見ないほどの飛躍的な発展を遂げたが、九州における本遺産は、その過程において主導的な役割を担い、製鉄、造船・石炭等の分野において日本の経済発展を支え、欧米以外の地で最初に発展を遂げた近代化を支えた技術の痕跡を示す遺産として、高く評価されている。

本遺産は、「九州・山口の近代化産業遺産群」として各保存主体による計画的な保存管理が進められているとともに、世界文化遺産の登録に向けた活動も活発化している。

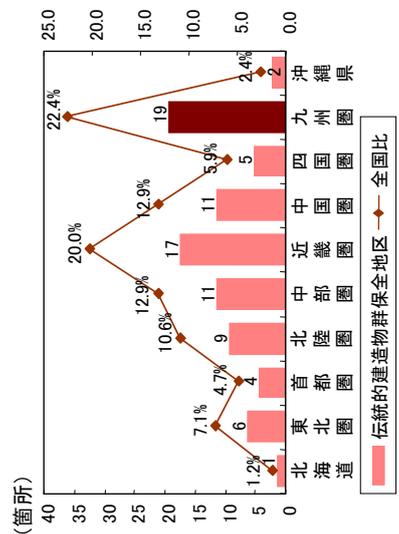
離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・水資源に恵まれた自然環境（温泉、棚田、柳田、延岡等の豊かで個性ある九州圏の地域資源（その6））

- 九州圏は、全国の重要伝統的建造物群保存地区の約22%を占め、まちなみと一体となった景観等の形成が進められている。
- 瀧廉太郎、北原白秋、若山牧水らを育てた竹田、柳川、延岡等の音楽・文学にゆかりの深い城下町等も数多く保存されている。

<九州圏に現存する歴史的まちなみ>



<重要伝統的建造物群保存地区数（圏域別）>



出典)国指定文化財データベース(文化庁)

【歴史的まちなみの例①】



江戸時代に幕府の直轄地として栄えた日田豆田町では、基盤目状のまちなみに旧家や資料館が建ち並ぶ。

【歴史的まちなみの例②】



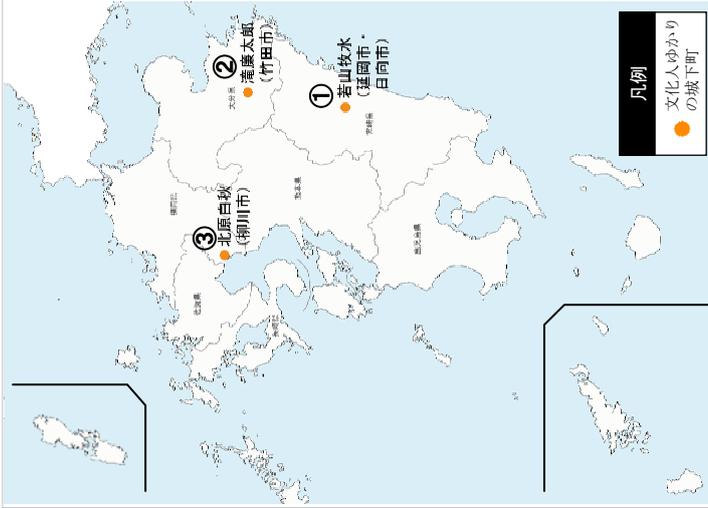
枯山水、母ヶ岳の借景を取り入れた造りが多く、庭園を囲む植え込みの風情は薩摩の小京都と呼ばれている。

【歴史的まちなみの例③】



大手門は、樹齢100年以上の侏肥杉を使って昭和53年に復元された。侏肥石を使った石垣は当時の面影を偲ばせる。

<九州圏における音楽・文学ゆかりの地>



【若山牧水、瀧廉太郎、北原白秋ゆかりの地】

九州圏には、自然を愛し、酒を愛した歌人若山牧水を育んだ日向・延岡、「荒城の月」の作曲者、瀧廉太郎の少年時代を育んだ竹田、北原白秋のふるさとであり、日本の童謡、唱歌の源流といえる美しい水郷・柳川を有する。日本を代表する音楽・文学を育てたこれらの地は、いずれも、自然と歴史が息づく城下町に存在している。現在では、生家の保存・復元や資料館等が整備されつつあるとともに、牧水祭など、故人の偉業を顕彰し、理解を深めるイベントも開催されている。

【若山牧水ゆかりの地①】



日向市は自然を愛し、酒を愛した歌人若山牧水の生誕地であり、牧水生家は生誕時とほぼ同じ形で保存されている。

【瀧廉太郎ゆかりの地②】



岡城は四方を断崖絶壁に囲まれた難攻不落の名城であり、紅葉や桜が美しく、名曲「荒城の月」の舞台にもなった。

【北原白秋ゆかりの地③】



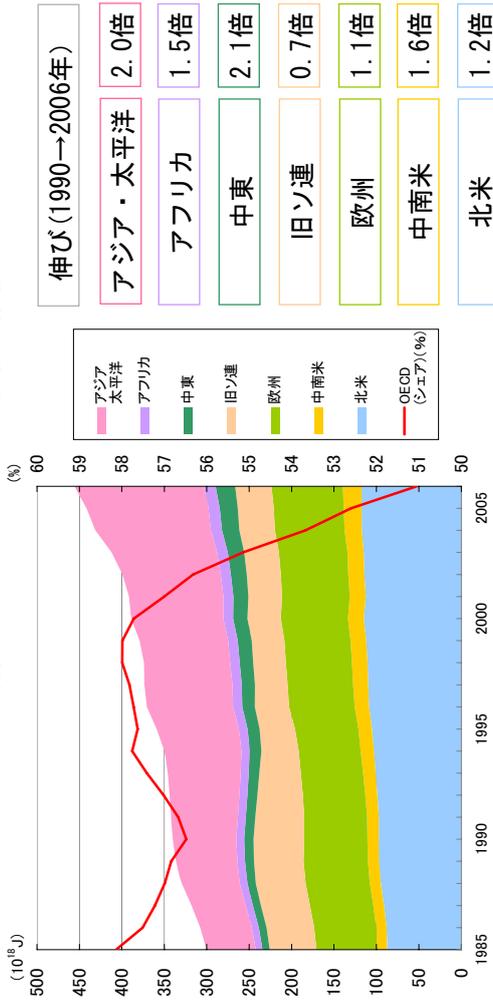
日本の近代文学に偉大な足跡を残した詩人北原白秋の生家であり、明治の火事をのがれた母屋と穀倉を復元している。



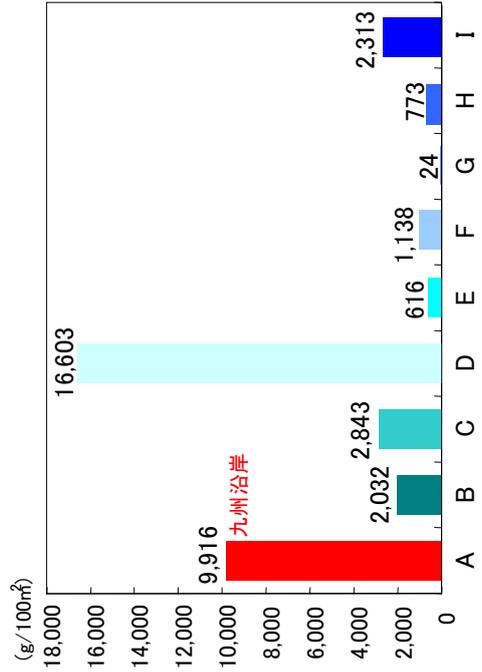
## グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応（その2）

- ・東アジアにおけるエネルギー・食料需要は、世界の需要増を上回る速度で増加が見込まれている。
- ・東アジアの成長に伴い、漂着ゴミを始めとする環境問題、資源・エネルギー問題等の東アジア共通の問題が顕在化しつつある。

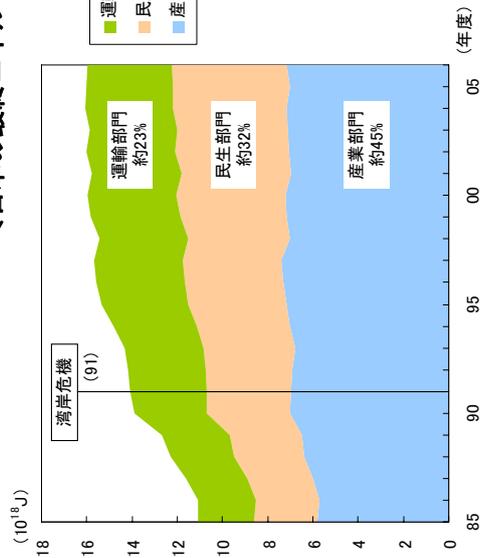
### ＜各国・地域のエネルギー供給の推移＞



### ＜東アジアの海岸線における漂着ごみの量＞



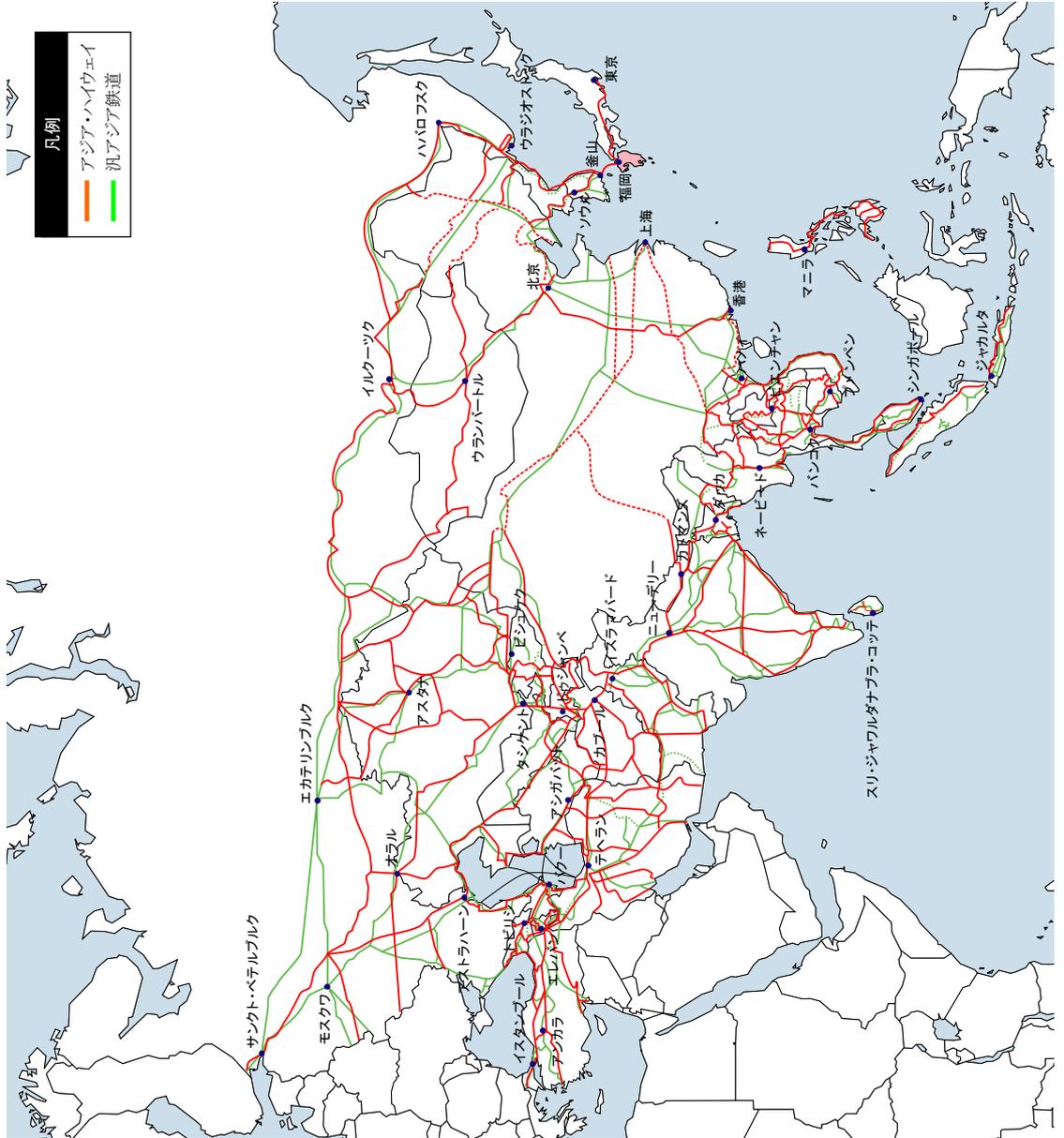
### ＜日本の最終エネルギー消費＞



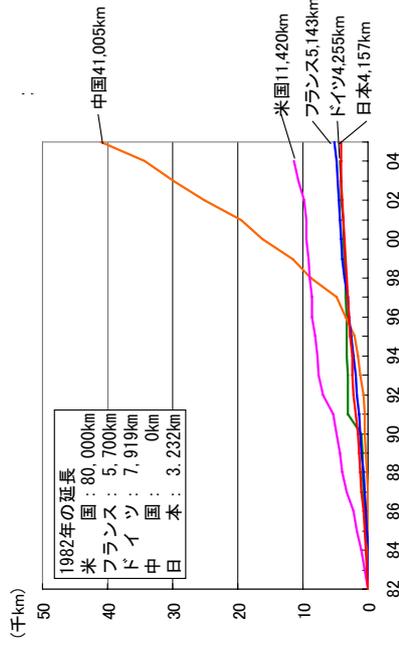
## グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応（その3）

- 東アジア諸国間では、アジア・ハイウェイや汎アジア鉄道構想等による連携強化が進展しつつあり、高速鉄道等による広域交通ネットワークが形成されつつある。
- 九州圏は、アジア・ハイウェイにおける東京ー福岡間の路線網の一部として重要な位置づけにある。

### <アジア・ハイウェイ、汎アジア鉄道構想（原案）の概要>



### <1982年以降に整備された諸外国の高速道路延長>



出典) 米国: Highway Statistics,  
 フランス: SETRA資料フランス設備省のHP  
 ドイツ: Verkehr in Zahlen 2005/2006, Verkehr in Zahlen 1998  
 中国: 「中国交通年鑑」及び国土交通省資料  
 日本: 国土交通省資料  
 ※日本は年度末、アメリカ、フランス、ドイツ、中国は年末のデータ

### 【アジア・ハイウェイ】

アジアとヨーロッパを結ぶ道路網を形成し、地域間および国際間の経済・社会開発に貢献し、かつ貿易と観光産業を育成しようとするもの。  
 1950年代後半に計画され、現在は国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) が事務局となつて計画を進めている。  
 2003年11月に日本が参加し東京ー福岡間が路線網に含まれ、総延長約142,000kmとなつた。

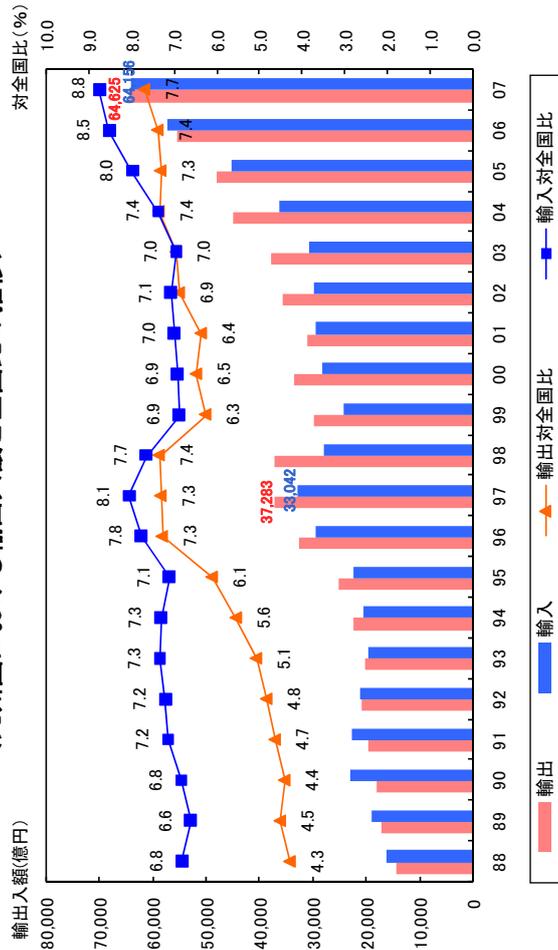
### 【汎アジア鉄道】

アジア諸国の相互間およびアジアとヨーロッパを接続するために、アジア・ハイウェイとともにESCAPがアジア陸上交通インフラ計画 (ALTID) に位置づけた鉄道路線網で、総延長は約81,000kmに及ぶ。  
 ESCAPは主な4つの回廊 (北部、南部、南北、アセアン) について調査・研究や試運転を進めている。

グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応  
 (世界第3の極となる東アジアと一体的に発展する九州圏の形成 (その1))

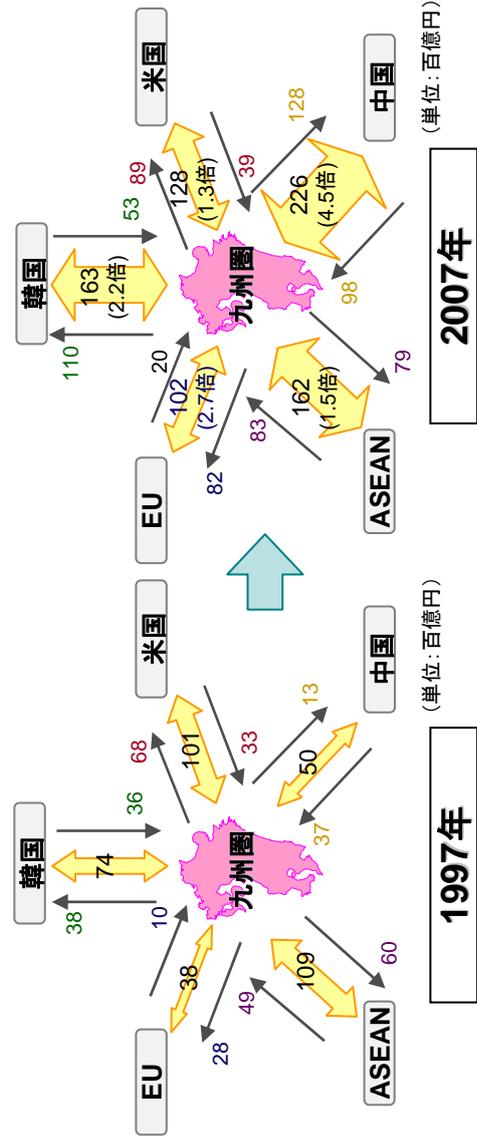
・九州圏では、1997年から10年間で貿易額が約1.8倍に拡大し、そのうちアジアの貿易額は約2.4倍に上昇している。

＜九州圏における輸出入額と全国比の推移＞



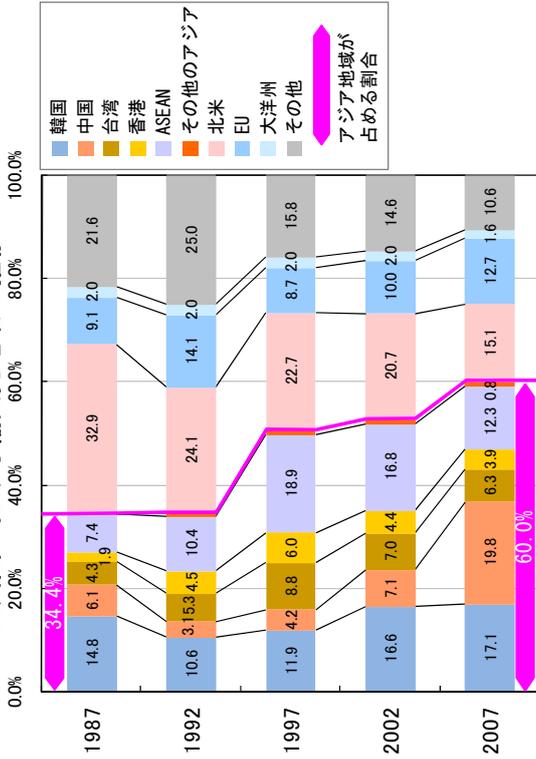
出典) 貿易統計 (財務省)、九州アジア国際化レポート2008 (九州経済産業局)

＜九州圏における輸出入動向 (1997-2007)＞



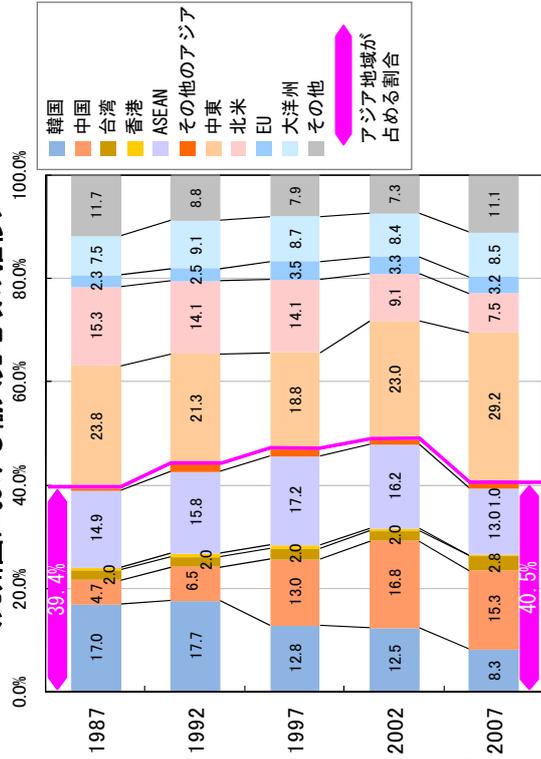
出典) 九州アジア国際化レポート2008 (九州経済産業局)

＜九州圏における輸出先地域の推移＞



出典) 九州アジア国際化レポート2008 (九州経済産業局)

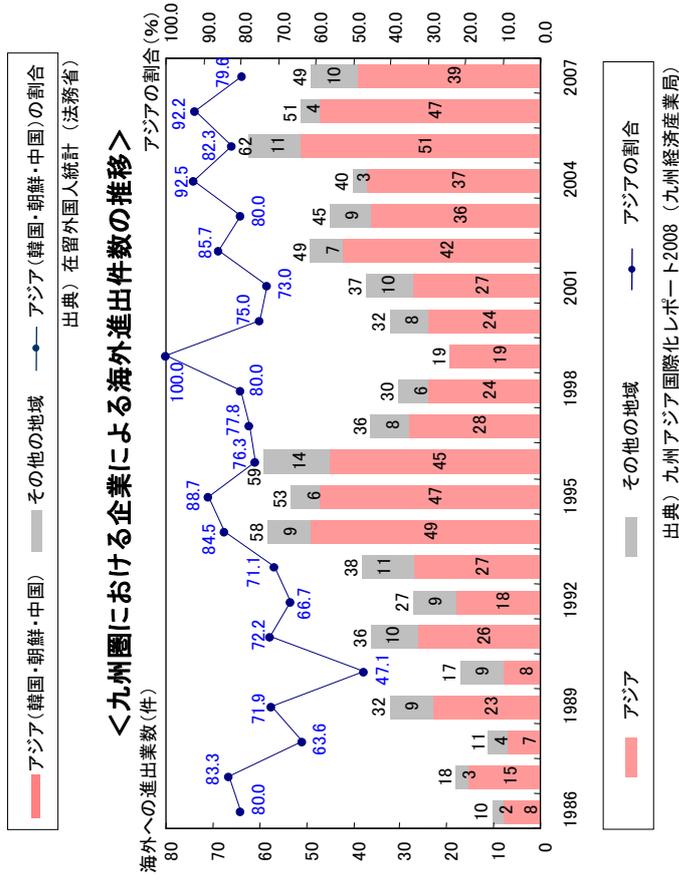
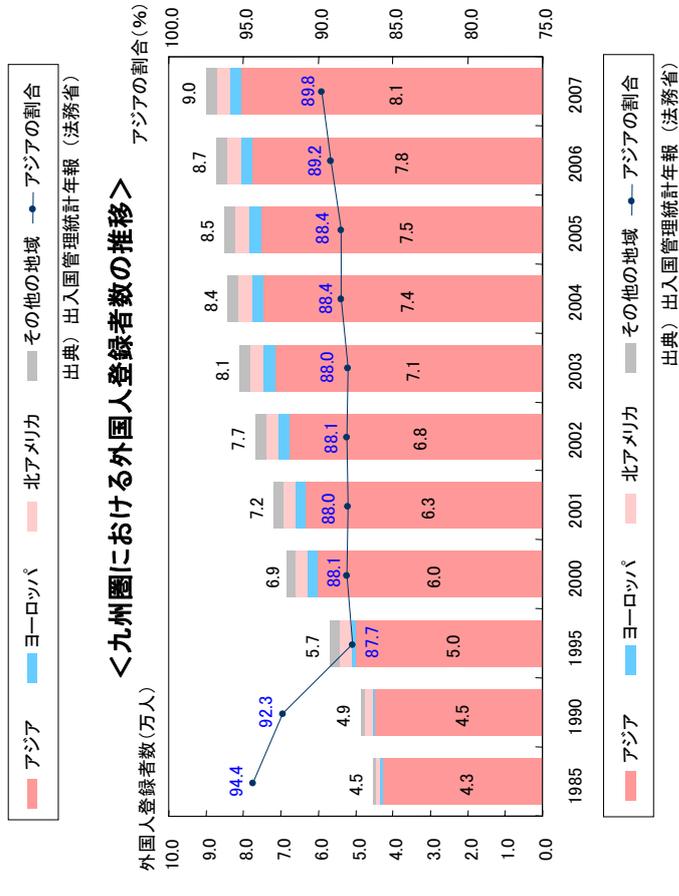
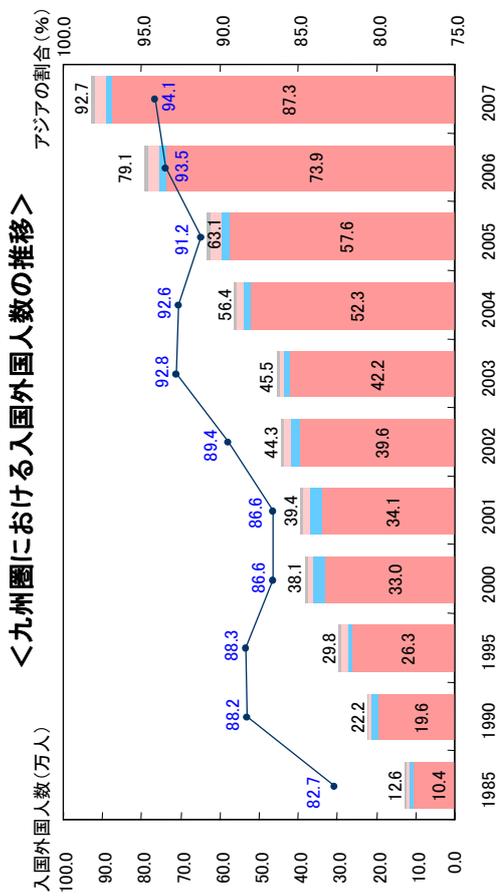
＜九州圏における輸入先地域の推移＞



出典) 九州アジア国際化レポート2008 (九州経済産業局)

## グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応 (世界第3の極となる東アジアと一体的に発展する九州圏の形成 (その2))

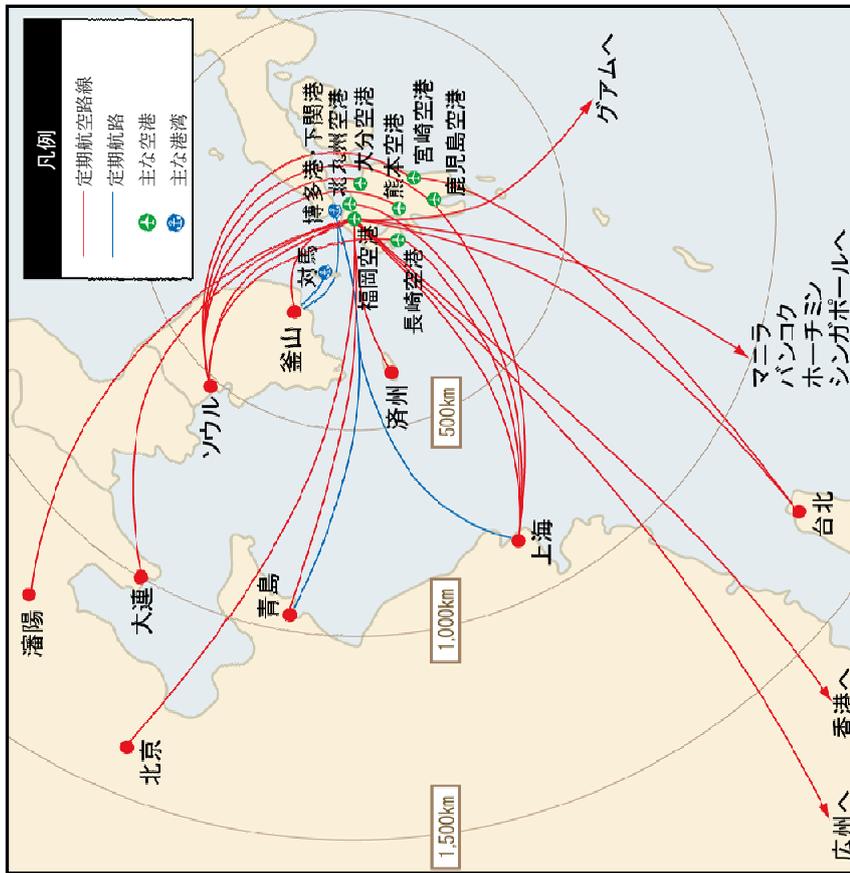
・九州圏では、入国外国者数の約9割、外国人留学生数の約8割、企業による海外進出数の約8割をアジアが占めるまでに関係を深めつつある。



グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応  
(世界第3の極となる東アジアと一体的に発展する九州圏の形成 (その3))

- ・アジアとの活発な交流を背景として、九州圏における国際旅客・物流の需要動向は着実に増大かつ多様化している。
- ・とりわけ、外資コンテナのアジア航路における貨物量は、1995年からの10年間で約2倍に増加している。

<東アジアとの航空路線・海上旅客航路ネットワーク>



出典) 各港湾・空港ホームページを基に作成

【ジェットfoil (博多港)】

博多-釜山間では、日5~8便の高速艇が就航しており、両都市間を2時間で結んでいる。

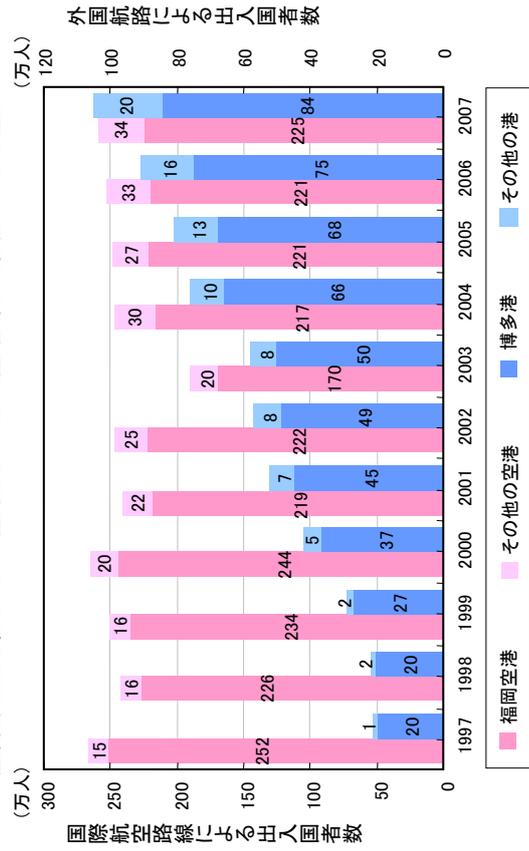


【上海スーパーエクスプレス (博多港)】

博多-上海間を週2便、約28時間で結んでおり、博多港を出港した翌日には、上海での納入が可能となるため、輸出促進が期待されている。

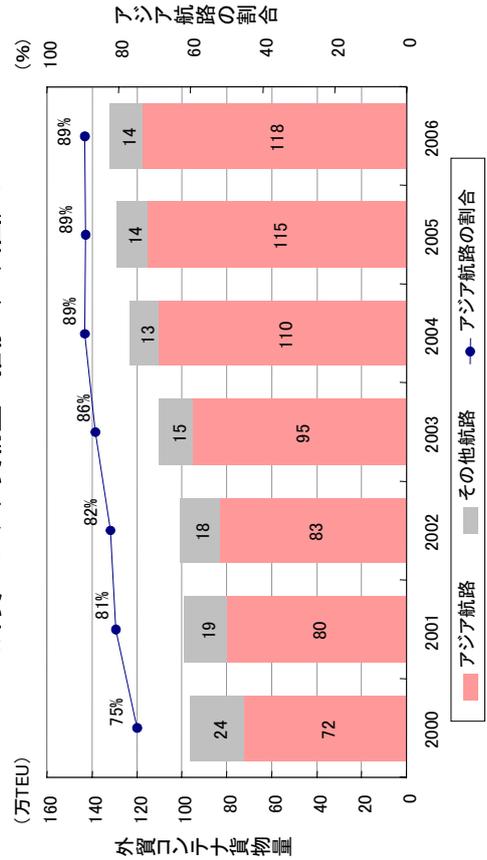


<国際航空路線及び外国航路の出入国者数の推移 (九州圏)>



出典) 出入国管理統計年報 (法務省)

<外資コンテナ貨物量の推移 (九州圏)>

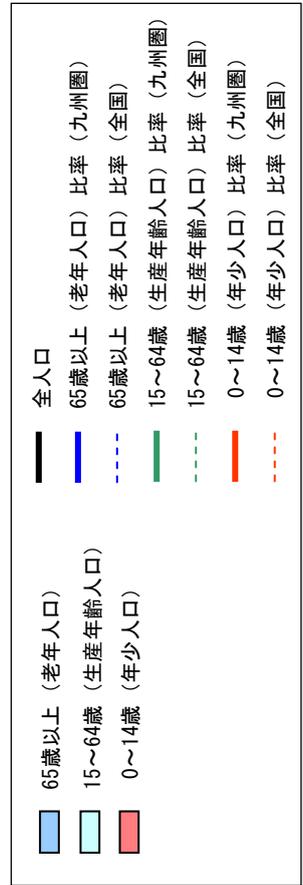
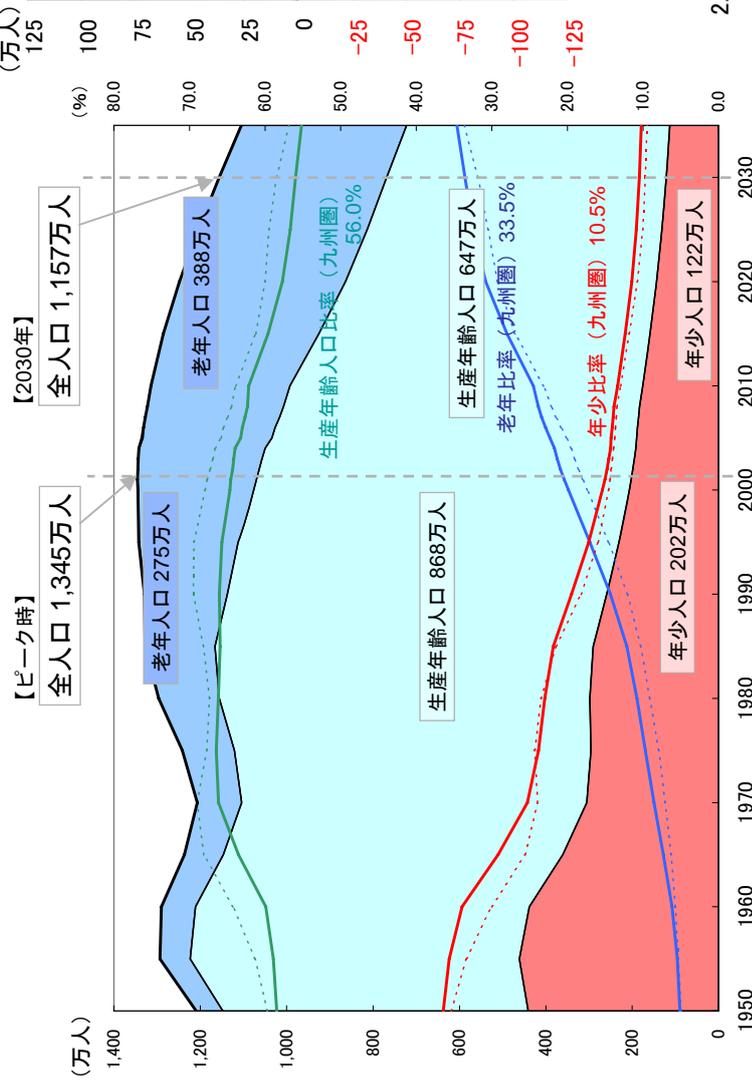


出典) 九州地方整備局資料

## 本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展

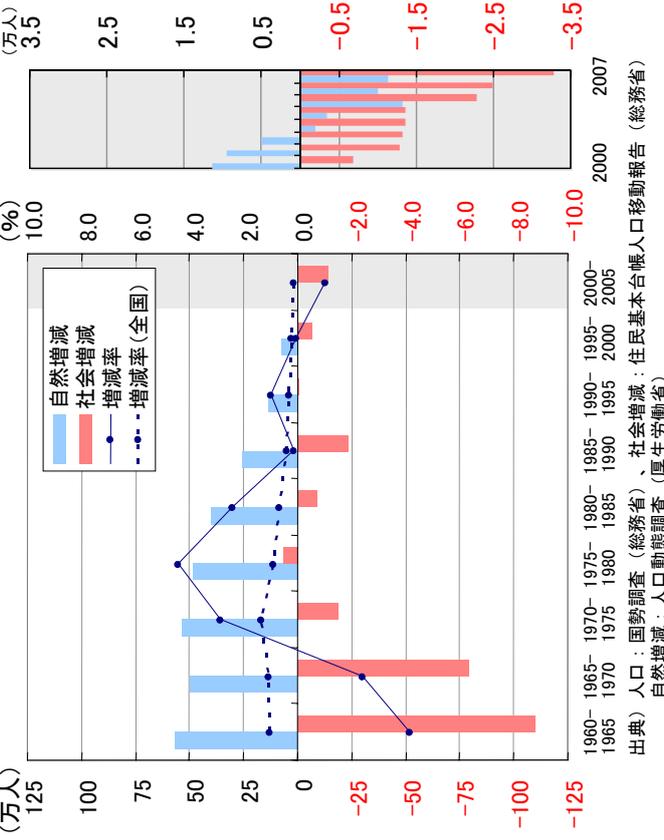
- 九州圏の総人口は、2001年の約1,345万人から減少局面に入り、2030年には約1,157万人まで減少すると推計されている。
- 総人口に占める高齢者の割合は、2005年の約22%程度から2030年には約34%まで上昇すると推計されている。
- 九州圏における人口の自然増減は、2003年にマイナスに転じ、県別の合計特殊出生率も減少する傾向にある。

<九州圏における将来人口・年齢人口の推移と推計>

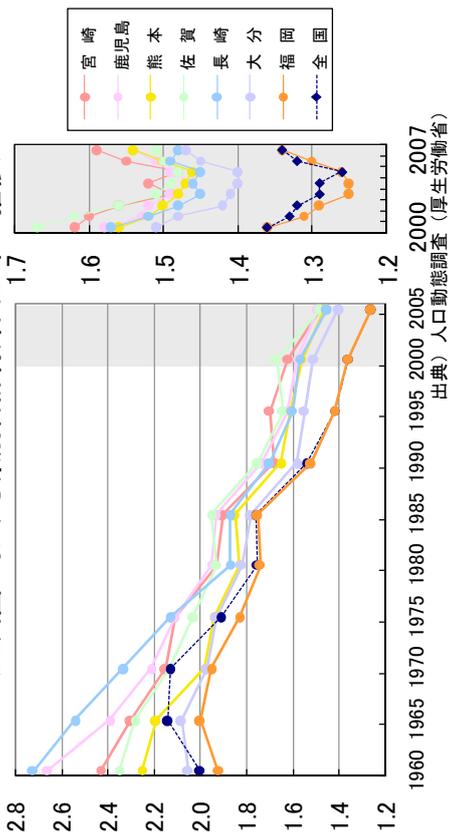


出典) 1950～2005実績値：国勢調査(総務省)、我が国の推計人口(総務省)  
将来推計値：都道府県別将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)(2007年5月推計)

<九州圏における人口自然増減・社会増減の推移>



<九州圏における県別合計特殊出生率の推移>

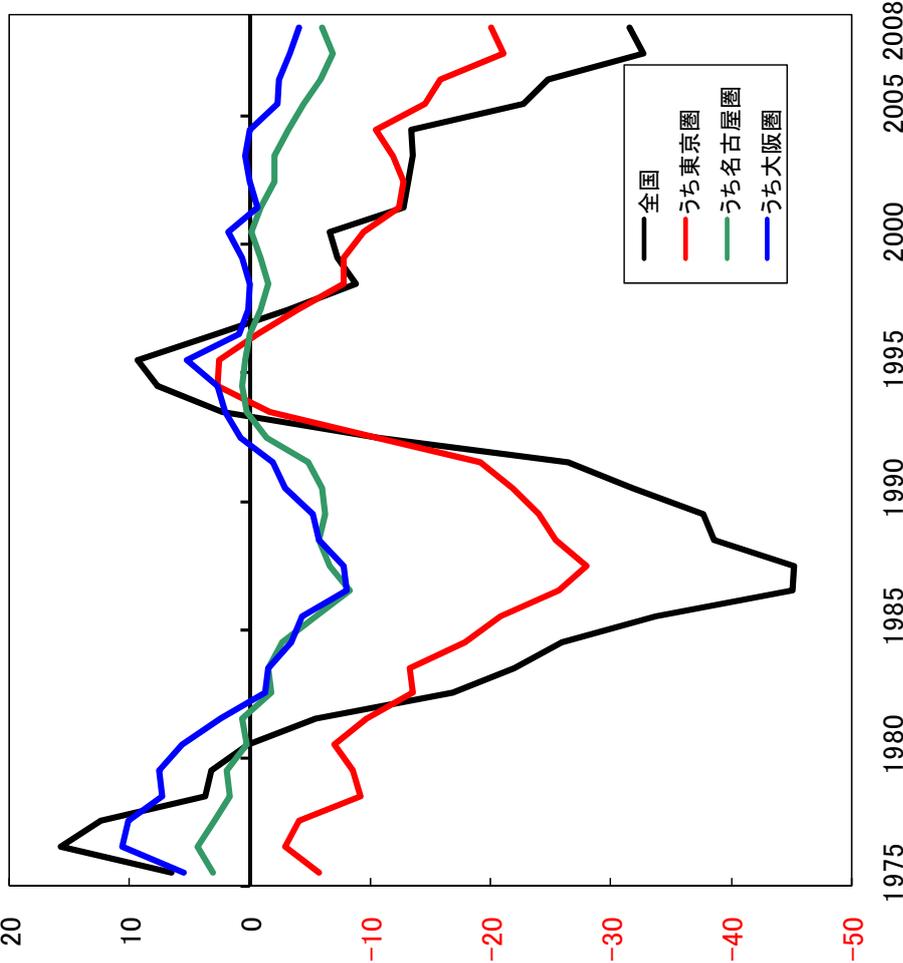


出典) 人口動態調査(厚生労働省)

本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展  
 (九州圏の自立的な発展を実現する新たな圏土構造の構築 (その1))

- 九州圏における転入（転出）の状況は、1993年から転入超過に転じ東京圏への一極集中に是正がみられたものの、1997年以降は東京圏を中心として転出超過となり、近年では拡大する傾向にある。
- 九州圏内における県別の転入（転出）状況は、九州各県から福岡県への転出超過がみられ、人口が集中する傾向にある。

(千人) <九州圏における転入超過（転出超過）>



出典) 住民基本台帳人口移動報告 (総務省)  
 ※東京圏 : 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県  
 ※名古屋圏 : 愛知県、岐阜県、三重県  
 ※大阪圏 : 大阪府、兵庫県、京都府、奈良県

<九州各県における転入（転出）の状況>

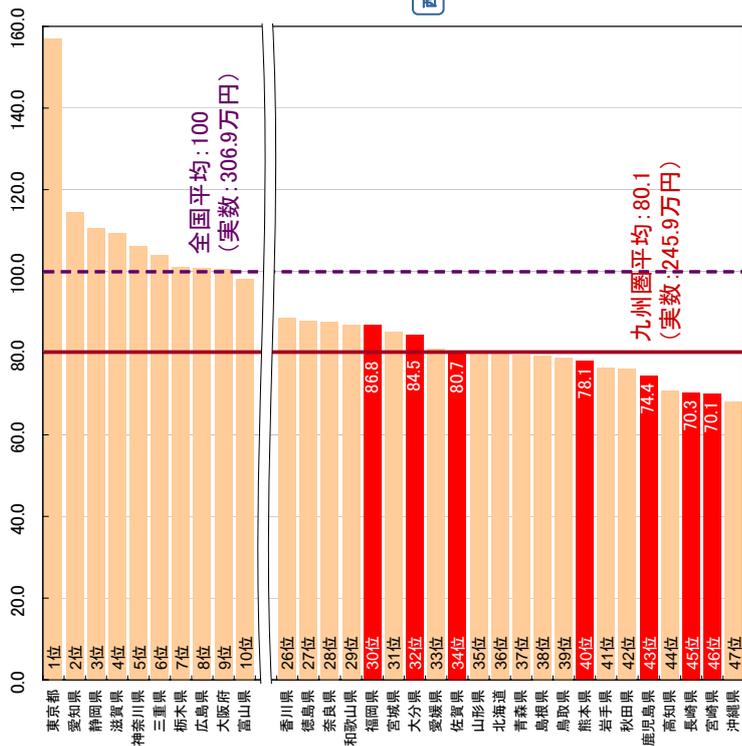


出典) 住民基本台帳人口移動報告 2008 (総務省)  
 ※転入(転出)超過は±500人以上を表示  
 ※2008年の1年間の転入(転出)超過数を示す

本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展  
(九州圏の自立的な発展を実現する新たな圏土構造の構築 (その2))

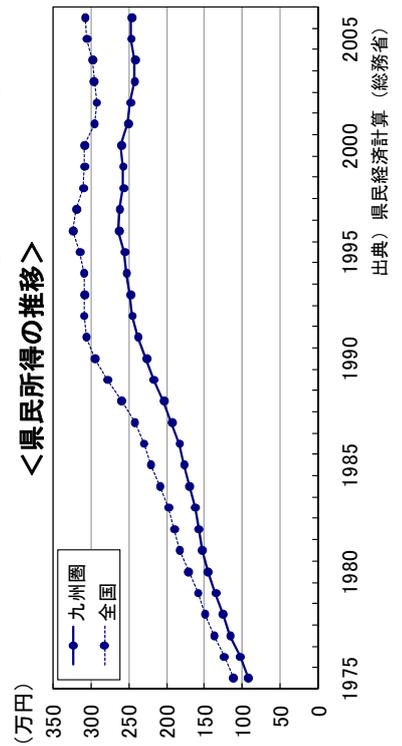
- 一人当たりの県民所得では、2006年度は全国100に対して80.1と低く、2002年から格差が拡大する傾向にある。
- 九州圏内においても東西・南北の地域間格差が見られる。

<一人当たりの県民所得 (全国=100) >



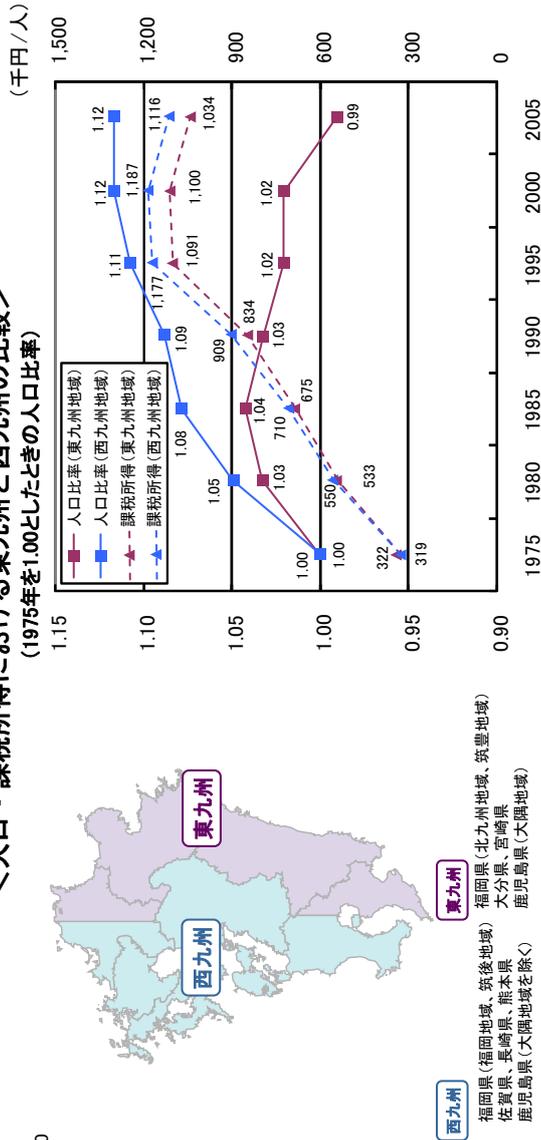
出典) 県民経済計算2006年 (総務省)

<県民所得の推移>

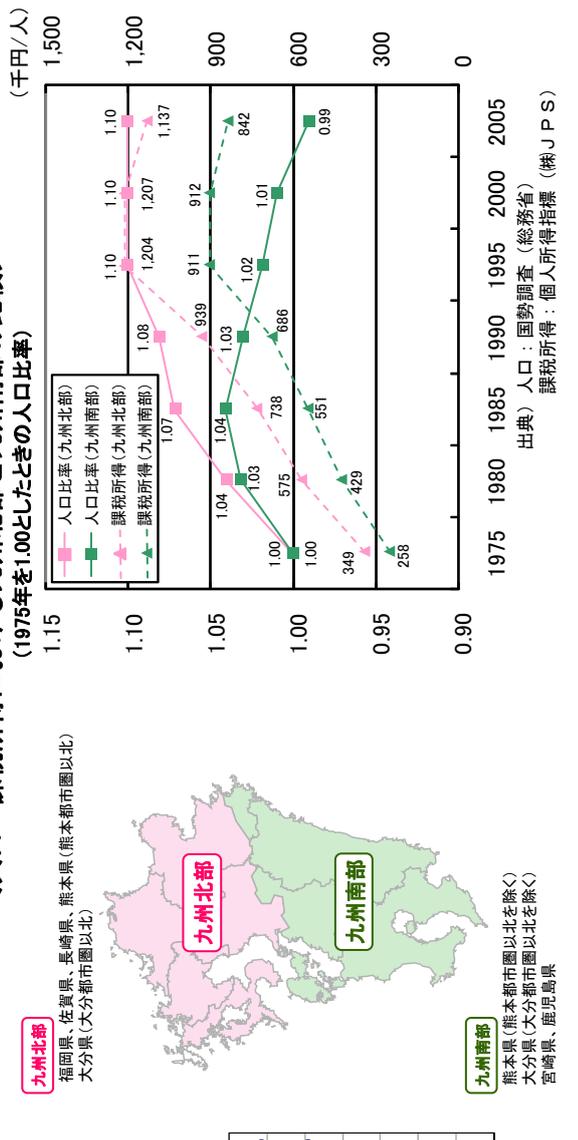


出典) 県民経済計算 (総務省)

<人口・課税所得における東九州と西九州の比較>



<人口・課税所得における九州北部と九州南部の比較>



出典) 人口：国勢調査 (総務省)  
課税所得：個人所得指標 (総務省)

＜参考資料＞第2章第2節関係

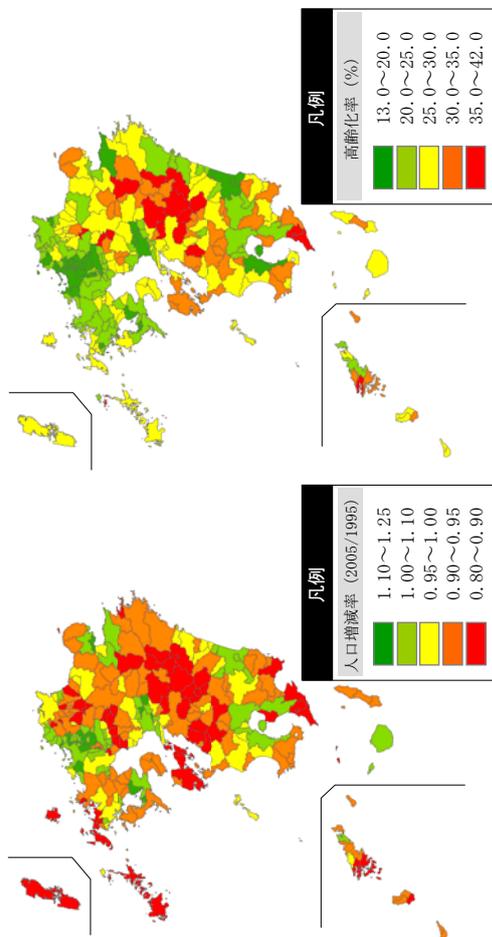
＜九州圏の現状と課題 2-10＞

本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展  
（九州圏の自立的な発展を実現する新たな圏土構造の構築（その3））

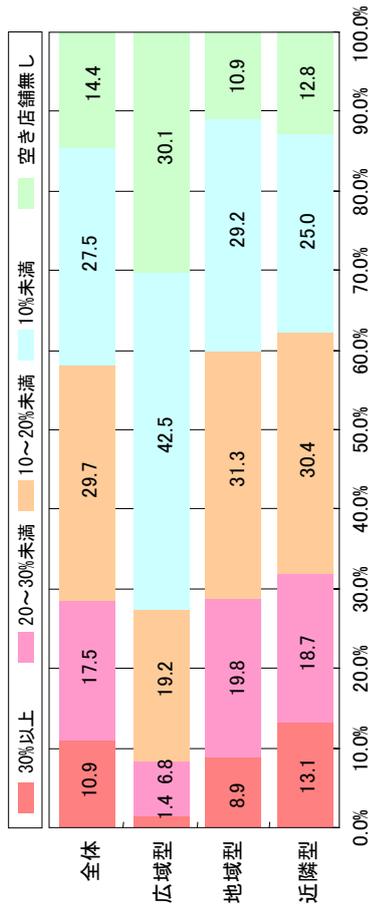
- ・ 中小都市や農山漁村等を中心として、人口減少・少子高齢化が著しく進行している。
- ・ また、広域型商店街の空き店舗率は低く、にぎわいある中心市街地を形成している一方で、地域型、近隣型商店街の空き店舗率は高く、中心市街地の衰退を始めとした地域活力の低下が課題となっている。

＜九州圏における人口増減率と高齢化率（市町村別）＞

【市町村別人口増減率(1995～2005年)】 【市町村別高齢化率(2005年)】



＜九州圏における商店街タイプ別の空き店舗率（2003年）＞



0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

広域型：最寄品より買回りが多い又は又は中心で、都市百貨店、量販店等があり、鉄道・地下鉄等により月間性の買物をしたり、遠距離からの来街者が買物をする商店街  
地域型：最寄品及び買回りが混在し、小型百貨店、衣料スーパー等があり、バス、鉄道などにより週間性の買物をする商店街  
近隣型：最寄品中心で、地元主婦等が日用品などを徒歩又は自転車などにより、日常的な買物をする商店街

出典：空き店舗対策に関する調査結果（2004年6月）（九州経済産業局）

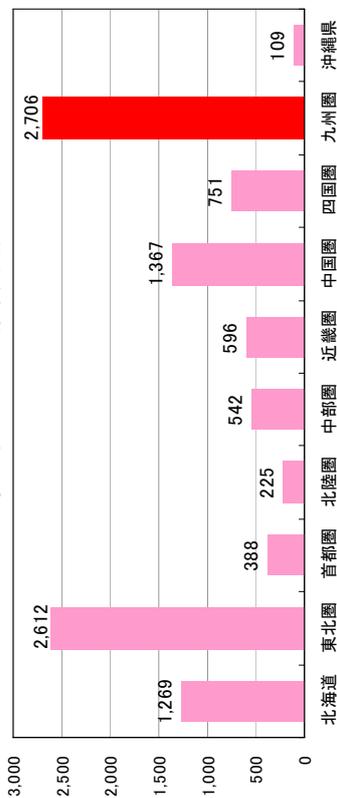
【にぎわいあふれる商店街（広域型）（鹿児島市中央地区商店街）】



鹿児島市の天文館地区商店街では、南九州随一の商業・飲食・娯楽施設を擁する広域型商店街として、にぎわいある商店街を形成してきた。

近年では、新幹線の部分開業、鹿児島中央駅やウォータフロントにおける大型商業施設の整備などにより、県内外を始め、新たな交流が生まれつつある。

＜過疎地域の人口（圏域別）＞



出典：国勢調査（総務省）  
※人口増減率＝（2005年人口/1995年人口）  
※高齢化率＝全人口に占める65歳以上人口の割合

出典：全国過疎地域自立促進連盟ホームページより

※2009年4月時点における過疎地域自立促進特別措置法における過疎地域市町村をH17国勢調査人口で集計

※過疎地域とは一定の人口減少率、財政力指数等を満たす市町村（過疎法第2条、第32条、第33条、過疎法施行規則）

【まちづくりと一体となった商業活動（地域型）（豊後高田市内8商店街）】



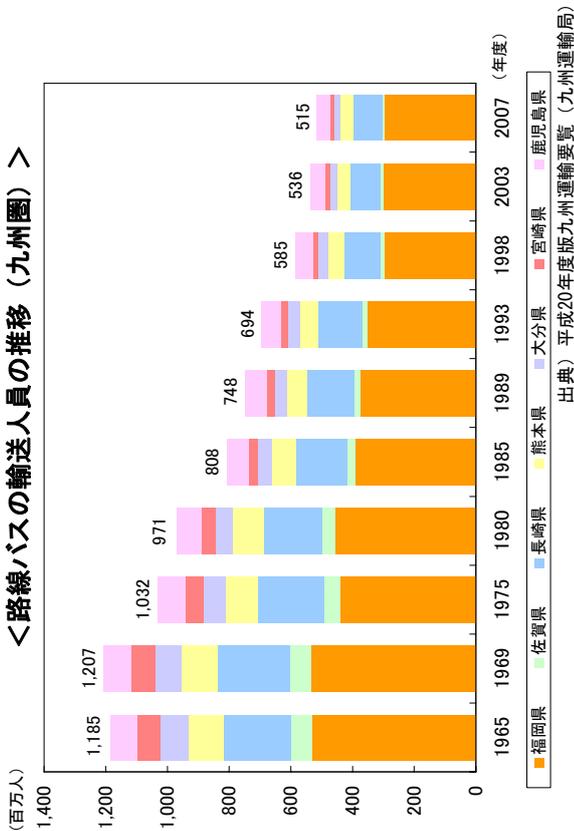
豊後高田市の8つある商店街は、江戸時代から商業中心地として栄えたが、昭和30年代以降、人口減少、宇佐参宮鉄道の廃線等により急速に衰退した。

このため、商工会議所、行政、商業者が一体となり、ブリキ製看板への改修、珍しい道具の展示等による活気ある昭和の商店街の再生を進めている。

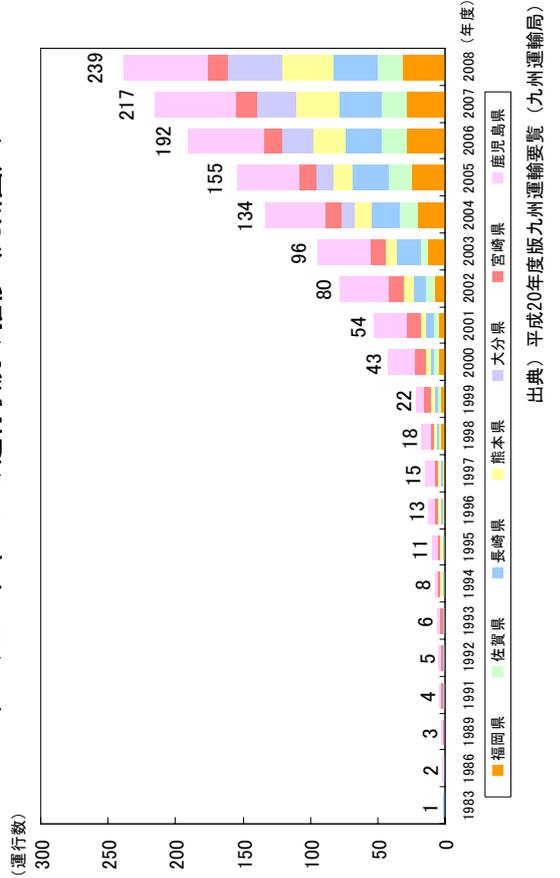
## 本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展 (九州圏の自立的な発展を実現する新たな圏土構造の構築 (その4))

- 九州圏における路線バスの輸送人員は、1969年をピークに減少に転じており、近年では民間事業者による不採算路線からの撤退が相次いでいる。
- 一方で、利用者の利便性を考慮し、多様化する需要に対応できるコミュニティバスの運行が各地で進められている。

### <路線バスの輸送人員の推移 (九州圏) >



### <コミュニティバスの運行状況の推移 (九州圏) >



### 【コミュニティバスによる乗合運行 (路線定期運行)】

路線を定めるとともに設定する運行系統の起終点及び停留所の時刻設定が定時の運行形態である路線定期運行バスは、主に市街地で運行されている。福岡県大野城市では、車両を市が保有して運行をバス事業者が行う方式により、平成15年3月から鹿児島本線より北側地域の4路線においてコミュニティバス「まどか号」を運行している。



### 【コミュニティバスによる乗合運行 (路線定期運行：曜日指定)】

人口密度が少ない地域においても、路線定期運行バスが曜日指定で運行されている。大分県宇佐市では、通院福祉バスを再編し、平成19年7月から20路線においてコミュニティバス「ふれあい号」を運行している。最寄りの路線バスあるいはコミュニティバスの路線までのシヤトル便(無料)を合わせて運行させ、重複ルートのある路線を統合することで運行コストの削減を図っている。



### 【タクシー車両による乗合運行 (区域運行)】

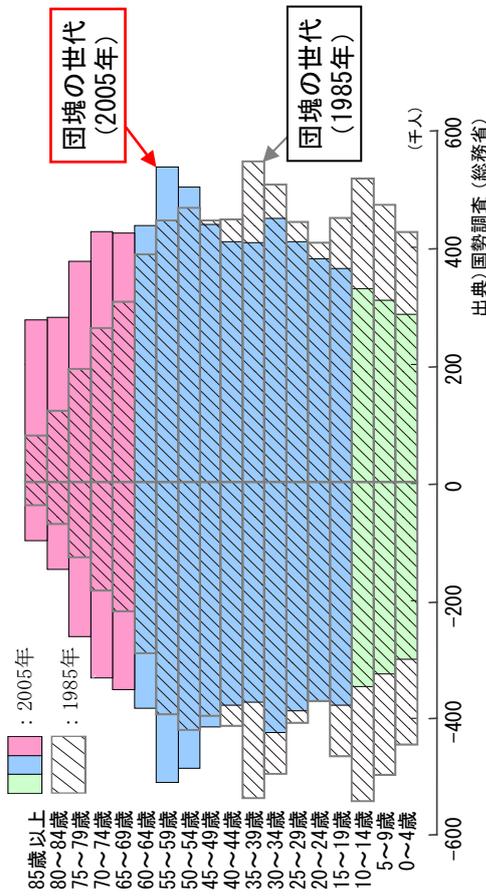
路線を定めず、旅客の需要に応じた乗合運行を行う運行形態(デマンド運行)である区域運行は、主に集落が散在する地域において運行されている。熊本県菊池市では、公共交通空白地域と中心市街地を結ぶため、平成16年2月から事前予約制の乗合タクシーを運行している。自宅までの送迎が可能であり利用者は希望時間帯を選ぶことができ



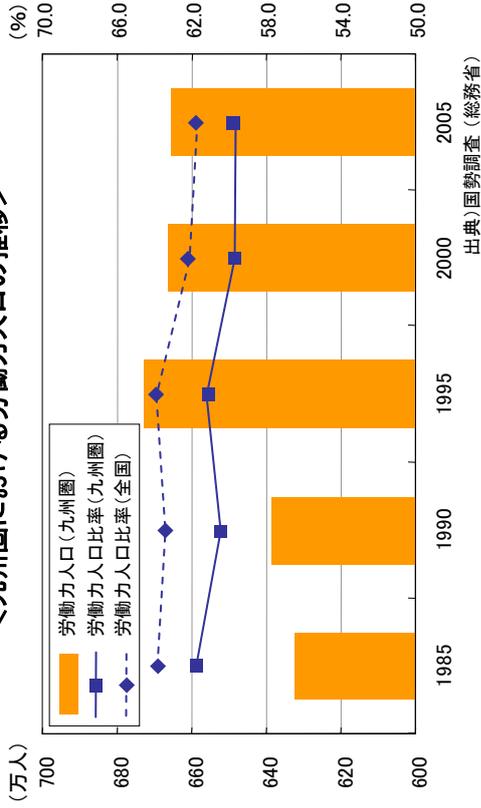
本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展  
(人口減少社会における安定した経済成長と人材の確保(その1))

- 人口減少・少子高齢化の進行は、団塊の世代の2007年頃の一斉退職や高学歴化とあいまって、急速な労働力人口の減少をもたらすと見込まれている。
- また、2000年代前半まで就職氷河期と言われた雇用情勢は、2005年には有効求人倍率が上昇するなど一時好転したが、世界的な経済危機による影響等を受け、再び厳しい状況となっている。

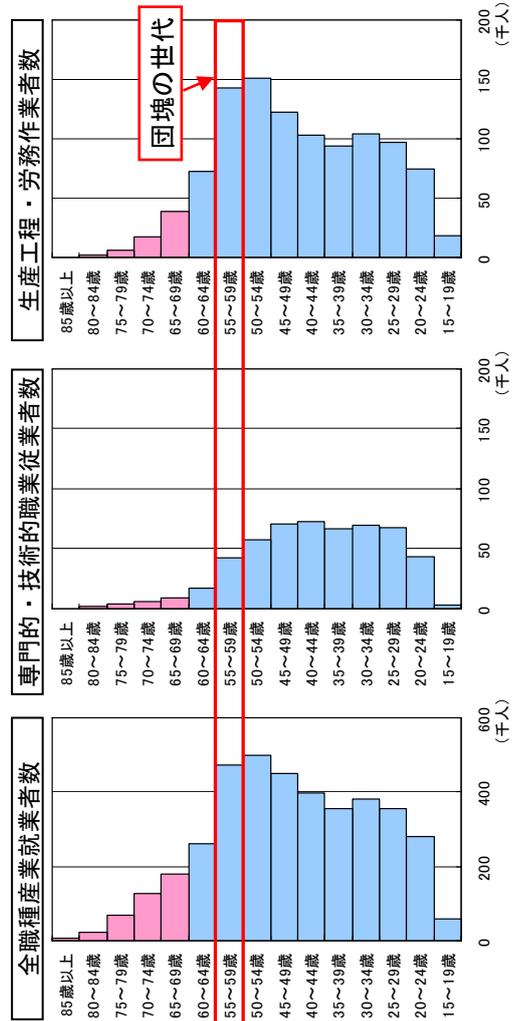
<九州圏における人口ピラミッド>



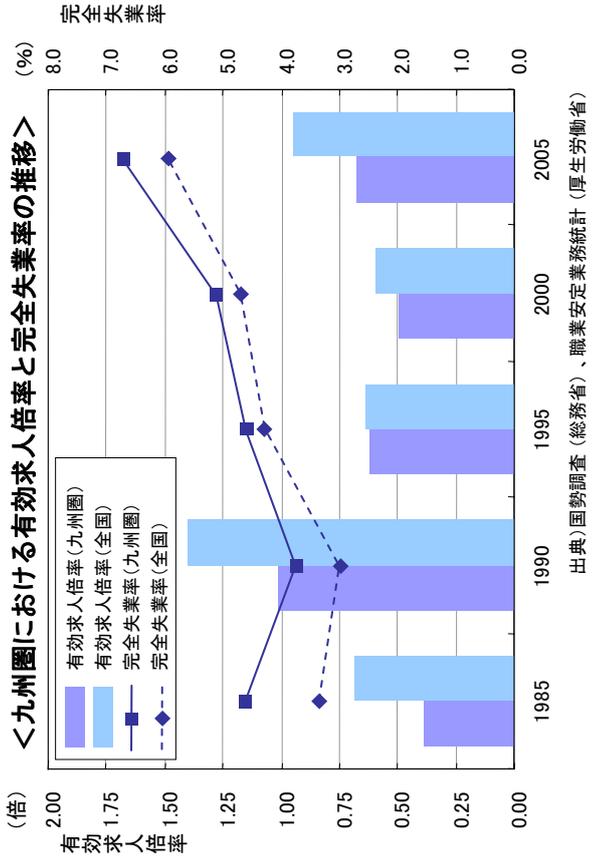
<九州圏における労働力人口の推移>



<九州圏における職業別就業者の人口ピラミッド(2005年)>



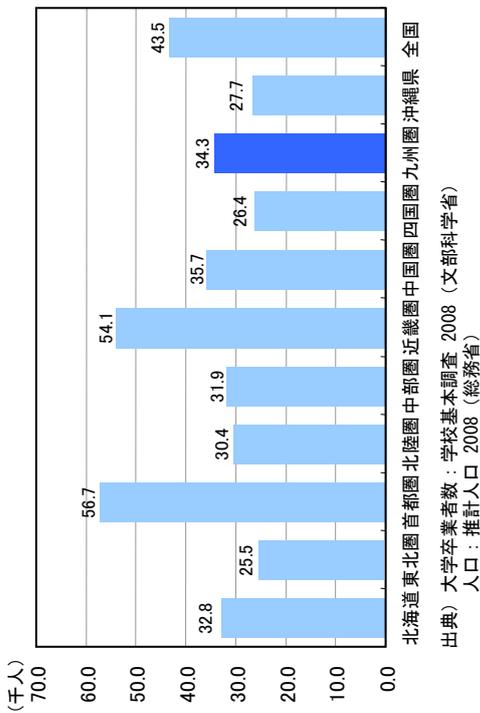
<九州圏における有効求人倍率と完全失業率の推移>



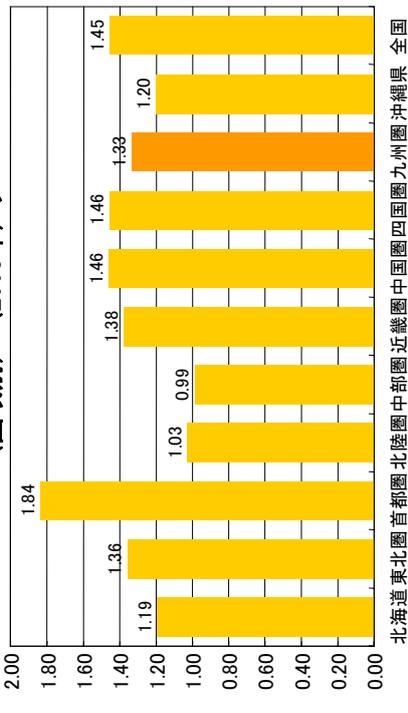
## 本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展 (人口減少社会における安定した経済成長と人材の確保 (その2))

- ・人口1万人当たりの大学卒業生数は全国平均より少ない一方で、大学等1校当たりのベンチャー企業数は全国平均に近い数を持っている。
- ・人口10万人当たりの特許登録件数は全国平均より低い一方で、大学等1校当たりの産学連携等実施数は全国平均に近い数が行われている。

<人口1万人当たりの大学卒業生数 (圏域別) (2008年) >



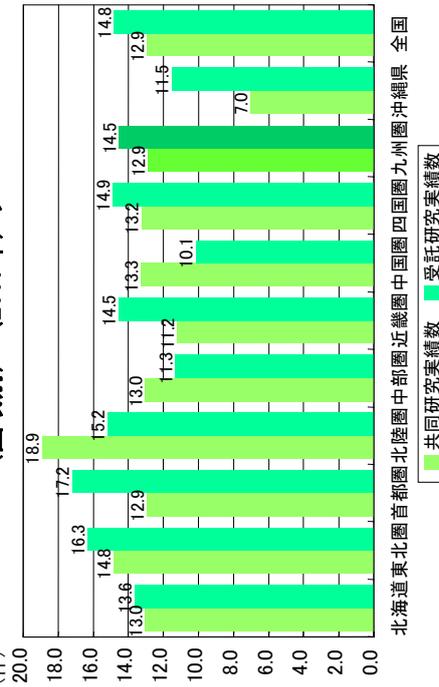
<大学・大学院・短大・高専1校当たりの大学発ベンチャー企業数 (圏域別) (2008年) >



<人口10万人当たりの特許登録件数 (圏域別) (2008年) >



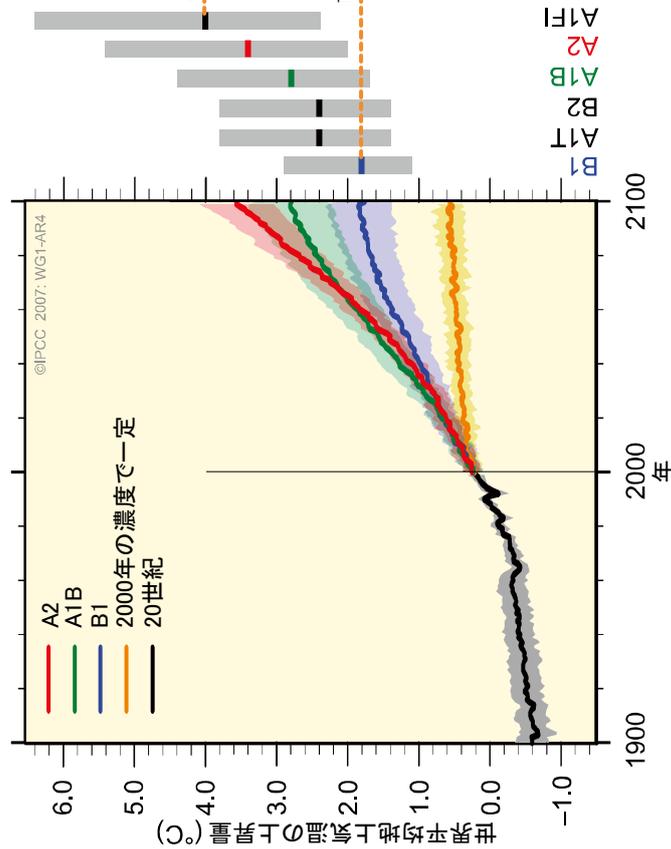
<大学・大学院・短大・高専1校当たりの産学連携等実施数 (圏域別) (2007年) >



# 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応（その1）

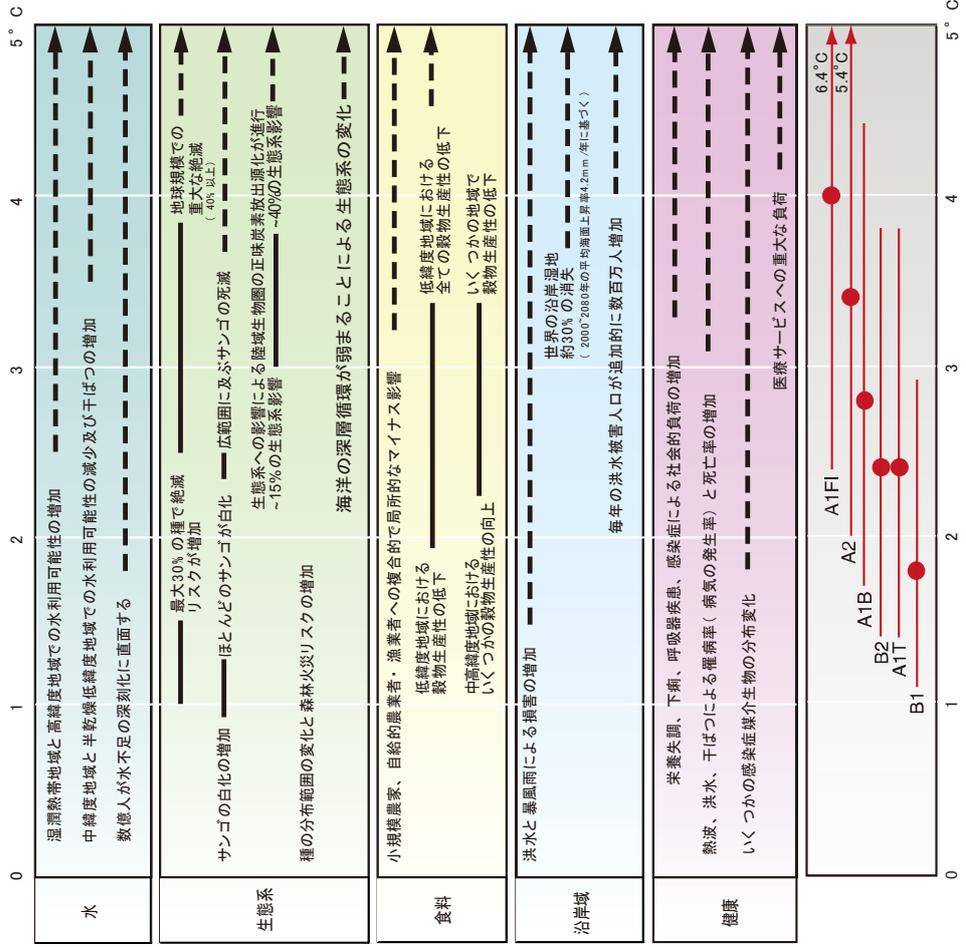
・近年の地球温暖化の進行により、世界各地で気温・海面の上昇、大雨・高潮、干ばつ等の発生頻度が増加し、今後、広範な地域に影響を及ぼすと予想される。

<将来の気温上昇の予測>



A1: 高成長型シナリオ  
 A1F1: 化石エネルギー源を重視  
 A1T: 非化石エネルギー源を重視  
 A1B: 各エネルギー源のバランスを重視  
 A2: 多元化社会シナリオ  
 B1: 持続的発展型社会シナリオ  
 B2: 地域共存型地域シナリオ

<気温上昇に伴う主要な影響>



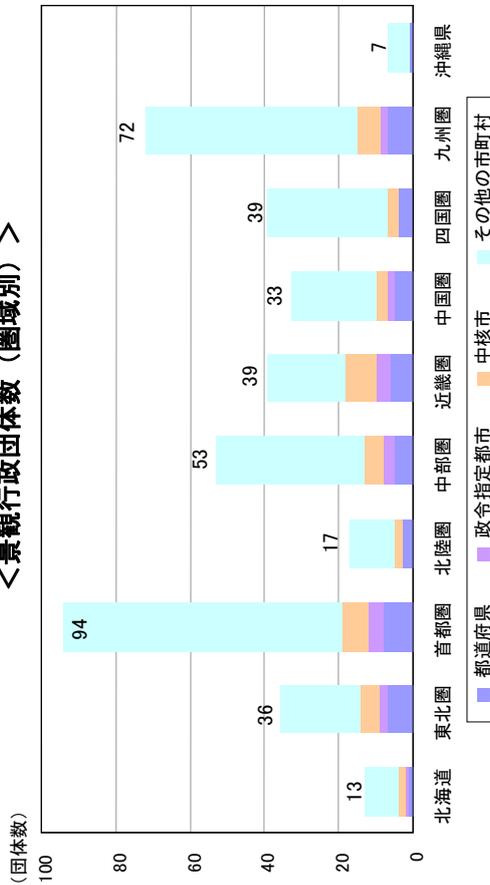
出典) 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 「第4次評価報告書第1作業部会報告書政策決定者向け要約」  
 ※実線は、各シナリオにおける複数のモデルによる地球平均地上気温の昇温を示す  
 ※陰影部は、個々のモデルの年平均値の標準偏差の範囲

出典) 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 「第4次評価報告書第1作業部会報告書政策決定者向け要約」

## 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応（その2）

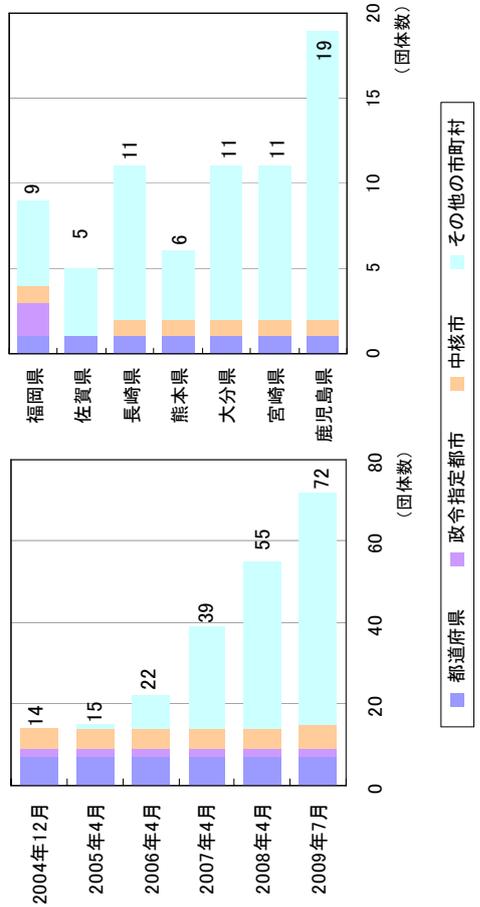
- 九州圏では景観法に基づく景観行政団体が、首都圏に次いで2番目に多く、景観への関心が高い圏域といえる。
- 九州圏における景観行政団体は、年々、着実に増加しており、地方公共団体の区域を超えた広域的な景観形成への取組も各地に進められている。

### <景観行政団体の数（圏域別）>



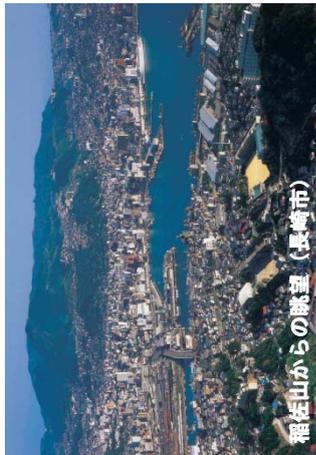
※景観行政団体：景観法（平成16年法律第110号）に基づく景観行政を担う主体のことで、同法に基づき各種施策（景観計画など）を活用できる。  
出典）国土交通省資料（H21.7.1現在）

### <九州圏における景観行政団体の推移および各県別の景観行政団体の数>



出典）国土交通省資料（H21.7.1現在）

### 【都市景観の形成（長崎市）】



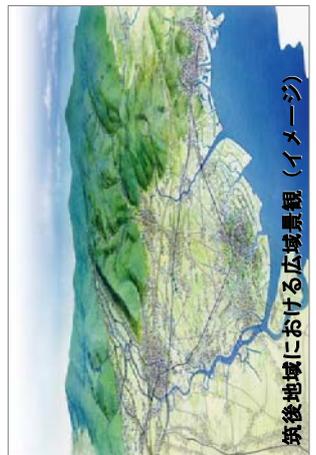
長崎市は、鎖国時代に西洋に開かれた窓口として栄え、特異な歴史と文化を育んできた町であり、リアス式地形による緑の丘に囲まれた天然の良港や、山の斜面に沿って建てられた住宅など、まちと自然がおりなり特有の景観を有している。  
このため、1988年12月に「長崎市都市景観条例制定」を制定し、現在までに、外国人居留地として整備された東山手・南山手地区を始めとする市内5地区において、景観上重要な地区として指定し、都市景観の形成に取り組んでいる。

### 【沿道景観の形成（宮崎市）】



宮崎市は、戦前から南国情緒あふれる観光地づくりが進められるなか、日本初のロードパーク構想により、ワシントンヤシやアエニックスなどの植栽による特徴的な沿道修景が進められてきた。昭和44年9月には全国に先駆けて「宮崎県沿道修景美化条例」が制定され、市内の主要な幹線道路に様々な花木類が植栽されるなど、宮崎らしい、美しい沿道景観の形成が図られた。  
平成19年10月には、美しい自然と情景にまつまれの「九州一の景観都市」を目指し、景観形成のマスタープランとなる「宮崎市景観計画」を策定し、より美しい景観の実現を目的として、各種施策を推進している。

### 【筑後地域における広域景観の形成（福岡県・筑後地域16市町村）】

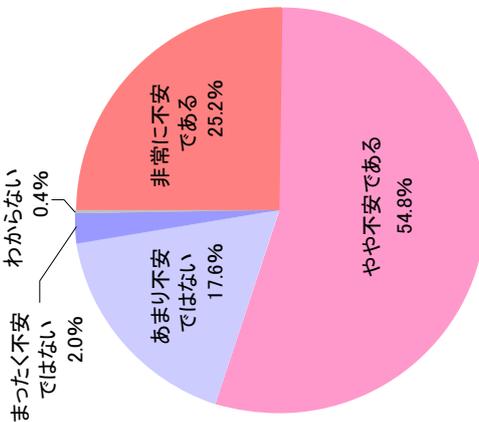


福岡県と筑後地域16市町村では、川や海、田園、山々など筑後特有の美しい景観を協働して守り育てていく「筑後景観のルールづくり」に取り組み、2006年5月に、景観づくりの基本理念である「筑後景観憲章」を制定した。この憲章のもと、地域団体・NPO、流域市町村、県、国の関係機関等のパートナーシップによる景観づくりの実現のため、広域景観の先行モデルとして取り組んできた「矢部川流域景観テーママ協定」が2007年5月に締結され、2009年3月には景観法に基づく「矢部川流域景観計画」が策定された。2009年5月には、「筑後川流域景観テーママ協定」も締結されている。

# 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応（その3）

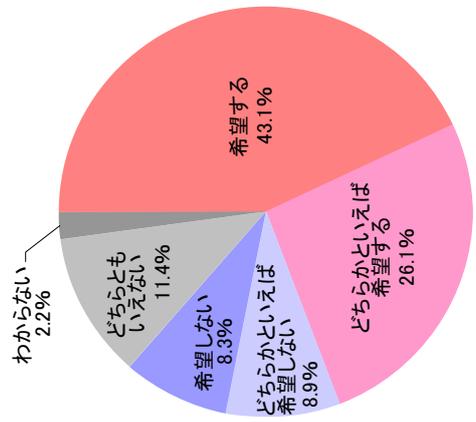
・近年では、牛海綿状脳症（BSE）などに対する食の安全性や高病原性鳥インフルエンザの発生、食品表示の偽装等の問題、建築物の耐震強度の偽装問題などを背景として、安全・安心に対する国民の意識が高まっている。

## <食品の安全性への不安感>



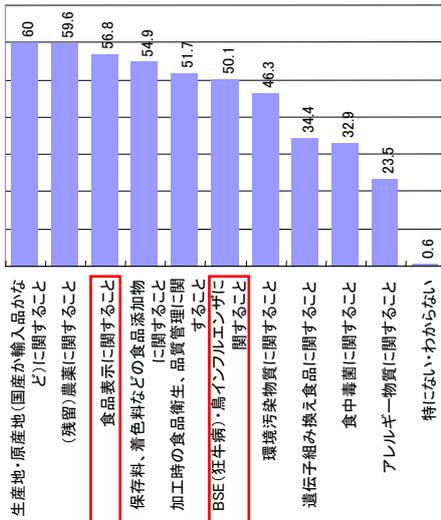
出典) 「食の安全」に関する調査 2008年 ((社)中央調査社)

## <住宅の耐震化の希望>



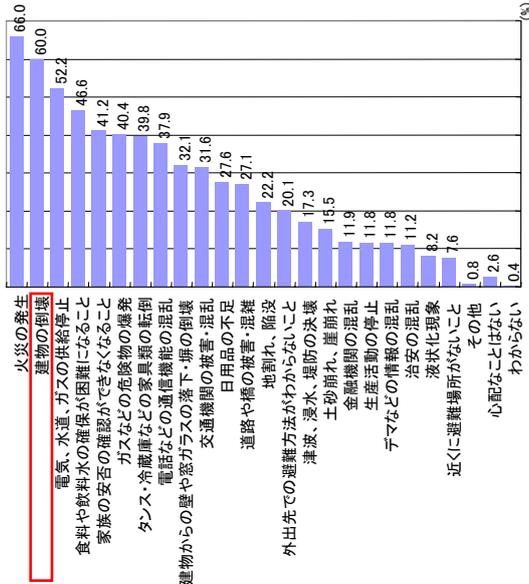
出典) 防災に関する世論調査 2002年 (総務省)

## <食品の安全性に不安を感じる事>



出典) 「食の安全」に関する調査2008年 ((社)中央調査社)

## <大地震が起こった場合に心配なこと>



出典) 防災に関する世論調査 2002年 (総務省)

## 【牛海綿状脳症（BSE）に対する食の安全性】



BSEスクリーニング検査

国内では、食用牛（21ヶ月齢以上）へのBSE検査やBSE病原体の99%以上が蓄積する特定部位の除去・焼却が行われており、2001年1月には、BSE高発生国である英国を含むEU諸国等からの牛肉等の輸入停止措置、2001年2月には牛肉等を原材料とする食肉製品についても輸入禁止措置がとられている。

九州各県では、食の安全確保と消費者不安の解消を図るため、と畜場に搬入される全ての牛についてBSEのスクリーニング検査を行い、陰性となった牛だけを市場に流通させており、20ヶ月齢以下の検査を対象とした国庫補助終了後の2008年8月以降も、引き続き全頭検査を実施している。

## 【高病原性鳥インフルエンザの発生】



防疫作業(宮崎県)

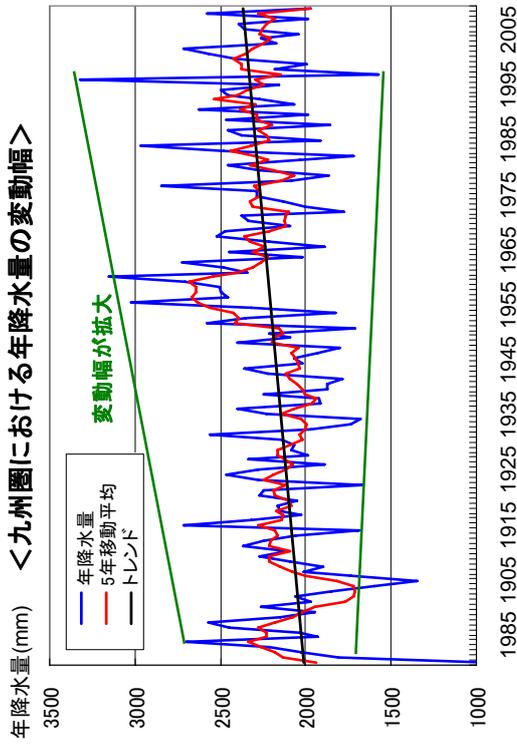
宮崎県において、2007年1～2月に3件(清武町、日向市および新富町)の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。

本病は、2004年に山口県において我が国では79年ぶりとなる発生が確認され、その他、大分県・京都府・大阪府(2004年)、茨城県・埼玉県(2005年)、岡山県(2007年1月)で発生が確認されている。

宮崎県では、農林水産省、県、市町等の連携のもと、速やかに発生農場の飼育鶏の隔離および周辺農場の飼育鶏の移動自粛が行われ、家畜伝染病予防法等に基づき、発生農場等における飼育鶏の殺処分や発生農場を中心とする半径10km以内の家さん等の移動制限等の防疫措置が講じられた。

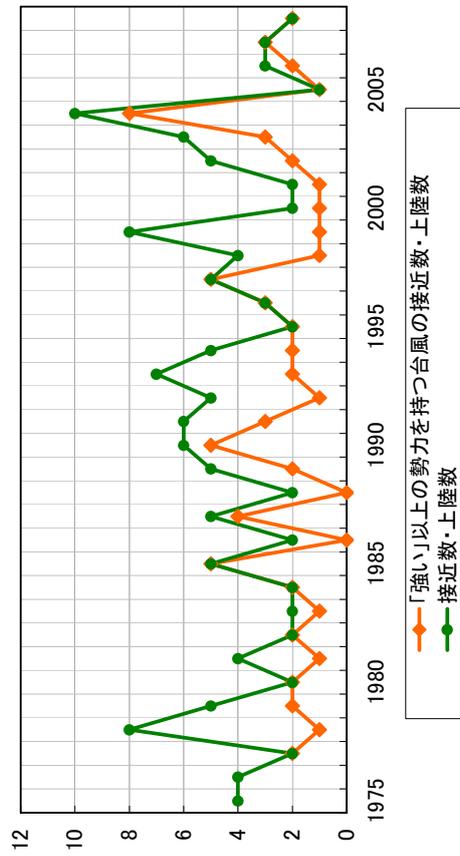
## 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応 (近年の気候変動等に対する柔軟な対応 (その1))

・九州圏では、近年、年降水量や台風の接近・上陸回数が増加傾向にあるとともに、集中豪雨の発生回数の増加や海面水位上昇もみられる。

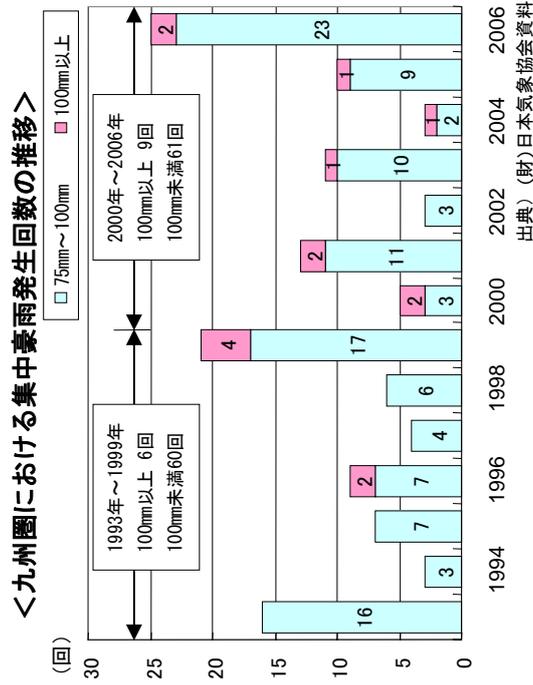


出典) 気象庁資料を基に九州地方整備局作成  
※九州の気象台・測候所における年間降水量を集計

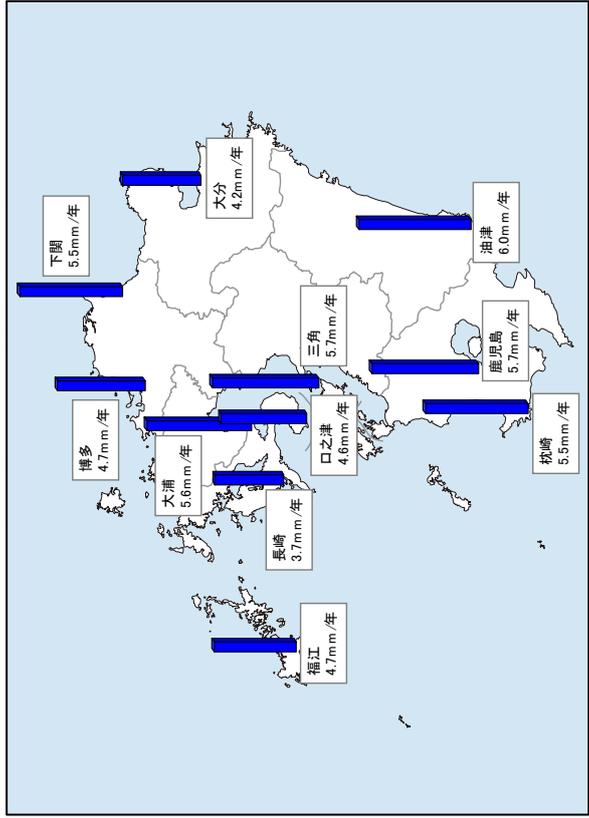
### <九州圏へ接近・上陸した台風の回数>



出典) ~2005: 異常気象レポート九州・山口県版 2006 (福岡管区気象台・長崎海洋気象台)  
2006~: 気象庁資料



### <1985~2005年の海面水位上昇率 (mm/年)>

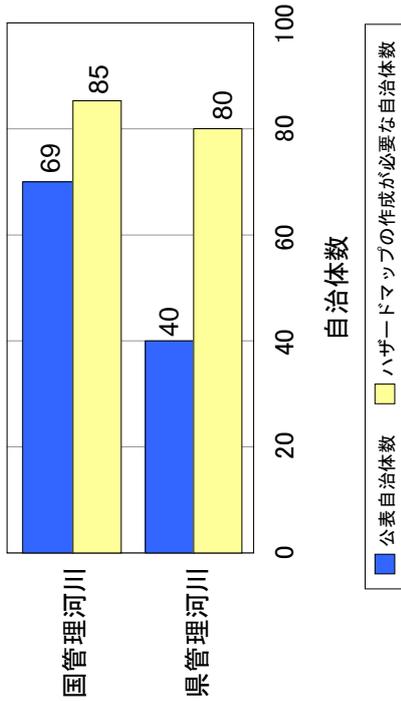


出典) 異常気象レポート九州・山口県版 2006 (福岡管区気象台・長崎海洋気象台)

## 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応 (近年の気候変動等に対する柔軟な対応 (その2))

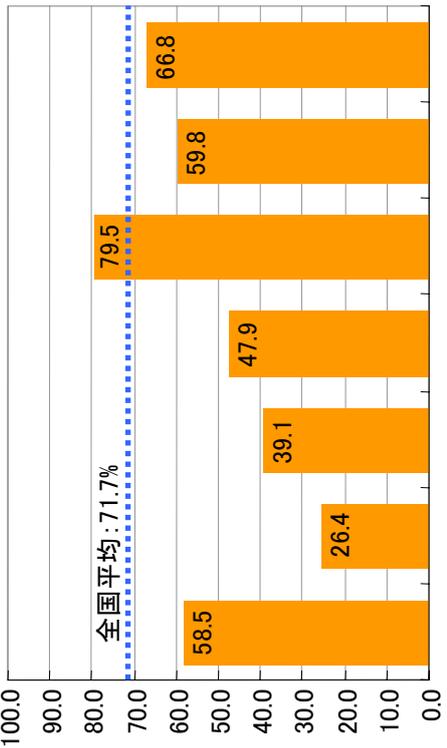
・災害に強い地域づくりに向けた総合的かつ柔軟な対応として、治水・治山等のハード対策だけでなく、ハザードマップの作成、自主防災組織の組織化などのソフト対策も進められつつある。

<九州圏におけるハザードマップ公表状況>



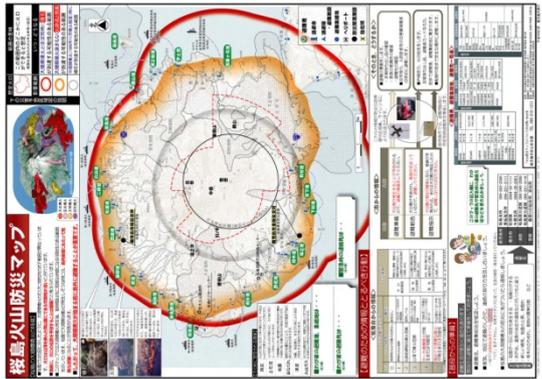
出典) 九州地方整備局資料 ※2009年3月末現在

<九州圏における自主防災組織の組織率>



出典) 平成21年版防災白書 (内閣府) ※2008年4月1日現在

### 【桜島広域火山防災マップ (鹿児島市)】



出典) 鹿児島市ホームページ

鹿児島市では、国・県・垂水市とともに、桜島における大規模噴火発生後において、救護時間以内に危険な状態になる可能性のある範囲を示した「桜島火山防災マップ」を作成・配布するなど、市民に広く啓発を行っている。  
噴火口の位置は、事前に予測が困難であるため、噴火が発生しそうな時は、島内全域にわたって危険な状態になることが予想されており、大規模噴火が始まる前に島外に避難するよう呼びかけている。

### 【自主防災組織の活動事例 (宮崎県延岡市)】



出典) 延岡市資料

自主防災組織は、災害対策基本法において「住民の隣保協同の精神に基づき自発的な防災組織」(第5条第2項)と規定されており、基礎的な地方公共団体である市町村がその充実に努めていくこととされている。  
延岡市では、平成18年に発生した台風13号竜巻災害により、市内各地に大きな被害(死者3名ほか負傷者多数)をもたらしたが、市内別府町では、平成14年に発生した旭化成レオナ工場火災を契機として定期的な防災訓練を実施していたことから、被災後、負傷者の救出や病院への搬送、炊き出しの実施などの迅速な対応を行うことができた。このため、市内において自主防災組織の重要性が認識され始め、大きな注目を集めたことから、平成17年度には53組織だった自主防災組織数が、平成19年11月には90組織と大幅に増加している。



# 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長（その2）

・まちづくりにから社会的サービスまでの幅広い分野において、ユニバーサルデザイン（すべての人が使いやすいデザイン）の理念に基づき取組が進展しつつある。

## <ユニバーサルデザインとは>

## 【ユニバーサルデザイン（事例）】

### 駅のホーム柵

新幹線ホームに柵が設置され、列車の乗降口の位置には、横に開く可動式のドアが設置されている



九州新幹線 新八代駅(八代市)

### 昇降施設

利用者が階段・エスカレーター・エレベーターを選択できる



熊本県運転免許センター(熊本県菊陽町)

### UD陶器

最後まですくしやすいように楕に返しをつけるなど、誰もが利用しやすいように工夫されている



UD陶器

ユニバーサルデザインでは、すべての人のニーズを満たすために、次の7つの原則が提唱されている。

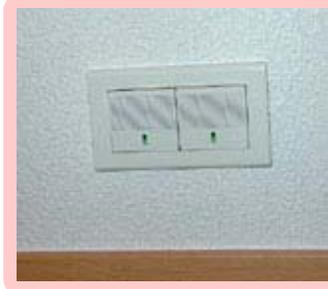
(1) 誰にでも公平に利用できる (2) 使う上で自由度が高いこと (3) 使い方が簡単ですぐわかること (4) 必要な情報がすぐに理解できること



高低差を設けることで、背の高い人にも低い人にも対応できるベンチの取っ手



利用者に応じて高さを調整できるテーブル



経験や知識、言語能力などに関係なく、使い方がわかりやすいスイッチ



使用状況や利用者の状態に係なく、感覚的に情報が効果的に伝わるように工夫されている案内板

(5) うっかりミスや危険につながるデザインであること



ついうっかりしたり、意図しない行動が、危険や思わぬ結果につながるような工夫されたベンチ

(6) 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること



効率よく、疲れないで使えるように工夫された自動販売機

(7) アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること

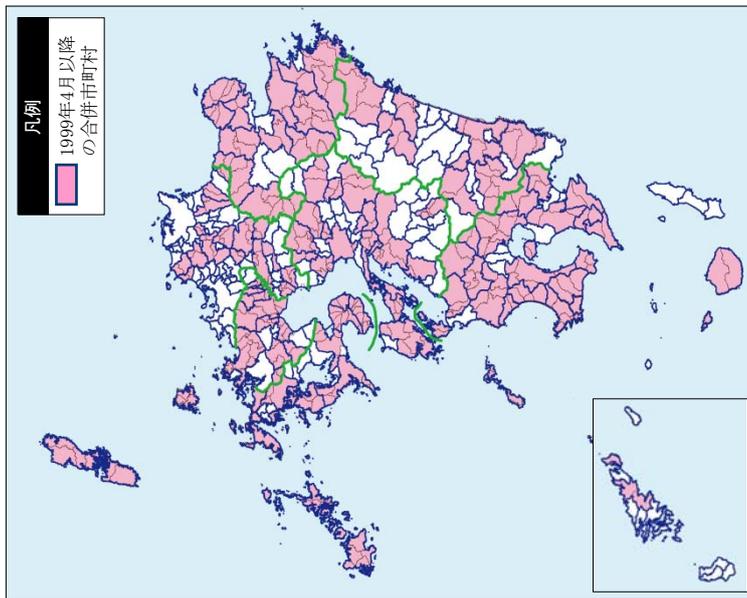


十分なスペースに、ベビーシートなどの設備があり、誰もが気持ちよく利用できるトイレ

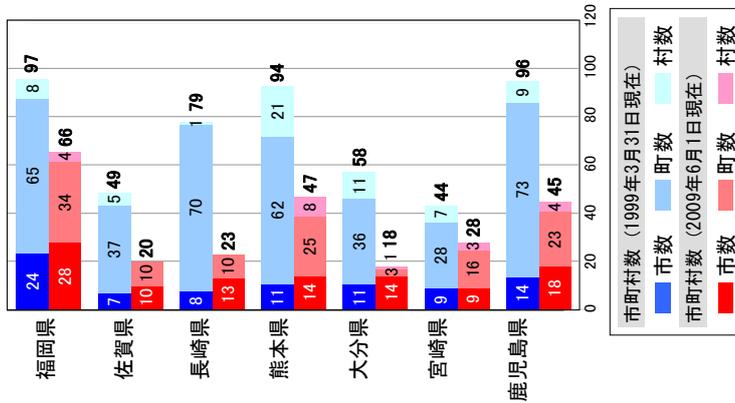
## 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長（その3）

- 九州圏における近年の市町村合併の進展に伴い、1999年3月に517あった市町村は247市町村にまで統合されている。
- 地方公共団体の歳入が減少し、財政規模の縮小がみられるものの、九州圏では依然として公共投資依存度が高い傾向にある。

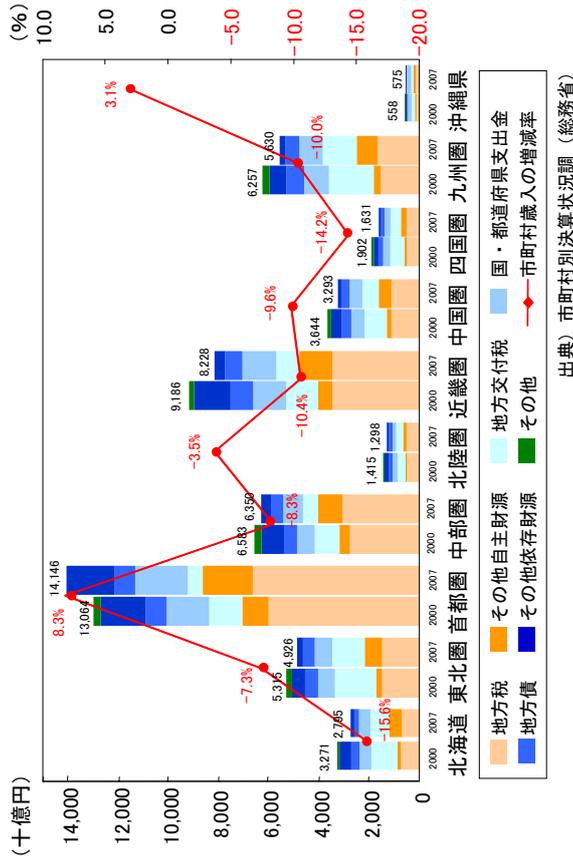
### <九州圏における合併市町村の状況>



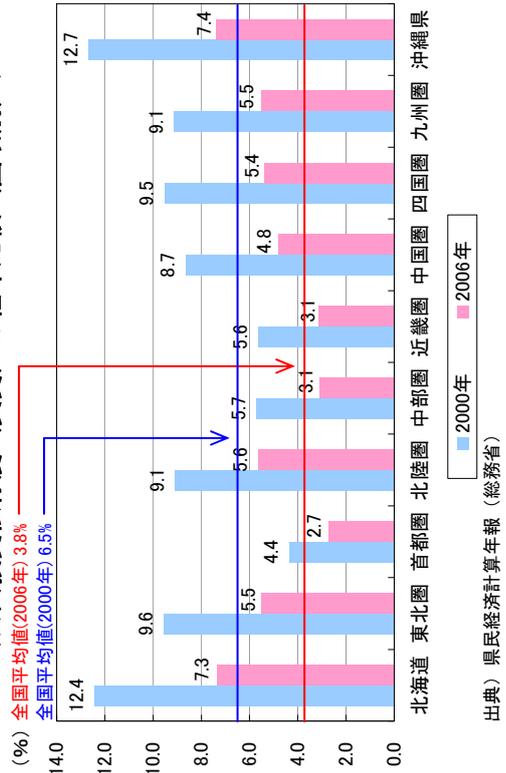
### <九州圏における市町村数の推移>



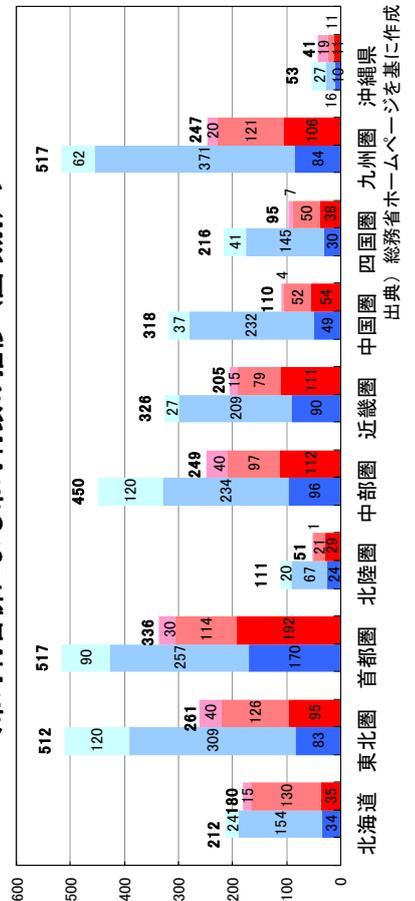
### <市町村歳入の経年比較（圏域別）>



### <公共投資依存度（実質）の経年比較（圏域別）>



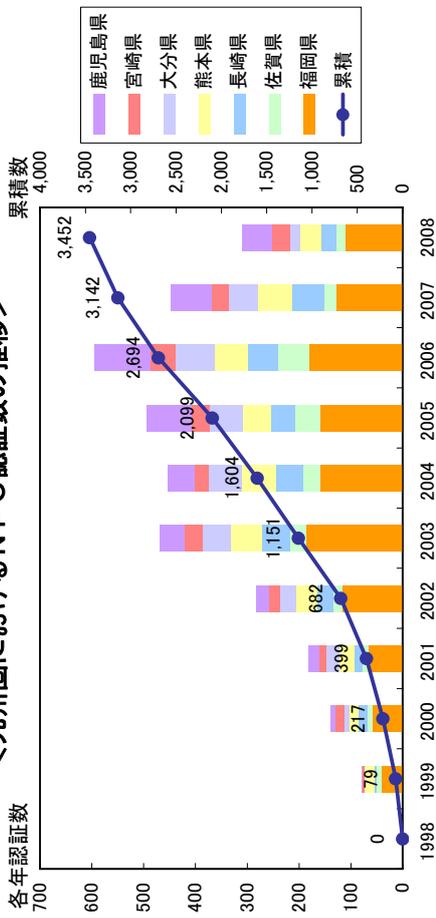
### <市町村合併による市町村数の推移（圏域別）>



## 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長（その4）

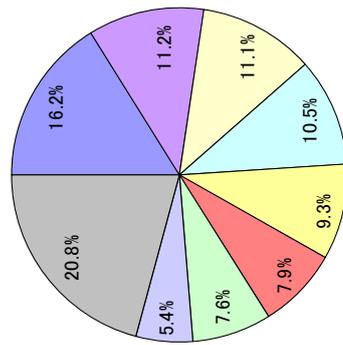
- ・近年では、社会への貢献意識の高まり、価値観の多様化等により、地域の共通の課題について、行政・住民・企業、NPO・ボランティア団体等が連携し活動するなど、新たな活動主体が成長しつつある。
- ・九州圏におけるNPO認証数は、特定非営利活動促進法の施行以降、順調に増加している。

<九州圏におけるNPO認証数の推移>



出典) 内閣府NPOホームページを基に作成

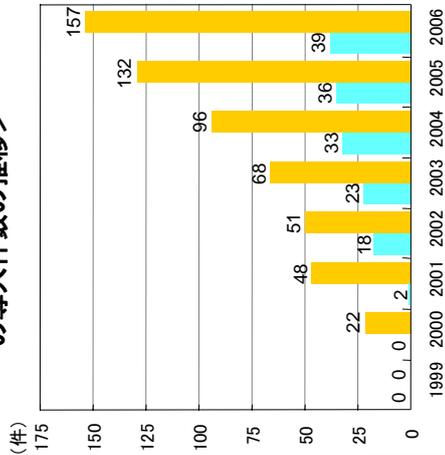
<九州圏におけるNPO法人の活動分類の割合>



- 保健・医療・福祉
- 子どもの健全育成
- まちづくり
- 社会教育
- 各種団体の運営・活動に関する連絡、助言、援助
- 学術、文化、芸術、スポーツ
- 環境の保全
- 職業能力の開発、雇用機会の拡充
- その他

出典) 内閣府NPOホームページを基に作成 (2009.3.31現在)

<九州圏におけるアダプト・プログラムの導入件数の推移>



- 河川でのアダプト・プログラムの導入件数
- 道路でのアダプト・プログラム (ボランティア・サポーター・プログラムの) の導入件数

出典) 国土交通省資料

【新たな公による高齢者福祉・子育て対策 (熊本県)】



熊本県では、地域住民やボランティア、NPO、社会福祉団体、行政が協力して、誰もが、安心して暮らせるまちづくり活動を進めている。

「健軍くらしささえ愛工房」は、県営団地の1階に整備した福祉施設であり、NPOが主体となり、地域の誰もが利用できる通所・訪問サービス、子育て支援など、地域での在宅生活を支える活動が行われている。

【新たな公による防犯対策 (長崎県)】



長崎県では、平成17年に「長崎県犯罪のない安全・安心まちづくり条例」を制定し、県、市町、県民が一体となって犯罪のない安全・安心まちづくりに取り組んでいる。

また、地域防犯リーダーの養成、地域安全マップの作成、自治会、老人会、PTA、事業者、自主防犯団体等の多数の参加による県内一斉防犯パトロールなど、様々な取組を実施している。

【新たな公による自然環境対策 (福岡市)】



博多湾では、百道浜が人工海岸となったことを受け、美しい白砂青松の浜辺の再生に向けた市民活動が起こった。

市民活動の中心となったボランティア団体「はかた夢松原の会」では、緑の株券による募金活動、株主の名前を胸板に焼き込むなどの様々なアイデアで植樹活動を継続しており、現在では、その活動は、海の中道から生の松原までの博多湾沿岸沿いまで広がっている。

【身近な国土基盤の担い手 (アダプト・プログラム)】



河川、道路等の施設管理者とボランティア団体等が協定を結び清掃、美化活動などを実施するプログラム (アダプト・プログラム) が九州各地で実施されている。

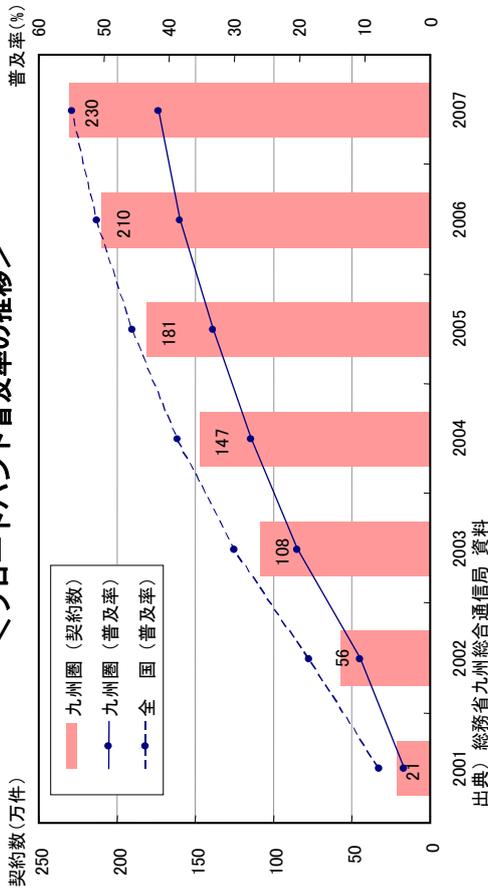
熊本市渡鹿地区では、河川管理者と8つの団体が協定を結び、白川の河川敷の美化活動を実施している。

白川河川敷での美化活動 (熊本市)

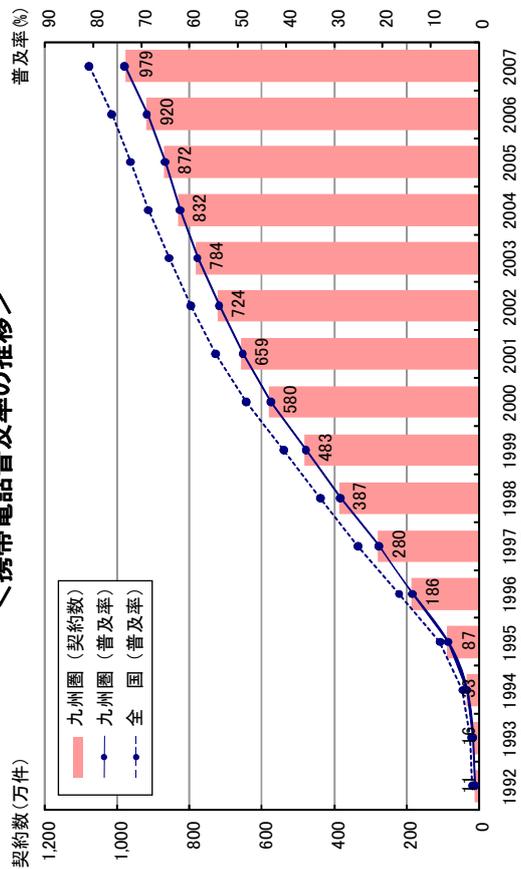
## 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長（その5）

- ・近年の情報通信技術の飛躍的な発達は、インターネットの利用人口や携帯電話の加入者数の伸びに伴い、生活利便性を急速に向上させている。
- ・九州圏においても、テレワークセンターの整備、遠隔医療の導入や多言語による情報発信等が各地で進められている。

＜ブロードバンド普及率の推移＞



＜携帯電話普及率の推移＞



【阿蘇テレワークセンター（阿蘇市）】



阿蘇市では、1997年に全国で第1号のテレワークセンターを開設し、農村と都市との連携により、「阿蘇グリーンストック運動」と「グリーンツーリズム事業」とも連携し、農畜産業や観光・レジャー産業に関連した情報の受発信、地図情報作成関連の業務受託、パソコン関連の研修などを行い、地域づくりに活用している。

【ICTを活用した地域児童見守りシステム（島原市）】



島原市では、2007年11月から児童の安心・安全を確保するため、ICTを活用した登下校時の見守りシステム「島原市地域児童見守りシステム」を市内全小学校で本格的に稼働させている。  
九州初のこのシステムは、小学生の登下校の状況を把握するもので、ランドセルに取り付けたICタグの読み取り装置とWEBカメラを小学校の出入りに設置し、学校、保護者は携帯電話やパソコンなどで、登下校の状況や画像情報を確認できる。

【離島における広域医療情報ネットワーク（長崎県）】



多くの離島を抱える長崎県では、離島における医療機関の広域的連携の促進と医療サービスの向上を図るため、県と五島・壱岐・対馬各地域の1市20町村で構成される「長崎県離島医療圏組合」が主体となり、国のモデル事業を導入し、組合事務局及び離島の各病院をネットワークで接続しており、広域レベルでの医師相互間の医療相談・医療情報交換や、組合医療事務の統一的处理が可能となるシステムを開発している。

【多言語ホームページ（福岡県）】



福岡県では、日本発、アジア発の若者文化情報における情報発信拠点に形成を目指し、福岡発の地域情報も織り交ぜながら、日本やアジアの若者に向けて発信していくための多言語ウェブサイト「アジアアンビート」を開設している。  
アジアアンビートは、アジアの若者たちの新しい共通基盤として期待されている。

出典) アジアンビートホームページ

多言語ホームページ(アジアアンビート)

## 新たな九州像

### 新たな九州像

- 1 東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成
  - ・ 「東アジアの中の九州圏」との視点に立って、経済、文化等の多面的な交流を積極的に推進し、東アジアとともに新たな発展を目指す
  - ・ 都市と産業の成長のエンジン強化し、国際競争力を高めることなどにより、東アジアの成長を取り込みながら、中国圏・四国圏・沖縄等との結びつきを強化し、自立的な発展を実現していく
- 2 豊かな自然と都市的利便性を享受し多様な活躍の場を創出する九州圏の形成
  - ・ 多様な地域が交流・連携することを通じて、どこに住んでも、一定の社会的サービスや就業の機会、豊かな自然を容易に享受でき、各地域が選択可能性の高い多彩なライフスタイルが可能となる地域社会を創造していく
  - ・ 新しい産業分野の発展を促進することにより、九州圏として安定した経済成長を図り、若年層にも魅力ある活躍の場を創造していく

### 九州圏の位置づけと圏土構造の特徴

- 東アジア、近接地域等に開かれた九州圏
- 基幹都市圏が適度に分散し都市と自然が近接する圏土構造
- 九州圏全体を牽引し次世代を担う産業の集積
- 離島を抱く外洋に囲まれ、急峻な山地と急流河川、豊かな森林・清冽な水資源に恵まれた自然環境

### 21世紀前半の経済圏の課題の転換と九州圏の課題

- グローバル化の進展と東アジアの経済発展への対応
- 本格的な人口減少・少子高齢化の進行と九州圏の自立的な発展
- 安全・安心、環境・景観等への関心の高まりと地球温暖化等への対応
- 価値観、ライフスタイルの多様化と新たな活動主体の成長

### 3 安全・安心で美しく誇りが持てる九州圏の形成

- ・ 災害等のリスクに対する備えや日々の暮らしの安全・安心を確保し、誰もが生活のゆとりと潤いを実感できる生活環境を形成していく
- ・ 豊かな自然や美しい景観、良好な社会資本等のストック等を良好な状態で次世代に継承していくとともに、地域の伝統や文化に誇りを持ち、生きがいを感じられるような魅力ある地域を創造していく

### 戦略展開の基本的な考え方

- 1 九州圏の自立に向けた圏土の基礎づくり（三層からなる自立圏の創造 等）
- 2 多様な人材・担い手の確保と多様な主体の参加・連携

### 新たな九州像の実現に向けた戦略目標

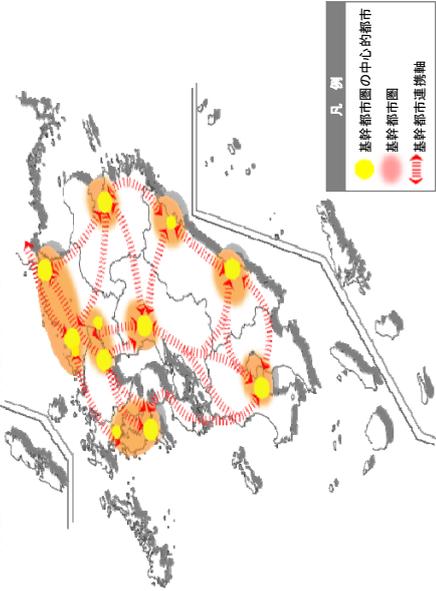
- 1 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成
- 2 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展
- 3 災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成
- 4 拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成
- 5 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成
- 6 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成
- 7 九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり

・九州圏の一体的な発展を促すとともに、各地域が高次都市機能から生活支援機能までの一定の社会的サービスや就労機会を確保でき、豊かな生活環境を実現するための圏域の単位として、三層からなる自立圏（三層の自立圏）を創造

### 九州自立広域圏

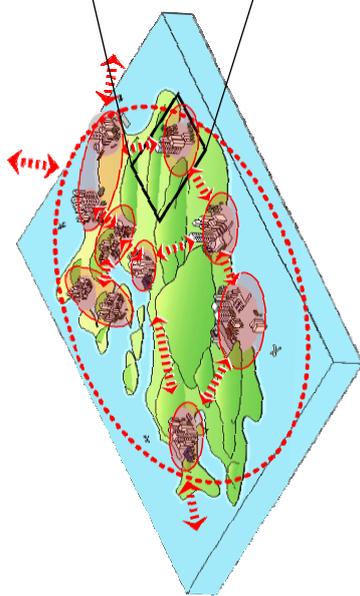
・九州圏が個性ある国際交流・連携・協力を行うための一定のまとまりある圏域として九州全体で一体的な発展を図るための自立圏域

#### ■基幹都市圏と基幹都市連携軸（イメージ）



凡 例  
● 基幹都市圏の中心都市  
● 基幹都市圏  
⇄ 基幹都市連携軸

#### ■九州自立広域圏の自立の単位（イメージ）

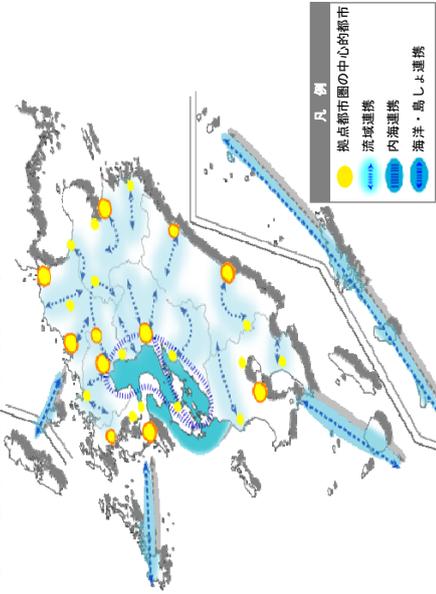


九州自立広域圏 ● 基幹都市圏の中心都市  
⇄ 基幹都市連携軸

### 都市自然交流圏

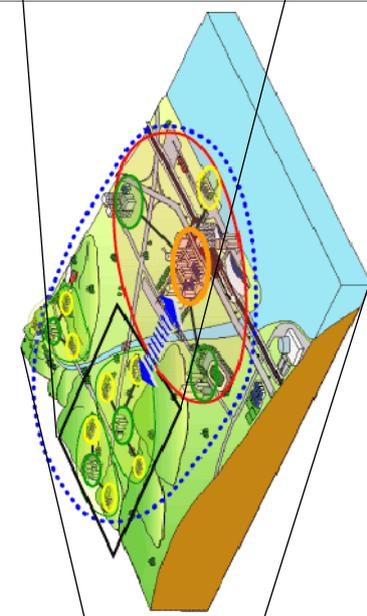
・適度に分散した基幹・拠点都市圏と多自然居住地域の交流・連携による豊かな生活環境を実現するための自立圏域

#### ■拠点都市圏と都市自然交流軸（イメージ）



凡 例  
● 拠点都市圏の中心都市  
● 流域連携  
● 内海連携  
● 海洋・島しょ連携

#### ■都市自然交流圏の自立の単位（イメージ）

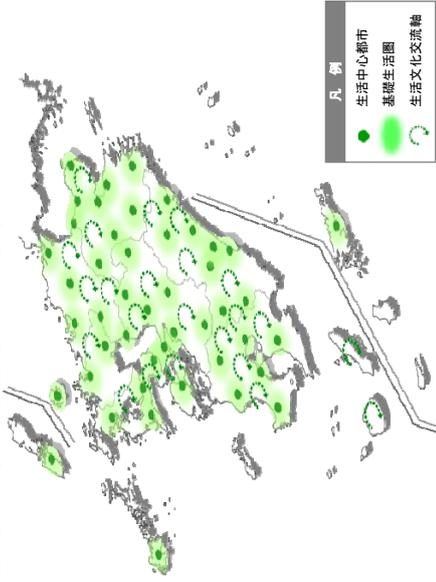


都市自然交流圏 ● 拠点都市圏の中心都市  
⇄ 都市自然交流軸 — 機能補完

### 基礎生活圏

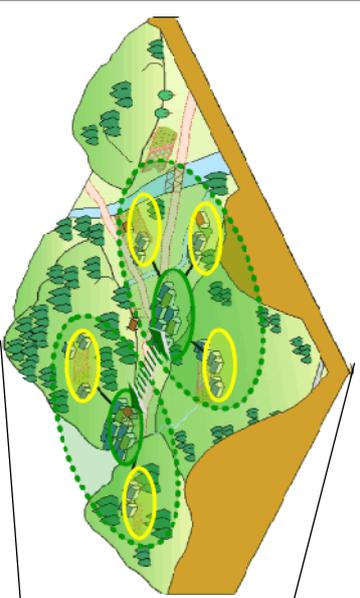
・人口減少下であっても生活関連サービスを維持し、地域社会の機能や活力を確保するための自立圏域

#### ■生活中心都市と生活文化交流軸（イメージ）



凡 例  
● 生活中心都市  
● 基礎生活圏  
⇄ 生活文化交流軸

#### ■基礎生活圏の自立の単位（イメージ）

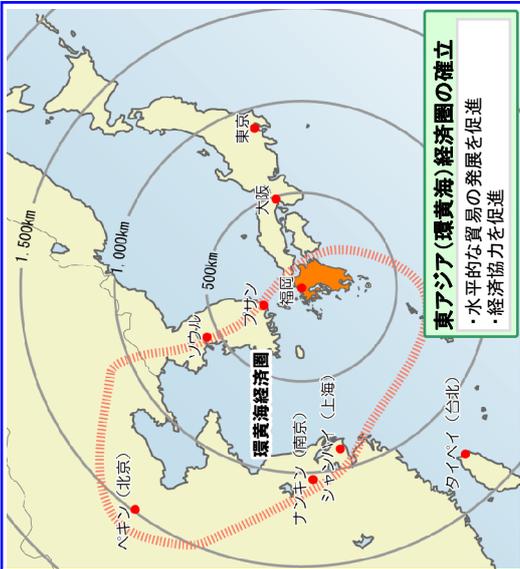


基礎生活圏 ● 生活中心都市  
⇄ 生活文化交流軸 ● 農山漁村

## 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成

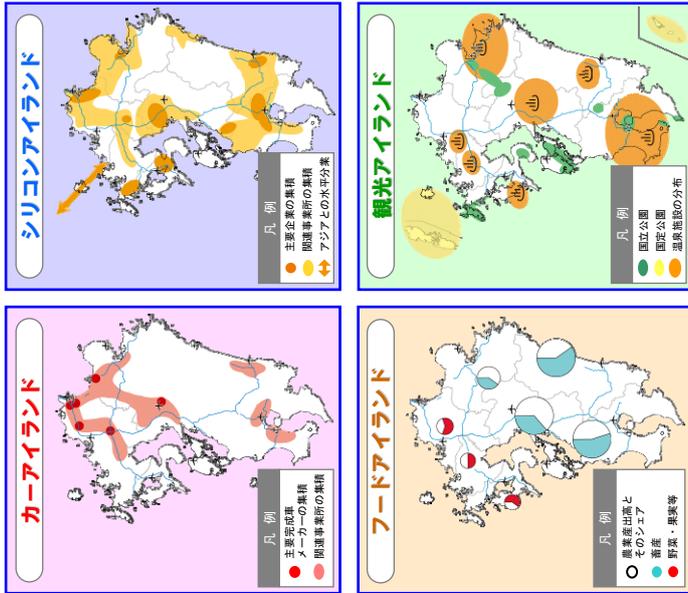
### 1 東アジアと我が国との関係をリードする魅力ある国際交流フロンティアの形成

■ 地理的近接性等を背景として、東アジアとの緊密な交流・連携や東アジア規模の生産ネットワークの構築が進んでいる。



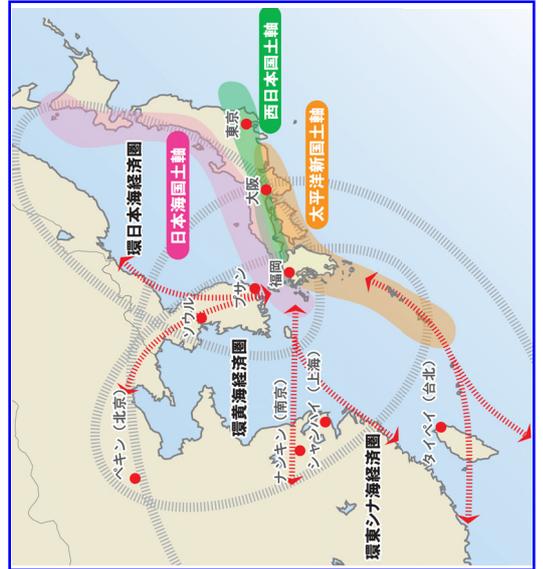
### 2 グローバル化に対応した成長型・牽引型産業群の形成

■ 現存する成長型・牽引型産業群を核として、九州圏全体の発展を牽引する産業群の形成を推進していく。

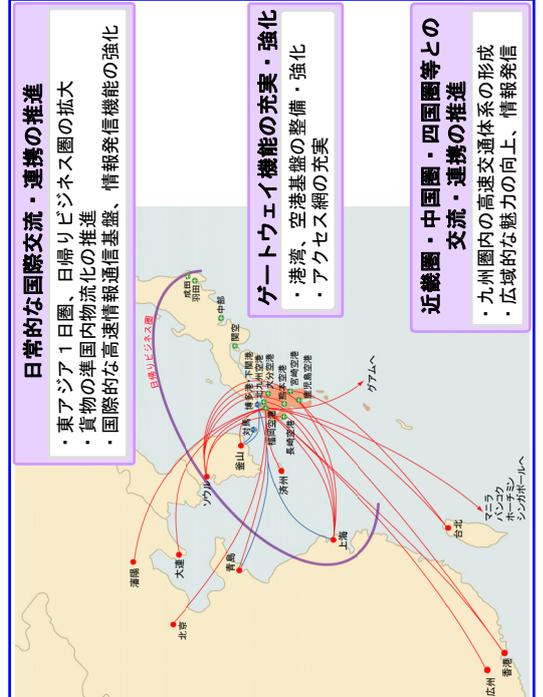


### 3 新たな発展を実現する東アジア国際交流軸と広域ブロック連携軸の形成

■ 東アジア、広域ブロックと九州圏の主要都市間を有機的に連結する。



■ 東アジア規模の交流・連携を支援し、九州圏が自立的に発展していくため、東アジアへのゲートウェイ機能を充実・強化する。



■ 成長期待産業のそれぞれの産業分野を支援するとともに、より、次世代の産業群の形成を促進していく。

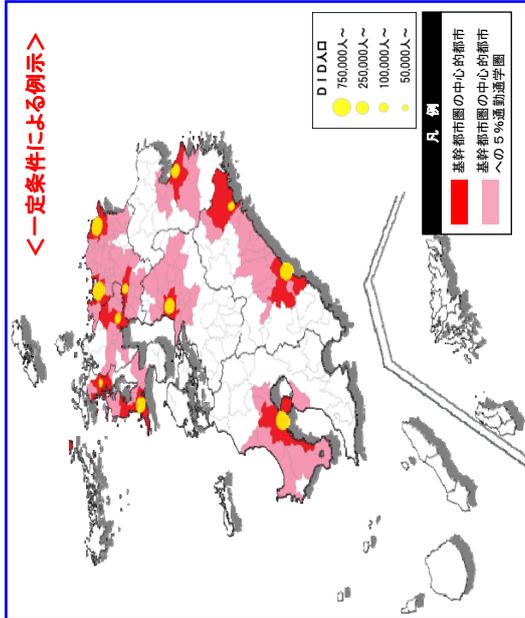


九州圏の持続的な成長の実現

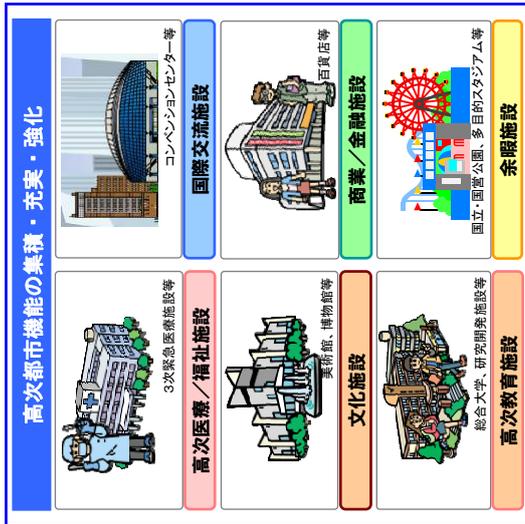
# 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展

## 1 多極型圏土構造の極となる個性的で魅力的な基幹都市圏の形成

■ 高次都市機能が集積する基幹都市圏の適度な分散を活かし、多極型圏土構造を形成する。

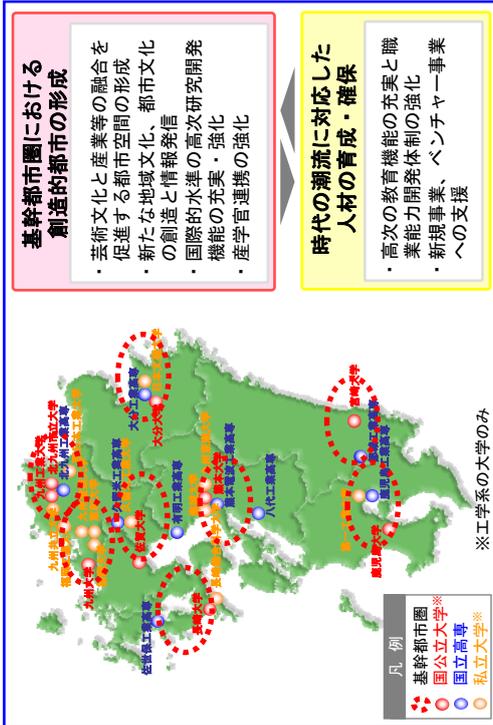


■ 都市機能の充実・強化を図り、地域の自立的発展の拠点をバランスよく形成する。



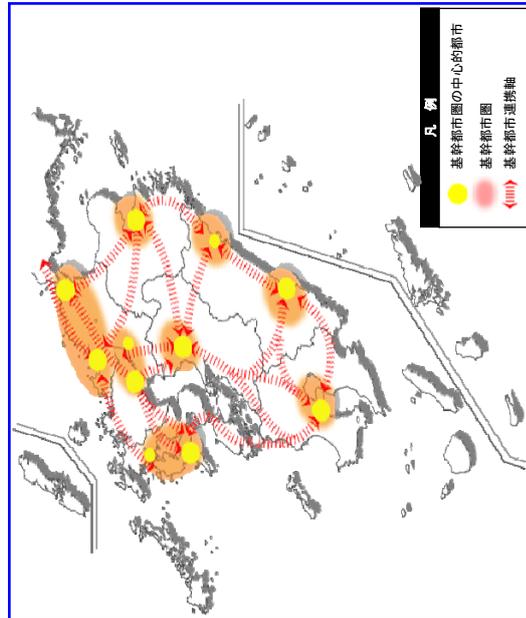
## 2 文化・知識集約化による創造的都市の形成と多彩な人材の育成

■ 芸術文化、知識集約等の融合による創造的都市の形成を図り、九州圏に必要な多彩な人材を育成する。

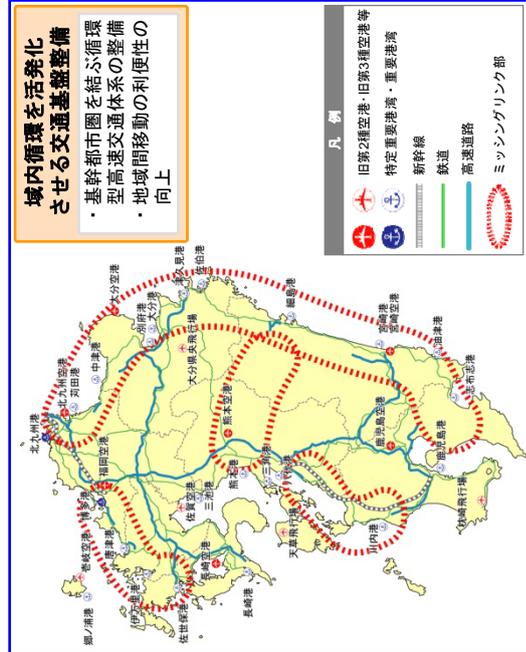


## 3 九州圏の一体的な発展を実現する基幹都市連携軸の形成

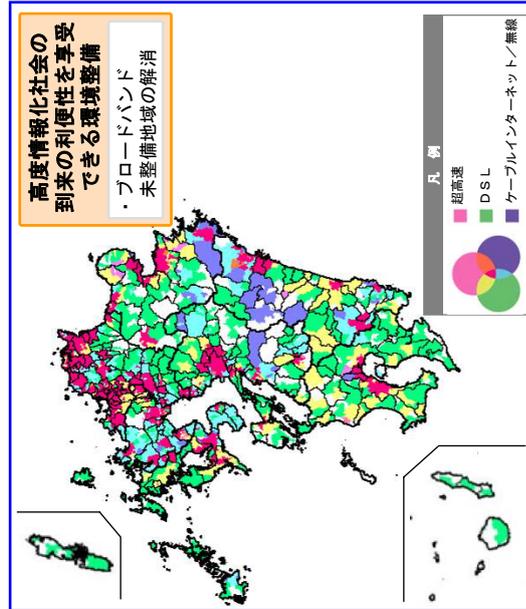
■ 基幹都市圏の高次都市機能を広範囲で享受でき、新たな発展を促す基幹都市連携軸を形成する。



■ 九州圏の域内循環を活性化させる高速交通体系の形成に向けた整備を進める。



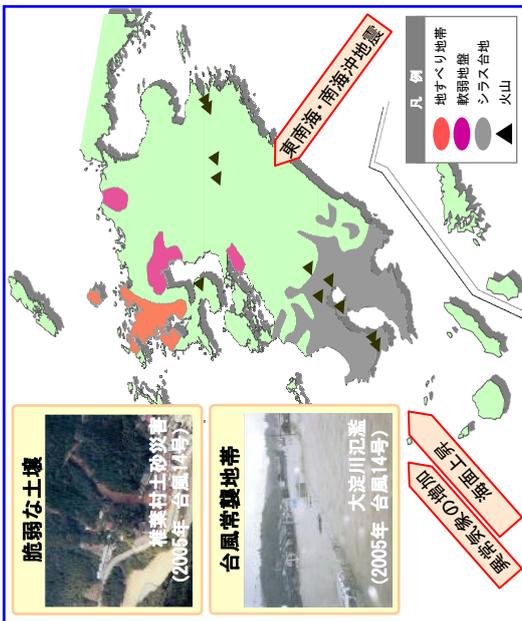
■ 都市圏間の交流・連携を支援し、九州圏の一体的発展を促すための情報通信基盤の整備を進める。



# 災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成

## 1 九州圏の総合力発揮による安全で安心な暮らしの実現

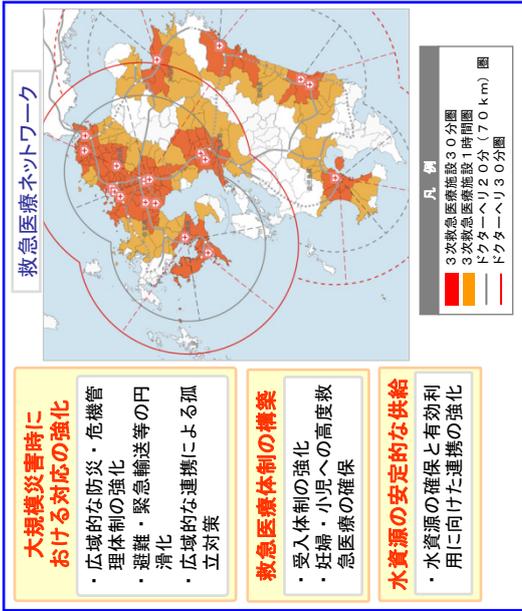
■ 台風常襲地帯、脆弱な土壌であるとともに、異常気象等による災害への影響を受ける我が国の最前線に位置する。



■ 減災の観点も取り入れ、ハード・ソフト対策が一体となった災害に強い地域づくりを進める。

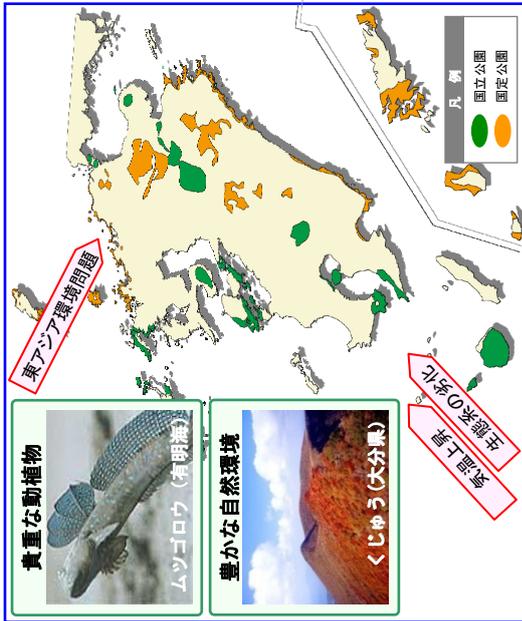


■ 安全・安心な暮らしを実現するため、広域的な連携体制を形成していく。



## 2 我が国を先導する美しい環境・エネルギー先進圏の形成

■ 豊かな自然が多い一方、東アジアとの環境問題や地球温暖化の影響を受ける我が国の最前線に位置する。



■ 九州圏に数多く存在する多様な状態で次世代に継承していく。再生し、健全な状態で



■ 我が国の循環型社会の構築を先導しつつ、地球温暖化の防止対策等を積極的に進めていく。

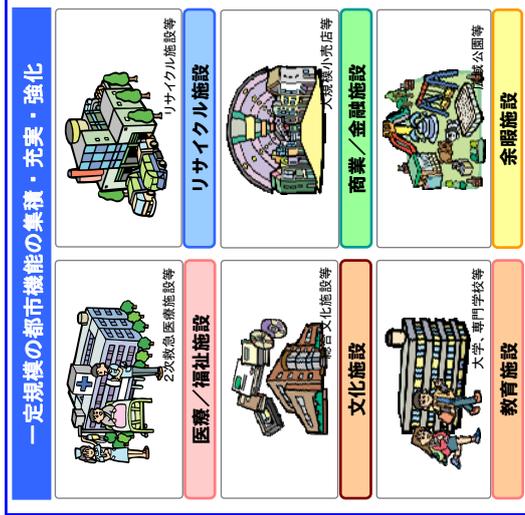
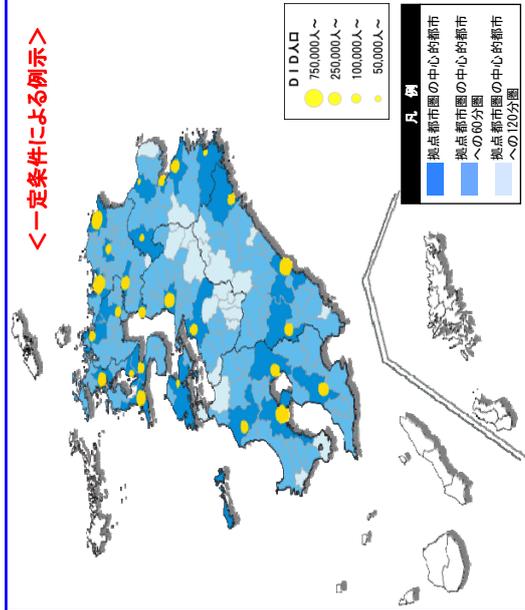


# 拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成

## 1 広域的な都市的利便性を実現する拠点都市圏の形成と集約型都市構造への転換

■ 拠点都市圏と多自然居住地域が交流・連携し、一体となる都市自然交流圏を形成していく。

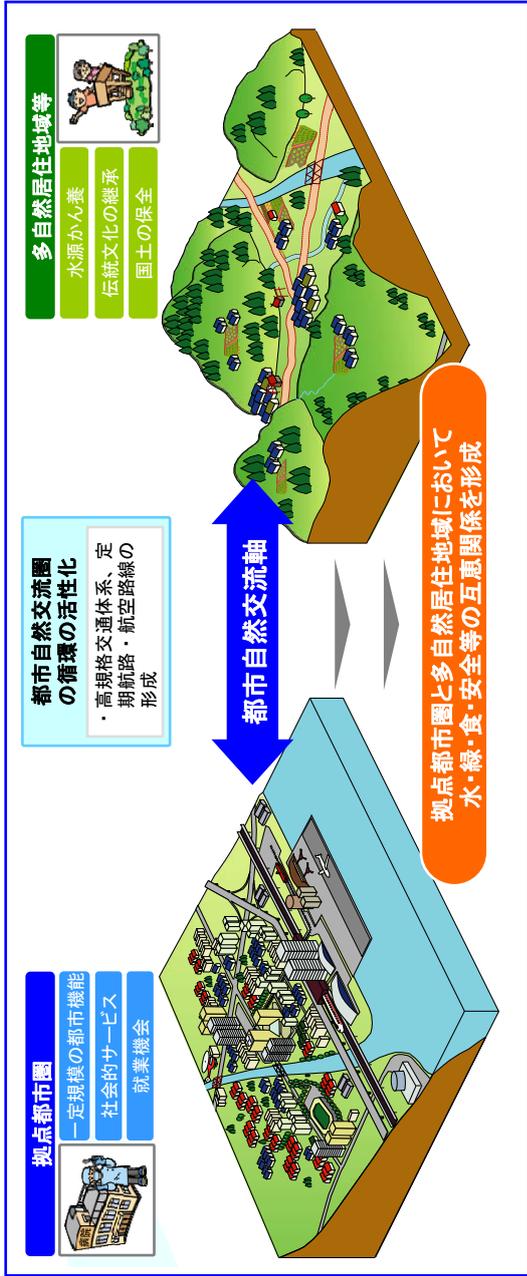
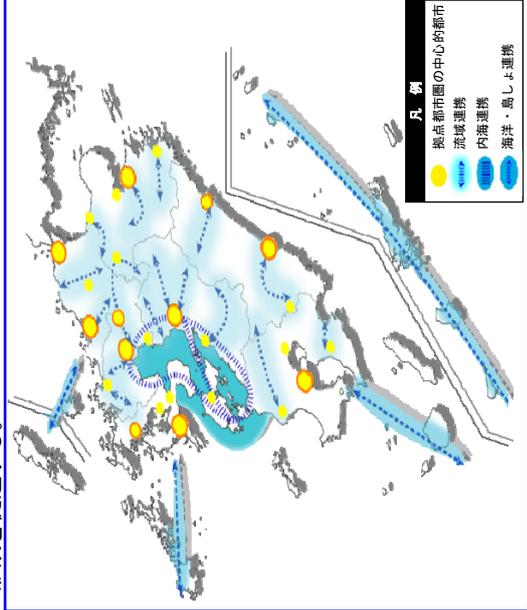
■ コンパクトでにぎわいあふれる集約型都市構造への転換や良質な住宅ストックの形成等による快適で住みやすい居住空間の形成を進める。



## 2 水・緑・食・安全等の互恵関係を実現する都市自然交流軸の形成

■ 山岳、流域、沿岸海域、海洋・島しょ等を通じ、拠点都市圏と多自然居住地域を広域的に連結する都市自然交流軸の形成を促進する。

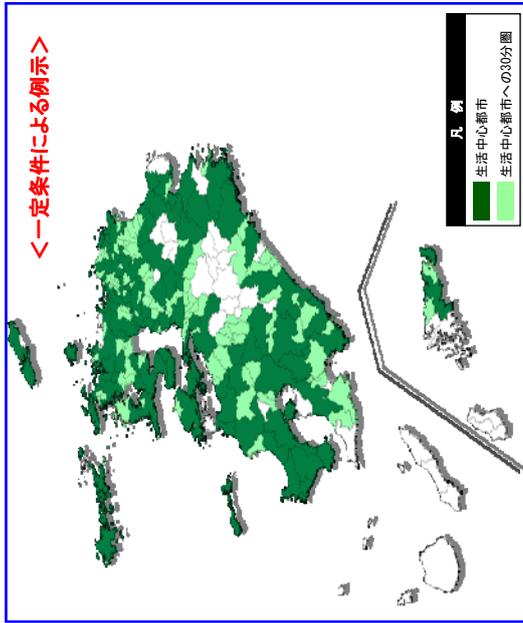
■ それぞれの都市自然交流圏の循環を活性化させる高規格の交通体系や定期航路・航空路線の形成に向けた整備を進めていく。



# 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成

## 1 生活支援機能の維持・向上等を実現する基礎生活圏と生活文化交流軸の形成

■ 基礎生活圏における生活支援機能の維持・向上を図るとともに、持続可能で暮らしやすい基礎生活圏を形成する。



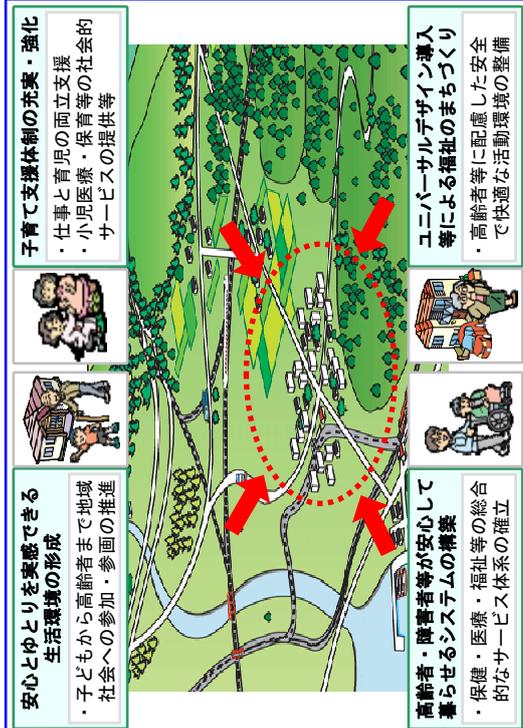
## 2 誰もが安心とゆとりを实感できる子育て・生活環境の形成

■ 基礎的な一定レベルの生活支援機能について、多自然居住地域内でも享受できるようにする。



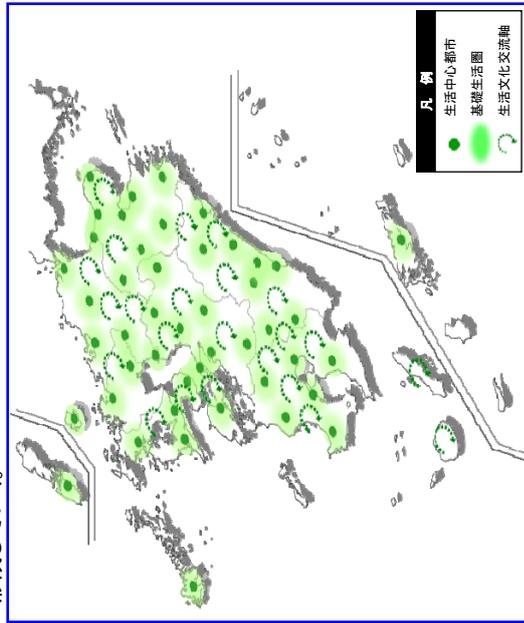
## 2 誰もが安心とゆとりを实感できる子育て・生活環境の形成

■ 少子高齢化等に対応するため、子どもから高齢者まで全ての世代が安心とゆとりを实感できる生活環境の形成を図る。



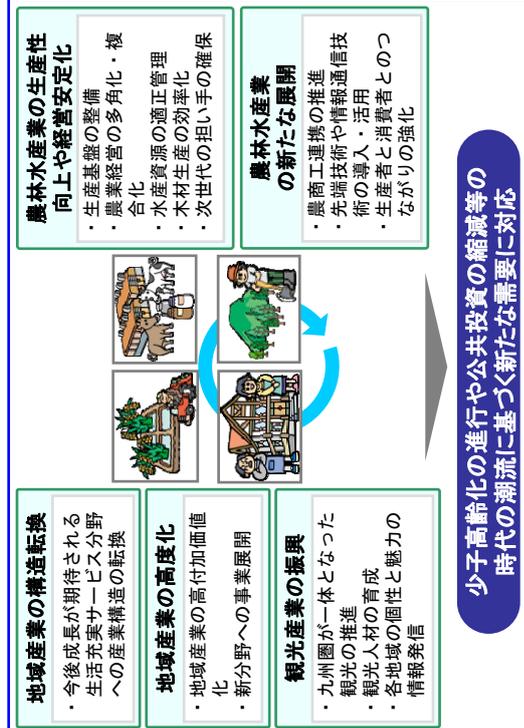
## 4 生活・文化・活動等の一体化を促進する生活文化交流軸の形成

■ 生活支援機能の分布状況や隣接地域の自然・文化・活動等の状況に応じた連携強化により、生活文化交流軸を形成していく。



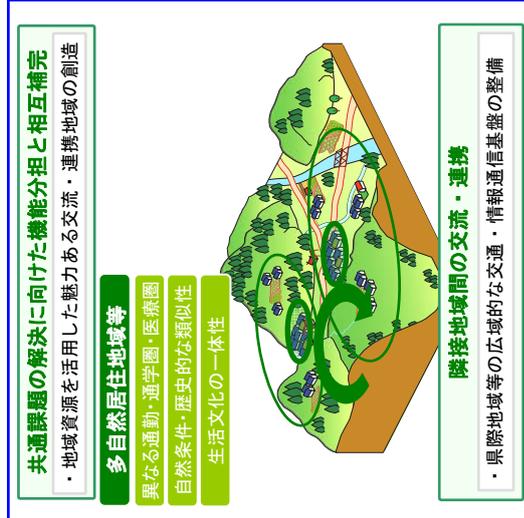
## 3 生活活動に密着した地域産業の新たな展開

■ 農林水産業や観光産業等生活活動に密着した地域産業について新たな展開を図る。



## 4 生活・文化・活動等の一体化を促進する生活文化交流軸の形成

■ 隣接地域間の機能分担や魅力ある交流・連携地域を創造するための基盤整備を図っていく。

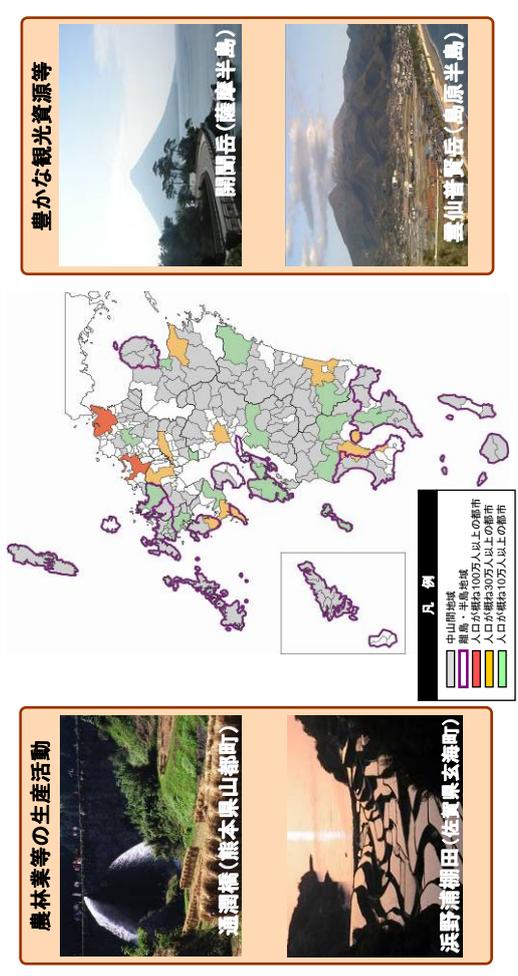


少子高齢化の進行や公共投資の縮減等の時代の潮流に基づく新たな需要に対応

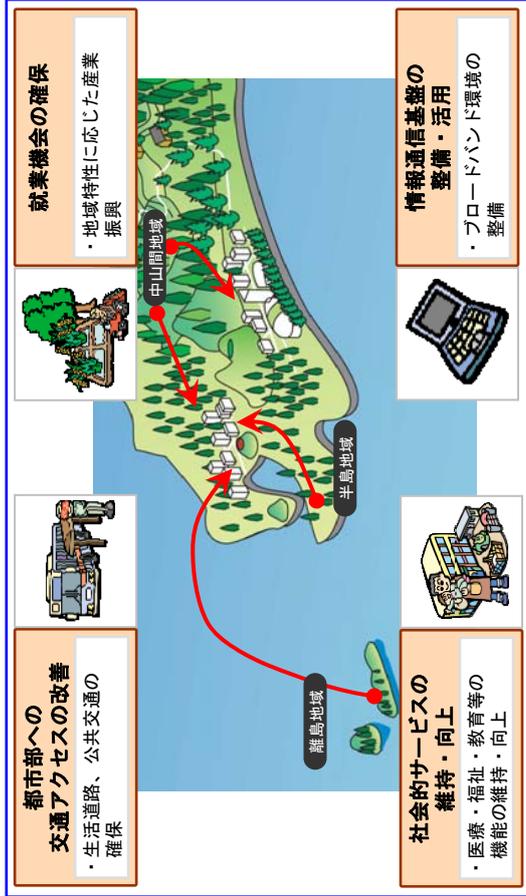
# 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成

## 1 地理的制約を克服する生活イノベーションの展開

九州山地等に広く分布する中山間地域等では、豊かな農林業、観光産業等が営まれる一方、人口減少・高齢化、農林業等の担い手不足、社会的サービスの低下等に直面している。



離島・半島、中山間地域等の地理的制約の厳しい地域における都市機能と生活支援機能、就業機会等の一定の基礎条件の確保を図る。

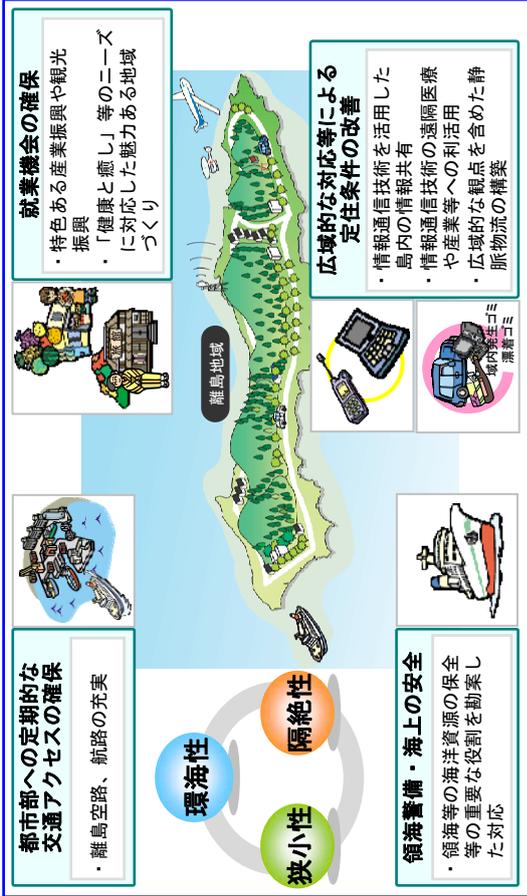


## 2 離島地域における海洋性気候等に恵まれた豊かな定住環境の形成

離島地域では、領海の保全や島特有の自然、貴重な歴史・文化、農林水産物の生産など、重要な役割を果たす一方で、若年層が流出するなど、地域の活力低下が顕在化している。



離島地域については、海洋性気候等に恵まれた自然環境等を活かした産業振興、島内で一定の社会的サービスの維持を可能とする豊かな定住環境を形成していく。



# 九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり

## 1 恵まれた地域資源を活用した先導的で創造性あふれる地域づくり

- 豊富な地域資源等を活用した地域づくりにおける先導的な事例を多数有する。
- 人口減少等が進行する中で、地域活力の維持向上に結びついている事例もある。

**自然資源の保全・活用**

- ・世界一の阿蘇カルデラを活用した地域づくり



①熊本県阿蘇市  
・歩いて楽しい生活型観光地づくり



②大分県由布市

**交流・観光による活性化**

- ・水辺空間を活かした水郷のまちづくり



③福岡県糟川市  
・昭和のまち並みを活用したまちづくり



④大分県豊後高田市

**豊かな自然環境 美しい景観**  
(福岡県うきは市)

**個性と魅力ある歴史・文化**  
(宮崎県高千穂町)

**地域づくりに関する先導的な取組が進展**  
(熊本国際舞臺(熊本県))

**個性と魅力あふれる地域づくり**

- ・自然体験・交流の場としての自然環境の活用 等

**歴史的風土を活用した地域づくり**

- ・古代遺跡、文化・近代化遺産、伝統芸能等の活用 等

**新しい地域文化の創造と情報発信**

- ・音楽・彫刻等の芸術文化の多様な創造活動の推進 等

**地域アイデンティティの醸成**

**個性と魅力ある地域の創造**

**交流人口の増大 所得機会の確保**

## 2 多様な活動主体を基軸とした地域づくりと地域の担い手育成

- 多様な主体による創意と工夫に基づく取組が重要な役割を果たすと期待されている。
- 住民が主体となった地域づくりの先駆的な取組が行われている。

**多様な主体の地域づくり**

- ・体験観光の人的ネットワークの形成



①長崎県松浦市  
・住民主体の観光地づくり (長崎さくら)



②長崎県長崎市

**志ある主体の取組**

- ・日本風景街道の形成に向けた取組



③宮崎県白南海岸  
・住民参加による自主財源創出の地域づくり



④鹿児島県鹿屋市

**新たな公による地域づくりの推進**

- ・公共空間管理
- ・美化活動
- ・まちづくり参画

**新たな公の活動領域**

住民、企業、NPO、団体、行政

- ・地域活性化に貢献する営利活動
- ・社会貢献活動
- ・目的に応じた活動

**様々な活動支援**

**多様な主体による地域づくりの推進**

- ・地域住民、NPO・ボランティア団体 自治組織、企業等

**創意と工夫に基づく取組の推進**

- ・地域を主導する人材の育成・確保
- ・地域の資金が地域に再投資される「資金の小さな循環」の形成

**持続可能な地域づくりの実現**